



学校法人 中越学園

長岡大学



文部科学省

地(知)の拠点

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業(平成25~29年度)
文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成28~31年度)

長岡大学COC+事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム

平成29年度報告書



7/7 2017地域連携
研究センターシンポジウムI



1/26事業連携調印式
本学と小千谷商工会議所、本学と見附商工会



11/17 2017地域連携
研究センターシンポジウムII



7/17アフリカンフェスタでフェア
トレード出店: 広田ゼミ



越路まちなの駅 いこ〜てえ〜マップ: 鯉江ゼミ



10/28・29悠久祭で
模擬店出店: 栗井ゼミ



12/2地域活性化プログラム
成果発表会



8/7~10起業家塾



10/28・29悠久祭プラレール



5/13インターンシップ
マッチングフェア



2/24第5回悠久山・東山フォーラム
「悠久山の見どころ、撮りどころ」



平成30年3月

長岡大学

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」＝大学COC事業（平成25～29年度）
文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（平成28～31年度）

はじめに
－長岡大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業
（COC+）」平成29年度報告書刊行にあたって－

長岡大学学長 村山 光博



長岡大学が取り組む「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」は、平成25年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC（Center Of Community）事業」（平成25～29年度）に採択されました。本プログラムが採択された平成25年度の採択率は、全国の大学等総申請数ベースで、17.6%（採択51件／総申請数289件）、私立大学ベースでは、8.3%（15件／180件）と非常に低い状況でした。新潟県内では、長岡大学が唯一の採択大学でした。採択後、本学では地域連携研究センターおよびCOC事業推進本部を設立することで全学的な事業推進体制を形成し、PDCAサイクルの下で、事業を推進して参りました。また、平成28年度からは、政府の地方創生事業の一環である文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（平成28～31年度）にも参加大学として加わっています。本報告書は、「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の平成29年度における事業を取りまとめたものであります。

大学COC事業は、大学が自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めて、地域コミュニティの中核的存在（課題解決に資する人材・情報・技術の集積拠点）となり、地域コミュニティの再生・活性化の核＝拠点となる大学へと、自ら改革することを支援する事業です。つまりは、「地域のための大学」づくりを促進し、大学の機能別分化を進めようとする文部科学省の政策を反映した事業であるとも言えます。

本学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」は、長岡市（平成25年度から）および新潟市・新潟県（平成28年度から）との連携の下、長岡地域の地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、3つの地域課題（産業活性化、社会課題解決、地域・コミュニティ活性化）に応えようとするものです。

なお、COC事業としての補助期間は今年度（平成29年度）で終了となりますが、補助期間終了後の平成30年度のCOC関連事業・予算については、次の基本方針で明確にいたしました。これからもこの事業を通して、「地域で役に立ち、頼りになる大学」を目指して参ります。

- 第1：現行のCOC事業は、各事業の展開の方法等を検討しつつも、基本的に継続、発展させること。
- 第2：COC事業を支えた人材は大学本体予算に組み込むとともに、各事業の担当部門間の協働関係を密にして、事業展開を図ること。
- 第3：予算については、平成29年度予算を検討しつつ、以上を踏まえて、平成30年度予算の枠組みを明確にすること。

平成30年3月

★＜創造人材（Creative Talents）＞とは、一般には専門的職業従事者（科学者等）を指しますが、＜創造人材＞が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることも明らかにされています。本プログラムでは、長岡大学が経済経営系の大学であるという性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどがいわゆる＜創造人材＞であると考えております。

長岡大学COC事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
平成29年度報告書

目次

はじめにー長岡大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」
平成29年度報告書刊行にあたってー

長岡大学学長 村山 光博

| | | |
|-----|--|-----|
| I | 長岡大学の「地（知）の拠点整備事業」＝COC事業の概要 | |
| 1 | 「地（知）の拠点整備事業」（平成25年度採択）の概要 | 1 |
| 2 | 長岡大学の目的・目標を踏まえた「地域志向」 | 1 |
| 3 | 対象地域と地域課題 | 2 |
| 4 | 長岡大学「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の枠組み | 3 |
| II | 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参加 | |
| 1 | 平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の開始 | 5 |
| 2 | 平成28年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参加 | 5 |
| III | 事業推進体制と平成29年度経過報告 | |
| 1 | 平成29年度助成（補助金） | 8 |
| 2 | 事業推進体制 | 8 |
| 3 | 平成29年度経過報告 | 10 |
| IV | ＜教育＞における事業展開 | |
| 1 | 諸専門能力の養成ー教育①ー | 15 |
| 2 | 地域志向・学修科目ー教育②ー | 25 |
| 3 | 現場感覚・知識の養成ー教育③ー | 27 |
| 4 | ボランティア・スキルの養成ー教育④ー | 36 |
| 5 | 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）ー教育⑤ー | 42 |
| 6 | 社会人基礎力の養成（インターシップ／現場体験プログラム）ー教育⑥ー | 59 |
| 7 | 学生起業人材の養成ー教育⑦ー | 65 |
| 8 | 学生満足度調査／PROGの実施ー教育⑧ー | 78 |
| V | ＜研究＞における事業展開 | |
| 9 | 「新潟・長岡地域事業承継」調査研究の実施ー研究①ー | 85 |
| 10 | 「新潟県内自治体の将来人口動向」調査研究の実施（継続）ー研究②ー | 93 |
| 11 | 地域との共同研究（地域志向教育研究）ー研究③ー | 98 |
| VI | ＜社会貢献＞における事業展開 | |
| 12 | 高齢化・人口減社会における地域活性化の推進ー社会貢献①ー | 103 |
| 13 | 市民向け公開講座・セミナーの開催ー社会貢献②ー | 131 |
| 14 | 企業人向けセミナーの開催ー社会貢献③ー | 150 |
| 15 | 起業人材養成セミナーの開催ー社会貢献④ー | 157 |

| | | |
|------|------------------------------|-----|
| VII | ＜全体＞における事業の展開 | |
| 16 | 推進体制の整備－全体①－ | 164 |
| 17 | 推進協議会・地域課題調整部会の開催－全体②－ | 175 |
| 18 | 本事業の広報の充実等－全体③－ | 179 |
| VIII | COC終了後（平成30年度）のCOC事業に関する基本方針 | |
| 19 | COC終了後（平成30年度）のCOC事業に関する基本方針 | 213 |

I 長岡大学の「地（知）の拠点整備事業」＝COC事業の概要

1 「地（知）の拠点整備事業」（平成25年度採択）の概要

長岡大学が平成25年度に採択された「地（知）の拠点整備事業」の概要は、次の通りである。

| | |
|--------------|--|
| 大学名 | 長岡大学 |
| 事業名 | 長岡地域＜創造人材＞養成プログラム |
| 申請者 | 内藤敏樹 学長 |
| 連携する自治体 | 長岡市 |
| 企業等各種団体・機関 | 長岡商工会議所、日本政策金融公庫長岡支店、一般社団法人全国信用組合中央協会、公益社団法人中越防災安全推進機構、株式会社北越銀行、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、NPO法人市民協働ネットワーク長岡 |
| 学部等 | 経済経営学部 |
| 申請経費 | 平成25～29年度（5年間、年補助上限5,800万円） |
| 事業概要（400字以内） | <p>本プログラムは、長岡地域の地域課題（産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化）に向き合い、課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この地域課題に答えようとするものである。</p> <p>教育面では、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目による社会人基礎力等の養成、④学生起業人材の養成、を行う。</p> <p>研究面では、主な地域課題の研究（創造人材・人口減少・ボランティア活動・産業競争力研究等）に加え、地域志向教育研究にも注力し、成果の地域還元を図る。</p> <p>社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、に取り組む。</p> <p>以上の事業の推進を通して、「＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学」（地域で役に立ち、頼りになる大学）へと本学を改革する。そのため、カリキュラムの改革、地域連携の強化、推進体制の確立に努める。【398字】</p> |

2 長岡大学の目的・目標を踏まえた「地域志向」

(1) 長岡大学の「地域志向」の位置づけ

本学の「地域志向」は、次の2つの＜建学の精神＞に位置づけられている。

＊幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進

＊地域社会に貢献し得る人材の育成

より具体的には、次の理念・目標に表現される。

☆経済経営系の大学として、地域産業の人材ニーズに応えた実践的な能力を身につけた若者人材をおくりだし、地域経済の発展に貢献する。

☆大学の知的資産の活用により、市民・企業人向け講座により学習機会を提供するとともに、地域課題研究成果の還元や地域活性化に積極的に取り組む。

この基本的観点が、教育、研究、社会貢献に貫かれている。「地域志向」の内容は次の通りである。

(2) 教育・研究・社会貢献の「地域志向」

★教育面・・・本学の教育（産学融合教育プログラム）は、大きく、専門教育（資格対応型専門教育プログラム）とキャリア教育（ビジネス展開能力開発・産学連携キャリア開発教育プログラム＝社会人基礎力養成）から構成されている。平成 18～21 年度に選定された 2 つの文部科学省・現代 G P 教育プログラム（「産学融合型専門人材開発プログラム」および「学生による地域活性化提案プログラム」）は、主として、後者のプログラムであり、地域志向の教育（地域の企業との連携により、企業講師、現場・企業体験、地域課題解決授業等）を導入し、成果をあげた（こうした実践的能力形成により、就職内定率は向上、平成 25 年 3 月卒業生の就職内定率は 99.0%）。

今回は、これまでの成果の上にたち、地域課題解決をより明確に意識したく地域連携型キャリア教育として発展させ、将来の地域社会の発展を担う＜創造人材＞（課題解決型・価値創造型専門人材）の育成をめざす。

★研究面・・・地域課題解決（主として新潟・長岡地域）に関する本学教員の調査・研究は、国（科学研究費等）や自治体（受託調査研究等）等の研究資金を確保して展開されてきた（教員個人、地域研究センター等）。個々の教員の県内地域課題の調査研究（産業等）成果の地域への還元は、情報発信等（公開シンポジウム、研究年報等）の形で毎年行っている。同時に、地域課題解決型の受託調査研究（国の M O T 人材育成教育、新潟県の起業家教育等競争的資金）が、新たな社会貢献事業（社会人学び直しイノベーション人材養成講座、地域若者起業家塾）の開始につながり、継続し、企業の専門人材育成に役立っている。

今回は、この成果の上に立ち、長岡市等との問題意識の協議を経て地域課題解決研究テーマを設定する＜地域課題対応型連携研究＞を展開し、その成果を教育と地域社会に還元する。とくに、創造人材育成や人口減少への対応、産業競争力強化など、地域の発展に不可欠な課題解決テーマに取り組む。

★社会貢献面・・・本学独自の社会貢献組織（地域研究センター、生涯学習センター）により、地域の課題・ニーズに対応した自主研究、受託研究、人材育成講座及び情報発信（公開シンポジウム、講演会、研究年報等）を継続的に行い、高い評価を得てきた（大学の地域貢献度ランキング調査で全国上位にランクされる）。

今回は、まず、地域研究センターと生涯学習センターを再編・一本化した「地域連携研究センター」を設立し、社会貢献事業の推進組織面での強化、拡大を図る。その上で、上記の＜連携研究＞による地域還元の推進のほか、市民、企業人の＜創造人材＞育成に注力するとともに、本学総体での、様々な地域活性化の活動領域への積極的参加をめざすことで、＜地域活性化と人材育成＞を推進する。

3 対象地域と地域課題

当プログラムの対象地域は、新潟県長岡市である。長岡市は、平成 17～22 年の間に 11 市町村の合併により誕生した（長岡市、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町、和島村、寺泊町、栃尾市、与板町、川口町の 11 市町村）。

本学の人的資源（経済経営系学部の人材）やこの間の地域活性化の取り組み実績を踏まえ、今回の申請による解決を図ろうとする長岡地域の課題を整理すると、次の通りである。

★まず第1の課題として、産業の活性化による地域経済の発展をあげなくてはならない。経済のグローバル化に伴う国内外の企業・産業大競争における生き残りをめざして、長岡地域の企業・産業の競争力の向上により、地域の就業機会を維持・拡大し、産業空洞化を回避しなければならない。同時に、創業・起業活性化による新産業を育成し、産業の新陳代謝による地域経済の発展を図る必要がある。その鍵は、価値を生む人材育成にあり、そこに焦点を絞って、産官学の連携で強力に推進する必要がある。

★第2は、市民協働による社会課題の解決である。少子高齢化や環境問題等に伴う市民生活上の社会諸課題の改善・解決である。高齢社会の進展に伴う健康（スポーツ等）、医療、福祉（介護制度等）の問題、地域社会活性化をリードする教育・文化（祭り、イベント等）、国際交流の促進、さらに深化する環境問題（3R、環境教育、環境経営、自然環境等）など、多様な市民生活上の課題解決への取り組みが求められている。行政の施策と連携した市民協働（ボランティア活動等）の広がりによる対応が不可欠であり、そうした課題解決を担う人材の育成が重要になる。

★第3に、地域・コミュニティの活性化をあげなくてはならない。少子高齢化の進行等による地域・コミュニティの人口減少（過疎化）傾向が拡大し、活力の劣化が見られる。合併による広域化も加わって、長岡市内の各地域・コミュニティの活性化は、喫緊の大きな課題となっている。各地の地域資源（歴史・文化・産業等）の発掘や地域間交流の活発化等による＜脱衰退・新しい活性化＞が、里山地域から中山間地域まで、求められている。市民協働活動の充実・拡大とボランティア人材の養成により、地域・コミュニティの活性化を推進する必要がある。

4 長岡大学「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の枠組み

本学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の概要は、図表1-4-1に示す通りである。

(1) 地域課題と創造人材

地域課題は、産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化の3つに設定している。本プログラムは、こうした地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この3つの地域課題に応えようとするものである。

★＜創造人材 Creative Talents＞とは、科学者、技術者、経営者、諸専門家、音楽家、芸術家などいわゆる専門的職業従事者（国勢調査）を指す。近年の研究（R. フロリダ等）で、＜創造人材＞が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることが明らかにされた。本申請では、本学の経済経営系大学という性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどを指すものとする。

(2) 教育面（地域連携型キャリア教育）

3つの地域課題に対応できる教育として、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目（キャリア教育）における社会人基礎力（社会人として通用する能力）等の養成、

の3つを行う。①は上級の情報や専門資格取得による専門人材育成、②は19科目から33科目に拡大、③は、ボランティア活動への参加（社会貢献）を通じたボランティア・スキルの養成、課題解決提案（社会貢献）を通じた社会人基礎力の養成などを行う。産業活性化の課題にたいしては、④学生起業人材の養成を行う。これにより、起業家予備人材の輩出と地域の学生の起業家精神の涵養をめざす。

教育面では、専門能力、ボランティア・スキル、社会人基礎力を身につけた学生と学生起業家の養成をめざす。

（3）研究面（地域課題対応型連携研究）

研究面では、①地域への研究成果の還元、②地域との共同研究、に取り組む。①は、3つの地域課題解明・解決に関する、創造人材・人口減少・ボランティア活動等の3つの共同研究、及び、産業活性化に資する産業競争力研究、にそれぞれ取り組み、その成果の地域還元（公開シンポジウム等）を行う。②は、本学教員の地域志向型教育研究による共同研究であり、これも活発化し、地域課題解決に資する。

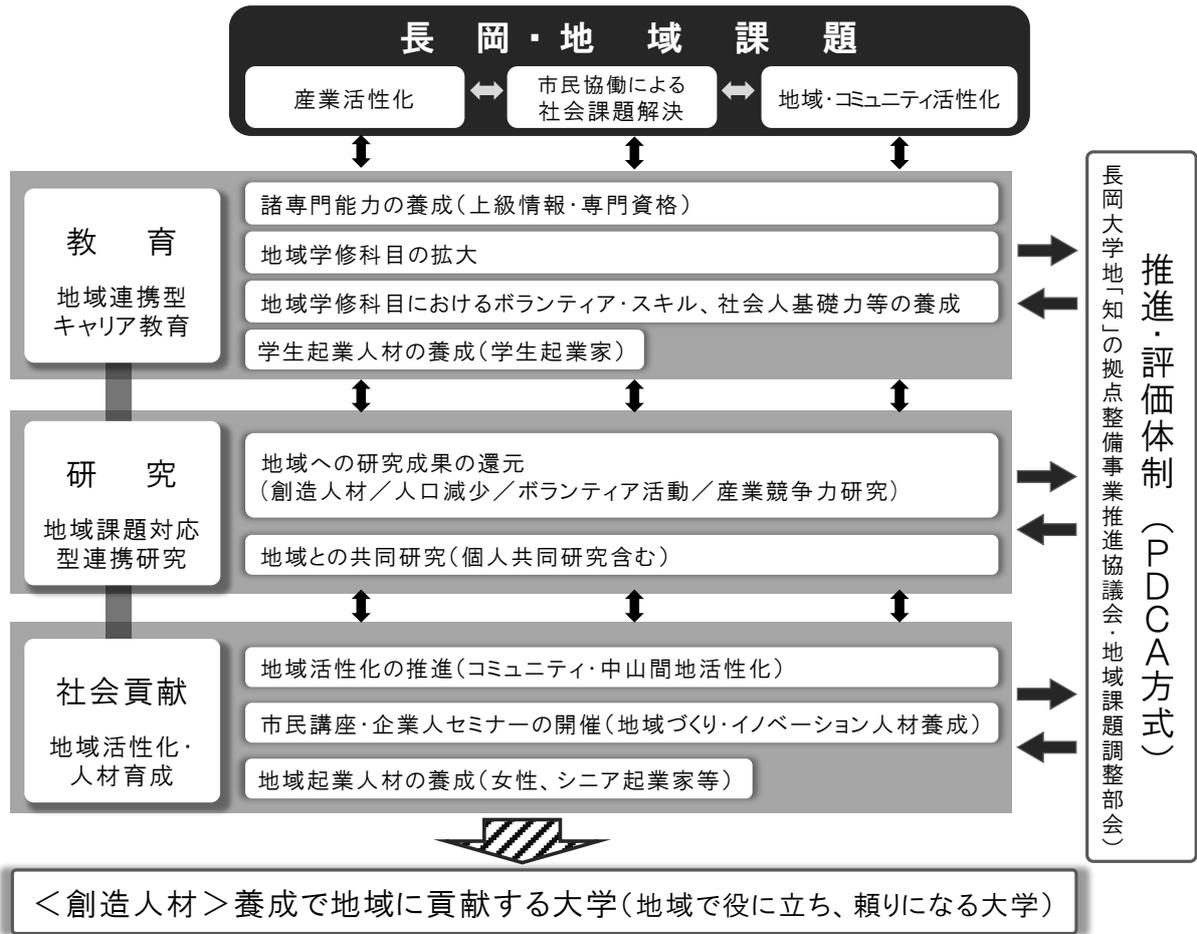
（4）社会貢献（地域活性化と人材育成）

社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民公開講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、の3つの事業に取り組む。①は3地域課題に対応して、教育面の学生の地域活性化・ボランティア活動と連携するとともに、本学立地地区（悠久山地区）の活性化等から他の地域活性化に拡大して、取り組む。②は、市民公開講座で課題解決をめざした地域づくり人材・ボランティア養成、企業人セミナーでイノベーション人材を養成し、企業価値創造・企業競争力強化に取り組む。③は女性・シニア含む起業家育成による創業・起業、ソーシャルビジネス起こしを促進し、新産業育成に資する。

（5）大学改革の方向

以上の事業の着実な推進を通して、「＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学」（地域で役に立ち、頼りになる大学）へと改革する。「地域に役立つ大学」は、長岡の伝統である＜米百俵の精神＞の現代における継承・実現でもある。そのため、カリキュラムの見直し・改革（地域学修科目、とくにボランティア科目、地域活性化科目、起業家塾の拡大・充実）の推進、地域連携（長岡市等）の強化、さらに、地域志向事業全般の推進・評価体制（地域連携研究センター設立等とPDCAの徹底）の確立を図る。

図表 1-4-1 長岡地域<創造人材>養成プログラム 全体図



II 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」への参加

1 平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の開始

政府の地方創生政策の一環として、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」が開始され、新潟県では、新潟大学の申請事業<「ひと・まち・しごと」創生を循環させるN I I G A T A人材の育成と定着>が申請し、採択された。

2 平成28年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」への参加

長岡大学は、文部科学省の指示を受けて、平成28年度から、新潟大学のCOC+事業<「ひと・まち・しごと」創生を循環させるN I I G A T A人材の育成と定着>に参加することになった。

参加報告に関する資料は、図表2-2-1に示す通りである。

具体的には、①平成28・29年度は、大学COC事業として継続する(助成も)、②COC+としては、インターンシップ事業および企業経営・産業振興に繋がる地域イノベーティブな人材の育成(社会人の学び直し)などに参加する、ことになる。

平成28年3月29日

文部科学省高等教育局大学振興課 御中

国立大学法人新潟大学
新潟大学長 高橋 姿

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）における
事業協働機関追加等に伴う事業計画の変更について

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 取組名称

「ひと・まち・しごと」創生を循環させるNIIIGATA人材の育成と定着

2. 変更する事業協働機関の内容

(1) 参加大学

平成25年度COC採択大学であり、本事業の協力大学でもある「長岡大学」をCOC+参加大学として事業協働機関に加え、事業目標の達成を目指す。

(2) その他

本事業の協力大学として、「新潟経営大学」を追加する。

2. 変更する実施内容、実施方法等

(1) 役割分担（コストシェア）の変更内容

「長岡大学」をCOC+参加大学として事業協働機関に加える。

〈関連事業1〉新潟県内の地域特性や特色を理解するための体系的インターンシップ
新潟県内でも特に長岡地域を中心として、地域特性や産業の理解、地元企業の認知度を高めるインターンシップを、学士課程のカリキュラムに位置付ける取組みに参加する。

〈関連事業2〉地域活性化／産業振興：社会人の学び直し

企業経営・産業振興に繋がる地域イノベティブな人材を育成するプログラムに参加する。

| |
|--|
| <p>「新潟経営大学」をCOC+協力大学に加える。</p> <p><関連事業2>地域活性化／産業振興：ブランディングによる新潟の魅力開発と地域活性化</p> <p>観光経営学部をもつ「新潟経営大学」は、地域の産業と観光をコーディネートする視点から、新潟県全域を対象とした「新潟の潜在的な魅力の発掘」、「ブランド化の提案」、「国内外への情報発信」に協力する。</p> |
|--|

(2) 事業規模（補助金申請額及び大学負担額）の変更内容

「長岡大学」は平成25年度<地(知)の拠点整備事業>に採択されており、平成29年度末までの事業計画に沿って長岡地域を中心に事業を展開する。

本COC+事業は長岡地域を包含する新潟県を事業協働地域としているので、「長岡大学」が参加大学として加われば、中越地域の重要な拠点大学として事業規模の拡大に大きく寄与する。

COC大学として実施するインターンシップ事業と、公開講座の充実による社会貢献事業については、COC+事業と協働して実施できるよう密接に連絡調整を行うことで、COC+参加大学としての役割を果たし、効率的な事業経費の運用により、COC+事業経費として平成28年度と平成29年度の配分が節約できる。

平成30年度以降はCOC採択大学としての補助金事業が終了するが、本COC+事業へは継続して参加し、新潟県下全域での人口減少の阻止、雇用創出、人口流入策について、参加大学として事業協働して実施し、参加大学として事業経費の配分をうける。

「新潟経営大学」は本COC+事業の一部（ブランディング）に加わり協力する。事業規模に変更はない。

(3) 各年度の実施計画の変更内容

「長岡大学」は長岡地域におけるインターンシップ授業科目等の開発を行うとともに、社会人学びなおし「地域創生講座」等の課題設計に参加する。

4. 変更について事業協働機関で合意した時期

「長岡大学」の参加大学への追加については、平成27年11月16日開催のCOC+連携協議会（協議の場）で合意した。

「新潟経営大学」の協力大学への追加については、新潟県の仲介で平成28年2月10日にCOC+大学（本学）と新潟経営大学で合意した。直近のCOC+連絡協議会（協議の場）で報告後了承を得る。

.....

Ⅲ 事業推進体制と平成29年度経過報告

1 平成29年度助成（補助金）

平成29年度の文部科学省からの助成（補助金）は、18,500千円である。なお、平成25年度の助成（補助金）は、32,231千円、平成26年度は47,542千円、平成27年度は37,000千円、平成28年度は23,400千円であった。

2 事業推進体制

(1) 事業担当部門

- ・1次事業担当・・・COC事業は17事業（教育7、研究3、社会貢献7）からなるが、この事業の直接の推進担当は、教員＋事務の2名が担う。
- ・事業担当事務組織・・・この1次担当を支援する事務組織は、教育事業は教務学生課＋地域連携室、研究は総務課＋地域連携室、社会貢献は地域連携室とした。
- ・地域連携研究センター・・・地域連携研究センターはCOC事業以外の事業も担うので、COC事業については、市民公開講座分野を市民講座部会、社会貢献分野を企業・創業講座部会、地域連携部会で担うこととした。当センターの事務は地域連携室が担う。
- ・推進本部・・・地（知）の拠点整備事業推進本部は、COC事業全体企画・推進・点検（PDCAサイクル）を担う全学組織である。事務は地域連携室が担う。
- ・COC関連広報機能は、広報会議（教員＋事務担当者）を立ち上げ、学務・総務課と連携して地域連携室が担う。

(2) 地域連携研究センター

- ・同センター所長－学長（村山光博）、総括マネージャー－原田誠司。
- ・地域連携研究センター運営委員会・・・次の陣容で構成した。月1回開催。運営委員長－小松、市民講座担当運営委員－山川、牧野、企業・創業担当運営委員－小松、栗井、地域連携担当－高橋治、広田、地域連携室長－品川、地域連携室－小田原、山田（書記）。
- ・各部会・・・市民講座部会：部会長＝山川、副部会長＝牧野、部会員＝兒嶋、品川、小田原（書記）。企業・創業講座部会：部会長＝小松、副部会長＝栗井、部会員＝鈴木、原田、品川、小田原（書記）。地域連携部会：部会長＝高橋治、副部会長＝広田、部会員＝権、米山、鯉江、井比、近藤、浜松、品川、山田、小田原（書記）。情報共有のため、必ず、議事要旨をセンター運営委員およびCOC推進事務局員に送信する。
- ・センター独自業務・・・論叢、年報、受託調査等、NAZE等連携、その他の各業務は担当者と地域連携室で担う。

(3) COC事業推進本部

- ・平成29年度地（知）の拠点整備事業推進本部・・・平成29年度は次の委員で構成し、月1回の会議で、進捗状況をチェックする。本部委員（各事業の事務＋教員の担当者）は次のとおり。
- *推進本部長・村山光博（学長）、推進副本部長・鯉江康正（副学長／教務委員長／人口問題）、原田誠司（地域連携研究センター総括マネージャー）

推進本部委員・鈴木章浩（資格／現場／地域志向／論叢）、広田秀樹（地域活性化プログラム／地域連携）、米山宗久（ボランティア体験等／地域連携）、中村大輔（インターンシップ等／学生委員長）、小松俊樹（センター運営委員長／学生起業人材／企業・創業講座部会）、牧野智一（満足度調査等／FD／市民講座）、栗井英大（事業承継調査／企業・創業講座部会）、高橋治道（地域連携部会）、山川智子（市民公開講座部会）、松本和明（図書館委員長）、吉川宏之（就職委員長）、関義夫（自己点検）、品川十英（事務局長／地域連携室長）、井比 亨（教務学生課長）、三浦康弘（総務課長）、近藤弘康、長谷川雅英、高梨由紀子（以上、教務学生課）、浜松大輔（就職支援室）、小田原弘貴、山田満智子（書記）（以上、地域連携室）、以上 24 名。

（４）COC運営事務局会議

- ・運営事務局会議・・・次のメンバーで、毎週火曜日に会議をもち、その結果を事務局会議通信として、全教職員に発信し、情報共有を図る。

座長：原田誠司（副本部長）、メンバー：小松俊樹（地域連携研究センター運営委員長・教授）、品川十英（事務局長・地域連携室長）、井比亨（教務学生課長）、三浦康弘（総務課長）、小田原弘貴（地域連携室）、山田満智子（書記）。オブザーバーとして村山学長参加。

（５）推進協議会

- ・長岡市を始めとする地域連携機関との連携により、長岡大学COC事業の企画・展開・点検（PDCA）を推進する場として、「長岡大学地（知）の拠点整備事業推進協議会」を設置する。年1～2回開催。メンバーは次の通り。

会長／議長 村山光博 長岡大学学長／教授

<連携機関等委員（敬称略）>

茂田井裕子 長岡市地方創生推進部政策企画課長

深澤寿幸 長岡市商工部工業振興課長

長谷川和明 長岡商工会議所事務局次長

松田勝彦 日本政策金融公庫長岡支店長

樺澤正直 株式会社北越銀行コンサルティング営業部副部長

山田哲也 NPO法人長岡産業活性化協会NAZE事務局長

渡辺美子 NPO法人市民協働ネットワーク長岡センター長

諸橋和行 公益社団法人中越防災安全推進機構業地域防災力センター長

中村英樹 公益財団法人山の暮らし再生機構専務理事

<大学側委員>

*上記の推進本部委員が大学側協議会委員を務める

・地域課題調整部会

地域連携機関との連携を密にし、協同で事業推進を図るため、月1回、月末の月曜日に調整部会を開催する。メンバーは、次の通りである。

林 智和 長岡市地方創生推進部政策企画課係長

名塚正和 長岡市商工部工業振興課工業振興係長

田中絢子 長岡商工会議所営業推進部営業サービス課工業係長

原田誠司、小松俊樹、小田原弘貴（長岡大学側メンバー）

(6) 「地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）推進組織

村山光博（学長） 新潟地域創生協議会（平成28年4月1日より）

原田誠司（総括マネージャー） 教育プログラム開発委員会（平成28年4月1日より）

事業評価検証部会（平成28年11月16日より）

品川十英（事務局長） 企画調整部会（平成28年4月1日より）

浜松大輔（就職支援室職員） インターンシップ改革WG（平成28年度 12月20日より）

3 平成29年度経過報告

<平成29（2017）年>

| 実施日 | 事業内容 |
|----------|--|
| 4月3日（月） | 長岡市主催平成29年度ものづくり支援事業説明会講師派遣 |
| 4月4日（火） | 平成28年度大学改革推進等実績報告書提出 |
| 4月18日（火） | 平成29年度第1回推進本部（平成29年度COC推進体制・事業方針・予算・文科省アンケート実施、平成28年度実績報告等） |
| 4月25日（火） | ・平成29年度第1回地域課題調整部会 ・平成29年度地域連携研究センター第1回運営委員会 |
| 5月2日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第1回市民講座部会 |
| 5月9日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第1回地域連携部会 |
| 5月13日（土） | インターンシップマッチングフェア長岡に参加 |
| 5月14日（日） | インターンシップマッチングフェア新潟に参加 |
| 5月16日（火） | ・平成29年度第2回推進本部（平成29年度事業計画作成、地域志向教育研究募集、平成29年度推進協議会、当面のスケジュール） ・平成29年度地域連携研究センター第1回企業・創業講座部会 |
| 5月23日（火） | 平成29年度市民公開講座「長岡偉人伝」～6/20（火）：5回 |
| 5月24日（水） | 平成29年度地域連携研究センター第2回運営委員会 |
| 5月26日（金） | 平成28年度COCフォローアップ・アンケート提出 |
| 5月30日（火） | 平成29年度第2回地域課題調整部会 |
| 5月31日（水） | 平成29年度第1回SD会議/第1回FD会議「障がいを持つ学生への対応」、「昨年度のFDフォーラム等研修への出席者による報告と意見交換」 |
| 6月5日（月） | 平成29年度市民公開講座「Excel入門」～6/21（水）：6回 |

| 実施日 | 事業内容 |
|----------|--|
| 6月6日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・新潟大学地(知)の拠点大学による地方創生推進協議会(COC+)第7回企画・調整部会及び第4回事業プロジェクト推進部合同会議に出席 ・平成29年度地域連携研究センター第2回市民講座部会 |
| 6月13日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度第3回推進本部(事業進捗、平成27年度フォローアップ報告、平成28年度COCアンケートとりまとめ、平成29年度事業計画修正・補強、平成29年度COC+推進協議会、地域志向教育研究募集、当面のスケジュール) ・平成29年度地域連携研究センター第2回企業・創業講座部会 |
| 6月15日(木) | 平成29年度市民公開講座「記紀を読む(前編)」～7/20(木):5回 |
| 6月20日(火) | 平成29年度地域連携研究センター第2回地域連携部会 |
| 6月21日(水) | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度地域連携研究センター第3回運営委員会 ・平成29年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業推進協議会 ・平成29年度市民公開講座「新潟における戦争の記憶」～6/28(水):2回 |
| 6月27日(火) | 平成29年度地域連携研究センター第3回地域課題調整部会 |
| 6月28日(水) | 平成29年度第2回SD会議「ワークライフバランス」 |
| 7月4日(火) | 平成29年度地域連携研究センター第3回市民講座部会 |
| 7月5日(水) | 平成29年度市民公開講座「経済発展の始まりはニーズと地域資源の活用にある」～7/12(水):2回 |
| 7月7日(金) | 2017地域連携研究センターシンポジウム「人口減少と長岡地域活性化の展望ー長岡地方創生のさらなる前身へー」を開催 |
| 7月10日(水) | SD研修会:NAZE公開セミナー「誰でも出来る効果確実な5S」(長岡市)に参加 |
| 7月11日(火) | 平成29年度地域連携研究センター第3回企業・創業講座部会 |
| 7月18日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度第4回推進本部(平成28年度事業進捗、平成30年度以降ポストCOC事業に向けての方針等、長岡大学の魅力アンケート、当面のスケジュール) ・平成29年度地域連携研究センター第3回地域連携部会 |
| 7月19日(水) | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度地域連携研究センター第4回運営委員会 ・平成29年度市民公開講座「温泉の魅力について語ろう!」～7/26(水):2回 |
| 7月21日(金) | 新潟大学地(知)の拠点大学による地方創生推進協議会(COC+)第4回新潟地域創生協議会に参加 |
| 7月25日(火) | 平成29年度地域連携研究センター第4回地域課題調整部会 |
| 7月26日(水) | 平成29年度第3回SD会議「平成28年度決算について」 |
| 8月4日(金) | SD研修会:「簿記指導者セミナー」(東京都)に参加 |
| 8月5日(土) | 創業セミナー初級コース～8/26(土):3回 |
| 8月30日(水) | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度第4回SD会議「ハラスメント防止」、 ・平成29年度第2回FD会議「教授法のレベル向上のための研修」 |
| 8月31日(木) | <ul style="list-style-type: none"> ・SD研修会「5S見学ならびに講習会」(長岡市)に参加 ・平成29年度第3回FD会議「コンプライアンスと研究倫理」 ・平成29年度第4回FD会議「魅力的な申請書」 |
| 9月5日(火) | 平成29年度地域連携研究センター第4回市民講座部会 |

| 実施日 | 事業内容 |
|------------------|--|
| 9月12日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第4回企業・創業講座部会 |
| 9月15日（金） | 平成29年度市民公開講座「おとなの学びなおし心理学」～10/6（金）：4回 |
| 9月19日（火） | <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度第5回推進本部（平成29年度事業進捗、ポストCOCに関する連携機関アンケート・ヒアリングの結果、平成30年度以降のCOC関連事業・予算等、当面のスケジュール） 平成29年度地域連携研究センター第4回地域連携部会 |
| 9月20日（水） | 平成29年度地域連携研究センター第5回運営委員会 |
| 9月26日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第5回地域課題調整部会 |
| 9月27日（水） | <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度第5回SD会議「5S見学・講習会報告」「3大学1高専キャンパス構想について」「学長シリコンバレー視察報告」 イノベーション人材養成講座「中小企業の後継者育成講座（事業承継）」～10/27（金）：3回 |
| 9月28日（木） | 平成29年度市民公開講座「簿記入門講座」～11/16（木）：15回 |
| 10月3日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第5回市民講座部会 |
| 10月4日（水） | 平成29年度市民公開講座「聞き手を動かすプレゼンスキル」を身に付ける～10/25（水）：4回 |
| 10月10日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第5回企業・創業講座部会 |
| 10月12日（木） | 平成29年度市民公開講座「記紀を読む（後編）」～11/30（木）：5回 |
| 10月17日（火） | <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度第6回推進本部（平成29年度事業進捗、ポストCOCに関する連携機関アンケート・ヒアリングの結果、平成30年度以降のCOC関連事業・予算等、長岡大学の魅力アンケート、新潟大学COC+中間評価、当面のスケジュール） 平成29年度地域連携研究センター第5回地域連携部会 |
| 10月18日（水） | 平成29年度地域連携研究センター第6回運営委員会 |
| 10月25日（水） | 平成29年度第6回SD会議「入学者の追跡調査等による選抜方法の妥当性の検討」 |
| 10月28日（土） | 第2回ボランティアフォーラム：悠久祭 |
| 10月28日（土）・29日（日） | 悠久祭：「悠久山いいとこ撮りまっふ中間発表」「プラレールで遊ぼう」 |
| 10月31日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第6回地域課題調整部会 |
| 11月1日（水） | 平成29年度市民公開講座「北越紀州製紙110年のあゆみと長岡地域」～11/29（水）：5回 |
| 11月5日（日） | もみじ園フォーラム：講演会「越路を創った先人たち」 |
| 11月7日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第6回市民講座部会 |
| 11月11日（土） | もみじ園フォーラム：資料展「越路を創った先人たち」、もみじ茶会 |
| 11月13日（月） | 平成29年度地域連携研究センター第6回企業・創業講座部会 |
| 11月14日（火） | 新潟大学地（知）の拠点大学による地方創生推進協議会（COC+）シンポジウムに参加 |

| 実施日 | 事業内容 |
|-----------|---|
| 11月17日（金） | 2017地域連携研究センターシンポジウムⅡ「事業承継と地域活性化の展望ー長岡地方創生のさらなる前身へー」 |
| 11月21日（火） | ・平成29年度第7回推進本部（平成29年度事業進捗、平成30年度以降のCOC関連事業・予算等、長岡大学の魅力アンケート、受託事業、当面のスケジュール） ・平成29年度地域連携研究センター第6回地域連携部会 |
| 11月22日（水） | 平成29年度地域連携研究センター第7回運営委員会 |
| 11月28日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第7回地域課題調整部会 |
| 11月29日（水） | 平成29年度第7回SD会議「中期計画達成に向けた行動計画の中間報告」 |
| 12月2日（土） | ・平成29年度学生のための地域活性化プログラム成果発表会開催 ・創業セミナー実践コース～2/3（土）：6回 |
| 12月5日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第7回市民講座部会 |
| 12月12日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第7回企業・創業講座部会 |
| 12月18日（月） | 学生満足度調査実施 ～1/17（水） |
| 12月19日（火） | ・平成29年度第8回推進本部（平成29年度事業進捗、長岡大学の魅力アンケート、平成29年度COC+事業報告書作成、受託事業、当面のスケジュール） ・平成29年度地域連携研究センター第7回地域連携部会 |
| 12月20日（水） | 平成29年度地域連携研究センター第8回運営委員会 |
| 12月26日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第8回地域課題調整部会 |

<平成30年（2018）年>

| | |
|----------|--|
| 1月9日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第8回市民講座部会 |
| 1月18日（木） | 新潟大学地（知）の拠点大学による地方創生推進協議会（COC+）企画調整部会に出席 |
| 1月22日（月） | 平成29年度地域連携研究センター第8回企業・創業講座部会 |
| 1月23日（火） | ・平成29年度第9回推進本部（事業進捗、COC+、長岡大学の魅力アンケート、平成29年度COC+事業報告書作成、当面のスケジュール） ・平成29年度地域連携研究センター第8回地域連携部会 ・新潟大学地（知）の拠点大学による地方創生推進協議会（COC+）インターンシップワーキンググループに出席 |
| 1月24日（水） | 平成29年度地域連携研究センター第9回運営委員会 |
| 1月30日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第9回地域課題調整部会 |
| 2月1日（木） | SD研修会：「原価計算初級試験説明会」（東京都）に参加 |
| 2月7日（水） | 平成29年度地域連携研究センター第9回市民講座部会 |
| 2月13日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第9回企業・創業講座部会 |
| 2月20日（火） | ・平成29年度第10回推進本部（事業進捗、COC+、当面する事業、平成29年度COC事業広告書の作成） ・平成29年度地域連携研究センター第9回地域連携部会 ・インターンシップフォーラム新潟 |

| 実施日 | 事業内容 |
|-------------------|--|
| 2月21日（水） | ・イノベーション講演会「技術（ハイテク）ベンチャーをいかに輩出するか」 ・インターンシップフォーラム長岡（学生発表） |
| 2月22日（木） | イノベーション懇談会 |
| 2月23日（金） | 平成29年度地域連携研究センター第10回運営委員会 |
| 2月24日（土） | 第5回悠久山・東山フォーラム「悠久山の見どころ、撮りどころ」 |
| 2月27日（火） | 平成29年度地域連携研究センター第10回地域課題調整部会 |
| 2月28日（水） | 第5回FD会議「ラインズドリル説明会」 |
| 3月1日（火） | 新潟大学地（知）の拠点大学による地方創生推進協議会（COC+）企画調整部会に出席 |
| 3月2日（金） ～3日（土） | 平成29年度COC/COC+全国シンポジウム「地方が描く日本の未来」に参加（高知大学） |
| 3月3日（土） ～4日（日） | 第23回FDフォーラム「FDのこれまでと、これから」に参加 |
| 3月7日（水） | ・平成29年度第8回SD会議「中期計画達成に向けた目標管理シート」 ・平成29年度第6回FD会議「ラーニング・コモンズ利用状況の確認」 |
| 3月13日（火） | ・平成29年度第11回推進本部（事業進捗、COC+、平成29年度COC事業広告書の作成） |
| 3月14日（水） | 新潟大学地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）第5回新潟地域創生協議会に出席 |
| 3月15日（木） | 平成29年度地域連携研究センター第10回地域連携部会 |

IV <教育>における事業展開

1 諸専門能力の養成－教育①－

(1) 方針（申請時）

・資格対応専門教育プログラムにおいては、学卒生に求められる上級情報処理能力（ITパスポート、Excel/Word 1・2級等）と専門能力（日商簿記1・2級、販売士1・2級等）の取得を、正規授業に加えて、対策講座の充実により推進する。学生 SA も十分に活用する。

(2) 目標（申請時）

・平成 25 年度→情報資格取得者各学年 20%、専門資格取得者各学年 10%。
・平成 29 年度→同情報資格の取得目標－卒業生数の 60%
→同専門資格の取得目標－卒業生数の 40%

(3) 平成 25 年度実績と評価

（上級資格受験結果・総数ベース）

・上級情報資格：受験総数 78 名、合格者数 43 名、合格率 55.1%（43 名/78 名）
・上級専門資格：受験総数 37 名、合格者数 18 名、合格率 48.9%（18 名/37 名）

（資格直前対策講座実施結果）

・講座受講総数 57 名、検定受験割合：63.2%（36 名）、検定合格率：58.3%（21 名/36 名）
（評価）

・総数ベース（資格直前対策講座受講者以外の受験者も含めた総数）でみると、上級情報資格、上級専門資格ともに、合格率は 50%前後でまあまあであったが、在籍学生数に占める割合は低い。平成 25 年度目標値（20%、10%）に達しなかった。

・上級資格直前対策講座の実施結果については、検定受験割合は 60%台で、検定合格率も 60%弱で、対策講座の効果はあったと言える。

・今後の課題は、大学全体の上級資格受験者数を増やすことである。そのためには、直前対策講座の受講者数を増やすことがポイントになる。そのために、ゼミ教員の指導、講座・受験情報の周知、そして何よりも学生の動機付けが重要になる。一段の工夫が求められる。

(4) 平成 26 年度実績と評価

（上級資格受験結果・総数ベース）

・上級情報資格：受験総数 74 名、合格者数 33 名、合格率 44.6%（33 名/74 名）
・上級専門資格：受験総数 31 名、合格者数 8 名、合格率 25.8%（8 名/31 名）

（資格直前対策講座実施結果）

・講座受講総数 38 名、検定受験割合：39.5%（15 名）、検定合格率：53.3%（8 名）

＊内訳→上級情報資格受験者 7 名、検定合格率 71.4%（5 名/7 名）

上級専門資格受験者 8 名、検定合格率 37.5%（3 名/8 名）

（初級～上級資格全体の受験結果）

・情報資格：受験総数 132 名、合格者数 65 名、合格率 49.2%（65 名/132 名）
・専門資格：受験総数 108 名、合格者数 30 名、合格率 27.8%（30 名/108 名）

【評価】

- ・平成 26 年度は資格取得支援センター C O S をスタートさせ、年間の学生利用者数は 1500 名を超え、盛況であった。資格以外の授業、学生生活に関する相談も多かった。
- ・資格取得状況を総数ベースで見ると、上級情報資格は、受験総数は前年度水準だが、合格者数・率ともにやや低下した。これに対し、上級専門資格は受験総数、合格者数・率ともに大幅に低下した。
- ・資格直前対策講座については、講座受講者数、検定受験割合が前年度より低下したが、検定合格率はほぼ同水準を維持した。講座受講者の内訳をみると、総数ベースの合格率と比べ、上級情報資格、上級専門資格の合格率はいずれも高い。
- ・初級から上級資格全体の受験状況をみると、情報資格は、受験者 132 名、合格者 65 名、合格率約 50% (49.2%) であった。専門資格は、受験者 108 名、合格者 30 名、合格率 30%弱 (27.8%) であった。
- ・初級資格受験状況をみると、1 年生の受験実績が圧倒的に大きい。初級情報資格では、1 年生受験者 45 名、合格率 66.7% (30 名) と高い。初級専門資格も、1 年生受験者 31 名、合格率 31.3% (10 名) である。1 年生で、初級の資格取得が重要である。
- ・以上から、次年度は、ゼミ資格取得支援センターの連携を密にして、初級～上級の資格取得へのチャレンジをさらに拡大すること、<1 年生＝初級資格、2～3 年生＝上級資格取得>の推進、直前対策講座の充実（とくに専門資格）、学生の受講しやすい講座時間・講座の仕方などをより具体化する必要がある。
- ・平成 26 年度の目標の達成度については、4 年生はまあまあであったが、3 年生以下は目標との乖離が大きい。4 年生（卒業生）の目標は、「上級 I T 資格保有者 40%、同専門資格保有者 15%」であったが、図表 4-1-1 に見るように、それぞれ、34.7%、15.2% であった。しかし、平成 29 年度の達成目標（上級 I T 資格保有者 60%、同専門資格保有者 40%）とはかなり差がある。今後目標達成に向けた方策を十分検討する必要がある。

図表 4-1-1 平成 26 年度上級資格保有状況

| 学年 | 上級 I T 資格保有割合 | 上級専門資格保有割合 |
|------|---------------|---------------|
| 4 年生 | 34.7% (32/92) | 15.2% (14/92) |
| 3 年生 | 31.7% (20/63) | 6.3% (4/63) |
| 2 年生 | 25.9% (15/58) | 5.1% (3/58) |
| 1 年生 | 0% (0/85) | 1.1% (1/85) |

(注) 計算方法＝各年次の資格保有者数（実質人数）÷各年次の在籍者数

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

(上級資格受験結果・総数ベース)

- ・上級情報資格：受験総数 82 名、合格者数 46 名、合格率 56.1% (46 名/82 名)
- ・上級専門資格：受験総数 25 名、合格者数 8 名、合格率 32.0% (8 名/25 名)

(資格直前対策講座実施結果)

- ・ 講座受講総数 53 名、検定受験割合：50.9% (27 名)、検定合格率：59.3% (16 名)
 - * 内訳→上級情報資格受験者 21 名、検定合格率 71.4% (15 名/21 名)
 - 上級専門資格受験者 6 名、検定合格率 16.7% (1 名/6 名)

(初級～上級資格全体の受験結果)

- ・ 情報資格：受験総数 135 名、合格者数 75 名、合格率 55.6% (75 名/135 名)
- ・ 専門資格：受験総数 108 名、合格者数 30 名、合格率 27.8% (30 名/108 名)

【評価】

- ・ まず、COC事業の最終年度=平成 29 年度の目標 (卒業生上級情報資格取得 60%、同専門資格取得 40%) を視野に入れた平成 27 年度目標は、「4 年生 (卒業生) 上級情報資格保有者 40%、同専門資格保有者対 20%」であった。この目標との関係でみると、図表 4-1-2 に見るように、上級情報資格保有者割合約 35%、上級専門資格保有者割合約 8% でいずれも未達であった。とくに、上級専門資格割合が前年度に比べ、低下してしまった。

図表 4-1-2 平成 27 年度上級資格保有状況

| 学年 | 上級 IT 資格保有割合 | 上級専門資格保有割合 |
|------|---------------|--------------|
| 4 年生 | 34.8% (23/66) | 7.5% (5/66) |
| 3 年生 | 30.7% (20/65) | 6.1% (4/65) |
| 2 年生 | 19.7% (17/86) | 5.8% (5/86) |
| 1 年生 | 0.8% (1/112) | 1.7% (2/112) |

(注) 計算方法=各年次の資格保有者数 (実質人数) ÷ 各年次の在籍者数

- ・ これは、3 年間の傾向を見た図表 4-1-3 から明らかなように、情報系は受験者数、合格者数ともに一定のレベルを保ち、合格率も 50% 台を維持している。しかし、専門系は、総数ベースの受験者、合格者が低下しており、検定対応講座の受験者、合格者も減少している。3 年生以下の学年別の上級資格保有割合も横ばい気味で、向上してはいない。専門系が低くなっている。

図表 4-1-3 3 年間の上級資格取得状況 (全学年ベース)

| | | 上級総数ベース | | | 上級講座受講者ベース | | | 講座受講者の割合 | |
|-------|-----|---------|------|-------|------------|------|-------|----------|-------|
| | | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 |
| 2013年 | 情報系 | 78 | 43 | 55.1% | 12 | 9 | 75.0% | 15.4% | 20.9% |
| | 専門系 | 37 | 18 | 48.6% | 21 | 5 | 23.8% | 56.8% | 27.8% |
| | 計 | 115 | 61 | 53.0% | 33 | 14 | 42.4% | 28.7% | 23.0% |
| 2014年 | 情報系 | 74 | 33 | 44.6% | 7 | 5 | 71.4% | 9.5% | 15.2% |
| | 専門系 | 31 | 8 | 25.8% | 8 | 3 | 37.5% | 25.8% | 37.5% |
| | 計 | 105 | 41 | 39.0% | 15 | 8 | 53.3% | 14.3% | 19.5% |
| 2015年 | 情報系 | 82 | 46 | 56.1% | 21 | 15 | 71.4% | 25.6% | 32.6% |
| | 専門系 | 25 | 8 | 32.0% | 6 | 1 | 16.7% | 24.0% | 12.5% |
| | 計 | 107 | 54 | 50.5% | 27 | 16 | 59.3% | 25.2% | 29.6% |

- ・ 資格取得支援センターCOSを中心に、資格取得等の相談、動機付け、受験者・合格者の拡大をめざした次のような支援の取組が行われた。資格ハンドブック『資格取得のすすめ』の刊行、

直前対策講座の実施（情報系＝ITパスポート、Word 1・2級、Excel 1級、パワポプレゼン上級、専門系＝経済学検定・マクロ・ミクロ、経営学、販売士 1・2級、日商簿記 2級、eco 検定、福祉住環境 2級、医療事務、消費生活）、学生の資格目標管理、簿記・販売士等資格勉強会の実施、学習ペースメーカーの構築。学生の相談件数は年間 1500 件にのぼった。しかし、上記の実績データでみると、これらの取組が十分な成果をあげたとは言えない。

- ・支援取組の効果を検討するとともに、情報系の取得割合の一層の向上を図るとともに、専門系の受験者数の増加、合格者数の拡大の方策を早急に検討し、平成 28 年度に具体化する必要がある。

（6）平成 28 年度実績と評価

【実績】

（上級資格受験結果・総数ベース）

- ・上級情報資格：受験総数 98 名、合格者数 55 名、合格率 56.6%（55 名／98 名）
- ・上級専門資格：受験総数 45 名、合格者数 8 名、合格率 17.8%（8 名／45 名）

（資格直前対策講座実施結果）

- ・講座受講総数 33 名、検定受験割合：81.8%（27 名）、検定合格率：30.3%（10 名）

（初級～上級資格全体の受験結果）

- ・情報資格：受験総数 135 名、合格者数 82 名、合格率 61.0%（82 名／135 名）
- ・専門資格：受験総数 132 名、合格者数 39 名、合格率 29.5%（39 名／132 名）

【評価】

- ・平成 28 年度目標は、平成 29 年度目標（卒業生上級情報資格取得 60%、同専門資格取得 40%）を視野に入れ、平成 27 年度実績＝目標未達を踏まえて、前年度の目標を据え置き、「4 年生（卒業生）上級情報資格保有者 40%、同専門資格保有者対 20%」であった。この目標との関係でみると、図表 4-1-4 に見るように、上級情報資格保有者割合約 32%、上級専門資格保有者割合約 8%でいずれも目標未達であった。

図表 4-1-4 平成 28 年度上級資格保有状況

| 学年 | 上級 IT 資格保有割合 | 上級専門資格保有割合 |
|------|----------------|--------------|
| 4 年生 | 32.8% (22/67) | 7.5% (5/67) |
| 3 年生 | 21.8% (19/87) | 8.0% (7/87) |
| 2 年生 | 24.8% (28/113) | 3.5% (4/113) |
| 1 年生 | 2.4% (2/82) | 0.0% (0/82) |

（注）計算方法＝各年次の資格保有者数（実質人数）÷各年次の在籍者数

- ・昨年度同様、情報系は受験者数、合格者数ともに一定のレベルを保つことが出来たが、専門系は、受験者数、合格者数ともに低迷したまま、増加させることが出来なかった。
- ・資格取得支援センター COS を中心に、資格取得等の相談、動機付け、受験者・合格者の拡大をめざした次のような支援の取組が行われた。
- ・「平成 28 年度長岡大学検定スケジュール」および、各資格の担当教員、担当科目・関連科目をまとめたリーフレット「長岡大学カリキュラム対応資格・検定」を作成し、ゼミナールの時間

を利用し全学生へ配布、および学内掲示を行なった。

- ・各種検定の参考書や過去問題集等を取り揃え、学生に案内した。
- ・資格取得支援センターCOSをラーニングコモンズとしても位置づけ、利用しやすい環境を整えた。また、教務学生課を資格取得支援センターCOSと隣接した場所に移動させ、教務学生課職員が常駐することにより、センター利用者に対し、より充実した相談・指導を行なう環境が整えられた。
- ・以上、様々な取組みを行ったが、結果として、平成28年度目標は未達に終わった。平成29年度は、特に、専門系資格の受験者、合格者をいかに増加させられるかを再度検討し、実行していく必要がある。

(7) 平成29年度方針・目標

【方針】

- ・諸専門能力の養成・・・上級の情報(Excel/Word1・2級、PowerPoint上級、ITパスポートの6資格)および専門能力(日商簿記1・2級、販売士1・2級、経済学検定、経営学検定、福祉住環境コーディネーター2級、ECO検定、医療事務、消費生活相談員等の11資格)の資格取得のための対策講座を受講生の拡大可能な時間帯を工夫して開催する。各資格対策講座1回(10時間)とするが、受講生のニーズに対応して柔軟に設定する。

【目標】

- ・平成29年度目標(卒業生上級情報資格取得60%、同専門資格取得40%)を視野に入れ、平成28年度実績=目標未達を踏まえて、平成29年度目標は、前年度の目標を据え置くこととする。

| | |
|----------|--------------------------|
| 4年生(卒業生) | 上級情報資格保有者40%、同専門資格保有者20% |
| 3年生 | 上級情報資格保有者35%、同専門資格保有者20% |
| 2年生 | 上級情報資格保有者35%、同専門資格保有者20% |
| 1年生 | 上級情報資格保有者10%、同専門資格保有者10% |

(8) 平成29年度計画

次の諸点を検討・具体化し、取得者・率の向上をめざす。

- a COSの業務・・・情報提供・環境整備、相談・指導、上級資格対策勉強会・講座の開講、結果のとりまとめを行う。
- b 情報提供・環境整備・・・初級資格の受験者数を増やし、資格に挑戦する土壌を築く。そのための情報提供と環境整備を行う。受験・申し込み日程の周知、直前対策講座の周知、各資格とシラバス(科目)の対応表の作成、奨励金の活用と見直し、参考書の取りそろえ。
- c 相談・指導・・・資格取得支援センターの機能充実を検討する。資格取得ニーズの把握(アンケート等)、資格取得等相談票に記入、記入事項に対応した相談実施(事務・教員への取次ぎ)、同相談結果報告作成、結果報告の検討・改善等。
- d 上級資格対策勉強会・講座の開講・・・上級資格の対策勉強会・講座を開催する。講師・指導は外部からの招聘も含めて検討する。また、学生の資格学習サークルの立ち上げも追及する。

- e 結果のとりまとめ・・・前年度までの資格関係データを再検討し、活用しやすいデータを体系的に作成、整備する。事例：資格取得個人データ（学年別取得）、資格取得4年生・学年別データ、勉強会・講座・相談等年度のまとめ・改善方向
- f 平成30年度からのポストCOCに向けて、資格取得支援の仕組みを整理・再構築し、平成30年度には、学生に配布する「資格取得リーフレットー資格対応型専門教育プログラムとはー」を作成する。

(9) 平成29年度展開

a COSの業務

平成29年度計画のとおり、資格取得環境の整備、資格取得等相談・指導、上級資格対策勉強会・講座の開講、結果のとりまとめ、年度の支援リーフレット作成を中心に業務を行った。

b 資格取得環境の整備

「平成29年度長岡大学検定スケジュール」および「平成29年度長岡大学資格対策講座スケジュール」を作成し、ゼミナールの時間を利用し全学生へ配布、および学内掲示を行なった。また、各検定の参考書や過去問題集等を取り揃え、学生に案内した。

c 資格取得等相談・指導

資格取得支援センターCOSをラーニングcommonsとしても位置づけ、利用しやすい環境を整えた。

d 対策講座実施（実績）

図表4-1-5 平成29年度資格直前対策講座実施実績一覧

| 講座名 | 担当講師 | 開講日程 | 実績 | | | |
|--|--------------|--|----|----|----|-----|
| | | | 学年 | 受講 | 受験 | 合格※ |
| 日商簿記検定2級対策講座 ※目標試験日：H29.6.11 注1) 3級志望者の受講も可とした。 | 中村大輔 | H29.6.6、6.7、 6.8、6.9、6.10 | 1年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 2年 | 1名 | 1名 | 1名 |
| | | | 3年 | 5名 | 5名 | 3名 |
| | | | 4年 | 1名 | 1名 | 1名 |
| 経営学検定中級対策講座 ※目標試験日：H28.6.25 | 松本和明 鈴木章浩 | H29.6.16、6.21 6.22 | 1年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 2年 | 1名 | 1名 | 0名 |
| | | | 3年 | 4名 | 4名 | 1名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| Excel表計算処理技能認定試験2級対策講座 ※目標試験日：H29.7.1 | 高梨俊彦 | H29.6.20、6.26 6.27、6.29、6.30 | 1年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 2年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 3年 | 1名 | 1名 | 1名 |
| | | | 4年 | 0名 | 1名 | 0名 |
| ERE（経済学）検定対策講座 ※目標試験日：H29.7.2 注1) Bランク以上を合格と見なす。 | 牧野智一 | H29.6.16、6.22 6.23、6.27、6.29 6.30. | 1年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 2年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 3年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 4年 | 2名 | 2名 | 0名 |

| 講座名 | 担当講師 | 開講日程 | 実績 | | | |
|--|--------------|--|----|----|----|-----|
| | | | 学年 | 受講 | 受験 | 合格※ |
| リテールマーケティング(販売士)検定2級対策講座 ※目標試験日：H29.7.8 | 小松俊樹 | H29.7.5、7.6 7.7 | 1年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 2年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 3年 | 4名 | 4名 | 1名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 福祉住環境コーディネーター2級対策講座 ※目標試験日：H29.7.9 | 米山宗久 | H29.7.3、7.4 7.5、7.6、7.7 | 1年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 2年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 3年 | 1名 | 1名 | 1名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級 対策講座 ※目標試験日：H29.7.15 | 高梨俊彦 | H29.7.4、7.7 7.10、7.11、7.14 | 1年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 2年 | 1名 | 1名 | 1名 |
| | | | 3年 | 6名 | 6名 | 6名 |
| | | | 4年 | 0名 | 1名 | 0名 |
| PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級 対策講座 ※目標試験日：H29.9.30 | 高梨俊彦 | H29.9.25、9.26 9.29 | 1年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 2年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 3年 | 3名 | 3名 | 3名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 日商簿記検定2級対策講座 ※目標試験日：H29.11.19 注1)3級志望者の受講も可とした。 | 中村大輔 平田沙織 | H29.11.6、11.7 11.13、11.14、 11.18 | 1年 | 2名 | 2名 | 0名 |
| | | | 2年 | 1名 | 1名 | 0名 |
| | | | 3年 | 3名 | 3名 | 0名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 経営学検定初級・中級対策講座 ※目標試験日：H29.12.3 | 松本和明 鈴木章浩 | H29.11.2、11.9 11.17、11.24、12.1 | 1年 | 1名 | 1名 | 0名 |
| | | | 2年 | 5名 | 5名 | 4名 |
| | | | 3年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| Word文書処理技能認定試験1級対策講座 ※目標試験日：H29.12.9 | 高梨俊彦 | H29.11.28、12.1 12.4、12.5、12.8 | 1年 | 1名 | 1名 | 1名 |
| | | | 2年 | 2名 | 2名 | 2名 |
| | | | 3年 | 4名 | 4名 | 4名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級 対策講座 ※目標試験日：H30.2.3 | 高梨俊彦 | H30.1.16、1.17 1.23、1.24、2.2 | 1年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 2年 | 1名 | 1名 | 1名 |
| | | | 3年 | 3名 | 3名 | 3名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| リテールマーケティング(販売士)検定2級対策講座 ※目標試験日：H30.2.21 | 小松俊樹 | H30.2.5、2.6 | 1年 | 1名 | 1名 | 0名 |
| | | | 2年 | 3名 | 3名 | 1名 |
| | | | 3年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| リテールマーケティング(販売士)検定1級対策講座 ※目標試験日：H30.2.21 | 小松俊樹 | H30.2.19 | 1年 | 1名 | 1名 | 0名 |
| | | | 2年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 3年 | 1名 | 1名 | 0名 |
| | | | 4年 | 1名 | 1名 | 0名 |

| 講座名 | 担当講師 | 開講日程 | 実績 | | | |
|--|--------------|-----------------------------|----|----|----|-----|
| | | | 学年 | 受講 | 受験 | 合格※ |
| 日商簿記検定2級対策講座 ※目標試験日：H30.2.25 注1)3級志望者の受講も可とした。 | 中村大輔 平田沙織 | H30.2.5、2.6、2.7 2.8、2.24 | 1年 | 2名 | 2名 | 1名 |
| | | | 2年 | 1名 | 1名 | 0名 |
| | | | 3年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| Word 文書処理技能認定試験2級対策講座 ※目標試験日：H30.2.27 | 高梨俊彦 | H30.2.13、2.14 | 1年 | 5名 | 4名 | 2名 |
| | | | 2年 | 2名 | 2名 | 0名 |
| | | | 3年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| Excel 表計算処理技能認定試験2級対策講座 ※目標試験日：H30.2.27 | 吉川宏之 | H30.2.13、2.14 | 1年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 2年 | 2名 | 2名 | 1名 |
| | | | 3年 | 0名 | 0名 | 0名 |
| | | | 4年 | 0名 | 0名 | 0名 |

e 結果のとりまとめ

学生の資格検定の受験状況については、学生名、検定名、検定日、合否、点数、取得学年等をデータベース化し一元管理を行なっている。今後はこのデータを元に各種資格取得のタイミングや指導方法、勉強会の開催時期など、各学生の資格取得プランニングのアドバイスなどに活かしていきたい。

f 年度の支援リーフレットの作成

年度初めに「資格取得支援センターC O S利用案内」「平成29年度長岡大学検定スケジュール」および「平成29年度長岡大学資格対策講座スケジュール」を作成し、ゼミナールの時間を利用し全学生へ配布を作成し、全学生に配布した。資格取得支援センター(C O S)の機能を紹介するとともに、資格取得の必要性や学習方法について明記し、全学生はもちろんのこと、特に新入生がスムーズに資格取得に取り組めるように努めた。

(10) まとめ—成果と課題—

平成29年度の資格受験結果は図表4-1-6～9のとおりとなった。(2月14日時点)

まず、第1に平成29年度の資格試験受験結果を総数ベースで見ると(図表4-1-6)、IT全体では受験者152名、合格者108名、合格率71.1%であった。専門資格は、受験者121名、合格者46名、合格率38.0%であった。昨年度と比較すると、IT資格では合格者が26名、合格率が10.1%の上昇、専門資格では合格者が7名、合格率が8.5%上昇した。

第2に平成29年度の上級資格試験受験結果を総数ベースで見ると(図表4-1-7)、IT全体では、受験者96名、合格者70名、合格率72.9%であった。専門資格は、受験者53名、合格者19名、合格率35.8%であった。なお、平成29年度の上級資格保有状況は、図表4-1-9のとおりである。

第3に平成29年度の初級資格試験受験結果を総数ベースで見ると(図表4-1-8)、IT全体では受験者56名、合格者38名、合格率67.9%であった。専門資格は、受験者68名、合格者

27名、合格率39.7%となった。昨年度と比較すると、IT資格は受験者が19名、合格者が11名上昇したが、専門資格は受験者、合格者ともに微減となった。

第4に平成29年度は専門資格対策11講座、IT系資格対策7講座を開講したが（開講予定含む）、図表4-1-7のとおり、上級IT資格においては、講座受講者が24名、うち合格者が22名、上級専門資格においては、講座受講者が31名、うち合格者が12名であった。各講座別の実績は図表4-1-5のとおりである。昨年度の反省をいかし、早い時期から対策講座の日程等を学生に周知した結果、昨年度より大幅に参加者数を伸ばすことができた。しかし、開催の時間帯が主に平日の夜に設定したことから、参加はしたいがアルバイト等の都合で参加できないという学生が多くいた。講師の都合等もあるが、開催時間については再度検討が必要である。

第5に平成29年度の目標達成度については、図表4-1-9のとおり、昨年度より達成度は上昇したが、特に上級専門資格の目標との乖離が大きかった結果となった。1年次に初級資格を取得する学生が多いことから、いかに2、3年次で上級資格の取得につなげられるかがポイントであり、その仕組みづくりが重要である。

図表4-1-6 平成29年度資格受験結果（総数）

| | IT資格全体 | | | 専門資格全体 | | |
|-----|----------|----------|-------|----------|----------|-------|
| | 受験者数（総数） | 合格者数（総数） | 合格率 | 受験者数（総数） | 合格者数（総数） | 合格率 |
| 4年生 | 7 | 3 | 42.9% | 7 | 2 | 28.6% |
| 3年生 | 45 | 32 | 71.1% | 36 | 13 | 36.1% |
| 2年生 | 53 | 41 | 77.4% | 44 | 26 | 59.1% |
| 1年生 | 47 | 32 | 68.0% | 34 | 5 | 14.7% |
| 合計 | 152 | 108 | 71.1% | 121 | 46 | 38.0% |

（注）受験者数及び合格者数＝初級資格＋上級資格である

図表4-1-7 平成29年度上級資格受験結果

| | 上級IT資格 | | | | | | 上級専門資格 | | | | | |
|-----|--------|----|------|----|--------|--------|--------|----|------|----|-------|-------|
| | 受験者数 | | 合格者数 | | 合格率 | | 受験者数 | | 合格者数 | | 合格率 | |
| | 総数 | 講座 | 総数 | 講座 | 総数 | 講座 | 総数 | 講座 | 総数 | 講座 | 総数 | 講座 |
| 4年生 | 5 | 2 | 3 | 0 | 60.0% | 0.0% | 3 | 3 | 1 | 1 | 33.3% | 33.3% |
| 3年生 | 44 | 17 | 31 | 17 | 70.5% | 100.0% | 26 | 17 | 8 | 6 | 30.8% | 35.3% |
| 2年生 | 46 | 4 | 35 | 4 | 76.1% | 100.0% | 18 | 8 | 10 | 5 | 55.6% | 62.5% |
| 1年生 | 1 | 1 | 1 | 1 | 100.0% | 100.0% | 6 | 3 | 0 | 0 | 0.0% | 0.0% |
| 合計 | 96 | 24 | 70 | 22 | 72.9% | 91.7% | 53 | 31 | 19 | 12 | 35.8% | 38.7% |

（注1）上級IT＝Word・Excel 1～2級、PowerPoint 上級、ITパスポート

（注2）上級専門＝日商簿記1～2級、販売士1～2級、福祉社環境1～2級、eco検定、消費生活アドバイザー、経済学検定（ミクロマクロ）S～B、経営学検定中級、医療事務

（注3）総数＝直前講座を受講しない者も含む、講座＝直前講座を受講し、上級資格を受験した者を示す

図表 4-1-8 平成 29 年度初級資格受験結果

| | 初級 I T 資格 | | | 初級専門資格 | | |
|------|-----------|-----------|--------|-----------|-----------|-------|
| | 受験者数 (総数) | 合格者数 (総数) | 合格率 | 受験者数 (総数) | 合格者数 (総数) | 合格率 |
| 4 年生 | 2 | 0 | 0.0% | 4 | 1 | 25.0% |
| 3 年生 | 1 | 1 | 100.0% | 10 | 5 | 50.0% |
| 2 年生 | 7 | 6 | 85.7% | 26 | 16 | 61.5% |
| 1 年生 | 46 | 31 | 67.4% | 28 | 5 | 17.8% |
| 合計 | 56 | 38 | 67.9% | 68 | 27 | 39.7% |

(注 1) 初級 I T = Word・Excel 3 級、PowerPoint 初級、ドットコムマスターベーシック、EC 実践能力検定 3 級

(注 2) 初級専門 = 日商簿記 3 級、販売士 3 級、福祉住環境 3 級、経済学検定 (ミクロマクロ) C~D、経営学検定初級

図表 4-1-9 平成 29 年度上級資格保有状況

| 学 年 | 上級 I T 資格保有割合 | 上級専門資格保有割合 |
|------|----------------|---------------|
| 4 年生 | 23.6% (21/89) | 9.0% (8/89) |
| 3 年生 | 43.0% (46/107) | 9.3% (10/107) |
| 2 年生 | 24.5% (24/98) | 9.2% (9/98) |
| 1 年生 | 0.8% (1/120) | 0.0% (0/120) |
| 合 計 | 22.2% (92/414) | 6.5% (27/414) |

(注) 計算方法 = 各年次の資格保有者数 (実質人数) ÷ 各年次の在籍者数

2 地域志向・学修科目－教育②－

(1) 方針（申請時）

- ・新たな地域学修科目を大幅に拡大して、学生の現場感覚・知識の養成、社会人基礎力の充実をめざす。
- ・各コースの代表科目に地域学修を加え、地域学修科目を拡大する。

(2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→19 科目、履修学生 680 人（延べ）
- ・平成 29 年度→33 科目、履修学生 1,000 人（延べ）

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・平成 25 年度に開講した科目は 8 科目、履修学生 1068 人（延べ）であった。
- ・後期から当事業が開始されたため、申請時の目標科目数（19 科目）を下回ったが、履修学生数は目標（680 人）を大きく上回った。

(4) 平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度は、地域志向科目を再検討し、次の 35 科目を地域志向・学修科目として設定し、各科目平均 3 限分を企業講師・現場体験等授業にあてることとした。
- * 1 年次＝キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、経済・経営の現場、ボランティア論、ボランティア体験、環境と社会 2、マーケティング入門、流通論入門、インターネット概論
- * 2 年次＝キャリア開発Ⅱ－1、Ⅱ－2、起業家塾、地域活性化プログラム、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、環境社会演習 2、生活経済論 1、2、会計学 1、プレゼン利用技術
- * 3 年次＝キャリア開発Ⅲ－1、Ⅲ－2、ゼミナールⅢ、インターンシップ、地方行政、地域経済論、地域産業政策、企業経営史、産業史、医学概論、地域福祉論、管理会計、経営分析
- * 4 年次＝ゼミナールⅣ
- ・実績を見ると、企業講師等実施科目は 22 科目、総時限数は 71 時限で、目標（35 科目、105 時限）をかなり下回った。但し、履修学生数は 1959 人と前年からほぼ倍増した。学年共通の企業見学バスツアーを 2 回実施し、計 32 人が参加した。
- ・参加学生の評価としては、企業講師授業は理解度、役立ち度ともに 90%超が「わかった」、「役に立った」と答えており、非常に高い評価であった。企業見学ツアーも同様の評価であった。

(5) 平成 27 年度実績と評価

- ・【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ

(6) 平成 28 年実績と評価

- ・平成 28 年 7 月に全教員対象にした「平成 29 年度地域志向科目に関するアンケート調査」（実施主体＝推進本部＋教務委員会）を行い、11 月の推進本部で報告し、12 月に、教務委員会から最終的な平成 29 年度の地域志向科目が公表された。具体的には、次の通り。
★地域志向科目 A（科目の目的・性格から、地域志向の授業内容を内包しており、地域志向科目とし適切であると思われる科目）

- ・キャリア科目 6 科目→1 年次＝キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、2 年次＝キャリア開発Ⅱ－1、キャリア開発Ⅱ－2、3 年次＝キャリア開発Ⅲ－1、キャリア開発Ⅲ－2
 - ・教養科目 4 科目→1 年次＝高齢者と社会政策、日本事情、ボランティア論、ボランティア体験
 - ・基礎科目 2 科目→1 年次＝経済・経営の現場を知る 1、経済・経営の現場を知る 2
 - ・特別科目 4 科目→2 年次＝起業家塾、地域活性化プログラム、現場体験プログラム、3 年次＝インターンシップ
- 以上、地域志向科目 A＝16 科目

★地域志向科目 B（上記以外の専門科目等）

- ・専門科目 6 科目→2 年次＝企業経営研究、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、3 年次＝医学概論、地域福祉論
 - ・ゼミナール→3・4 年次＝4 ゼミナールⅢ・Ⅳの 15 ゼミ（すべてのゼミが地域志向の取組みが可能な上限数。経験的には 10 ゼミ程度）
- 以上、地域志向科目 B＝21 科目

★平成 29 年度の地域志向科目→上記の A と B の合計＝37 科目（上限）

- ・全教員の同意を得て、平成 29 年度の地域志向科目を決定することができた。科目数は平成 28 年度までの 36 科目から平成 29 年度 37 科目（上限）にやや増えたが、3・4 年ゼミナール担当教員のゼミ計画内容に依存するので、地域志向科目総数は年度ごとに変動することになる。
- ・上記以外は、【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ。

(7) 平成 29 年度方針・目標

- ・平成 29 年度にリニューアルされた地域志向科目の充実をめざして、展開する。
- ・上記以外は、【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ

(8) 平成 28 年度計画

- ・【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ
- ・平成 30 年度以降のポスト C O C の地域志向科目について、基本的考え方、科目群、効果測定等をまとめた「長岡大学における地域志向科目教育」のような基本文書を整理する。

(9) 平成 29 年度展開

- ・【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】に記した通り、展開された。
- ・基本文書（「長岡大学における地域志向科目教育」）については、年度ごとに教務委員会で科目の性格を明確にし、シラバスの科目ごとの【科目特性】欄に、地域志向科目であることを明記し、学生に意識させるようにした。

(10) まとめ－評価－

- ・平成 28 年度に決定した地域志向科目（上限 37 科目）の展開が着実に進みつつある。
- ・今後は、年度ごとにチェックし、当授業の推進方式（A L 等）と効果測定方法を向上させる必要がある。

3 現場感覚・知識の養成—教育③—

(1) 方針（申請時）

- ・地域学修科目において、3課題（産業活性化、社会課題解決、地域活性化）に対応した、企業講師授業や現場体験学修等の体験型授業を行い、学生の現場感覚・知識の養成を促進する。

(2) 目標（申請時）

- ・平成25年度→14科目（後期）で、3限分の体験型授業（2限分企業講師、1限現場体験学修）実施—体験型授業数42回、履修学生680人（延べ）
- ・平成29年度→33科目で、3限分の体験型授業99回実施、履修学生1,000人（延べ）

(3) 平成25年度実績と評価

- ・地域学修14科目、42限（回）分授業での企業講師等授業を目指したが、8科目、33限（回）授業に留まった。但し、履修学生は1,068人。目標実現に至らなかった要因としては、年度開始当初に具体的な招聘スケジュールの確定ができなかったことが挙げられる。
- ・学生の授業評価としては、理解できた94%、ためになった90%と非常に高い評価であった。

(4) 平成26年度実績と評価

- ・地域志向・学修35科目、105限（回）分授業での企業講師等授業を目指したが、22科目、71限（回）授業に留まった。実施科目数、回数ともに、目標達成割合は60%台にとどまった。但し、履修学生数は、1,959人（延べ）に達した。
- ・学生の企業講師授業の評価としては、理解できた94%、ためになった92%と非常に高い評価であった。
- ・科目横断で実施した企業現場見学バスツアーは好評であった。
- ・活動評価（まとめ・課題）・・・企業講師授業は学生の評価が非常に高く、今後も、継続して実施していく必要がある。しかし、地域志向科目35科目のうち22科目しか実施できなかったことは、同科目の内容も含めて、再検討が必要である。1年かけて検討し、平成28年度には、地域志向科目の再編の姿を明確にしたい。第3に、企業見学バスツアーについては、学生が現場に出かけていくことが重要であることを再認識する必要がある。平成27年度は、課題解決型インターンシップ授業として、「現場体験プログラム」（2年生科目）を新たに地域志向科目として開講し、他の科目とも連携して、この現場体験を充実させる。

(5) 平成27年度実績と評価

【実績】

- ・地域志向・学修36科目において、各2限分を企業講師等授業（各分野の専門家等による地域理解等を深める授業）として実施した。実施科目数21、総時限数62時限で、目標（36科目2限分=72時限）の約60%、86%レベルにとどまった。履修学生数は、1652人（延べ）であった。
- ・また、1科目あたり平均2時限の企業講師授業計画であったが、キャリア科目に実施時限数が偏ってしまった。
- ・企業見学バスツアーについては、平成28年1月に、4社（諸長、第一合繊、日産プリンス新潟、

スポット)に18名の学生が参加した。

【評価】

- ・企業講師等授業について、受講学生は、「わかった」が94.4%、「ためになった」が90.7%と、理解度、役立ち度ともに、非常な高評価であった。
- ・企業見学バスツアーの参加学生の評価も、「わかった」、「ためになった」とともに100%と、全員が理解度、役立ち度ともに、非常な高評価であった。

以上から、成果と課題をまとめると、第1に、これまでの事業展開から、企業講師授業は学生の評価・支持が大きく、目標を達成できた。目標とした学生の高満足（「理解できた」「役に立った」がともに90%以上）は、維持、達成できた。今後とも引き続き改善を図り展開していく。

第2に、企業見学バスツアーへの参加学生の評価も非常に高く、今後もさらに工夫して、実施する必要がある。

第3に、地域志向科目の再検討が出来なかったこと。上記のように、企業講師授業はキャリア科目に偏っている傾向が強く、再検討が必要であることを示す。企業見学ツアーが高評価なのも含めて、地域志向科目の再編を検討する。この3年間の実績を踏まえつつ、教養科目、履修モデルと専門科目、求められる能力・資質の3点を再検討し、地域志向科目の体系を構築することを目指す必要がある。

（6）平成28年度実績と評価

【実績】

- ・地域志向・学修36科目において、各2限分を企業講師等授業（各分野の専門家等による地域理解等を深める授業）として実施した。実施科目数23、総時限数66時限で、目標（36科目2限分=72時限）の約64%、92%となった。受講学生数は、4,049人（延べ）であった。
- ・ボランティア論、社会福祉概論、プレゼンテーションソフト利用技術、地域経営、環境社会演習2、経済・経営の現場を知る、高齢者と社会政策、キャリア開発など幅広い分野で現場感覚および知識を養成することができた。

【評価】

- ・企業講師等授業について、受講学生は、「わかった」が93.4%、「ためになった」が90.4%と、理解度、役立ち度ともに、高評価であった。今後とも引き続き改善を図り展開していく。
- ・地域志向科目の再検討については、平成28年7月に全教員にアンケートを行った。集計結果および、求められる能力・資質を含めて検討した。

- ・平成29年度地域志向科目（32科目）

| | |
|---------|--|
| 1年次（7） | キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、経済・経営の現場を知る1、経済・経営の現場を知る2、ボランティア論、ボランティア体験、日本事情 |
| 2年次（10） | キャリア開発Ⅱ-1、キャリア開発Ⅱ-2、現場体験プログラム、起業家塾、地域活性化プログラム、企業経営研究、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、高齢者と社会政策 |

| | |
|----------|--|
| 3年次 (5) | キャリア開発Ⅲ-1、キャリア開発Ⅲ-2、インターンシップ、医学概論、地域福祉論、(ゼミナールⅢ・Ⅳ＝下参照) |
| 4年次 (10) | ゼミナールⅢ・Ⅳ (15ゼミだが経験的には10ゼミ程度) |

- ・学生からの評価の高い企業見学についても、今後は積極的に実施できるよう働きかけていく必要がある。

(7) 平成 29 年度方針・目標・予算

【方針】

- ・現場感覚・知識の養成・・・地域志向 32 科目（1年次＝キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、経済・経営の現場を知る1、経済・経営の現場を知る2、ボランティア論、ボランティア体験、日本事情、2年次＝キャリア開発Ⅱ-1、キャリア開発Ⅱ-2、現場体験プログラム、起業家塾、地域活性化プログラム、企業経営研究、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、高齢者と社会政策、3年次＝キャリア開発Ⅲ-1、キャリア開発Ⅲ-2、インターンシップ、医学概論、地域福祉論、4年次＝ゼミナールⅢ・Ⅳ）で、各科目平均2限分を企業講師等授業や現場学習にあて、現場感覚・知識の養成を図る。また、地域志向科目の総括を行い新たな展開を検討する。

【目標】

- ・32科目2限分（64時限）を確実に実施し、昨年度に引続いて学生の高満足（「理解できた」「役に立った」共に90%以上）を維持する。
- ・企業現場見学を数回実施して、学生の現場理解を深める。

(8) 平成 29 年度計画

- 地域志向・学修 32 科目において、各 2 限分を企業講師等の授業にあてて授業を実施し、学生の地域・現場への理解を深める。また、企業講師招聘の仕組み（教員の申請書からアンケート実施・集計まで）の改善を図る。
- 企業講師を招聘する授業回には履修学生以外も参加できるよう、掲示等を利用して広報する。
- 企業講師を招聘した授業の学生アンケートを教職員間で共有し、授業改善等に役立てる。
- 企業現場の見学・学修を数回実施する。教員が積極的に活用できるよう手順を明確にする。
- 平成 30 年度以降のポスト C O C の地域志向科目について、上記基本文書の付属授業マニュアルとして、講師招聘手順・授業の進め方等を整理し、とりまとめる。

(9) 平成 29 年度展開

平成 29 年度の企業講師授業は、次の通り実施した。

図表 4-3-1 平成 29 年度の企業講師授業一覧

| No. | 日付 | 教員 | 科目名 | テーマ | 講師 |
|-----|----------|----|------------------|---|--|
| 1 | 5月9日(火) | 米山 | 山川ゼミⅢⅣ | 新潟県の魅力再発見！新潟ご当地検 定完全制覇者が語る地元愛と地域の 未来～2017年に羽ばたこう！ | ふるさと新潟応援団(燕市議会議員) 山崎光男氏 |
| 2 | 5月11日(木) | 高橋 | キャンパスライフ入門 | ハラスメント防止 | 株式会社パートナーズプロジェクト/ 社会保険労務士 高野洋子氏 |
| 3 | 6月2日(金) | 米山 | 社会福祉概論 | 高齢者基幹地域包括支援センターの 活動内容 | 高齢者基幹地域包括支援センター 業務推進員 丸山千代子氏 |
| 4 | 6月2日(金) | 広田 | キャリア開発Ⅱ-1 | 流通業のしくみ | AOKI 営業法人部 課長 田村優一氏 AOKI 長岡川崎店 店長 坂田淳氏 |
| 5 | 6月6日(火) | 栗井 | 経済・経営の現場を知る 1 | 新潟清酒の現状と朝日酒造の酒造り | 朝日酒造株式会社 研究開発部 課長 田村博康氏 |
| 6 | 6月6日(火) | 山川 | 医学概論 | ふくしとわたし～これからを生き抜 くために知っておきたい制度～ | 有限会社銀座堂 社会福祉士事務所 宗村 憲氏 |
| 7 | 6月6日(火) | 山川 | 山川ゼミⅢⅣ | 成年後見人制度をわかりやすく～自 分らしい人生のために～ | 有限会社銀座堂 社会福祉士事務所 宗村 憲氏 |
| 8 | 6月9日(金) | 米山 | 社会福祉概論 | 障害者基幹相談支援センターの活動 内容 | 障害者基幹相談支援センター 保健師 斎藤加奈氏 |
| 9 | 6月9日(金) | 米山 | ボランティア論 | 消防団の活動内容 | 長岡市消防団消防団本部広報指導分団 長島亜紗子氏 長岡市消防団栖吉第5分団 分団長 諸橋和英氏 |
| 10 | 6月12日(月) | 栗井 | 地域経営 | 統計を活用した地域の現状分析 | (一財)新潟経済社会リサーチセンター 主管研究員 小林雄介氏 主管研究員 銀山敏行氏 |
| 11 | 6月14日(水) | 中村 | インターンシップ | ビジネスマナー(電話、あいさつ、面 接のマナー) | ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏、大嶋麻美氏 |
| 12 | 6月26日(月) | 栗井 | 地域活性化論 | 松之山温泉の事例を通して学ぶ観光 地域活性化の進め方・注意点などにつ いて学ぶ | (一財)新潟経済社会リサーチセンター 主管研究員 江口知章氏 |
| 13 | 6月28日(水) | 中村 | インターンシップ | ビジネスマナー(模擬面接) | ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏、大嶋麻美氏 |
| 14 | 6月30日(金) | 米山 | ボランティア論 | 高齢者支援ボランティアの活動 傾聴ボランティアを理解する | 長岡傾聴ボランティアサークル 代表 田所典子氏 |
| 15 | 7月6日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-1 | 経営者から見た就職活動 | フクダハウジング株式会社 代表取締役社長 木津広美氏 |
| 16 | 7月7日(金) | 米山 | 社会福祉概論 | 児童厚生員の活動内容 | 山通児童館 涌井節子氏、殖栗百合子氏 |
| 17 | 7月7日(金) | 米山 | ボランティア論 | ながおか市民協働ネットワークの活 動を理解する | ながおか市民協働ネットワーク 高橋秀一氏 |
| 18 | 7月12日(水) | 小松 | 起業家塾 | 創業体験談～長岡技大の大学院生が 創業！自動走行スケボー事業化～ | 株式会社 CuboRex(キューボレックス) 代表取締役 寺嶋瑞仁氏 |
| 19 | 7月14日(金) | 米山 | ボランティア論 | 子育て支援ボランティアの活動 子育て支援の必要性を理解する | 多世代交流館「になニーナ」 代表 佐竹直子氏 |
| 20 | 7月17日(月) | 兒嶋 | 日本事情(留学生科目) | 日本社会および日本文化の基礎知識 を習得する | 長谷川邸、新潟県立近代美術館見学 |
| 21 | 7月20日(木) | 高橋 | キャンパスライフ入門 | OB・OGが語る大学生活 | 株式会社生活情報新聞社 廣川佳苗氏 |
| 22 | 7月21日(金) | 広田 | キャリア開発Ⅱ-1 | 金融関係の仕事 | 大光銀行中沢支店 支店長 板屋尚夫氏 |

| No. | 日付 | 教員 | 科目名 | テーマ | 講師 |
|-----|-----------|----|-----------|-------------------------|---|
| 23 | 7月21日(金) | 米山 | ボランティア論 | ボランティアコーディネーターの役割と活動内容 | 長岡市社会福祉協議会 宇佐美信久氏 |
| 24 | 8月7日(月) | 小松 | 起業家塾 | 創業体験談 | 株式会社G.F.G.S. 代表取締役 小柳雄一郎氏 |
| 25 | 10月5日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | 就職市場と問われる若者の力 | ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏、大嶋麻美氏 |
| 26 | 10月12日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | 賃金・労働諸制度のポイント | 株式会社パートナーズプロジェクト 取締役 高野洋子氏 |
| 27 | 10月17日(火) | 米山 | 家族社会学 | 自分らしく生きるためのキャリアデザインセミナー | たかの社会保険労務士事務所 高野真規氏 |
| 28 | 10月18日(水) | 中村 | キャリア開発Ⅱ-2 | 企業研究①-事業と組織- | ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 |
| 29 | 10月19日(木) | 中村 | キャリア開発Ⅰ | 自己分析①-社会人基礎力- | 企業教育ファシリテーター 朝日由香氏 |
| 30 | 10月25日(水) | 中村 | キャリア開発Ⅱ-2 | 企業研究②-スピーチ- | ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 |
| 31 | 10月26日(木) | 中村 | キャリア開発Ⅰ | キャリアデザインの考え方②-社会人- | キャリアカウンセラー 米田睦美氏 |
| 32 | 10月26日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | 自己PR・1分間スピーチ | 三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 |
| 33 | 10月28日(土) | 米山 | ボランティア体験 | 第2回ボランティアフォーラム | ながおか市民協働ネットワーク 高橋秀一氏 長岡市社会福祉協議会栃尾支所 阿部奈津実氏 |
| 34 | 11月2日(木) | 中村 | キャリア開発Ⅰ | キャリアデザインの考え方③-スピーチ- | キャリアカウンセラー 米田睦美氏 |
| 35 | 11月2日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | ビジネスマナー①-動作・話し方- | 三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 |
| 36 | 11月9日(木) | 中村 | キャリア開発Ⅰ | 自己分析①-性格- | 企業教育ファシリテーター 朝日由香氏 |
| 37 | 11月9日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | ビジネスマナー②-文書・メール- | 三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 |
| 38 | 11月15日(水) | 中村 | キャリア開発Ⅱ-2 | マナー実習①-あいさつ- | 企業教育ファシリテーター 朝日由香氏 |
| 39 | 11月16日(木) | 中村 | キャリア開発Ⅰ | 自己分析③-自他評価- | 企業教育ファシリテーター 朝日由香氏 |
| 40 | 11月16日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | 個人面接① | 三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 樋山岳氏 大嶋麻美氏 |
| 41 | 11月22日(水) | 中村 | キャリア開発Ⅱ-2 | マナー実習②-電話- | 企業教育ファシリテーター 朝日由香氏 |
| 42 | 11月23日(木) | 栗井 | 栗井ゼミナールⅢⅣ | ゼミ取り組みのプレゼンテーション指導 | 朝日酒造株式会社 研究開発部 課長 田村博康氏 |
| 43 | 11月23日(木) | 中村 | キャリア開発Ⅰ | 自己PR①-強み- | キャリアカウンセラー 米田睦美氏 |
| 44 | 11月23日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | 個人面接② | 三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 樋山岳氏 大嶋麻美氏 |

| No. | 日付 | 教員 | 科目名 | テーマ | 講師 |
|-----|-----------|----|-----------|---------------------------------------|---|
| 46 | 11月29日(水) | 中村 | キャリア開発Ⅱ-2 | 履歴書・自己紹介書の書き方 | ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 |
| 47 | 11月30日(木) | 中村 | キャリア開発Ⅰ | 自己PR②-スピーチ- | キャリアカウンセラー 米田睦美氏 |
| 48 | 11月30日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | グループディスカッション① | 三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 樋山岳氏 大嶋麻美氏 |
| 49 | 12月4日(月) | 栗井 | 企業経営研究 | 大学生向け「日経ビジネス」活用法 これからの社会への関わり方について | 株式会社 日経BPマーケティング 法人営業本部 営業第二部 部長 荒武麗氏 |
| 50 | 12月6日(水) | 中村 | キャリア開発Ⅱ-2 | グループディスカッション | ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 他2名 |
| 51 | 12月7日(木) | 中村 | キャリア開発Ⅰ | グループディスカッション① | ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 他2名 |
| 52 | 12月7日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | グループディスカッション② | 三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 樋山岳氏 大嶋麻美氏 |
| 53 | 12月8日(金) | 米山 | 高齢者と社会政策 | 認知症サポーターについて | 長岡市高齢者基幹包括支援センター 認知症地域支援推進員 河鱒和美氏 他2名 |
| 54 | 12月13日(水) | 中村 | キャリア開発Ⅱ-2 | 面接実習 | 企業教育ファシリテーター 朝日由香氏 |
| 55 | 12月14日(木) | 中村 | キャリア開発Ⅰ | グループディスカッション② | ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 |
| 56 | 12月14日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | グループ面接① | 三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 樋山岳氏 大嶋麻美氏 |
| 57 | 12月20日(水) | 中村 | キャリア開発Ⅱ-2 | 現場の意義-インターンシップ- | 新潟大学 古俣清勝氏 |
| 58 | 12月21日(木) | 中村 | キャリア開発Ⅰ | 社会人基礎力を鍛える-現場を知る- | 新潟大学 古俣清勝氏 |
| 59 | 12月21日(木) | 吉川 | キャリア開発Ⅲ-2 | 企業採用担当者から見た就職活動 | 元北新越ホーム総務部人事課課長 高橋亮一氏 |

企業講師授業の様子



社会福祉概論 (6/2)
高齢者基幹地域包括支援センターの活動内容



地域経営 (6/12)
統計を活用した地域の現状分析



ボランティア論 (6/30)
高齢者支援ボランティアの活動
傾聴ボランティアを理解する



キャンパスライフ入門 (7/20)
OB・OGが語る大学生活



キャリア開発Ⅲ-2 (11/2)
ビジネスマナー①-動作・話し方-



キャリア開発Ⅲ-2 (11/16)
個人面接①

a 企業講師授業の概要

平成 29 年度の企業講師授業（各分野の専門家による地域理解を深める授業）を実施した。その概要は、図表 4-3-1 に示すとおりである。総括すると、実施科目数 17 科目、総時限数 59 時限（回）、総受講者数 4,360 人となった。

b 企業見学・学修

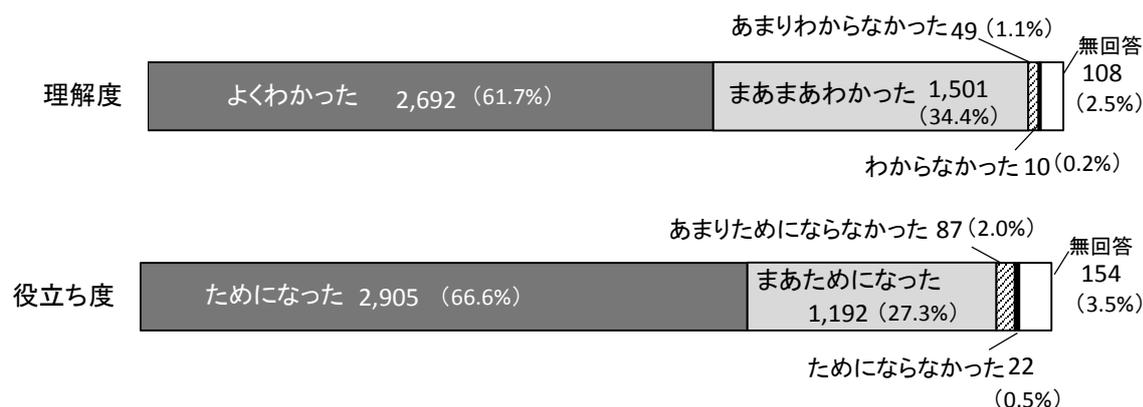
平成 29 年度の企業見学は科目「日本事情（留学生科目）」で日本社会および日本文化の基礎知識を習得するため、長岡市の豪農の館長谷川邸および新潟県立近代美術館を見学した。

c 評価

・企業講師等授業の理解度と役立ち度

企業講師授業についての学生のアンケートの回答結果は次の通りである。理解度（「よくわかった」＋「わかった」）は 96.2%、役立ち度（「ためになった」＋「まあためになった」）は 94.0% といずれも高評価となっている。また、学生の自由記述からもためになったことがよく伺え、次のステップへつながるような意識が高まった授業も多くあった。

図表 4-3-2 平成 29 年度企業講師授業に対する受講学生の評価 (n=4, 360)



・ 企業講師等授業の自由記述 (一部抜粋)

社会福祉概論「障害者基幹相談支援センターの活動内容」(6月9日)

障害者基幹相談支援センターでは相談事業だけでなく、障害者への虐待防止のための取り組みを行っている。地域のつながりや理解者が多くなれば、障害のある方にとって住みやすい地域に近づいていくと分かった。

キャンパスライフ入門「OB・OGが語る大学生活」(7月20日)

大学生活で行動する(クラブ活動など)ことの大切さがわかった。サークルやボランティア、街での活動などをしてみたいと思った。

たくさんの人と関わることで、たくさんの知識を得られるということが分かった。

ボランティア論「ボランティアコーディネーターの役割と活動内容」(7月21日)

長岡で行っているボランティア銀行やふれあい食事サービスについて知った。利用しやすそうと思った。祖母がいるので、ボランティア銀行や福祉送迎サービスなどの利用を検討してみようと思った。

市民の人が主体となって行う活動を、支え合う目的で、社会福祉協議会があるとわかった。

企業経営研究「大学生向け日経ビジネス活用法 働きがいのある会社の共通点とは」(12月4日)

出版業界の事だけでなく、今の社会における私たちの目指すべき人材像について学ぶことができた。業界の話から社会の話まで具体例を交えた若者へのアドバイスが分かりやすかった。

高齢者と社会政策「認知症サポーターについて」(12月8日)

認知症は病気ではなく生活に支障がでる状態のことをいう。また、本人の自覚はもちろんのこと、地域で見守ることが大切だというのが分かった。接するときには驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけないことを心にとめて、思いやりを持って接したいと思った。

(10) まとめ—成果と課題—

企業講師授業は学生の評価・支持が大きく、目標である高満足(「理解できた」「役に立った」とともに90%以上)を維持、達成できた。COC終了後も引き続き改善を図りながら展開していく。

ゼミナールⅢⅣ以外の地域志向科目(23科目)のうち、企業講師授業が実施された科目は17

科目（約 74％）であった。来年度は今年度実施されなかった地域志向科目においても企業講師招聘および企業見学等ができるよう進めていく。

平成 30 年度以降のポスト C O C の地域志向科目について、講師招聘手順と授業の進め方等を新年度初めに教員へ配付する。

4 ボランティア・スキルの養成—教育④—

(1) 方針 (申請時)

- ・3課題に対応したボランティア関係の授業科目等の充実・仕組み構築を図り、卒業後もボランティア活動を推進できる人材を養成する。
- ・〈ボランティア大学〉のイメージを定着させる。

(2) 目標 (申請時)

- ・平成25年度→ボランティア体験Ⅰ授業等で、ボランティア・スキルや学生リーダーを養成する。ボランティア・アドバイザーを配置する。単位取得学生数20名。
- ・平成29年度→ボランティア体験Ⅰ、Ⅱどちらか履修学生割合目標—卒業生の80%

(3) 平成25年度実績と評価

- ・実績—ボランティア体験・ボランティア論単位取得者割合は33%で、目標の30% (20名)を上回った (ただし、前期科目)。1泊2日のリーダー研修をサークル等責任者に対して2回 (9月・3月、各回約20名参加) 実施した。また、コーディネーターによる地域活性化等のボランティア・活動の指導、支援を毎週 (2~3回) 行った。平成26年度のボランティア体験科目を具体的 to 実施するための地域ボランティア情報、ネットワークを形成できた。
- ・評価—学生へのリーダー研修やボランティア・活動の指導・支援により、学生の部活や地域活動の活性化を促進するとともに、担い手の拡大を図ることができた。また、次年度のボランティア科目等の円滑な推進を図る条件を整えられた。

(4) 平成26年度実績と評価

- ・1年生のボランティア科目 (1年配当のボランティア論とボランティア体験のどちらか) の単位取得者割合は50.6% (1年生単位取得者数43名 / 1年次学生数85名) で、目標の40%を上回った。
- ・ボランティアデスクの開設によりボランティア情報の周知が行われた。
- ・地域へのボランティア活動への参加学生はイベント参加が約70名、継続参加が約20名であり、地域の催しを支えると共に学生のボランティア力が向上した。
- ・活動の評価 (まとめ・課題)・・・ボランティアデスクが稼動し、実際に活動に参加する学生の裾野が広がった。展示、メール配信、口コミを活用した結果、「ボランティアに参加しよう」という雰囲気がすこしずつ浸透し始めている。また、実際にボランティア活動に参加した学生が「ボランティア=楽しい」という切り口で語ることによって、新規参加者につながっている。しかし、ボランティア体験履修者を増やす工夫が必要であり、また、ボランティアリーダーの養成をめざした学生のボランティア団体の形成に注力する必要がある。授業だけでなく、恒常的なボランティア活動を展開・拡大するためには、学生のボランティア団体の形成が不可欠である。

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・学生ボランティアサークル<ぼぷら>が、4月末に設立した。「学生とのも一れ」や「新潟県災害学生ボランティアフォーラム」などにも参加する。またネパール地震被害者の募金活動も展開した。
- ・ボランティアリーダー合宿等への参加し、ボランティア活動やボランティア先との調整などについて必要な知識を習得した。
- ・新潟県内全域（新潟県内学生ボランティアネットワーク）や長岡市3大学1高専に企画段階から参加して、学生ボランティアネットワークで情報共有ができた。

【評価】

- ・平成 27 年度のボランティア論、ボランティア体験の単位取得割合（29.5%）が低下した。学生アンケートにも示されているが授業方法の不十分さが表れた。
- ・また、学生ボランティアサークルの活動周知が不足していたため、1年生や2年生の部員の加入がなかった。ボランティア論における活動紹介を企画する必要があった。
- ・ボランティアリーダー研修内容をメンバーに周知する取り組みも必要であった。
しかし、ボランティア以外の麻雀部がコミュニティセンターや福祉施設とタイアップをして健康マージャンを展開し、地域への貢献も実現している。

(6) 平成 28 年度実績と評価

【実績】

- ・サークル立ち上げの準備活動として、ボランティア団体（長岡傾聴ボランティアサークル）の活動紹介と実践、ボランティア体験報告会での活動報告（本学学生のボランティアサークル「びゅう」の活動）などを行った。
- ・ボランティア求人やボランティア活動と学生のマッチング情報を円滑に提供するため、ボランティアボードの設置（1号館3階フロア）、ボランティア適性判断テストのボードへの掲示、マッチング効率化のためのボランティア支援フローチャートの作成など、を行った。
- ・災害ボランティア活動支援については、平成 28 年 7 月 7 日（木）に、本学体育館において、<防災ボランティア特別講義（防災ジャパンダプロジェクト）>を開催した。損害保険ジャパン日本興亜株式会社の社員の方 15 名をお招きし、学生 50 名（ボランティア体験受講学生中心）が災害から身を守るための知識や技術を体験したり、みんなで協力して救助するためのチームワーク行動を行った。加えて、身近にある買い物袋、ネクタイ、新聞紙を使った応急手当も行った。災害時における自助や互助を習得することができ、ボランティア活動の有意義な一助となった。
- ・ボランティアリーダーとしての基礎学修として、ボランティア論の授業以外に、特別養護老人ホームまちだ園における高齢者支援のボランティア活動を行った。9回参加して延べ 20 名の学生（ボランティア論・体験の受講者）が研修した。10月29日（土）のボランティアコーディネーター講師の研修には、41名の学生が参加した。
- ・ボランティア活動を推進するため、ボランティア支援フローチャートも作成し、教員と職員役割分担を明確にした。

【評価】

- ・平成 28 年度の事業については、県内外大学のボランティアサークル等とのネットワークの形成以外の学生ボランティアサークルの設立、ボランティア情報の提供、災害ボランティア活動の支援、ボランティアリーダー研修、ボランティア推進体制の整備などをほぼ全ての活動を前進させることができた。
- ・学生ボランティアサークルについては、活動しているのは 3 団体のうち 1 団体（「びゅう」）のみで、「ぼぷら」は会員がすべて 4 年生で後継者ができず、今年設立した「アウトドア部」は準備不足等で活動ができなかった。情報提供（ゴミ拾い、雪かき、災害ボランティアなど）を行ったが、学生側の意欲に結びつかなかった。リーダーの養成が大きな課題として残った。
- ・ボランティア情報の提供は、ボランティア支援フローチャートがうまく活動し（担当者がボランティアボードを活用）し、また、授業（ボランティア論やボランティア体験）でも求人情報の提供を行った。情報提供は、円滑に始動したと言えよう。
- ・災害ボランティア活動の支援は、損害保険ジャパン日本興亜株式会社と協働して行い、成果をあげた。長岡市総合防災訓練にも、3 名の学生（ボランティア論・体験受講者）が参加した。
- ・ボランティアリーダー研修は、特別養護老人ホームまちだ園と協働して行い、延べ 20 名（ボランティア論・体験受講学生）がボランティアの心構えや配慮すべき事項を研修できた。
- ・授業方法（ボランティア論、ボランティア体験）も、実際にボランティアをしている個人・団体やボランティアコーディネーターを招聘してより実践に基づいたものとした。
- ・以上の活動の結果、昨年度低下したボランティア論、ボランティア体験の単位取得割合も改善できた（単位取得者 95 名（ボランティア論 54 名＋ボランティア体験 41 名）／履修登録者 115 名（ボランティア論 61 名＋ボランティア体験 54 名）＝82.6%）。
- ・学年別のボランティア論・ボランティア体験科目の単位取得率も向上した。両科目は 1 年生対象科目であり、2 年生（昨年度は 1 年生）の単位取得率は 35.4%であったが、今年度の 1 年生の取得率は 45.9%と 10 ポイント向上した。
- ・活動全般について、ボランティア情報の提供を積極的に行い、個人や団体でのボランティア活動の促進につながった。しかし、1 年生のボランティア活動への意欲をリーダー研修等でさらに高め、次年度のボランティアサークル設立につなげることが期待される。なお、次年度は、県内外大学のボランティアサークル等とのネットワークの形成にも課題である。

（7）平成 29 年度方針・目標

【方針】

- ・ボランティア論とボランティア体験履修者が延べ 1 9 0 名である。
- ・ボランティア論において、実際にボランティアを体験する。
- ・ボランティア・スキルの養成・・・ボランティア・デスクを中心に、最新のボランティア情報の提供や学生のボランティア活動への参加を促進する。また、ボランティア・リーダーの研修を行い、リーダー養成を行う。

【目標】

- ・ボランティア活動への参加促進・・・学生のボランティアサークルの設立を支援し、自主的に参加する土壌を作る。そのためボランティア論において活動紹介を行う。

- ・ボランティア情報の提供・・・高等学校との情報共有の場づくり（ネットワークの形成）を進める。
- ・災害時のボランティア活動の支援・・・災害ボランティアの支援を行うため、訓練を実施する。
- ・ボランティアリーダーの研修・・・ボランティアコーディネーターを招聘し、ボランティアリーダーの養成を行う。
- ・ボランティア推進体制の確立

（８）平成 29 年度計画

- 学生ボランティアサークルの設立
 - ・ボランティア論やボランティア体験の履修者を中心に、高齢者・子ども・コミュニティなどの目的別にサークル活動へと指導を行う。（10月から）
 - ・すでにボランティア活動を行っている実践事例として、ボランティア論で講師として活動紹介をしてもらう。（前期）
- ボランティア情報の提供
 - ・ボランティア求人やボランティア活動をマッチングするため、ボランティア・デスクを引き続き設置するとともに、情報発信掲示板としてボランティアボードを設ける。
また、マッチングをより効率化するためにボランティア支援フローチャートに基づき情報提供を行う。
- 高等学校のボランティアサークル等とのネットワークの形成
 - ・市内の高等学校のボランティアサークル等と交流を行う。
- 災害ボランティア活動の支援
 - ・災害時における様々なボランティア活動への参加を呼びかけるとともに、消防訓練の参加を促す。（8月）
- ボランティアリーダー研修
 - ・ボランティアリーダーとしての基礎学修として、ボランティアコーディネーターを招聘する。（10月）。
- ボランティア推進体制の整備
 - ・ボランティア活動への推進体制を図る。
- 平成 30 年度以降のポストCOCのボランティア教育・活動について、この間の事業展開についての総括を行いつつ、「長岡大学のボランティア教育およびボランティア活動」というようなタイトルのリーフレットを学生に配布できるよう、作業を行う。

（９）平成 29 年度実績と評価

【実績】

- 学生ボランティアサークルの設立
 - ・サークル立ち上げの準備活動として、ボランティア団体（長岡傾聴ボランティアサークル）と長岡市消防団の活動紹介を行った。ライオンズクラブの支援の下、長岡大学レオクラブの設立に向けて学生の募集を行い、10名程度の参加があった。今後は新1年生の加入促進を行う。

b ボランティア情報の提供

- ・ボランティア求人やボランティア活動と学生のマッチング情報を円滑に提供するため、ボランティアボードの設置（1号館3階フロア）、ボランティア適性判断テストのボードへの掲示、マッチング効率化のためのボランティア支援フローチャートの作成などを継続して行った。

c 高等学校のボランティアサークル等とのネットワークの形成

- ・悠久祭時の「プラレールで遊ぼう」開催に際して、長岡商業高等学校のボランティア部員10名と一緒に子どもの交流支援を行った。

d 災害ボランティア活動の支援

- ・学生消防団の加入促進については、平成29年6月9日（金）に、長岡市消防署・長岡市消防団栖吉第5分団・長岡市女性消防団をボランティア論の講師として招聘した。3年生の学生が学生消防団員として8月より活動している。「アウトドア部」は山通地区鉢伏自主防災会と除雪ボランティアの協議を行い、除雪が必要となった場合の連絡システムを構築し、2月4日に4名の部員が鉢伏住民と一緒に除雪を行った。

e ボランティアリーダー研修

- ・ボランティアリーダーとしての基礎学修として、「さくらマラソン」のボランティアとして15名の学生が参加した。10月28日（土）のボランティアフォーラムには、23名の学生が参加し、さらにボランティアコーディネーターを招聘して講評等を受けた。

f ボランティア推進体制の整備

- ・ボランティア活動を推進するため、ボランティア支援フローチャートも作成し、教員と職員役割分担を明確にした。

【評価】

- ・平成29年度の事業については、ボランティア情報の提供、高等学校のボランティアサークル等とのネットワークの形成、災害ボランティア活動の支援、ボランティアリーダー研修、ボランティア推進体制の整備などをほぼ全ての活動を前進させることができた。
- ・学生ボランティアサークルについては、「アウトドア部」が長岡まつり後のゴミ拾い活動や除雪ボランティアの連絡システムが構築でき、実際に除雪も行った。情報提供（ゴミ拾い、雪かき、災害ボランティアなど）を行ったが、個人ボランティアの意欲向上に結びつかなかった。リーダーの養成が大きな課題として残っている。
- ・ボランティア情報の提供は、ボランティア支援フローチャートがうまく活動し（担当者がボランティアボードを活用）し、また、授業（ボランティア論やボランティア体験）でも求人情報の提供を行った。情報提供は、円滑に始動したと言える。
- ・災害ボランティア活動の支援は、学生消防団の加入促進に重点を行い、3年生1名が入団をした。しかし、1年生や2年生の入団がなかった。
- ・ボランティアリーダー研修は、「さくらマラソン」と協働して行い、15名（ボランティア論・体験受講学生）がボランティアの心構えや配慮すべき事項を研修できた。
- ・高等学校のボランティアサークルとのネットワークは、長岡商業高校の1年生2年生10名が「プラレールで遊ぼう」開催時に支援していただき、今後も交流を深めることが期待できる。
- ・授業方法（ボランティア論、ボランティア体験）も、実際にボランティアをしている個人・

団体やボランティアコーディネーターを招聘してより実践に基づいたものとした。さらにボランティア体験を実際に行うことも履修要件とした。

- ・以上の活動の結果、ボランティア論、ボランティア体験の単位取得割合も改善できた（単位取得者 145 名（ボランティア論 121 名＋ボランティア体験 24 名）／履修登録者 188 名（ボランティア論 160 名＋ボランティア体験 28 名）＝77.1%）。
- ・活動全般について、ボランティア情報の提供を積極的に行い、個人や団体でのボランティア活動の促進につながった。しかし、1 年生のボランティア活動への意欲が低く、実践活動へ導くことが課題である。

図表 4-4-1 平成 29 年度のボランティア論・ボランティア体験の単位所得者・取得割合

| | 在籍者 ① | ボランティア論 | | ボランティア体験 | | どちらかを単位取得 | |
|-----|----------|----------|-------------|----------|-------------|-----------|-------------|
| | | 取得者 ② | 割合 (②/①) | 取得者 ③ | 割合 (③/①) | 取得者 ④ | 割合 (④/①) |
| 1年生 | 121 | 85 | 70.2% | 6 | 5.0% | 87 | 71.9% |
| 2年生 | 93 | 38 | 40.9% | 21 | 22.6% | 42 | 45.2% |
| 3年生 | 108 | 64 | 59.3% | 16 | 14.8% | 67 | 62.0% |
| 4年生 | 86 | 46 | 53.5% | 25 | 29.1% | 52 | 60.5% |

※在籍者は、1 年生：学籍番号 17K、2 年生：学籍番号 16K、3 年生：学籍番号 15K、4 年生：学籍番号 14K の人数。

※どちらかを単位取得は、ボランティア論とボランティア体験の単位取得者合計から重複者を除いた実人数。

5 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）－教育⑤－

（1）方針（申請時）

- ・ 3・4年ゼミ等の地域活性化プログラムの充実・拡大を図り、卒業後も通用する社会人基礎力の養成を推進する。
- ・ <社会人基礎力養成大学>のイメージを定着させる。

（2）目標（申請時）

- ・ 平成 25 年度→3・4年ゼミナール（2年生希望者含む）の地域活性化プログラムで、地域課題の調査・分析・提言等実施－8ゼミ8課題、参加学生割合 40%（81名）
- ・ 平成 29 年度→ゼミ数・参加卒業生数割合目標－3・4年ゼミ 14、参加学生割合 80%。「社会人基礎力育成グランプリ」決勝大会入賞をめざす。

（3）平成 25 年度実績と評価

- ・ 平成 25 年度は、7ゼミと1チームの計8取組を実施した。従来の中間発表会に代わるものとして、ゼミ単位で中間レビューを実施し、アドバイザーからの評価、指摘事項、意見を参考にして、成果発表会に臨んだ。
- ・ 本プログラムの目的でもある社会人基礎力の上昇については、学生の評価はアクション力、シンキング力の上昇度は共に 60%、チームワーク力は 70%となっている。教員の評価は、それぞれ約 50%で、全体的に学生の評価が教員のそれを上回っている。1つの講義で学生の社会人基礎力がこれだけ伸びるということはあまり考えられず、プログラムとしては一応の成功がみられるのではなかろうか。参加ゼミは7ゼミ8取組。参加率は、32.2%であった。

（4）平成 26 年度実績と評価

- ・ 平成 26 年度は、9ゼミ1チームの計10取組みが地域活性化プログラムの活動に参加した。取組みごとに中間レビューを実施し、アドバイザーからの評価、指摘事項、意見を参考にして成果発表会で成果を発表した（参加者は約190名で盛況であった）。
- ・ 本プログラムの目的でもある社会人基礎力の上昇度については、学生の自己評価ではアクション力が 65%、シンキング力が 55%、チームワーク力は 58%となっている。教員の評価はアクション力が 59%、シンキング力が 52%、チームワーク力が 68%となっている。アクション力とシンキング力では学生の自己評価が、チームワーク力では教員の評価が高くなっている。教員の評価の方がおそらく客観的評価と思われるが、学生の自己評価が高いのはプログラム評価としては、大変望ましいと言ふべきであろう。
- ・ 活動の評価（まとめ・課題）・・・当プログラムは今年度も好結果を得て終了したが、今後は、参加ゼミ数（学生数）の拡大、プログラムの質的評価を検討する必要がある。後者については、アドバイザー、担当教員、発表会参加者の投票等により優秀賞の表彰等を行なうことも検討すべきであろう。参加ゼミは9ゼミ10取組。参加率は、45.3%であった。

(5) 平成 27 年度実績と評価

- ・平成 27 年度は、9 ゼミ 9 取り組みが地域活性化プログラムの取り組みに参加した。中間レビューは、学内だったり、アドバイザーの企業等に直接出向いて行ったりと、取り組みごとに工夫して実施した。アドバイザーからの評価、指摘事項、意見等を参考に、成果発表会に臨むことができた。
- ・発表会の参加者は 195 名で、アンケートでは、「テーマとの」整合性」89.7%、「地域活性化の役立ち度」77.0%、「取組の評価」82.5%、「発表の仕方」82.0%と、高い評価を得た。
- ・社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後）については、アクション力、シンキング力、チームワーク力すべてで、教員の評価より学生の自己評価が高い。3つの力の中では、シンキング力とアクション力の上昇度が、学生、教員ともに評価が低い。シンキング力とアクション力の向上方策が課題と言える。参加ゼミは9ゼミ9取組。参加率は、46.6%であった。
- ・3月には「平成 27 年度学生による地域活性化プログラム活動報告書」（全ゼミの活動をまとめた合冊とゼミごとの活動をまとめた分冊）を刊行した。

(6) 平成 28 年度実績と評価

- ・平成 28 年度は、7 ゼミ 8 取り組みが地域活性化プログラムの取り組みに参加した。中間レビューは、学内だったり、アドバイザーの企業等に直接出向いて行ったりと、取り組みごとに工夫して実施した。アドバイザーからの評価、指摘事項、意見等を参考に、成果発表会に臨むことができた。
- ・発表会の参加者は 249 名で、アンケートでは、「テーマとの」整合性」88.1%、「地域活性化の役立ち度」78.2%、「取組の評価」89.2%、「発表の仕方」90.2%と、高い評価を得た。
- ・社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後）については、アクション力、シンキング力、チームワーク力すべてで、教員の評価より学生の自己評価が高い。3つの力の中では、シンキング力とアクション力の上昇度が、学生、教員ともに評価が低い。シンキング力の向上方策が課題と言える。参加ゼミは7ゼミ8取組。参加率は、40.7%であった。
- ・3月には「平成 28 年度学生による地域活性化プログラム活動報告書」（全ゼミの活動をまとめた合冊とゼミごとの活動をまとめた分冊）を刊行した。

(7) 平成 29 年度方針・目標

【方針】

- ・社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）・・・地域活性化プログラムの各取り組みゼミは、それぞれの年間計画に沿って独自の活動を進め、9～10 月を目処に中間レビューを行い、12 月に全ての取り組みゼミが参加する成果発表会を開催する。

【目標】

- ・各活動のあらゆる機会を通じての学生の社会人基礎力の徹底した向上。
- ・地域活性化プログラムの取り組みを通じて、自治体・地域企業・地域社会との連携を拡大し地域の発展に貢献する中で、長岡大学の地域における力強い『社会人基礎力養成大学』としての存在をアピールする。

(8) 平成 29 年度計画

- a. 取組ゼミ・・・平成 29 年度は、6 ゼミ 8 取組で、取組テーマは検討中である。
- b. 年間スケジュールは次のとおりである。
 - 4 月 参加ゼミを募集し、月 1 回部会を開催する。以後、毎月開催し、進捗、問題点を確認する。
 - 5 月 ゼミテーマ、概要、アドバイザーを選出する。
 - 6 月 第 1 回推進協議会を開催する。
 - 7～10 月 活動の進捗に合わせて中間レビューを開催し、アドバイザーから意見をいただく。
 - 10 月 悠久祭で活動を報告する。
 - 12 月 成果発表会、第 2 回推進協議会を開催する。協議会では、発表会の評価、報告書作成に向けてのアドバイス、ご意見をいただく。
 - 1 月 活動報告書提出（学生）
 - 2 月 活動報告書提出（教員）
 - 3 月 活動報告書の刊行
- c. 平成 30 年度以降のポスト C O C の地域活性化プログラムについて、この間の事業展開についての総括を行い、参加ゼミの拡大、進め方の改善、評価方法の改善等を取りまとめ、同プログラムの一層の充実をめざす。

(9) 平成 29 年度の展開

a. 平成 29 年度地域活性化プログラム参加ゼミ

平成 29 年度地域活性化プログラム参加ゼミは以下の 6 ゼミ 8 取組である。

図表 4-5-1 学生による地域活性化プログラムの取組ゼミとテーマ

| ゼミ名 | テーマ |
|----------|--|
| 権 五景 ゼミ | 十分杯で長岡を盛り上げよう！ |
| 栗井 英大 ゼミ | 長岡の隠れた地域資源を若人に広めよう！ |
| 鯉江 康正 ゼミ | 「まちの駅」の魅力発信と地域活性化への貢献 |
| 村山 光博 ゼミ | 企業ホームページの改善提案とデモサイトの制作 |
| 広田 秀樹 ゼミ | グラスルーツグローバリゼーション ～草の根・地域からの人類統合の推進～ |
| 権 五景 ゼミ | 酒粕で長岡を盛り上げよう！ |
| 鈴木 章浩 ゼミ | 地元企業の働き方を知る |
| 鯉江 康正 ゼミ | 「まちの駅」から越路地域の魅力を発信 |



b. 平成 29 年度地域活性化プログラムの実施経過

平成 29 年度地域活性化プログラムは、次の日程で実施した。

図表 4-5-2 平成 29 年度地域活性化プログラムの実施経過

| | |
|----------------------|---|
| 4月27日（木） | 平成29年度第1回地域活性化プログラム運営部会開催 |
| 5月25日（木） | 平成29年度第2回地域活性化プログラム運営部会開催 |
| 6月20日（火） | 平成29年度第1回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学 |
| 6月22日（木） | 平成29年度第3回地域活性化プログラム運営部会開催 |
| 7月20日（木） | 平成29年度第4回地域活性化プログラム運営部会開催 |
| 9月21日（水） | 平成29年度第5回地域活性化プログラム運営部会開催 |
| 9月25日（月） | 栗井ゼミ：中間レビュー |
| 10月17日（火） | 権ゼミ：中間レビュー |
| 10月19日（木） | 平成29年度第6回地域活性化プログラム運営部会開催 |
| 10月23日（月） | 村山ゼミ：中間レビュー |
| 10月28日（土） ～29日（日） | 悠久祭（大学祭）において、地域活性化プログラムの活動を紹介 |
| 11月13日（月） | 鯉江ゼミ：中間レビュー |
| 11月14日（火） | 広田ゼミ：中間レビュー |
| 11月14日（火） | 権ゼミ：中間レビュー |
| 11月20日（月） | 鈴木ゼミ：中間レビュー |
| 11月23日（木） | 平成29年度第7回地域活性化プログラム運営部会開催 |
| 12月2日（土） | 平成29年度地域活性化プログラム成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール |
| 12月6日（水） | 平成29年度第2回地域活性化プログラム推進協議会・交流会開催 於：長岡大学 |
| 12月21日（木） | 平成29年度第8回地域活性化プログラム運営部会開催 |
| 1月25日（木） | 平成29年度第9回地域活性化プログラム運営部会開催 |
| 2月22日（木） | 平成29年度第10回地域活性化プログラム運営部会開催 |
| 3月19日（月） | 平成29年度地域活性化プログラム活動報告書発行 （合冊並びに各取組8分冊） |

c. 推進体制

平成 29 年度地域活性化プログラム推進体制は、次のとおりである。

図表 4-5-3 平成 29 年度地域活性化プログラムの推進体制

<総合アドバイザー>

(敬称略)

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|-----------------|-------|--------|
| 株式会社パルメソ | 代表取締役 | 松原 亨 |
| 長岡市地方創生推進部政策企画課 | 課長 | 茂田井 裕子 |

<地域連携アドバイザー>

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|----------------------|----------------|--------|
| 長岡歯車資料館 | 館長 | 内山 弘 |
| 長岡市小国支所地域振興課地域振興 | 防災係長 | 渡辺 茂 |
| 朝日酒造株式会社 | 研究開発部 課長 | 田村 博康 |
| 株式会社ノブサーズ | 飲食事業部フードアドバイザー | 羽賀 知也 |
| 全国まちの駅連絡協議会 | 関東甲信越運営監事 | 中川 一男 |
| 長岡市市民協働推進部市民協働課 | 主査 | 岩嶋 雄人 |
| NPO法人長岡産業活性化協会NAZE | 事務局長 | 山田 哲也 |
| 株式会社アルモ | 代表取締役社長 | 柴木 樹 |
| コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク | 代表 | 大出 恭子 |
| フェアトレードショップ ら・なふう | オーナー | 若井 由佳子 |
| 越銘醸株式会社 | 取締役製造部長 | 浅野 宏文 |
| 特定非営利活動法人まちなか考房 | 事務局長 | 大沼 広美 |
| 魚沼市役所農林課農政室 | 主事 | 中澤 司 |
| 株式会社ジェイマックソフト | 総務部 課長 | 監物 陽介 |
| 長岡市商工部産業政策課雇用促進係 | 係長 | 寺山 隆史 |
| 手作りお漬物の駅(有限会社ドリーム岩塚) | 駅長 (代表取締役) | 内藤 敦 |
| NPO法人市民協働ネットワーク長岡 | | 高橋 秀一 |

<学内推進委員>

| | | | | | |
|--------|-----|-------|--------|------|-------|
| ゼミ担当教員 | 教 授 | 権 五景 | ゼミ担当教員 | 教 授 | 村山 光博 |
| ゼミ担当教員 | 准教授 | 栗井 英大 | ゼミ担当教員 | 教 授 | 広田 秀樹 |
| ゼミ担当教員 | 教 授 | 鯉江 康正 | ゼミ担当教員 | 専任講師 | 鈴木 章浩 |

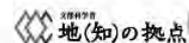
(注) 成果発表会での発表順および「第Ⅱ部 学生による活動報告」の掲載順である。

d. 各ゼミの取組み概要・・・6ゼミ8取組概要は、次のとおりである。

図表 4-5-4 十分杯で長岡を盛り上げよう！



文部科学省採択
平成 25～29 年度「地(知)の拠点整備事業」
平成 28～31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 学生による地域活性化プログラム

権 五景
ゼミナール

十分杯で長岡を盛り上げよう！

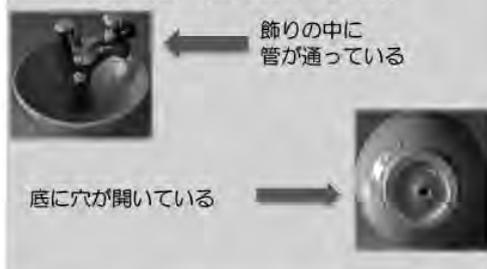


【参加学生】 4年生 大滝皓史 小布山大喜 早川裕章
佐藤 空夢 周 天奇
3年生 佐野毅 水落柊哉
Namjilsuren Uyanga 那 旭
2年生 池田 哲 岡部 真也 藤田 健広

【アドバイザー】 長岡歯車資料館 館長 内山 弘氏
長岡市青少年育成センター 所長 渡辺 茂氏

ほかの杯と大きく異なる4つの点

- ① 杯なのに底に穴がある。
- ② 杯の中に「飾り」という突起がある。
- ③ 飾りの中は管が通っている。
- ④ この杯に一定の量(8 - 9分目程度)を超えて注ぐと中に入っていたすべてのお酒が底の穴から漏れてしまう。



長岡と十分杯の関わり

長岡藩と十分杯の出会いは三代藩主牧野忠辰公(まきのただとき 1665-1722)の時代にまで遡ります。

忠辰公以前からも武士は簡素な生活を旨としていました。ところが、元禄時代(1688-1704年)になると貨幣経済が発展し、戦国期の苦しい時代から民衆も生活水準が向上し、生活必需品以外を購入する余裕もでき、町人の生活が奢侈化するにつれて武士たちも同調し華やかな生活をするようになりました。長岡藩も例外ではなかったのですが、高田城二の丸請取のための出費、度重なる水害で藩の財政が悪くなっていました。そこに、塚越という領民(おそらく庄屋)の持参した十分杯に忠辰公が感銘を受けて詩を詠み、処世訓としたことから長岡に十分杯が知られることになりました。忠辰公は、十分杯が持つ「満つれば欠く」という処世訓を藩士に示すことで、財政を引き締める一方で、武士としての戒めを大事にしたと思われます。

権ゼミ
オリジナルの
米百俵十分杯
と知足十分杯



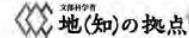
十分杯製作と
陶芸教室での
活動風景



図表4-5-5 長岡の隠れた地域資源を若人に広めよう！



文部科学省採択
平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 学生による地域活性化プログラム

栗井英大
ゼミナール

長岡の隠れた地域資源を若人に広めよう！



【参加学生】7名
3年生 植栗卓 加藤雄大 菅野拓巳 捧杏実 鈴木祐輝
矢島洋輔 Phan Huynh Thuy Duong

【アドバイザー】
朝日酒造株式会社 研究開発部 課長 田村博康氏
株式会社ノブサーズ 飲食事業部 フードアドバイザー 羽賀知也氏

地域資源を活用

長岡市は、全国の市町村で2番目に酒蔵が多い！
↓しかし…
“若者の日本酒離れ”が深刻
↓
日本酒を若者にPRすることで、
地域産業の保護 地域の活性化
につながる



そのためには、
自分たちが日本酒について
学ばなければならない！

朝日酒造株式会社を訪

- ・酒蔵見学
一昔と今では、作業方法が異なる
例：樽が木製から金属製に変化
- ・利き酒体験
一飲む人によって、味や香りの感じた方が異なる



悠久祭で模擬店を出店

若者が集まる悠久祭で日本酒を販売し、
日本酒を飲みきっかけを提供。



学内でのアンケート調査

- ・本当に日本酒は飲まれていないのか？
- ・日本酒離れの原因は？
- ・日本酒を広めるために必要なことは？



結果は…

- ・日本酒を飲まないと回答した人は半数以上！
- ・日本酒が嫌いな理由では
“味や香りが嫌い”・“アルコール度数が高い”
というものが多い！
- ・日本酒についての情報が少ないという意見も！



その結果から…

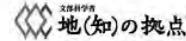
日本酒を広めるための3つの提言

1. 飲みやすい日本酒の開発
2. 日本酒のおいしい飲み方の提案
3. SNSやインターネットでの情報発信

図表4-5-6 「まちの駅」の魅力発信と地域活性化への貢献



文部科学省採択
平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 学生による地域活性化プログラム

鯉江康正
ゼミナール

「まちの駅」の魅力発信と地域活性化への貢献



【参加学生】25名
4年生 池田諒馬 江口枝里子 片桐湧太 木島俊久 小松綾乃
須田滉介 陈奥 田源一 中島なつ美 中曽根湧 薙澤雄樹
山崎隼斗 楊婉蘭 横田百合江 鷲尾創太
3年生 王巍 加藤茉那 Jargalsaikhan Byambatuvshin 新保聡
鈴木絵莉香 Gantumur Uugantsetseg Tsogoo Munkhaya
Khurelbaatar Ganchimeg 李文秀
2年生 山城時生
【アドバイザー】
全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営監事 中川一男氏
長岡市市民協働推進部市民協働課 主事 岩嶋雄人氏

今年も合い言葉は『GO!』 活動は楽しく、やらされてるから、自ら活動し地域貢献を。

<取組1>新潟県内のまちの駅の情報発信を目的とした活動

まちなかキャンパス長岡子ども講座こどもカフェ「まちの駅ってどんなところ」、(株)ユアテックでの活動報告の紹介。



長岡大学学園祭「悠久祭」では、県内のまちの駅130駅をパネルで紹介するとともに、越路マップの配布も行いました。また、今年も模擬店も行いました。



<取組2>地域活性化活動への参加(ボランティア)

「ハロウィンみつけ」、「今町まちなかマルシェ」の様子



図表 4-5-7 企業ホームページの改善提案とデモサイトの作成

平成29年度 学生による地域活性化プログラム

村山光博
ゼミナール

企業ホームページの改善提案と デモサイトの制作



【参加学生】

4年生 中沢裕太 尾木和磨 菊地紘基 宋超

【アドバイザー】

NPO法人長岡産業活性化協会NAZE 事務局長 山田哲也 氏
株式会社アルモ 代表取締役社長 柴木樹 氏

【担当教員】

村山光博

目的

企業の自社ホームページに対して、各社のターゲット（対象者）に合わせた情報を効果的に発信できるように改善を図ることで、ホームページへのアクセス数の増加から問い合わせ、引き合い、受注の増加へとつなげ、地域のモノづくり企業の活性化を目指す。

取組みの意義

- ・ 自社ホームページの改善に向けて企業の業務内容、得意な技術、製品の特徴等を整理することにより、他社との違いや強みを明らかにすることができる。
- ・ 企業のホームページを複数の学生が第三者の立場で診断・評価し、改善案を策定することで、いろいろな視点や立場からもわかりやすいホームページの在り方を検討することができる。
- ・ ヒアリング調査やホームページ情報の調査等を通して企業研究を行うことで、学生の調査能力や社会人基礎力の向上を図る。

活動の枠組みと方法

- ・ 本取組みは、NPO法人長岡産業活性化協会NAZEの「企業ホームページ改善事業」との連携事業である。
- ・ NAZE会員企業の中から、実際に自社ホームページを改善したいという意向がある企業を募集し、毎年2～3社を対象に各社のホームページ診断と改善案の策定に取り組んできた。
- ・ 今年度は、有限会社シンエー木型工業のホームページ改善案を反映した同社のデモサイトの制作を行った。

活動概要

- ・ 昨年度（平成28年度）の活動において有限会社シンエー木型工業に提出したホームページ改善案について、同社との打ち合わせの中で再度内容の確認を行った。
- ・ ホームページ編集用のオープンソースCMS（コンテンツ管理システム）の一つであるWordPressをゼミで管理するサーバーにインストールし、そのシステム上で同社のデモサイトの制作を行った。
- ・ デモサイトの制作過程で同社との打ち合わせを行い、要望に従って修正を加えながらデモサイトの完成を目指した。

成果

- ・ 改善提案だけではなく、実際にデモサイトを制作に携わることで企業の業務内容や経営者の思いなどをさらに深く知ることが出来た。
- ・ ゼミ学生にはこれまでホームページの作成経験はほとんどなかったが、書籍やインターネット上の情報を参考に、サイト構築の流れやページの作成方法等について学ぶことができた。

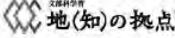


図表 4-5-8 グラスルーツグローバル化推進
～草の根・地域からの人類統合の推進～



長岡大学

文部科学省採択
平成 25～29 年度「地(知)の拠点整備事業」
平成 28～31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



地(知)の拠点

平成29年度 学生による地域活性化プログラム

グラスルーツグローバル化推進

～草の根・地域からの人類一体化推進～

広田秀樹
ゼミナール



【参加学生】
王吉・川村拓也・土井健太・安達清志・王世銘・児玉拓実
孫雷・辰口朋日炉・趙博文・陳楠萍・和田充史・渡邊周三
王艶・Khulan Temuulen

【アドバイザー】
コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク代表 大出恭子氏
フェアトレードショップら・なぶうオーナー 若井由佳子氏

取り組みの目的

「グローバル化と地域活性化の両立」という課題に対し多様なアクションで挑戦する！

活動目標

悠久祭でフェアトレード(公正貿易)商品と長岡の地域資源を取り入れた創作カレーを提供し、長岡市民に双方の価値を認知してもらう。

取り組みの意義

世界(グローバル)と地域(ローカル)のベストミックスによる地域発展の可能性を探る。

活動の概要

- ①フェアトレードに対する知識学習
- ②フェアトレードへの対外的なアプローチ活動
- ③ヒアリングを通じた長岡野菜に対する学習
- ④悠久祭での創作カレー販売

アフリカンフェスタでフェアトレードに触れる活動





長岡中央青果(株)へのヒアリングで長岡野菜について学ぶ



フェアトレード
認知度調査

悠久祭での創作カレーの販売

フェアトレード

世界からの資源

X

長岡野菜ブランド

長岡の地域資源

図表 4-5-9 酒粕で長岡を盛り上げよう！


平成28年 地域学賞
長岡大学

 文部科学省採択
 平成 25～29 年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成 28～31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」


 地(知)の拠点

平成29年度 学生による地域活性化プログラム

権 五景
ゼミナール

酒粕で長岡を盛り上げよう！



- 【参加学生】 4年生 大滝皓史 小布山大喜 早川裕章
 佐藤 空夢 周 天奇
 3年生 佐野毅 水落柊哉
 Namjilsuren Uyanga 那 旭
 2年生 池田 哲 岡部 真也 藤田 健広
- 【アドバイザー】 越銘醸株式会社 取締役・製造部長 浅野宏文氏
 NPO 法人まちなか考房 事務局長 大沼広美氏

《取組概要》

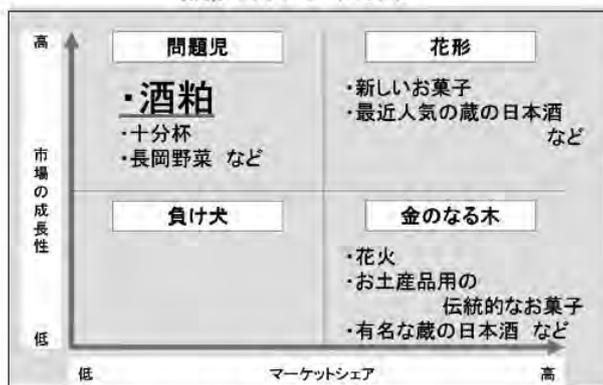
長岡は醸造のまちです。その中心は日本酒であり、酒造りの過程で得られる「酒粕」は地域資源と言えます。しかし、その活用法については、まだ可能性を秘めていると思います。そこで、私たちは、地域企業と連携して酒粕の新たな商品化を目指します。

— 権ゼミの基本的考え方 —

「経済発展は地理的特性に基づくため、
 地域にあるものを有効に活用して
 いかなければならない。」

私たち権ゼミナールは酒粕を有効に活用すべき地域資源だと位置づけることから活動を始めました。この1年間は酒粕の可能性を、商品化を通して確認できました。私たちの考えを Boston Consulting Group が企業に向けて考案した、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント(PPM)を、長岡地域に置き換えたものです。

長岡版プロダクト・ポートフォリオ



平成29年度 学生による地域活性化プログラム

鈴木章浩
ゼミナール

地元企業の働き方を知る



【参加学生】7名
3年生 青木洸 姉崎啓太 石川渚 遠藤優 小倉沙弥
小山毅 常山拓臣

【アドバイザー】
株式会社ジェイマックソフト 総務部 課長 監物陽介氏
長岡市商工部 産業政策課雇用促進係 係長 寺山隆史氏

活動の概要

鈴木ゼミナールは長岡市・長岡市周辺企業の「働き方」について調査し、発信していくことを目標として活動している。活動の目的は、地元企業は従業員にどのような働き方を求めているのか、就職する側はどのように働くのがよいのかを明確にすることである。加えて、県内・市内における雇用施策を調査・考察する。

活動実績（平成 29 年度）

1. 長岡大学の魅力度調査
長大生へのアンケート、学長へのインタビュー
長岡大学の PR 動画の制作
2. 先行研究のレビュー
日本型 HRM と米国型 HRM との比較
地元企業が採用時に求める人材像
3. 長岡市の雇用政策に関する学外調査
ながおか・若者・しごと機構様への聞き取り
「社会人力向上セミナー」への参加
4. 企業の人事・雇用制度に関する学外調査
株式会社ジェイマックソフト様への聞き取り
アクシアルリテイリング様への聞き取り



成果 一所属学生の生の声一

『「働き方を知る」をテーマに活動してきたが企業によって全然違うものもあれば同じこともあり知らなかったことを沢山知ることができた。就職に向けてためになる知識が沢山増えた。』

「企業の人事担当者の方への質問項目を作成する中で、企業の特徴・強みなどを調べる事前調査を行ったことで、どこに注目して調べればよいかなど調査力の向上に繋がった。」

「企業の聞き取り調査を通じて新しい知識を得たり、成果発表会での一部スピーカーを務めたりと以前ではできなかったり、やらなかったことに挑戦できたと思う。」

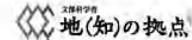
「県外の企業や東京の企業にも目を向け、地元企業との違いがあるかどうか調べてみたい。」

「成果発表会では調査したことを淡々と説明する形だったので、来年度の発表ではプレゼンテーションにも力を入れて見て楽しめる発表を目指して資料製作に取り組みたい。」

図表4-5-1-1 「まちの駅」から越路地域の魅力を発信



文部科学省採択
平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 学生による地域活性化プログラム

鯉江康正
ゼミナール

「まちの駅」から越路地域の魅力を発信



【参加学生】25名
4年生 池田諒馬 江口枝里子 片桐湧太 木島俊久 小松綾乃
須田滉介 陈奥 田源一 中島なつ美 中曽根湧 薙澤雄樹
山崎隼斗 楊婉蘭 横田百合江 鷺尾創太
3年生 王巍 加藤茉那 Jargalsaikhan Byambatuvshin 新保聡
鈴木絵莉香 Gantumur Uugantsetseg Tsogoo Munkhaya
Khurelbaatar Ganchimeg 李文秀
2年生 山城時生
【アドバイザー】
手作りお漬物の駅(有限会社ドリーム岩塚)駅長 内藤敦氏
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 高橋秀一氏

越路地域の「まちの駅」をキーポイントとして、マップによる越路の魅力発信

<取組1>越路地域の「まちの駅」7駅へのヒアリング調査と周辺情報の収集・整理

越路地域の「まちの駅」へヒアリング調査を行うと同時に、文献などにより周辺の観光スポットや文化財の調査を行いました。



<取組2>「食べる！ 学ぶ！ 見る！ 越路マップ・まちの駅 いこーてえーマップ」の制作

マップの制作は紆余曲折があり大変苦労しましたが、最終的には手書きの、学生目線で地域を紹介できるものを制作することができました。



<取組3>マップを使った越路の情報発信と地域の方々との交流

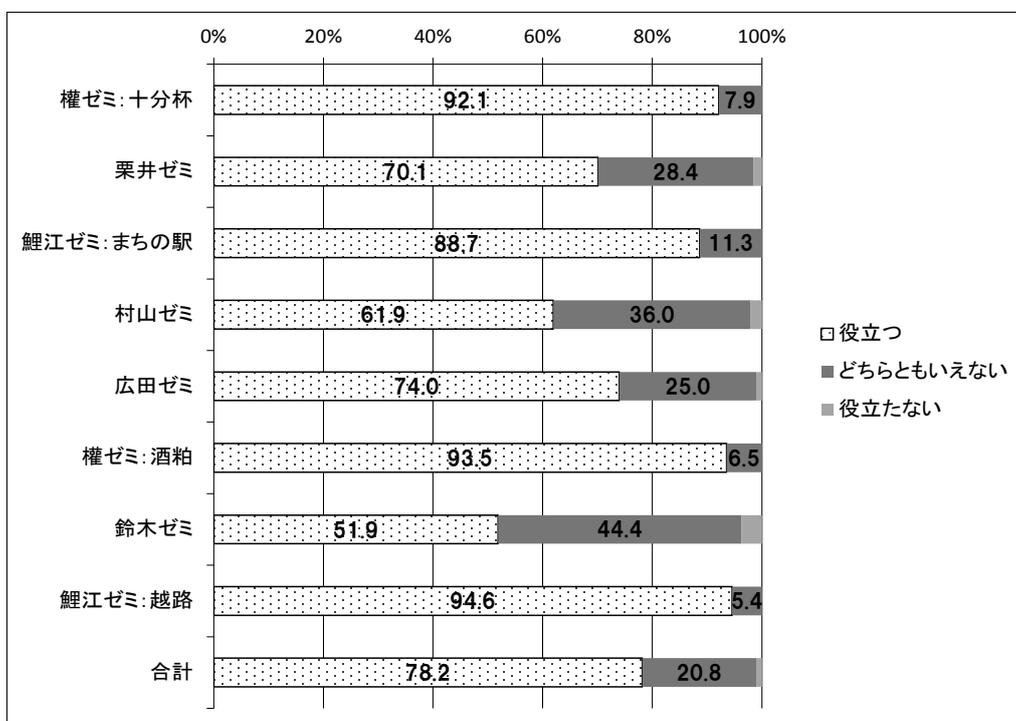
マップ配布は、「酒楽の里 あさひ山」「長岡大学学園祭 悠久祭」「もみじ園」にて実施しました。また、越路地域や長岡地域のまちの駅の方々を中心に多くの方々との交流もできました。



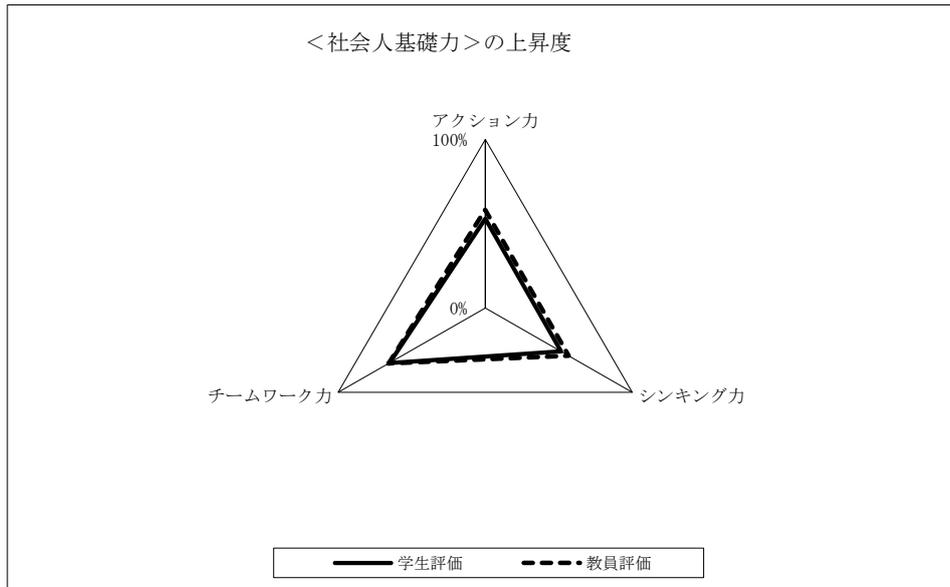
(10) まとめ ー成果と課題ー

- ・参加ゼミ・・・参加ゼミは6ゼミ8取組みで、前年とほぼ同じ規模であった。3・4年の参加学生数は64名で、参加率32.6%であった。(他に2年生5名参加)
- ・成果発表会・・・平成29年度地域活性化プログラム成果発表会は、257名(一般参加者41名、アドバイザー18名、本学学生162名、本学教職員36名)と盛大であった。
- ・成果発表会参加者のアンケート評価・・・成果発表会参加者のアンケートを実施した。回収率90.4%(242名中、219名が回答)。アンケート結果は、「テーマとの整合性」92.7%、「地域活性化の役立ち度」78.2%、「取組への評価」94.0%、「発表の仕方の卓越性」89.8%とともに高い評価を得た。
- ・社会人基礎力の上昇度(取組前と取組後の比較)・・・学生の自己評価と教員評価は図表4-5-13に示す通りである。アクション力、シンキング力、チームワーク力すべてで概ね教員評価の方が高く、学生の評価は低くなっており、昨年度の結果と逆転した。教員は学生の成長をある程度評価したが、学生自身がその成長を実感するまでには至らなかったのではないかと。また、3つの力のなかでは、学生評価・教員評価ともに、チームワーク力→アクション力→シンキング力の順に上昇度が低くなっており、昨年度と同様の結果となった。引き続きシンキング力の向上策に課題が残った。
- ・なお、成果発表会は、図表4-5-17のとおり開催され、3月に「平成29年度学生による地域活性化プログラム活動報告書」(全ゼミの活動をまとめた合冊と各ゼミの活動をまとめたゼミごとの分冊)を発行した。

図表4-5-12 「地域活性化の役立ち度」に対する参加者の評価



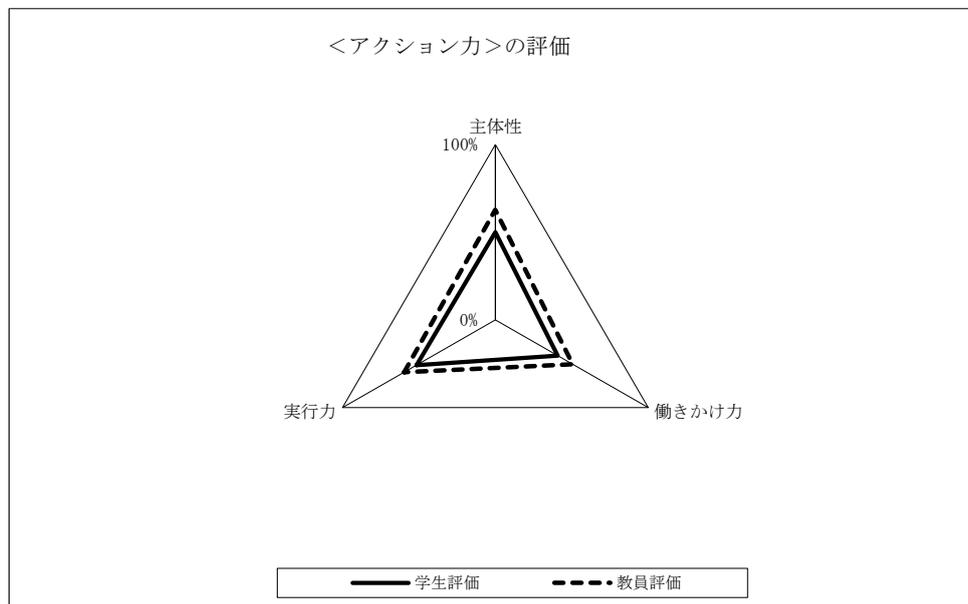
図表 4-5-13 社会人基礎力の上昇度



＜社会人基礎力＞の上昇度

| | | 学生評価 | 教員評価 |
|---------|-----------|-------|-------|
| アクション力 | 上昇した学生の割合 | 53.0% | 58.2% |
| シンキング力 | 上昇した学生の割合 | 51.5% | 56.7% |
| チームワーク力 | 上昇した学生の割合 | 65.2% | 65.7% |

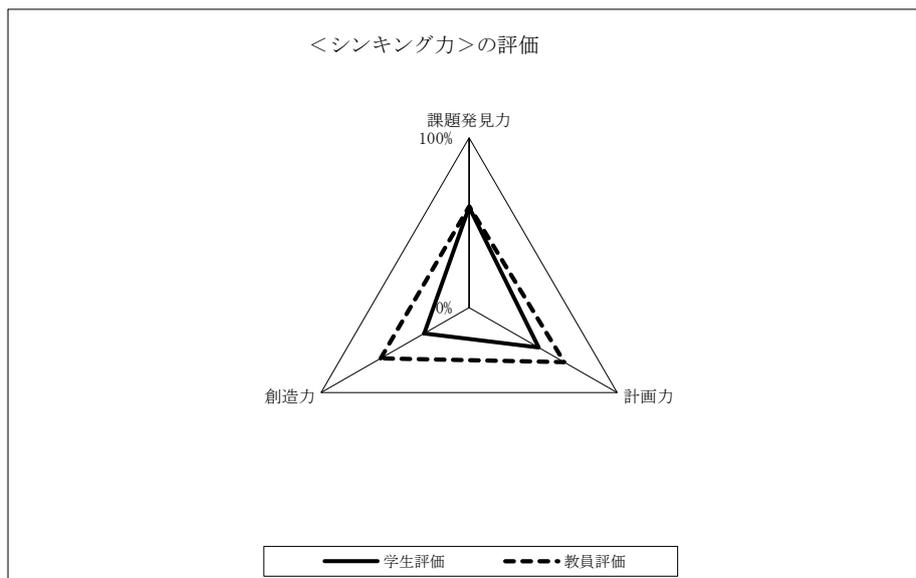
図表 4-5-14 アクション力の評価



＜アクション力＞の評価

| | | 学生評価 | 教員評価 |
|-------|----------------|-------|-------|
| 主体性 | 進んで取り組んだ学生の割合 | 50.0% | 62.7% |
| 働きかけ力 | 積極的に働きかけた学生の割合 | 40.9% | 50.7% |
| 実行力 | 確実に実行できた学生の割合 | 51.5% | 59.7% |

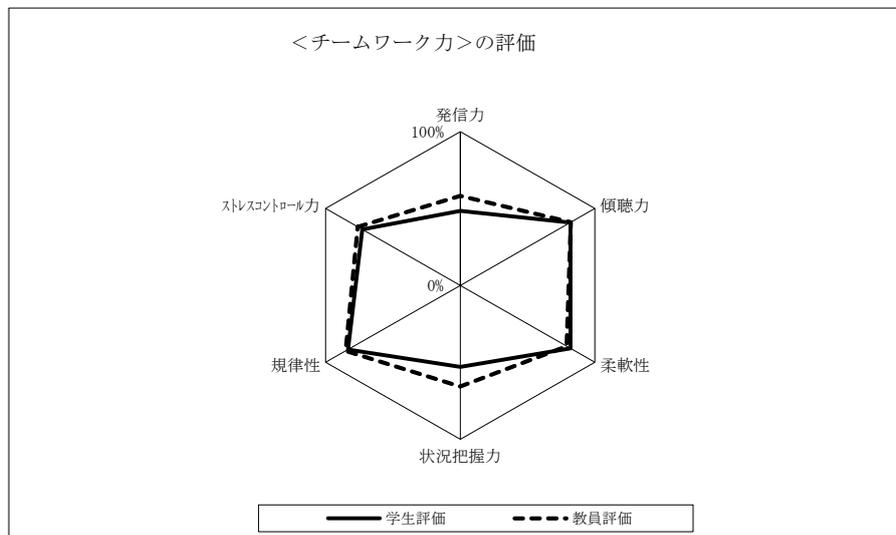
図表4-5-15 シンキング力の評価



＜シンキング力＞の評価

| | | 学生評価 | 教員評価 |
|-------|--------------|-------|-------|
| 課題発見力 | 明らかにできた学生の割合 | 59.1% | 59.7% |
| 計画力 | 準備できた学生の割合 | 47.0% | 64.2% |
| 創造力 | 十分出せた学生の割合 | 30.3% | 59.7% |

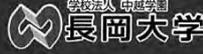
図表4-5-16 チームワーク力の評価



＜チームワーク力＞の評価

| | | 学生評価 | 教員評価 |
|-------------|---------------|-------|-------|
| 発信力 | 十分伝えられた学生の割合 | 48.5% | 58.2% |
| 傾聴力 | 十分聞いた学生の割合 | 81.8% | 82.1% |
| 柔軟性 | 十分理解した学生の割合 | 81.8% | 79.1% |
| 状況把握力 | 十分理解した学生の割合 | 53.0% | 65.7% |
| 規律性 | 守った学生の割合 | 83.3% | 85.1% |
| ストレスコントロール力 | うまく解消できた学生の割合 | 72.7% | 76.1% |

図表 4-5-17 学生による地域活性化プログラム成果発表会



長岡大学

長岡地域(卸論人材)育成プログラム
平成25~28年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(OOC)」採択
平成28~31年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(OOC+)」参加



地(知)の拠点

平成29年度 学生による地域活性化プログラム 成果発表会

入場
無料

日 時 平成29年 **12月2日(土)**
13:00-17:00 (受付12:30)

会 場 ホテルニューオータミ長岡 NCホール
※ホテル及び周辺駐車場は有料駐車場のみです。公共交通機関をご利用ください。

定 員 **200名**

“学生が地域の課題を対象に調査研究を行い、地域活性化への貢献を目指す。地域との交流を通じて、社会人基礎力を身につける。”この教育プログラムは11年目を迎えました。発表会では、6ゼミ、8取組の学生が今年度の成果を発表し、担当アドバイザーから講評をいただきます。地域の皆さまのご来場お待ちしております。

プログラム

| | | |
|----------|--|------------|
| 1 | 十分杯で長岡を盛り上げよう! | 権 五景ゼミ (1) |
| 2 | 長岡の隠れた地域資源を若人に広めよう! | 栗井英大ゼミ |
| 3 | 「まちの駅」の魅力発信と地域活性化への貢献 | 鯉江康正ゼミ (1) |
| 4 | 企業ホームページの改善提案とデモサイトの制作 | 村山光博ゼミ |
| 5 | グラスルーツグローバリゼーション —草の根・地域からの人類統合の推進— | 広田秀樹ゼミ |
| 6 | 酒粕で長岡を盛り上げよう! | 権 五景ゼミ (2) |
| 7 | 地元企業の働き方を知る | 鈴木草浩ゼミ |
| 8 | 「まちの駅」から越路地域の魅力を発信 | 鯉江康正ゼミ (2) |

| | |
|--|---|
| 総 評 株式会社バルメソ 代表取締役 松原 亨 氏 長岡市地方創生推進部 政策企画課 課長 茂田井 裕子 氏 | ◆お問い合わせ・お申込み 長岡大学教務学生課 担当 近藤 TEL:0258-39-1600(代) 〒940-0828長岡市御山町80-8 http://www.nagaokauniv.ac.jp E-mail:kyoumu-g@nagaokauniv.ac.jp |
|--|---|

お申込方法 お電話または下記に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込み下さい。

申込締切 11月24日(金) FAX:0258-39-9566

| | | |
|-------------|-------|--|
| 氏 名 | 会 社 等 | |
| 住所・連絡先 | | |
| 電 話 番 号 | F A X | |
| E - m a i l | | |

※ご登録いただいた個人情報、本学規定に従って厳正に管理します。

◆主 催 長岡大学 ◆後 援 長岡市・長岡市教育委員会・長岡商工会議所・NPO法人長岡産業活性化協会NAZE・公益財団法人にいがた産業創造機構



6 社会人基礎力の養成（インターンシップ／現場体験プログラム）－教育⑥－

（1）方針（申請時）

- ・従来の就業体験型インターンシップに加えて、課題解決型インターンシップを新設し、社会人基礎力の一層の充実養成を図る。

（2）目標（申請時）

- ・平成 25 年度→平成 26 年度に、課題解決型インターンシップ＝インターンシップⅡ（従来はⅠ）科目を新設（2 単位）。商店街等で職場体験しながら、活性化提案等を行う。
- ・平成 29 年度→インターンシップⅡ（課題解決型）学生参加率 20%、インターンシップⅠ（就業体験型）参加率 60%をめざす。

（3）平成 25 年度実績と評価

- ・平成 25 年度の実業体験型インターンシップは 8～9 月の集中（10 日間、2 単位）で行われた（23 人履修、参加率 26.7%、在籍 3 年生 86 人）。これに加えて、課題解決型インターンシップの平成 26 年度実施に向けた計画づくりを計画したが、成案を得るに至らなかった。
- ・課題解決型インターンシップの仕組みを検討したが、成案を得られず、次年度の課題となった。

（4）平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度の実業体験型インターンシップ（8～9 月の 10 日間、2 単位）参加者は、16 人（3 年生）、研修実施事業所は 17 事業所であった。
- ・しかし、インターンシップ参加率（在籍 3 年生 63 人）は 25.4%で、かつて（平成 21～23 年度）の 30%後半のレベルと比べ 5 ポイント以上低下した。これは、今年度から実施したほぼ毎週のインターンシップ準備授業（研修課題の検討、企業研究シート作成等）に適応できずに履修登録したが、インターンシップに不参加の学生が 7 名にのぼったことが影響していると思われる。今後、準備授業を実施して参加率をあげる必要がある。
- ・また、学生の応募がなくやむなく辞退した受入承諾事業所は 22 にのぼった。
- ・今年度は、初のインターンシップ成果発表会を開催し、最優秀賞 1 名、優秀賞 3 名を表彰した。好評であった。
- ・課題解決型インターンシップについては、次年度に新科目「特殊講義・現場体験プログラム」（2 年生配当）を設置して、実施することとした。
- ・活動評価（まとめ・課題）・・・まず、就業体験型インターンシップについては、事前・事後のフォローと成果発表会の実施により、就業体験と社会人基礎力の向上の点で、好評であった。次年度以降も、この方式を継続することが望ましい。

第 2 に、その反面、履修・受講学生の規模・率はともに低下したが、これを大幅にアップする対策を検討する必要がある。次年度の大きな課題である。

第 3 に、次年度には、新しい現場・就業体験の仕組みを幅広く（新潟大学の広域・連携型インターンシップ・マッチング等）構築する方策を検討する必要がある。1 年次（キャリア開発Ⅰ）からの現場・就業体験参加の認知度の向上、2 年次の新設・現場体験プログラムに

よる、1日企業見学、短期集中型就業体験、課題解決型インターンシップ（数名グループ）を多様に展開し、実践的な就業意識の形成を図る。3年生はこの上に立って、10日間のインターンシップに参加し、主体的な職業選択意識と就職活動への意欲向上を目指す。

（5）平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・平成 27 年度の就業体験型インターンシップ（8～9月の 10 日間、2 単位）参加者は、20 人(男 16、女 4)、参加率（在籍 3 年生 65 人）は 30.8%であった。
- ・平成 26 年度から実施したほぼ毎週のインターンシップ準備授業（研修課題の検討、企業研究シート作成等）に適応できずに履修登録したが、インターンシップに不参加の学生が若干名生じた。
- ・平成 27 年度、インターンシップ成果発表会を開催し、最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名を表彰した。
- ・課題解決型インターンシップは、「特殊講義・現場体験プログラム」（2 年生担当）を設置して、実施した。履修登録学生は 4 名(男)で、研修参加者は 2 名であった。
- ・就業体験型・課題解決型インターンシップのいずれも、事前・事後のフォローと成果発表会（11 月 18 日（水））実施により、就業体験と社会人基礎力の向上の点で、好評であった。

【評価】

- ・就業体験型インターンシップ（3 年生対象、10 日間、2 単位）の参加率は依然として低く、平成 29 年度目標の 60%までは程遠い。参加率向上策が必要である。
- ・科目開設初年度の課題解決型インターンシップ（現場体験プログラム、1 単位）の参加学生は 2 名であり、学生に対する認知度を上げる必要がある。
- ・インターンシップ等授業の進め方は、＜研修先候補選定→企業研究（シート作成）→研修先・研修課題決定→ビジネスマナー→書類作成・研修先事前訪問→研修実施→研修レポート作成→成果発表＞という流れで実施する方式がほぼ確認できた。
- ・インターンシップの取組みは、学生の社会人基礎力の向上に直接つながる事業であり、他のプログラム（地域志向科目や地域活性化プログラムなど）との関連を明確にして、能力・資質向上の仕組み（能力評価方法も含めて）として構築する必要がある。

（6）平成 28 年度実績と評価

【実績】

- ・平成 28 年度の就業体験型インターンシップ（8～9月の 10 日間、2 単位）参加者は、26 人(男 20、女 6)、参加率（在籍 3 年生 87 人）は 29.8%であった。
- ・平成 28 年度、インターンシップ成果発表会を開催し、最優秀賞 1 名、優秀賞 3 名を表彰した。
- ・課題解決型インターンシップは、「特殊講義・現場体験プログラム」（2 年生担当）として、実施した。履修登録学生は 8 名(男 5、女 3)で、研修には全員参加した。
- ・就業体験型・課題解決型インターンシップのいずれも、事前・事後のフォローと成果発表会（11 月 16 日（水））実施により、就業体験と社会人基礎力の向上の点で、好評であった。

・平成 28 年度の成果発表会から一部の企業にも参加頂き、緊張感ある中での発表会を行うことができた。

【評価】

- ・就業体験型インターンシップ（3年生対象、10日間、2単位）の参加率は依然として低く、平成 29 年度目標の 60%までは程遠い。参加率向上策が必要である。
- ・課題解決型インターンシップ（現場体験プログラム、1単位）の参加学生は 8 名であり、学生に対する認知度を上げる必要がある。
- ・インターンシップ等授業の進め方は、＜研修先候補選定→企業研究（シート作成）→研修先・研修課題決定→ビジネスマナー→書類作成・研修先事前訪問→研修実施→研修レポート作成→成果発表＞という流れで実施する方式がほぼ確認できた。
- ・インターンシップの取組みは、学生の社会人基礎力の向上に直接つながる事業であり、他のプログラム（地域志向科目や地域活性化プログラムなど）との関連を明確にして、能力・資質向上の仕組み（能力評価方法も含めて）として構築する必要がある。
- ・一部の企業ではあったが、成果発表会に参加頂いたことは好評であった。

（7）平成 29 年度方針・目標

【方針】

- ・社会人基礎力の養成（インターンシップ）・・・前年度のインターンシップ・マッチングフェアによるインターンシップ参加学生の拡大を踏まえ、現場体験プログラム（2年、課題解決型）、インターンシップ（3年就業体験型）への参加学生の拡大を図り、学生の現場・仕事感覚の醸成と社会人基礎力の向上を図る。

【目標】

- ・3年次のインターンシップ（10日間）については、履修者数、参加率ともに前年度以上をめざす（前年度 29.8%）。
- ・2年次の現場体験プログラム（課題解決型インターンシップ）の参加学生の増加を目指す。
- ・成果報告会や、オリエンテーション等で多くの教職員・学生に現場体験プログラムとインターンシップの成果を広め、参加学生の増加につなげる。
- ・継続して広域的インターンシップの取組（新潟大学等）に参加・連携し、学生の選択肢を広げるとともに、学生の実践的能力向上を図る。

（8）平成 29 年度計画

平成 29 年度のインターンシップの充実・拡大を次のように進める。

- ・3年生の就業体験型インターンシップについては、毎週の授業の充実－夏期休暇中の就業体験（10日間）－修了レポート－成果発表の流れで進め、社会人基礎力の向上を図る。
- ・2年生については、課題解決型インターンシップ（グループをつくって参加）を実施する。
- ・1年次（キャリア開発Ⅰ）、2年次（キャリア開発Ⅱ、現場体験プログラム）などを活用して、早い時期での現場見学・体験・就業体験を経験し（数回の企業現場見学会実施）、実践的な就業意識の形成と主体的な職業選択のあり方を学び、就職活動への意欲向上を目指す。

- ・5月に行われるインターンシップ・マッチングフェアへの参加を通じて、インターンシップへの参加学生の増加をはかる。
- ・広域的インターンシップの取組（新潟大学中心の関越大学）にも参加・連携して、学生の選択肢を広げるとともに、学生の実践的能力向上を図る。
- ・平成30年度以降のポストCOCのインターンシップ（インターンシップ、現場体験プログラム）について、この間のインターンシップ関連データ（研修先企業リスト、参加学生、成果発表資料等）を整理するとともに、事業展開の総括を行う。同時に、それを踏まえて、「長岡大学のインターンシップ」というタイトルのリーフレットの更新を図り、学生に配布できるよう、作業を行う。

（9）平成29年度の展開

a インターンシップ・マッチングフェア

- ・参加学生の拡大を目指して、平成29年度もインターンシップ・マッチングフェアへの参加を推奨した。5月13日（土、於・アオーレ長岡）、5月14日（日、於・朱鷺メッセ）と2日間で開催され、3年生35名、2年生5名の計40名の学生が参加した。また、8名の学生が、2日間ともマッチングフェアに参加し、積極的な行動が見受けられた。
- ・参加した学生の数名にインタビューを行ったところ、「県内の企業を知ることができてよかった」、「企業の特徴を知り、興味のある企業を発見できた」などの意欲的な回答があった。学生からの感想にあるように、マッチングフェアでは企業の担当者と直接話してインターンシップ先の選択に生かすことができ、一定の成果を得られた。



5/13 マッチングフェア（アオーレ長岡）

b 履修登録者

- ・就業体験型インターンシップ（就業体験型、10日間、2単位、3年生対象）参加者は、22人（男9、女13）、参加率（在籍3年生107人）は20.5%であった。
- ・課題解決型インターンシップ（課題解決型、5日間、1単位、2年生対象）については、2年生5名がマッチングフェアに参加したものの、履修はいなかった。

c インターンシップ研修実績

- ・平成29年度の研修実績として、計22名の学生が24事業所のインターンシップに参加した。内訳として、1カ所訪問学生4名、2カ所訪問学生16名、3カ所訪問学生2名であった。研修先は下記の通り。

図表 4-6-1 平成 29 年度インターンシップ研修先実績

| 業種 | インターンシップ研修先実績 | | | | |
|---------|--------------------------------|---------------------------|--------------------|----------------------|----------------------------|
| 建設業 | (株)たかだ *5日、2人 | オムニ技研(株) *5日、3人 | | | |
| 製造業 | (株)エビス *5日、1人 | (株)鈴民精密工業所 *5日、2人 | (株)美松 *5日、3人 | 新越ワークス(株) *5日、1人 | (株)タカヨシ *5日、1人 2日、1人 |
| 情報通信業 | (株)エヌ・シティ *5日、1人 3日、1人 | | | | |
| 小売業 | アリアルテイル(株) *10日、2人 | (株)タシケント *5日、1人 | (株)星光堂薬局 *5日、4人 | (株)スズキ自販新潟 *5日、1人 | (株)マルイ *5日、1人 |
| 卸売業 | パール金属(株) *5日、1人 | (株)田中米穀 *5日、1人 | | | |
| 不動産業 | (株)レオパレス21 *5日、2人 | | | | |
| 医療福祉 | (株)はあとふるあたご *5日、1人 | | | | |
| 宿泊業 | 長岡グランドホテル *10日、1人 5日、3人 | | | | |
| 複合サービス業 | 新潟みらい 農業協同組合 *5日、1人 | | | | |
| サービス業 | (一財)小千谷市産業 開発センター *5日、1人 | グローバルマーケティング(株) *5日、3人 | | | |
| 公務 | 南魚沼市役所 *5日、1人 | 長岡市役所 *5日、2人 | 三条市役所 *3日、1人 | | |

d 成果発表会

- 平成 29 年度インターンシップ成果発表会を、次の通り、11 月 15 日（水）に開催し、最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名を表彰した。
- 平成 28 年度の成果発表会から一部の企業にも参加頂いたが、平成 29 年度も同様に企業・機関様から参加頂き好評であった。

名称：平成 29 年度インターンシップ成果発表会

進行：担当教員 中村 大輔

日時・会場：平成 29 年 11 月 15 日（水）14：40～17：20、於・226 教室

次第：開会あいさつ（中村）、発表要領、審査委員紹介、表彰について

成果発表（22 名） 14:45～17:05 *発表 3 分、質問 1 分

審査 17:05～17:15

審査委員長 村山 光博 長岡大学長

審査委員 小松 俊樹 長岡大学教授

同 山川 智子 同

同 栗井 英大 長岡大学准教授

同 品川 十英 長岡大学事務局長

表彰 17:15～ 最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件
総評 17:20 審査委員長

- ・最優秀賞、優秀賞は、次の 3 名の学生が受賞した。
- ★最優秀賞 栗原泰武 (3 年) 研修先：グローバルマーケティング(株) (5 日間)、
(株)鈴民精密工業所 (5 日間)
- ★優秀賞 酒井美咲 (3 年) 研修先：(株)はあとふるあたご (10 日間)
- ★優秀賞 吉原文登 (3 年) 研修先：(株)タカヨシ (5 日間)、長岡市役所 (5 日間)
(株)エヌ・シィ・ティ (3 日間)

(10) まとめ—成果と課題—

- ・就業体験型インターンシップ (3 年生対象、10 日間、2 単位) の参加率は平成 28 年度を下回り、当初目標である 60%には遠く及ばない結果となった。4 月のオリエンテーションにおける案内やインターンシップ・マッチングフェアへの参加勧奨も行ったが、学生との意識ギャップを埋めるには至らなかった。
- ・課題解決型インターンシップ (2 年生対象、現場体験プログラム、1 単位) への参加者がゼロであり、当初目標の 20%は未達である。2017 年度のキャリア開発 I においてインターンシップ参加への意識づけの回を設けたが、学生との意識ギャップを埋めるには至らなかった。
- ・授業としてのインターンシップの進め方は昨年度までを踏襲した。就職支援室と連携した授業の進め方についてはある程度確立できたと考える。
- ・成果発表会は発表の練習機会を増やしたこともあり、円滑かつ充実した内容となった。平成 30 年度以降も同様に進めたい。

7 学生起業人材の養成－教育⑦－

(1) 方針（申請時）

- ・従来の起業家塾（夏期集中、2単位）を基礎に、通年の長岡地域の学生起業家塾へと発展させ、長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成をめざす。
- ・＜学生ベンチャーの長岡＞のイメージを定着させる。

(2) 目標（申請時）

- ・平成26年度→通年の長岡地域の学生起業家塾を開講する。参加学生30名（従来25名）、「ビジネスグランプリ in 新潟」（学生部門=キャンパスベンチャー、にいがた産業創造機構ほか主催）優勝。
- ・平成29年度→長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成をめざす。年間参加学生数100名、全国のビジネスプラン・コンテストに応募・入賞。

(3) 平成25年度実績と評価

- ・8月19日～22日の4日間、「起業家塾」を開講。本学より9名、長岡工業高等専門学校より3名の計12名の学生が参加、4チームに分かれてビジネスプランを作成し、最終日にオリエンテーションおよび講評、審査・表彰を行った。そのうちの1チームが新潟県のキャンパスベンチャーに応募したが、受賞を逃した。また、別の1チームはトオコン（十日町ビジネスコンテスト、十日町市主催）に応募、県予選3位にとどまった。

(4) 平成26年度実績と評価

- ・8月18～21日の4日間、「起業家塾」（夏季集中2単位科目）を開講。本学より10名の参加（3年生7名、4年生3名）で、他大学・高専からの参加学生はゼロであった。4チームに分かれてビジネスプランを作成し、最終日にプレゼンテーションおよび講評、審査・表彰を行った。4社のうち、2社がビジネスプランのブラッシュアップ作業を行い（小松教授指導）、「トオコン season 5（新潟県十日町市主催）」に応募したが、1社は新潟県予選3位、本選4位で受賞を逃した。
- ・活動評価（まとめ・課題）・・・まず第1に、起業家塾は長岡市内3大学1高専の学生が参加する開かれたビジネスプラン講座（3大学の単位互換科目）として毎年開講しているが、今年は長岡大学生のみ10名の参加にとどまった。参加学生数が前年を下回ったこと（前年は12名）、他の2大学だけでなく毎年参加いただいていた高専が不参加だったことは大いに反省しなければならない。ポスター等掲示時期を前倒しして、社会人基礎力の養成に役立ち就職力向上になること、夏期休暇の有効利用に繋がる等を広く長期に広報していく必要がある。
- ・第2に、終了後の受講生アンケート調査の結果、起業家塾の自己評価は高く社会人基礎力3項目全てにおいて向上しており、当プログラムの有用性が明らかになっている。
- ・第3に、新潟県のキャンパスベンチャー・コンテストが今年度より廃止になり、「トオコン season 5（十日町市主催）」へ前年同様応募したが受賞を逃し残念な結果となった。今後も応募を継続するとともに、全国的なコンテストにも積極的にチャレンジする必要がある。
- ・第4に、学生ベンチャーサークルの立ち上げ等で起業意識・風土を盛り上げて参加学生を拡大する必要がある。

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・ 8月17～20日の4日間、「起業家塾」(夏季集中2単位科目)を開講。本学より18名の参加(2年生7名、3年生6名、4年生5名)があり、他校からは2名の参加(長岡技術科学大学1名、長岡造形大学1名)があった。5社に分かれてそれぞれビジネスプランを作成、最終日にプレゼンテーションおよび講評、審査・表彰を行った。5社のうち3社がビジネスプランのブラッシュアップ作業を行い(小松教授指導)、2社が長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト【起業アイデア部門】」で優秀賞を受賞、1社が十日町市主催「トオコン2015」で本選に進出したが、受賞は逃した。

【評価】

- ・ 第1に、起業家塾は長岡地域の学生(大学、高専、高校等)を対象とした地域に開かれたビジネスプラン講座(3大学の単位互換科目)として毎年開講している。今年は3大学の学生20名での開講となり、参加学生数が前年を大きく上回った(前年は10名)が、ほぼ毎年参加していた高専を含めた他の長岡地域の学生の参加がなかったことは今後の課題である。ポスター等掲示方法を改善して、社会人基礎力養成が就職力向上になること、夏季休暇の有効利用に繋がること等を広く長期的に広報していく必要がある。
- ・ 第2に、終了後の受講生アンケート調査の結果、起業家塾の自己評価は高く、社会人基礎力3項目(アクション、シンキング、チームワーク)全てで開始前と比較して向上していることから当プログラムの有用性は明らかである。
- ・ 第3に、今年から開催された長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」における【起業アイデア部門】で2チームが優秀賞を、【いいね!アイデア部門】で起業家塾参加学生が優秀賞を獲得した。また、十日町市主催「トオコン2015」では昨年同様に予選を通過し、本選に進出した(惜しくも受賞は逃した)ことから当プログラム(ブラッシュアップ含む)の有用性は明らかである。今後もこの2つのコンテストへの応募を継続し、優秀賞獲得を目指すとともにさらに全国的なコンテストである「キャンパスベンチャーグランプリ」、「学生ビジネスプラン・コンテスト」等にも挑戦し、受賞を目指す。そのためには画期的なビジネスアイデアを創出する工夫を考え、プレゼンテーション能力を高める必要がある。
- ・ 第4に、本学は長岡地域の学生起業家輩出の拠点には至っていないので、起業家塾(ブラッシュアップ含む)以外でも起業意識・風土を盛り上げて起業への日常的な活動拠点の創出を図ることが課題である。国の「地方創生」の基本理念に地域の特性を生かした創業の促進とあり、長岡市の「ながおか・若者・しごと機構」の活動の柱に起業・創業の支援とあることが取組における追い風となっているので、長岡市地方創生事業＝若者創業・起業推進事業と連携していくこと、社会人創業セミナー等と融合していくこと、長岡地域学生ベンチャーサークル立ち上げをしていくこと等が必要である。

(6) 平成 28 年度実績と評価

【実績】

- ・ 8月22～25日の4日間、「起業家塾」(夏季集中2単位科目)を開講。本学より18名(2年

生 8 名、3 年生 9 名、4 年生 1 名) の参加があった(他校からはなし)。5 社に分かれてそれぞれビジネスプランを作成、最終日にプレゼンテーションおよび講評、審査・表彰を行った。5 社のうち 3 社がビジネスプランのブラッシュアップ作業を行い(担当教員:小松俊樹指導)、2 社が長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト【起業アイデア部門】」で優秀賞を受賞、1 社が十日町市主催「トオコン 2016」に応募したが、本選進出は逃す結果となった。

【評価】

- ・第 1 に、起業家塾は長岡地域の学生(大学、高専、高校等)を対象とした地域に開かれたビジネスプラン講座(3 大学単位互換科目)として平成 17 年より毎年開講している。平成 28 年度は本学学生のみ 18 名での開講となり、参加学生数が前年を下回った(前年は 20 名)。ほぼ毎年参加していた他の長岡地域の学生の参加がなかったことは今後の課題である。長岡地域各校への訪問、ポスター掲示等広報を改善していく必要がある。
- ・第 2 に、終了後の「起業家塾受講生アンケート」の結果、楽しかった(まあまあ楽しかった)と回答した学生が 86%、ためになった(まあまあためになった)と回答した学生は 93%と受講生満足度は高かった。また、「社会人基礎力自己診断アンケート」の結果、社会人基礎力 3 項目(アクション、シンキング、チームワーク)の内、シンキング以外が開始時より向上した。起業家塾受講を通してシンキングが足りないと感じた受講生が多く、この点に気づいたことは受講生にとって大きな成果である。
- ・第 3 に、起業家塾で作成したプランをブラッシュアップして挑んだ長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」における【起業アイデア部門】で 2 チームが優秀賞を、起業家塾履修者ではないが担当教員が指導した本学学生 2 名が優秀賞と奨励賞を獲得した。【いいね! アイデア部門】では起業家塾参加学生 2 名が最優秀賞と優秀賞を獲得した。この他に、十日町市主催「トオコン 2016」にも応募したが本選出場を逃す結果となった。全体結果として、当プログラム(ブラッシュアップ含む)の有用性は明らかとなった。今後もこの 2 つのコンテストへの応募を継続し、優秀賞獲得を目指すとともにさらに全国的なコンテストである「キャンパスベンチャーグランプリ」、「学生ビジネスプラン・コンテスト」等にも挑戦し、受賞を目指す。そのためには画期的なビジネスアイデアを創出する工夫を考え、プレゼンテーション能力を高める必要がある。
- ・第 4 に、本学は長岡地域の学生起業家輩出の拠点を目指しているがまだ至っていないので、起業家塾(ブラッシュアップ含む)以外でも起業意識・風土を盛り上げて起業への日常的な活動拠点の創出を図ることが必要である。長岡市地方創生事業=若者創業・起業推進事業と連携していくこと、社会人創業セミナー等と融合していくこと、長岡地域学生ベンチャーサークル立ち上げをしていくこと等である。

(7) 平成 29 年度方針・目標

【方針】

- ・学生起業人材の養成・・・長岡地域の学生(特に 3 大学 1 高専)の参加拡大により、夏季起業家塾(8 月)の充実を図る。事前・事後セミナー開催、起業家塾でのビジネスプランのブラッシュアップによる多様なビジネスプラン・コンテストへの応募(10 月)、地域連携による若者起業セミナー等を多様に展開し、学生起業人材の養成を図る。

【目標】

- ・起業家塾等講座（ブラッシュアップ含む）参加学生数 50 名、起業家塾として 8 チーム（40 人）程度の参加を目指す。ビジネスプランのブラッシュアップにより、長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」における【起業アイデア部門】に 5 チーム以上、十日町市主催「トオコン 2017」に 2 チーム以上、全国的学生ベンチャー・コンテストにも 3 チーム以上が応募し、優秀賞等獲得を目指す。また、長岡市地方創生事業＝若者創業・起業推進事業と連携すること、社会人創業セミナー等と融合すること、他大学と起業について交流すること等で個人またはグループによる学生起業人材の創出を実現する。

（8）平成 29 年度計画

- ・長岡市地方創生事業＝若者創業・起業推進事業と連携する等をして、次のように長岡地域の学生（特に 3 大学 1 高専）の起業家塾への参加拡大、受講後のコンテスト応募拡大とブラッシュアップによる受賞を図る。また、個人またはグループによる学生起業人材の創出を実現する。
 - a 広報活動
5 月に、担当教員、教務学生課が起業家塾ポスターを作成し、6 月に担当教員、地域連携室、教務学生課が 3 大学 1 高専やまちなかキャンパス等を訪問し、ポスターを掲示する等の広報を開始する。単位互換校には追加履修を募集する案内も送る。
 - b 事前セミナー
7 月に、参加予定学生を中心にした事前セミナーを本学にて開催し、担当教員による説明会を実施する。
 - c 起業家塾
8 月 7 日～10 日（4 日間）に、集中型の学生起業家塾を開講する。1 日目に企業創業者の講演、その後ビジネスプラン作成、最終日にビジネスプランのプレゼンテーションを行い、外部有識者の審査員による審査・評価・表彰を行う。
 - d ブラッシュアップ
9 月から 10 月に、起業家塾で作成したビジネスプランを担当教員指導によりさらに洗練されたプランになるようにブラッシュアップを行う。
 - e ビジネスプラン・コンテスト
ビジネスプランのブラッシュアップを経て、長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」や十日町市主催「トオコン 2017」、さらに全国的なコンテストへ応募し、入賞を目指す。
 - f 起業人材創出
平成 29 年度中に、事後セミナーを開催して長岡地域学生ベンチャーサークル（3 大学 1 高専中心）を結成し、社会人創業セミナー等と融合することで創業・起業への日常的な活動拠点の創出を図る。
 - g 平成 30 年度以降のポスト C O C の起業家塾について、3 大学 1 高専学生参加の呼びかけを拡大しつつ、この間の総括を行い、「長岡大学の起業家教育」というようなタイトルのリーフレットを学生に配布できるよう、作業を行う。

(9) 平成 29 年度の展開

- a 起業家塾参加学生の追加公募・・・平成 29 年 6 月に 3 大学 1 高専（長岡大学、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校）にポスターを掲示し、4 月時点の履修登録に追加登録する形で起業家塾への参加学生の募集を実施した（図表 4-7-1）。

- b 起業家塾事前セミナー・説明会・・・次の通り実施した（図表 4-7-2）。

日時：平成 29 年 7 月 12 日（水）14:40～16:10 *217 教室

講演：「創業体験談」

講師：株式会社 CuboRex 代表取締役社長

寺嶋 瑞仁 氏（長岡技術科学大学大学院修士課程 1 年）

説明：起業家塾担当教員 小松 俊樹

- c 起業家塾プログラム・・・次の通り実施した。

平成 29 年度長岡大学「起業家塾」プログラム 担当：長岡大学教授 小松 俊樹

<第 1 日>8 月 7 日（月）

I 開講にあたって *225 教室

- ・ 起業家塾開講にあたって 9:30～ 9:45
- ・ 社会人基礎力事前評価 9:45～10:00
- ・ プログラムの進め方について 10:00～10:30

II プログラム展開 *225 教室

1. チーム編成と役割検討 10:40～12:00

2. ビジネスプランとその作成方法 13:00～15:00

【特別講演】「創業体験談」 15:00～16:10

株式会社 G.F.G.S 代表取締役 小柳 雄一郎 氏

<第 2 日>8 月 8 日（火） *225 教室

3. アイディア出し 9:00～12:00

4. アイディア 2 案の中間発表と 1 案への絞り込み 13:00～16:10

*誰に（顧客）、何を（商品・サービス）、どのようにして提供するか（提供方法）の 3 つ（ビジネスモデル）を明確に

<第 3 日>8 月 9 日（水） *225 教室

5. 絞り込み案のニーズ等調査 9:00～12:00

6. ビジネスプランのとりまとめ 13:00～16:10

<第 4 日>8 月 10 日（木） *225 教室、226 教室

7. 発表用ビジネスプランの作成（図解） 9:00～12:00

8. ビジネスプランの発表、講評、表彰、社会人基礎力事後評価 13:00～16:30

*審査委員・・・最後のビジネスプランは次の審査委員が審査し、表彰します。

株式会社パルメソ代表取締役 松原 亨 氏

長岡技術科学大学教授/テクノインキュベーションセンター長 山口 隆司 氏

長岡造形大学教授/造形学部長 馬場 省吾 氏

長岡工業高等専門学校教授 菅原 正義 氏

長岡大学長 村山 光博

d チーム編成・・・参加学生 29 名が次の 7 チームの編成で、ビジネスプランを作成した。

| 会社名 | 事業名 | 役割 | 氏名 (大学名、学年) |
|-----------------------|-----------------------------|--------------|-------------------|
| 臈深 | ご当地ボーカロイド「越後三姉妹」と行く、新潟観光ツアー | 代表取締役社長 | 菊地 紘基 (長岡大学 4 年) |
| | | 代表取締役副社長 | 鹿島 大輝 (長岡大学 3 年) |
| | | 労働組合大隊長 | 勝田 旭 (長岡大学 4 年) |
| | | 社長直属参謀 | 呉 妣 (長岡大学 4 年) |
| カタカナ社 | 検定にチャレンジ!! 長岡花火カフェ | 社長 | 江崎 広美 (長岡大学 3 年) |
| | | 秘書 | 保科 レイナ (長岡大学 3 年) |
| | | 係長 | 新保 敦弘 (長岡大学 3 年) |
| | | ケガ要員 | 那 旭 (長岡大学 3 年) |
| アーネスト | 健康老人御用達～笑食動～ (わらいしょくどう) | 社長 | 大矢 裕雅 (長岡大学 3 年) |
| | | 副社長 | 高橋 遼 (長岡大学 3 年) |
| | | 社員 | 成田 翔馬 (長岡大学 3 年) |
| | | 社員 | 伊藤 実永 (長岡大学 2 年) |
| 長岡人本舗(株) | 親子で楽しむ長岡歴史アプリ | 社員 | 小柳 璃歩 (長岡大学 2 年) |
| | | 社長 | 栗原 泰武 (長岡大学 3 年) |
| | | 管理 | 渡邊 周三 (長岡大学 3 年) |
| | | 営業 | 小口 統為 (長岡大学 2 年) |
| 株式会社 Future | 長岡超野菜の生産 | 代表取締役社長, CEO | 星野 瑠惟 (長岡大学 2 年) |
| | | 取締役副社長, CTO | 上脇 優人 (長岡技大 3 年) |
| | | 取締役, CMO | 江邊 莉里亜 (長岡大学 2 年) |
| | | 取締役, CFO | 丸山 夏生 (長岡大学 2 年) |
| Mulberry Works | 小国和紙のレインコートで地域活性化 | 社長 | 小林 翼 (長岡大学 4 年) |
| | | 雑務 | 佐藤 宥 (長岡大学 3 年) |
| | | 雑務使い | 田澤 未助 (長岡大学 3 年) |
| | | 社員 | 川上 麻里花 (長岡大学 2 年) |
| 株式会社 YMD (やればできる松本ゼミ) | 十日町野菜のブランド化 | 社員 | 和田 芽生 (長岡大学 2 年) |
| | | 社員 | 尾島 聡 (長岡大学 3 年) |
| | | 社長 | 森本 拓也 (長岡大学 4 年) |
| | | 総務部長 | 安達 瞬一 (長岡大学 3 年) |
| | | 社員 2 | 小笠原 駿志 (長岡大学 3 年) |

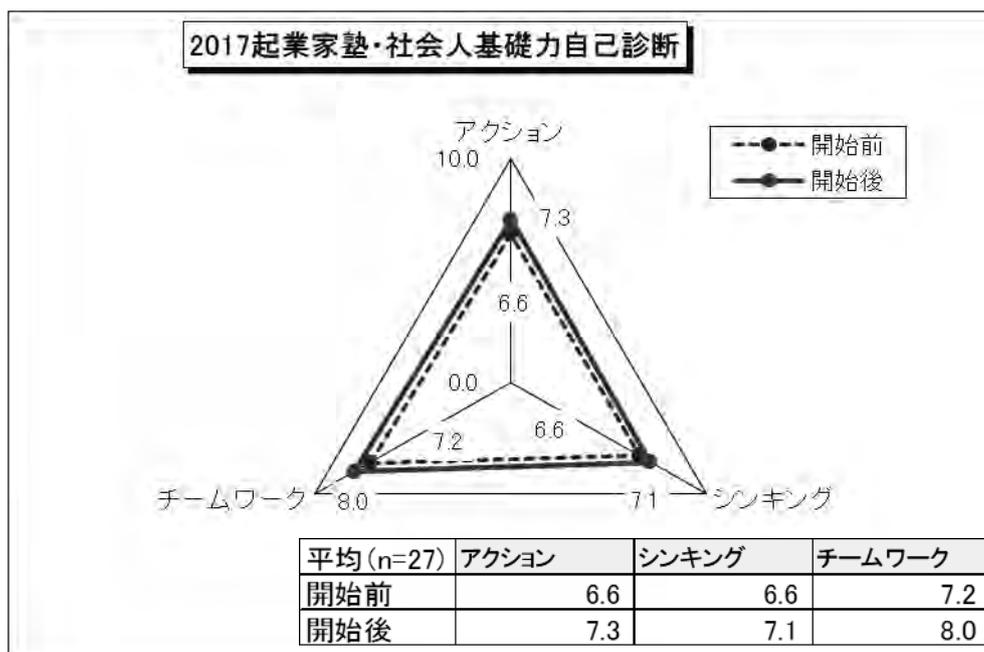
e プレゼンテーション・表彰・・・各チームは図表 4-7-3 にあるビジネスプランを作成し、最終日にプレゼンテーションを行った。厳正な審査、次のような表彰を行った。

| 賞 | 会社名 |
|-------|-----------------------|
| *最優秀賞 | 株式会社 Future |
| *優秀賞 | 長岡人本舗(株) |
| 地域貢献賞 | Mulberry Works |
| 地域貢献賞 | 株式会社 YMD (やればできる松本ゼミ) |
| 地域貢献賞 | アーネスト |
| 地域貢献賞 | カタカナ社 |
| 地域貢献賞 | 臈深 (おぼろみ) |

* <株式会社 Future>の植物工場事業と長岡野菜を掛け合わせた「長岡超野菜の生産」の取組が最優秀賞を獲得。また、優秀賞として<長岡人本舗(株)>の開府 400 年を記念した親子で楽しむ長岡歴史アプリが選ばれた。他のチームのどのプランも短期間の中でよく練り上げられた、地域活性化に資するものとして高く評価された。

f 社会人基礎力の向上・・・4 日間のビジネスプラン作成と発表を終えて、社会人基礎力自己診断は、3 項目(アクション・シンキング・チームワーク)全てが開始時より向上した。図表 4-7-4 をご覧いただきたい。

図表 4-7-4 社会人基礎力自己診断結果（開始前と開始後の比較）



- g 各種ビジネスプラン・コンテストへの応募・・・これらビジネスプランのブラッシュアップ作業（担当教員：小松俊樹指導）を行い、株式会社 Future（代表：星野 瑠惟さん）、長岡人本舗（代表：小口 統為さん）、元気ファーム（※長岡人本舗の別チーム）（代表：渡邊 周三さん）の3社が「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト（ながおかアイ・コン）【起業アイデア部門】」に応募し、優秀賞を獲得した。図表 4-7-5 を参照されたい。

起業家塾履修者ではないが、ながおかアイ・コンの【いいね！アイデア部門】で、長岡大生の Khurelbaatar Khaliun さん（4年）が北越銀行賞を、高橋 広守さん（3年）が優秀賞を獲得した。

十日町市のビジネスプラン・コンテスト「トオコン 2017」に起業家塾履修者で担当教員が指導した学生が小松ゼミナール（代表：栗原 泰武さん）として応募し、本選出場を果たしたが惜しくも入賞は逃した。

栗原 泰武さん（3年）は、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されたビジネスコンテスト「Business Contest KING2017」にて、滋賀大学、名古屋大学、慶應義塾大学、立命館大学の学生とチームを組み、優勝と観覧者投票No.1の特別賞を獲得した。

- h リーフレット・・・長岡大学の起業家教育=起業家塾の経緯として、平成 25 年度～平成 29 年度までの取り組みの成果をリーフレットにまとめた。来年度に、3 大学 1 高専の学生等に配布し、起業家塾への参加を呼びかける。

(10) まとめ—成果と課題—

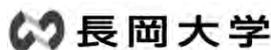
- ・第1に、夏期集中講義である起業家塾は、長岡地域、特に3大学1高専（長岡大学、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校）の学生に参加を呼びかけ、開かれたビジネスプラン作成講座（3大学単位互換科目）として毎年開講している。今年度は29名（本学の学生28名、長岡技術科学大学の学生1名）での開講となり、参加学生が前年度

- より11名増加したが、本学以外の参加者が1名のみだったことは大いに反省すべき今後の課題である。来年度以降も参加者拡大を目指し、募集方法をさらに工夫する必要がある。
- ・第2に、終了後の「起業家塾受講者アンケート」の結果、この講座は楽しかった（まあまあ楽しかった）と回答した学生が96%、ためになった（まあまあためになった）と回答した学生は93%と受講生の満足度は非常に高いものであった。また、「社会人基礎力自己診断」においては、3項目（アクション・シンキング・チームワーク）全てが開始時より向上した。社会人基礎力養成は「社会で生き抜く力」に繋がるので、参加した学生にはこの経験をこれからの大学生活は勿論、社会に出てからも活用していくことを期待する。
 - ・第3に、起業家塾で作成したプランをブラッシュアップして臨んだ、「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」の【起業アイデア部門】では3チームが優秀賞を獲得した。【いいね！アイデア部門】では起業家塾履修生ではないが、本学の学生2名が北越銀行賞と優秀賞を獲得した。この他に、起業家塾履修生が「トオコン2017」に応募し、本選出場を果たした。また、この学生は全国的ビジネスコンテストである「Business Contest KING2017」でも見事優勝した。今後もコンテストへの応募を継続し、最優秀賞の獲得を目指す。そのためには画期的なビジネスアイデアを創出する工夫を考え、プレゼンテーション能力を高める必要がある。また、起業家塾以外においても担当教員による相談会等を実施する必要がある。
 - ・第4に、起業人材創出のために起業意識の醸成に努めながら起業への日常的な活動拠点の創出を図ることである。これまで以上に長岡市の地方創生事業＝若者の創業・起業推進事業と連携していくこと、社会人の創業セミナー等と融合していくこと、長岡地域学生ベンチャーサークル立ち上げを実現すること等が課題である。



夏期集中講義である起業家塾

図表4-7-1 起業家塾受講者追加募集



(文部科学省採択)
平成25~29年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28~31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



起 業 家 塾

平成29年8月集中講義 追加募集

「起業家精神」
「人間力」
「社会人基礎力」
を養成します!



| | | | |
|------------------|---|-----|---|
| 日 程 | 8月7日(月)~10日(木) 各日とも 9:00~16:30 | 対 象 | 長岡技術科学大学、長岡造形大学、 長岡大学、長岡工業高等専門学校等 長岡地域の学生+高校生 |
| プログラム | <1日目>開講にあたって、チーム編成と役割検討、ビジネスプランとその作成方法 <2日目>アイデア出し、アイデア案の中間発表と絞り込み <3日目>絞り込み案のニーズ等調査、ビジネスプランのとりまとめ <4日目>発表用ビジネスプランの作成、発表 ※長岡市「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト【起業アイデア】部門」等 ビジネスプランコンテストに応募し、最優秀賞等獲得を目指します。 | | |
| 科 目 | 起業家塾(2単位、3大学単位互換科目) 長岡大学225教室、226教室 | | |
| 講 師 陣 | 小松 俊樹 長岡大学教授/経営コンサルタント | | |
| 特 別 講 演 | 「創業体験談」小柳 雄一郎氏 株式会社G.F.G.S代表取締役 | | |
| ビジネスプラン 審 査 員 | ○松原 亨氏 株式会社パルメソ社長 ○山口 隆司氏 長岡技術科学大学教授 ○馬場 省吾氏 長岡造形大学教授 ○菅原 正義氏 長岡工業高等専門学校教授 ○村山 光博 長岡大学長 | | |

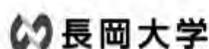
申込締切：平成29年7月28日(金)

〔申 込 方 法〕電話・FAX・E-mailでお申込ください(FAXでのお申込は、別紙チラシをご使用ください)。

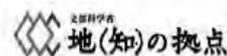
〔申 込 先〕長岡大学 教務学生課 TEL: 0258-39-1600(代表) FAX: 0258-39-9566

E-mail: kyoumu-g@nagaokauniv.ac.jp

※個人情報、本学規程に従って厳正に管理します。



(文部科学省採択)
平成25~29年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28~31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度起業家塾事前セミナーおよび説明会

目指せ！学生起業家

平成29年7月12日(水)



14:40~16:10

長岡大学 217 教室

参加費 無料
(申込必要)

● 起業家塾履修者は必ず参加してください。興味がある学生、高校生もぜひ参加してください。

第1部 起業家塾事前セミナー

「創業体験談」

てらしま みずひと

講師 寺嶋 瑞仁 氏

株式会社 CuboRex 代表取締役社長
長岡技術科学大学大学院修士課程1年



キューボード(電動スケボー)を開発！
小型輸送用機械や地上走行ロボットの製造・
販売を手掛ける会社を起業！

第2部 起業家塾説明会



「起業家塾の進め方について」

小松 俊樹 長岡大学教授(起業家塾担当)

8月7日(月)~8月10日(木)に、長岡大学で開講する「起業家塾」の説明になります。
起業家塾への参加申込や詳細内容については、別ポスター「起業家塾」をご覧ください。

申込締切：平成29年7月7日(金)

【申込方法】 電話・FAX・E-mail でお申込ください (FAX でのお申込は、別紙チラシをご使用ください)。

【申込先】 長岡大学教務学生課 TEL: 0258-39-1600 (代表) FAX: 0258-39-9566

E-mail: kyoumu-g@nagaokauniv.ac.jp

※個人情報は、本学規程に従って厳正に管理します。

図表4-7-3 各チームのビジネスプラン概要と審査結果

| | | |
|---|------------------|--|
| 事業名：長岡超野菜の生産 会社名：株式会社 Future | | ※最優秀賞 |
| 代表取締役社長, CEO | 星野 瑠惟 (長岡大学 2年) |  |
| 取締役副社長, CTO | 上脇 優人 (長岡技大 3年) | |
| 取締役, CMO | 江邊 莉里亜 (長岡大学 2年) | |
| 取締役, CFO | 丸山 夏生 (長岡大学 2年) | |
| コンセプト：超野菜～未来からの贈り物～ 対象顧客：25～40代女性、健康志向で美意識が高い人 提供価値：栄養価の高い野菜、実用的なギフト | | |
| 事業名：親子で楽しむ長岡歴史アプリ 会社名：長岡人本舗(株) | | ※優秀賞 |
| 社長 | 栗原 泰武 (長岡大学 3年) |  |
| 管理 | 渡邊 周三 (長岡大学 3年) | |
| 営業 | 小口 統為 (長岡大学 2年) | |
| コンセプト：開府400年を記念した親子で学べる歴史アプリ 対象顧客：長岡市の児童や親子、県外からのお客 提供価値：長岡の歴史、長岡が培ってきた精神 | | |
| 事業名：小国和紙のレインコートで地域活性化 会社名：Mulberry Works | | ※地域貢献賞 |
| 社長 | 小林 翼 (長岡大学 4年) |  |
| 雑務 | 佐藤 宥 (長岡大学 3年) | |
| 雑務使い | 田澤 未助 (長岡大学 3年) | |
| 社員 | 川上 麻里花 (長岡大学 2年) | |
| 社員 | 和田 芽生 (長岡大学 2年) | |
| コンセプト：小国和紙を使って長岡の地域活性化 対象顧客：20～40代女性、50～80代女性 提供価値：憂鬱な雨の日を楽しめる、オリジナルレインコート | | |
| 事業名：十日町野菜のブランド化 会社名：株式会社 YMD (やればできる松本ゼミ) | | ※地域貢献賞 |
| 社長 | 尾島 聡 (長岡大学 3年) |  |
| 総務部長 | 森本 拓也 (長岡大学 4年) | |
| 社員 | 安達 瞬一 (長岡大学 3年) | |
| 社員2 | 小笠原 駿志 (長岡大学 3年) | |
| コンセプト：あなたと十日町をつなぐ“十日町野菜” 対象顧客：十日町在住・出身者、こだわり野菜を扱う飲食店 提供価値：距離が近く安全・安心な野菜、自信と誇り | | |

| | | | |
|--|----------------|-----------|--------|
| 事業名：健康老人御用達～笑食動～（わらいしょくどう） | | 会社名：アーネスト | ※地域貢献賞 |
| 社長 | 大矢 裕雅（長岡大学3年） | | |
| 副社長 | 高橋 遼（長岡大学3年） | | |
| 社員 | 成田 翔馬（長岡大学3年） | | |
| 社員 | 伊藤 実永（長岡大学2年） | | |
| 社員 | 小柳 璃歩（長岡大学2年） | | |
| コンセプト：老人専門スポーツランド～笑食動～ 対象顧客：高齢者、おにぎりが食べたい人 提供価値：おもしろい健康づくり | | | |
| 事業名：検定にチャレンジ!!長岡花火カフェ | | 会社名：カタカナ社 | ※地域貢献賞 |
| 社長 | 江崎 広美（長岡大学3年） | | |
| 秘書 | 保科 レイナ（長岡大学3年） | | |
| 係長 | 新保 敦弘（長岡大学3年） | | |
| ケガ要員 | 那 旭（長岡大学3年） | | |
| コンセプト：感動のその先へ、行こう、長岡カフェ 対象顧客：観光客、検定好きな人、長岡花火に興味がある人 提供価値：長岡花火の知識、人との交流 | | | |
| 事業名：ご当地ボーカロイド「越後三姉妹」と行く、新潟観光ツアー | | 会社名：臈深 | ※地域貢献賞 |
| 代表取締役社長 | 菊地 紘基（長岡大学4年） | | |
| 代表取締役副社長 | 鹿島 大輝（長岡大学3年） | | |
| 労働組合大隊長 | 勝田 旭（長岡大学4年） | | |
| 社長直属参謀 | 呉 廸（長岡大学4年） | | |
| コンセプト：ご当地ボーカロイドの観光ガイド 対象顧客：ボーカロイドが好き、新潟観光をしたい 提供価値：ボーカロイドとの触れ合い、新潟観光 | | | |

図表 4-7-5 平成 29 年度ながおかアイ・コンの受賞状況

【起業アイデア】部門

★優秀賞：長岡“超”野菜の生産・販売
提案者・星野 瑠惟（2年）



★優秀賞：錦鯉カフェ
提案者・小口 統為（2年）



★優秀賞：親子で楽しむ長岡歴史アプリ
提案者・渡邊 周三（3年）



【いいね！アイデア】部門

★北越銀行賞：“長岡でよかった”ビデオづくり
提案者・Khurelbaatar Khaliun（4年）



★優秀賞：錦鯉ブームで地域活性化 in 山古志
提案者・高橋 広守（3年）



8 学生満足度調査／PROGの実施－教育⑧－

(1) 方針（申請時）

- ・学生満足度調査を全学生対象に毎年1月に、実施する。報告は3月。
- ・但し、実施の前に、満足度調査に意義・位置づけ、調査項目の見直し・検討を行う。FD／SD会議等で検討する。

(2) 目標（申請時）

- ・学生の大学生活に関する満足度等の調査を、毎年1月に実施し、次年度の教育改善等に役立てる。

(3) 平成25年度実績と評価

- ・平成26年1月に、ゼミを通じて、満足度調査（「第9回長岡大生の生活と大学についてのアンケート」）を実施した。回収率は85.8%（283人／330人）であった。
- ・アンケート集計結果は、平成26年3月に取りまとめ、公表した。
- ・この満足度調査については、当初、文部科学省のCOCアンケート項目を加える形で、実施する予定であったが、文部科学省からの調査項目が間に合わなかったため、平成25年度は、本学の調査項目のみで実施した。平成26年度は、両調査項目を統合して、実施することが望ましい。

(4) 平成26年度実績と評価

- ・8～10月FD研究会で調査項目を見直し、10月FD委員会で改定案を作成し、10月教授会にて調査票が決定した。
- ・平成27年1月に、ゼミを通じて満足度調査（「第10回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施した。回収率は85.9%（250人／291人）であった。
- ・アンケート集計結果は、平成27年3月に取りまとめ、公表した。
- ・平成27年度は、満足度調査に具体的な改善施策につながる詳細な設問項目を設け、実施することが望ましい。

(5) 平成27年度実績と評価

【実績】

下記の通り、学生満足度調査と学生の能力・資質評価手法であるPROGテストを実施した。

★学生満足度調査

- ・5～7月 FD部会で調査項目の見直しを行った（学修支援を目的とした施設の改善を実施するために、施設の改善点や施設に対する学生のニーズの把握を目的として、設問項目を見直した）。
- ・満足度調査票・・・見直し項目は以下の通り
「問4 長岡大学の施設に満足しているか⇒問4 自主的に勉強するために改善してほしい場所、どのように改善してほしいか」
「問5 諸施設で更に充実、整備して欲しいところ⇒議論しやすくするためにどのような設備、機能が必要か」
「XI d) 出身地に「ベトナム」を追加」。
- ・7月21日 第4回FD部会で改定案作成・承認
- ・9月～10月 大学運営会議に学生満足度調査票提出・検討

- ・ 1月 調査票配布、回収（各ゼミで実施）
- ・ 2月～3月 集計・分析・調査報告書作成
- ・ 4月以降 諸改善点の集約と改善

★PROGテスト＝学生の能力測定テスト

- ・ 4月30日 新1年生（107人）に、PROGテストを2限「キャンパスライフ入門」で実施。
- ・ 5月22日 集計結果の受け取り
- ・ 7月29日 結果説明会。第2回全体FD/SD会議でPROG運用方法の学生に対する説明報告と改善点等についての意見交換を行った（教員・職員向け）。
- ・ 1～2月 テスト実施（キャリア開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの最終2回で実施）。集計結果をもとにマンツーマン面談で学生と教員が伸ばす能力の目標を設定
- ・ 2月 FD／SD研究会で結果共有
- ・ 4月 結果の分析と結果をいかす施策の検討

【評価】

- ・ 5～7月にFD研究会で学生満足度調査の調査項目を見直し、10月大学運営会議の承認を経て調査票が決定した。
- ・ 平成28年1月に、ゼミを通じて、学生満足度調査（「第11回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施した。回収率は89.2%（1年～4年：290人/325人）で、前年度を4ポイント上回った。但し、目標の「90%以上」にわずかに届かなかった。学生の状況を把握するために、90%以上の回収率を目指したい。
- ・ 満足度調査の結果を踏まえ、学修時間を増やす取組、学生の能力・資質向上手法として、ラーニング・コモンズの設置と授業におけるAL導入の強化策を講じた。
- ・ 学生満足度調査の集計結果は、平成28年3月に取りまとめ、発表した。
- ・ PROGテスト（社会人基礎力等コンピテンシー向上測定テスト）を1～3年の全学生対象に実施した。回収率は92.7%（1年～3年：241人/260人）で、前年度8をポイント上回り、目標の「90%以上」を達成できた。
- ・ PROGテストは、その結果を学生個人に返却し、アカデミック・アドバイザー制度を通じて学生が社会人基礎力向上のための明確な目標を立てることができる仕組みとした。

（6）平成28年度実績と評価

【実績】

下記の通り、学生満足度調査と学生の能力・資質評価手法であるPROGテストを実施した。

★学生満足度調査

- ・ 各学生の情報を適切に把握し、改善に結びつけるため、ゼミを通じて満足度調査（「第12回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施した。
- ・ 4～11月 FD部会等で調査項目の見直しを行った（学修支援を目的とした施設の改善を実施するために、学修支援の強化を目的として平成28年度から全面的に開始したラーニング・コモンズの利用状況をはじめとし、学生の施設の利用状況や設備に関するニーズの把握を目的として、項目を見直した）。

・満足度調査票・・・見直し項目は以下の通り

「表紙」・・・COCロゴ⇒COC+ロゴ

趣旨等を上部記載文章と統合

提出先を地域連携研究センターA事務室⇒教務学生課

「I」・・・通学方法を「XI（1）あなた自身について」の質問項目に移動

「問2」・・・質問項目：長岡大学の施設（教室以外）に「総務課・入学課・留学生室・L
C1～4・2～3階学生ホール・教務学生課・資格取得支援センタ
ー・地域連携室・学生相談室・第3コンピュータ室・学生食堂前・
アリーナ」を追加

質問項目：「図書館」を1号館の枠から独立

「問3」・・・質問文：「1つだけでなく」を削除

「問4」・・・質問文：より学生が活用しやすくなるよう改善することを考えています。自
主的に勉強をするために、改善してほしい場所に○をつけてくださ
い。また、どのように改善して欲しいかも備考欄に記入してくださ
い⇒学生がより利用・活用しやすくなるよう改善することを考えて
います。改善してほしい場所に○をつけ、どのように改善して欲し
いかも記入してください

質問項目：改善してほしい場所を「問2質問項目にある長岡大学の施設（教
室以外）」と統一

「問5」・・・質問文：「自主的に勉強」を追加

質問項目：「設備や機能がどの程度必要か」を削除

設置を希望する場所について具体的記入から記号記入に変更

「問8e）」・質問項目：宿題⇒課題

「問10」・・・質問文：学友会の活動に参加していますか⇒学友会執行部や学内外のサーク
ル・同好会に所属していますか

選択肢：選択肢を学友会活動を問う3択から学友会執行部・大学内外サーク
ル・同好会にそれぞれ所属しているかを問うものに変更

「問11」・・・質問文：サークル・同好会に参加していますか⇒主に参加している所属サー
クル等への参加状況について

「問12」・・・質問文：主に参加している所属サークル等の活動状況をどう評価しています
か⇒学友会主催のイベント（民踊流し、球技大会等。ただし、学園
祭（悠久祭）は除く）に参加していますか

「問13」・・・質問文：主たる参加形態⇒主な参加形態として当てはまる

「問17」・・・選択肢：やりたいことが見つからない⇒現在やりたいことがない

選択肢：他の学科に移りたいを削除

選択肢：就職活動がうまく行かないと進学先が決められない⇒卒業後の進路
が不安だ

「問19」・・・質問文：入学時と比べて①どの程度伸びたか、各能力が②どの程度身につ
いたか⇒①現状評価と入学時と比べた②上昇程度

質問項目：①どの程度伸びたか②どの程度身についたか⇒①現状評価②上昇
程度

「問 20」 …… 質問文：答えてください⇒自己評価してください

質問項目：①どの程度伸びたか②どの程度身についたか⇒①現状評価②上昇
程度

「問 21」 …… 質問文：○を付けてください⇒○をつけ、自己評価してください

「XI（1）」・ 質問項目：通学方法を追加（「I」から移動）

選択肢：通学方法選択肢の乗用車⇒自動車、自転車・バイクを分離

「最終」 …… 「集計後、結果を報告します。」を削除

（※問番号等は平成 27 年度調査票の番号で、平成 28 年度調査票では変更となっております。）

- ・ 11 月 15 日 第 7 回 F D 部会で改定案を承認した。
- ・ 1 月 調査票配付、回収（各ゼミで実施）を行った。
- ・ 2 月 集計・分析・調査報告書作成を行った。
- ・ 3 月 8 日 第 6 回集中 F D / S D 会議で学生満足度調査の結果共有と意見交換を行った（調査票事前配付）。

★ P R O G テ ス ト = 学 生 の 能 力 測 定 テ ス ト

- ・ 4 月～5 月 1 年生（83 人）に P R O G テ ス ト 実 施 し た（平 成 28 年 4 月 28 日、5 月 5 日 2 限「キャンパスライフ入門」）。
- ・ 5 月 25 日 結果の受け取り。
- ・ 6 月 23 日 1 年生（82 人）に 梶 里 ア セ ッ ク が 結 果 説 明 会 を 実 施 し た（2 限「キャンパスライフ入門」）。
- ・ 6 月 P R O G テ ス ト の 結 果 を 学 生 に 配 付 し、結 果 を も と に ア カ デ ミ ッ ク ・ ア ド バ イ ザ ー 制 度 を 通 じ て 学 生 と 教 員 が 伸 ば す 能 力 の 目 標 設 定 を 行 っ た。
- ・ 1 月 1～3 年 生（277 人）に P R O G テ ス ト 実 施 し た（キ ャ リ ア 開 発 I・II-2・III-2 の 最 終 2 回）。
- ・ 2 月 15 日 第 5 回 全 体 F D / S D 会 議 で P R O G の 分 析 結 果 報 告 と そ の 活 用 方 法 に つ い て の 確 認 と 意 見 交 換 を 行 っ た。

【評価】

- ・ 平成 28 年度の学生満足度調査（第 12 回長岡大生の生活と大学に関する調査）を平成 29 年 1 月の後期第 14～15 回の全ゼミ（52）で、実施し、回収率は 95.7%（1 年～4 年：334 人/349 人）となり、目標の「90%以上」を達成した。
- ・ 満足度調査結果を第 6 回集中 F D / S D 会議で共有した。平成 29 年度に大学施設から授業等全般に渡る改善を行う。特に学修支援の強化のためラーニング・コモンズの利用状況を確認し、要望含め改善を図る。また、平成 29 年度調査項目に、アカデミック・アドバイザー制度の評価（面談等に満足しているか）を把握する設問を検討する。
- ・ 各学生のリテラシー・コンピテンシーの能力向上を把握する P R O G テ ス ト は、平成 29 年 1 月の 1～3 年生のキャリア開発の第 14・15 回授業で実施し、回収率は 98.2%（1 年～3 年：277 人/282 人）となり、目標の「90%以上」を達成した。
- ・ P R O G テ ス ト の 分 析 結 果 報 告 と そ の 活 用 方 法 に つ い て の 検 討 を 第 5 回 全 体 F D / S D 会 議 で

行った。平成 29 年度も同様に学生個人に結果を配付し、アカデミック・アドバイザー制度を通じて社会人基礎力向上のために目標設定を行う等、能力向上のための改善点を学生・大学側で共有する取組を継続する。

- ・学生の能力向上目標の達成方法、授業での教育方法の検討を行うとともに、PROGテスト以外の能力測定手法の検討も必要である。

(7) 平成 29 年度方針・目標

【方針】

- ・学生満足度調査／PROGテストの実施・・・COC事業への評価も含めた学生満足度調査と社会人基礎力テスト「PROG」を1～3年の全学生を対象に行い、次年度への改善点を把握する。

【目標】

- ・学生満足度等の調査・PROGテストを実施し、調査結果をふまえた授業、施設、COC事業の改善を行う。
- ・具体的手段は、次の通り。
 - a 各学生の情報を適切に把握し、改善に結びつけるため、ゼミを通じて満足度調査（「第 13 回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施する。回収率「95%以上」を達成する。
 - b 平成 28 年度の満足度調査の集計結果をもとに、大学施設から授業等全般に渡る改善を行う。特に平成 29 年度は、学修支援の強化を目的として設置したラーニング・commonsの利用状況を確認し、要望を踏まえた対策を実施する。
 - c 各学生の情報を適切に把握するために、PROGテストの回収率「95%以上」を達成する。
 - d PROGテストの結果を学生個人に配付し、アカデミック・アドバイザー制度を通じて社会人基礎力向上のために目標設定を行う等、能力向上のための改善点を学生・大学側で共有する取組を継続する。
 - e PROGテストや授業アンケートと満足度調査の調査内容の重複部分を確認し、調査票を見直す必要がある。調査項目に、アカデミック・アドバイザー制度の評価（面談等に満足しているか）を把握する設問を検討する。

(8) 平成 29 年度計画

平成 29 年度は、次のようなスケジュールで学生満足度調査、PROGテストを実施する。

★学生満足度調査

- ・ 6 月～10 月 FD部会・FD会議等でPROGテストや授業アンケートと満足度調査の調査内容の重複部分を確認し、調査票を見直す。
- ・ 11 月 満足度調査を完成する。
- ・ 12 月 調査票を印刷し、教務学生課で配付準備をする。
- ・ 1 月 ゼミで調査票配付、回収をする。提出先は教務学生課とする。
- ・ 2 月～3 月 集計・分析・調査報告書を作成し、教職員に配付する。
FD会議で結果を共有し、改善を行う。

★PROGテスト

- ・ 4月 1年生（新入編入生）を対象にオリエンテーション期間中にPROGテストを実施する。説明はFD部会長が行い、配付と回収は教務学生課で行う。
 - ・ 5月 結果が届いたら、ゼミを通じて学生に配付し、マンツーマン面談で学生と教員が伸ばす能力の目標を設定する。前年度1月に実施した2～4年生にも実施する。
 - ・ 1月 1～3年生を対象にキャリア開発の講義中（第14回・第15回）にPROGテストを実施する。配付と回収は教務学生課で行う。
 - ・ 2～3月 結果が届いたら、FD会議で分析と活用施策の検討をする。また、PROGテスト以外の能力測定手法の検討をする。
- ★ 平成30年度以降のポストCOCの満足度調査、PROGテストについて、施設・授業の改善や学生指導（能力向上方策）について、方針と成果をとりまとめて次年度に活かす方策をFD/SD活動として、とりまとめる。

（9）平成29年度の展開

- ・平成29年度は、下記の通り学生満足度調査と学生の能力・資質評価手法であるPROGテストを実施した。
 - a PROGテスト、授業アンケート、満足度調査の調査票の見直し
 - ・5月～10月・・・FD部会でPROGテスト、授業アンケート、満足度調査の調査内容を確認し、調査票を見直した。
 - b 学生満足度調査
 - ・各学生の情報を適切に把握し、改善に結びつけるため、ゼミナールを通じて満足度調査（「第13回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施した。
 - ・5～10月・・・FD部会で調査項目の見直しを行った。授業外学習時間を把握するために授業時間以外に学習した時間の回答項目の変更を行い、また、マンツーマン面談の満足度を確認するために新たに調査項目を追加した。
 - ・満足度調査票・・・見直し項目は以下の通り
「問8」…質問文：「授業時間以外に学習した時間」の後に「（課題や資格等の勉強時間も含む）」を追加。
選択肢：「1時間未満」⇒「0.5時間程度、1時間程度」
 - 「問17」…質問文：「マンツーマン面談で気兼ねなく話や相談ができましたか。」
選択肢：「そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない」
 - ・10月・・・第5回FD部会（10月5日）で改定案作成、第7回教務委員会（10月11日）で決定。
 - ・12～1月・・・各ゼミナールで調査票を配布、回収した（385人）。
 - ・2月・・・集計・分析・調査報告書を作成した。
 - ・3月・・・学生満足度調査票結果をFD会議（3月7日）で確認を行う。
 - ・4月以降・・・諸改善点の集約と改善を行う。

c PROGテスト＝学生の能力測定テスト

- ・ 4月・・・1年生と編入生（139人）にPROGテスト実施した（4月4日「オリエンテーション」）。4月28日集計結果が納品される。
- ・ 5月・・・PROGテストの結果を学生に配布し、アカデミック・アドバイザー制度を通じて学生と教員が伸ばす能力の目標設定を行った。
- ・ 1～2月・・・1～3年生（306人）にPROGテストを実施した（キャリア開発Ⅰ・Ⅱ-2・Ⅲ-2の最終2回で実施）。
- ・ 2～3月・・・集計結果が納品される。
- ・ 4月以降・・・結果の分析と結果を活かす施策の検討を行う。

(10) まとめ－成果と課題－

- ・ 平成29年度の学生満足度調査（第13回長岡大生の生活と大学に関する調査）を平成29年12月～平成30年1月の後期第14～15回の全ゼミナール（48）で、実施し、回収率は93.4%（1年～4年：385人/412人）を達成した。
- ・ 満足度調査をもとに、次年度に大学施設から授業等全般に渡る改善を行う。とくに、学修支援の強化をめざすラーニング・コモンズの利用状況を確認し、要望含め改善を図る。
- ・ 各学生のリテラシー・コンピテンシーの能力向上を把握するPROGテストは、平成30年1～2月の1～3年生のキャリア開発の第14・15回授業で実施し、回収率は94.4%（1年～3年：306人/324人）を達成した。
- ・ このPROGテスト結果を学生個人に返却し、アカデミック・アドバイザー制度を通じて社会人基礎力向上のために目標設定を行う等、能力向上のための改善点を学生・大学側で共有する取組を継続する。
- ・ 同時に、学生の能力向上目標の達成方法、授業での教育方法の検討を行うとともに、PROGテスト以外の能力測定手法の検討も行う必要もある。
- ・ 満足度調査やPROGテストなどのデータを全関係者が活用できる情報共有システムの導入も引き続き検討し、段階的にでも実現する、必要がある。

V <研究>における事業展開

9 「新潟・長岡地域事業承継」調査研究の実施－研究①－

(1) 方針（申請時）

- ・ 3 課題に対応した調査研究を行い、その成果を提言、報告書、シンポジウム等の形で、地域に還元する。
- ・ 地域課題に対応した調査研究として、「長岡地域産業競争力に関する調査研究（平成 25 年度）、「長岡地域<創造人材>の調査研究」（平成 26 年度）、「少子高齢化・人口減少の影響に関する調査研究」（平成 27 年度）、「ボランティア活動に関する調査研究」（平成 28 年度）を実施し、その成果を公開シンポジウムで公表して社会に還元するとともに、提言を行う。
- ・ また、地域課題研究会を開催し、その成果を講演会・公開シンポジウム等の形で、社会還元を行う。

(2) 目標（申請時）

- ・ 上記 4 研究を着実に実施し、シンポジウム等で社会還元を行う。

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・ 平成 25 年度は、「新潟・長岡地域産業（製造業等）競争力に関する調査研究」を実施した。県内製造業企業 820 社にアンケート調査を実施し（平成 25 年 9 月）、平成 25 年 11 月 22 日に公開シンポジウムを開催し（約 100 名参加）、地域産業の競争力向上の提案を行った。
- ・ 調査結果は一定に、参考になるものであった。

(4) 平成 26 年度実績と評価

- ・ 3 つの地域課題の 1 つの「産業活性化」課題に応える調査研究として、「新潟・長岡地域における<創造人材>に関する研究」を行った。
- ・ 主として、<創造人材>に関するアンケート調査を行った。新潟県内企業約 2000 社と長岡大学卒業生約 790 名を対象に、平成 26 年 8 月に行った。企業の回収率 7.7%、個人回収率 13.8%。
- ・ 創造人材＝「成果をあげるのに必要だと思う能力・資質」をとりまとめ、11 月 21 日にシンポジウム（2014 長岡大学地域連携研究センターシンポジウム）「企業競争力を支える<創造人材>の育成へ！－創造人材調査を中心にして－」を開催し、報告した。約 100 名の参加であった。
- ・ 活動の評価（まとめ・課題）・・・<創造人材>は十分ではない、とくに、新事業開発を推進する人材とは非常に不十分という状況であると思われる。企業競争力を高めるためには、<創造人材>をどう確保するかがポイントであり、今後、この点への問題提起を強める必要がある。

第 2 に、本学の社会人向け講座（イノベーション人材養成講座等）の組立てと講師陣の充実をこの調査結果を踏まえて、具体化する必要があること。

第 3 に、創造人材の養成という点では、さらに具体化して、とくに後継経営者、起業家の養成へと進む必要がある。

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】・7～8月・・・全国の1,741市区町村に対し、人口減少対策アンケート調査を実施した。8月末現在で543件の回答があり、回収率は31.2%であった。

- ・調査結果・集積を10月中に行った。
- ・2015長岡大学地域連携研究センターシンポジウム・・・11月20日(金)に長岡グランドホテルで、シンポジウム「人口減少時代と長岡地域活性化の方向ー長岡地方創生への視点ー」を開催した。本調査精勤者による結果報告(基調報告:長岡大学鯉江康正教授)をうけて、人口減少時代における長岡地域の創生・活性化をテーマに、活発なパネルディスカッションが行われた。約100名の市民、企業人等の参加をえて、盛況であった。
- ・シンポジウムの基調報告をベースに全体的な調査研究報告書『人口減少に関する全国市区町村アンケート調査結果』(150頁)をとりまとめ、ご回答いただいた市区町村に対し、送付し調査結果の報告とした(平成28年3月)。

【評価】まず、全国の市区町村の人口減少の実態と対策をまとめることができた。おそらく、全国初の調査と思われ、回答市区町村だけでなく、国、県にも報告書を送付し、参考にさせていただけるようにする予定である。

第2に、長岡地域においても地方創生の総合戦略が策定され地方創生・地域活性化が進みつつ現状において、人口問題の議論の参考資料とする。

第3に、さらに、次年度は引き続き、新潟県内・長岡地域の人口問題に取組み、地方創生に貢献する計画である。

(6) 平成 28 年度実績と評価

【実績】

a ボランティア調査研究会

- ・大学内の研究会準備会を5月10日(火)、5月17日(火)に開催。①アンケート調査の目的、②ボランティア調査研究会要綱の確認、③アンケート対象者の検討、④アンケート項目の検討、⑤アンケート調査方法の検討、⑥ボランティア調査研究会開催スケジュールを検討した。
- ・ボランティア調査研究会を6月17日(金)、6月27日(月)に開催。メンバーは、次の通り、長岡市、長岡市社会福祉協議会、NPO法人市民協働ネットワーク長岡のボランティア関係職員及び大学教職員とした。①ボランティア調査研究会要綱の確認、②アンケート目的・対象者・調査方法の確認、③アンケート項目の検討、④ボランティア連携フォーラム開催について協議を行った。
- ・ボランティア調査研究会メンバー(敬称略)

| | |
|--------------------|--------|
| 長岡市市民協働推進部市民協働課 | 安達 一啓 |
| 長岡市福祉保健部福祉総務課 | 内藤 藤樹 |
| 長岡市社会福祉協議会地域福祉課 | 宇佐美 信久 |
| NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 | 高橋 秀一 |

長岡大学教授 原田 誠司、長岡大学准教授 米山 宗久

b アンケート調査の実施

- ・計画通りアンケート調査票を7月に発送し、8月10日締切で回収した。8月～10月に集計・分析を行った。

c 2016長岡大学地域連携研究センターシンポジウム

- ・2016長岡大学地域連携研究センターシンポジウム『ボランティア活動で人の輪（和）をつくろう！』を、平成28年11月18日（金）午後に、新規オープンした長岡市社会福祉センターで開催した。約50名の参加を得て、基調報告を受け、活発な討論が繰り広げられた。

名 称：2016長岡大学地域連携研究センター・シンポジウム

テ ー マ：ボランティア活動で人の輪（和）をつくろう！

日 時：平成28年11月18日（金）14：00～16：30

会 場：長岡市社会福祉センター

基調報告：「ボランティア・NPO活動の現状と課題」長岡大学准教授 米山 宗久

パネルディスカッション：「ボランティア活動で人の輪をつくろう！」

パネリスト（敬称略）

長岡市社会福祉協議会ボランティアセンター 宇佐美 信久

NPO法人市民協働ネットワーク長岡 高橋 秀一

長岡傾聴ボランティアサークル 田所 典子

フードバンクにいがた長岡センター 山崎 一雄

長岡大学准教授 米山 宗久

【評価】

アンケートは、①長岡市内のボランティア団体（52団体）・NPO団体（73団体）の125団体を対象に組織・活動の現状・課題について伺い、②県内30の社会福祉協議会におけるボランティアセンター活動について、の2つを実施した。ボランティア・NPO団体は66件、回収率52.8%、社会福祉協議会は21件、回収率は70.0%であり、良好な結果であった。また、シンポジウムについては、新社会福祉センター（トモシア）が完成し、長岡市や社会福祉協議会と連携して地域連携研究センターシンポジウムを開催することが出来たことは大きな意義がある。

（7）平成29年度方針・目標

【方針】

- ・新潟・長岡地域＜事業承継＞調査研究の実施・・・前年度の事業承継アンケート調査（地域志向研究）の成果を受けて、事業所減少時代における産業活性化の最大の課題である「事業承継」をテーマに、アンケート調査等を実施した上で、シンポジウム（11月）を開催し、地方創生の産業面での一大課題である事業承継の方向性を提示したい。

【目標】

平成29年度は以下の調査・研究活動を実施する。

- a 全国の地域金融機関に対するアンケート調査を行い、円滑な事業承継に向けた方策・支援策の検討を行う。
- b 昨年度、本年度の調査研究を踏まえたシンポジウムを実施し、報告書を作成する。

(8) 平成 29 年度計画

次のスケジュールで、＜事業承継＞調査研究を行う。

- a アンケート調査（8～9月）
- b シンポジウムにて成果を公表する（11月17日（金））
- c 最終報告書を作成する（2月～3月）
- d 平成 30 年度以降のポスト C O C の地域課題対応の調査研究については、継続を前提に、数年間の取り組みテーマと主任研究者を決めて（長岡市、新潟県等の解決課題）、推進し、シンポジウムで公表・議論する方法でとりまとめる（長岡市等へのヒアリング・アンケート、本学教員へのアンケート等）。

(9) 平成 29 年度展開

- a アンケート調査
 - ・全国の地域金融機関（地方銀行・信用金庫・信用組合）における、取引先企業の事業承継に対する支援状況のアンケート調査は、地域志向教育研究で実施。
- b 2017 長岡大学地域連携研究センターシンポジウムⅡ（図表 5-9-1 を参照）
 - ・2017 長岡大学地域連携研究センターシンポジウムⅡ『事業承継と地域活性化の展望－長岡地方創生のさらなる前進へ②－』を平成 29 年 11 月 17 日（金）午後、ホテルニューオータニ長岡で開催した。企業関係者ら約 60 名が参加。基調報告を受け、事業を引き継がせた方、受け継いだ方、それらを支援する方による討論が繰り広げられた。

名 称：2017 長岡大学地域連携研究センターシンポジウムⅡ

テ マ：事業承継と地域活性化の展望－長岡地方創生のさらなる前進へ②－

日 時：平成 29 年 11 月 17 日（金）14：30～17：00

会 場：ホテルニューオータニ長岡 白鳥の間

基調報告：「事業承継と新潟・長岡地域活性化の方向」長岡大学准教授 栗井英大

パネルディスカッション：「事業承継と新潟・長岡地域活性化の展望

－長岡地方創生のさらなる前進へ②－」

パネリスト（敬称略）

| | |
|------------------------|-------|
| 関東経済産業局 産業部 中小企業金融課 課長 | 戸川 哲宏 |
| 公益財団法人にいがた産業創造機構 | |
| 新潟県事業引継ぎ支援センター 統括責任者 | 畠山 満 |
| 株式会社小西鍍金 技術顧問 | 小西 統雄 |
| まつや株式会社 代表取締役社長 | 松野 陽一 |
| デロイトトーマツ税理士法人 | |
| 上信越北陸地区統括パートナー（公認会計士） | 松浦 哲也 |
| コーディネーター 長岡大学准教授 | 栗井 英大 |

c 最終報告書

- ・今年度の地域志向教育研究ブックレットに掲載する。

d 平成 30 年度以降の地域課題対応調査研究



2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウムⅡ

「事業承継と地域活性化の展望 -長岡地方創生のさらなる前進へ②-」



(10) まとめ—成果と課題—

- ・平成 29 年 10～11 月中旬にかけて、全国の地域金融機関（地方銀行・信用金庫・信用組合）を対象に、取引先企業の事業承継への支援状況に関するアンケート調査を実施した。
- ・当初の予定通り、11 月にシンポジウムを開催した。参加人数は 60 名程で、興味のある様々な分野の方からご参加いただき、大変意義のあるシンポジウムとなった。
- ・シンポジウムの内容については、平成 30 年 11 月刊行予定の長岡大学地域連携研究センター年報に掲載する予定である。

図表5-9-1 地域金融機関における事業承継・M&A支援の実態に関する
アンケート調査票

地域金融機関における事業承継・M&A支援の実態に関するアンケート調査

I. 貴行・貴組織の概要について、お聞きします。

問1 貴行・貴組織の業態として、当てはまるもの1つに○を付けて下さい。

| | | | |
|---------|-----------|---------|---------|
| 1. 地方銀行 | 2. 第二地方銀行 | 3. 信用金庫 | 4. 信用組合 |
|---------|-----------|---------|---------|

問2 貴行・貴組織の国内店舗数（注）について、当てはまるもの1つに○を付けて下さい。

注：国内店舗数には、本支店・出張所を含み、海外拠点・無人店舗（ATMコーナーのみ）は含みません。

| | | | |
|------------|-------------|-------------|------------|
| 1. 1～10 | 2. 11～20 | 3. 21～40 | 4. 41～60 |
| 5. 61～80 | 6. 81～100 | 7. 101～120 | 8. 121～140 |
| 9. 141～160 | 10. 161～180 | 11. 181～200 | 12. 201以上 |

問3 貴行・貴組織の従業員数・職員数（注）について、当てはまるもの1つに○を付けて下さい。

注：正社員・パート・アルバイトを含みます。一方、経営者・役員、派遣・下請従業員等は含みません。

| | | | |
|---------------|-----------------|------------------|-------------|
| 1. 100人以下 | 2. 101～200人 | 3. 201～300人 | 4. 301～500人 |
| 5. 501～1,000人 | 6. 1,001～2,000人 | 7. 2,001人～3,000人 | 8. 3,001人以上 |

問4 5年前（2012/3期）と比べた、融資先数、経常利益、従業員数について、それぞれ最も当てはまるもの1つに○を付けて下さい。

| | 増加傾向 | 横ばい | 減少傾向 |
|----------|------|-----|------|
| (1) 融資先数 | 1 | 2 | 3 |
| (2) 経常利益 | 1 | 2 | 3 |
| (3) 従業員数 | 1 | 2 | 3 |

II. 事業承継・M&A支援の体制について、お聞きします。

問5 貴行・貴組織における事業承継・M&Aの専任担当者について、当てはまるもの1つに○を付けて下さい。

なお、担当者がある場合、その人員数をお書き下さい。（概算値で結構です。）

| | | | |
|----------------------|--------|---------|--------|
| ① 事業承継の専任担当者 | 1. いない | 2. いる ➡ | 人員数： 人 |
| ② M&Aの専任担当者 | 1. いない | 2. いる ➡ | 人員数： 人 |
| ③ 事業承継・M&Aの兼任担当者 | 1. いない | 2. いる ➡ | 人員数： 人 |
| ④ 他業務と事業承継・M&Aの兼任担当者 | 1. いない | 2. いる ➡ | 人員数： 人 |

問6 貴行・貴組織が、本部・営業店の担当者に行っている事業承継・M&Aに関する人材育成策について、当てはまるものいくつかでも○を付けて下さい。

| | | |
|--------------|----------------|----------------------|
| 1. 行員向け研修の実施 | 2. 外部機関への派遣・出向 | 3. 事業承継・M&A関連の資格取得奨励 |
| 4. 休日セミナーの実施 | 5. 関連通信講座の受講推奨 | 6. その他（ ） |

問7 貴行・貴組織の取引先の情報の中で、全店で統一して把握している項目を、当てはまるものいくつかでも○を付けて下さい。

| | | | |
|------------------|-------------|------------|-----------|
| 1. 社長（先代、以下同）の年齢 | 2. 社長の家族構成 | 3. 社長の相続税額 | 4. 後継者の有無 |
| 5. 後継者の氏名 | 6. 後継者の経営能力 | 7. 事業承継時期 | 8. 株主 |
| 9. 各株主の株式保有比率 | 10. 株式評価額 | 11. その他（ ） | |

問8 貴行・貴組織における事業承継・M&A支援の目標設定について、当てはまるもの1つに○を付けて下さい。

| | | | |
|-----------|--------------|---------------|----------|
| ① 本部の担当部署 | 1. 目標を設定している | 2. 目標を設定していない | 3. わからない |
| ② 営業店各店 | 1. 目標を設定している | 2. 目標を設定していない | 3. わからない |

※設問は裏面に続きます。引き続きご回答願います。

問9 貴行・貴組織が事業承継・M&Aの分野で連携している外部機関について、当てはまるものにいくつでも○を付けて下さい。

| | | | |
|------------------|--------------|-------------|---------------|
| 1. 税理士・公認会計士(法人) | 2. 弁護士(法人) | 3. 司法書士(法人) | 4. 中小企業診断士 |
| 5. 社会保険労務士(法人) | 6. 経営コンサルタント | 7. 他の金融機関 | 8. 事業引継支援センター |
| 9. 商工会議所・商工会 | 10. その他() | 11. 連携先はない | |

Ⅲ. 事業承継・M&A支援の現状について、お聞きします。

問10 貴行・貴組織における取引先の事業承継・M&A支援に対する考え方について、それぞれ当てはまるもの1つに○を付けて下さい。

| | 積極的 | やや積極的 | どちらともいえない | やや消極的 | 消極的 |
|--------------|-----|-------|-----------|-------|-----|
| (1) 事業承継 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (2) M&A (売り) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (3) M&A (買い) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問11 貴行・貴組織が取引先に対して実施している事業承継・M&A支援策について、当てはまるものにいくつでも○を付けて下さい。

| | | |
|-----------------|--------------------|-------------------|
| 1. セミナーの開催 | 2. 相談会の開催 | 3. 後継者向け勉強会の開催 |
| 4. 自社株評価の実施 | 5. 相続税の試算 | 6. 外部専門家(税理士等)の紹介 |
| 7. 事業承継コンサルティング | 8. M&Aのアドバイザー | 9. M&Aの外部組織への仲介 |
| 10. 制度融資等の提供 | 11. 運用商品(投資信託等)の提供 | 12. その他() |

問12 貴行・貴組織が事業承継・M&A支援を実施することによって、得られている成果、貴行・貴組織に生じているメリットについて、それぞれ当てはまるもの1つに○を付けて下さい。

| | 成果・メリットがある | ある程度成果・メリットがある | どちらともいえない | あまり成果・メリットはない | 成果・メリットはない |
|--------------|------------|----------------|-----------|---------------|------------|
| ①収益の獲得 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ②融資の増加 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③取引先の確保 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④与信管理 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤取引先との信頼関係維持 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問13 貴行・貴組織が事業承継・M&A支援策を実施する際に問題となっていることとして、当てはまるものにいくつでも○を付けて下さい。

| | | |
|-------------------|-------------------|------------------|
| 1. 事業承継支援のノウハウがない | 2. 関連知識のある従業員が少ない | 3. 手間がかかる |
| 4. 体制が整備されていない | 5. 職員・行員に苦手意識がある | 6. 対象先がない・分からない |
| 7. 収益につながりにくい | 8. 目標設定の難しさ | 9. 適当な相談先・連携先がない |
| 10. 予算に制約がある | 11. その他() | 12. 特になし |

◆最後に、貴行・貴組織について、お答え下さい。(社判の押印等でも結構です。)

なお、ご回答頂きました内容につきまして、ご連絡を差し上げる可能性がございます。

※ご記入いただいた個人情報、本調査事業に関わる目的にのみ使用し、他の目的には使用致しません。

| | |
|---------|--|
| 貴行・貴組織名 | |
| 部署名 | |
| 回答者名 | |
| 所在地 | |
| 電話番号 | |

～以上でアンケートは終了です。ご多忙の中、ご協力頂き誠にありがとうございました。～

ご記入いただいたアンケート用紙は、返信用封筒に入れてご返信下さい。

図表5-9-2 2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウムⅡ案内



学校法人 中越学園
長岡大学

長岡地域<創造人材>養成プログラム事業
=文部科学省「地(知)の拠点(COC)整備事業」(平成25~29年度) /
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成28~31年度)



文部科学省
地(知)の拠点

2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウムⅡ

事業承継と地域活性化の展望

—長岡地方創生のさらなる前進へ②—

長岡大学は、文部科学省「地(知)の拠点(COC)整備事業」(平成25~29年度)に採択され、平成28年度からは、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成28~31年度)に参加しております。

平成29年度は、地方創生推進事業の一環として、7月に「人口減少と長岡地域活性化の展望—長岡地方創生のさらなる前進へ—」を開催し、11月は、「事業承継と地域活性化の展望—地方創生のさらなる前進へ②—」を開催いたします。

現在の人口減少下では、<高い廃業率・低い開業率→企業・事業所の減少>傾向が続き、地域経済・雇用の大問題になって

おります。この傾向に歯止めをかけるには、事業承継と起業の促進による産業の活性化が不可欠です。本学では、平成28年度に事業承継問題を地域志向調査研究として実施し、平成29年度も継続して調査研究を展開しております。

当シンポジウムでは、この調査研究成果を報告するとともに、産学官の有識者の皆様方との議論により、新潟・長岡地域における事業承継活発化の方策・方向性を明確にしたいと考えます。

事業承継を推進されている皆様、またご関心をお持ちの皆様をはじめ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時
平成29年
11月17日(金)
14:30~17:00 *14:00~受付開始

会場
ホテルニューオータニ長岡
白鳥の間

**参加費
無料**

※会場に駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

主催 ● 長岡大学地域連携研究センター
後援 ● 長岡市、長岡商工会議所、公益財団法人にいがた産業創造機構、NPO法人長岡産業活性化協会、NAZE、小千谷商工会議所、見附商工会

お問い合わせ・お申込先
〒940-0828 長岡市御山町80-8
長岡大学地域連携研究センター 担当 小田原
TEL: 0258-39-1600(代)
0258-39-1902(直通)
e-mail: chiken@nagaokauniv.ac.jp

【総合司会】
長岡大学地域連携研究センター運営委員長/教授 …… 小松 俊樹

▶ 第1部 基調報告

事業承継と新潟・長岡地域活性化の方向
長岡大学准教授 …… 栗井 英大

▶ 第2部 パネルディスカッション

【テーマ】
事業承継と新潟・長岡地域活性化の展望
—長岡地方創生のさらなる前進へ②—

【パネリスト】
関東経済産業局 産業部 中小企業金融課 課長 …… 戸川 哲宏 氏
公益財団法人にいがた産業創造機構
新潟県事業引継ぎ支援センター 統括責任者 …… 畠山 満 氏
株式会社小西鍍金 技術顧問 …… 小西 統雄 氏
まつや株式会社 代表取締役 …… 松野 陽一 氏
デロイトトーマツ税理士法人
上信越北陸地区統括パートナー(公認会計士) …… 松浦 哲也 氏

【コーディネーター】
長岡大学准教授 …… 栗井 英大

お申込方法 電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込ください。FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信してください。
FAX: 0258-39-9566

| | | | |
|--------|---|-----|--|
| 氏名 | | 所属等 | |
| 住所・連絡先 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |

※ご記入いただいた個人情報、本学規定に従って厳正に管理します。

10 「新潟県内自治体の将来人口動向」調査研究の実施（継続）－研究②－

（1）方針（申請時）

- ・平成27年度実施予定の「少子高齢化・人口減少に関する調査研究」の準備作業を行う。

（2）目標（申請時）

- ・研究会等により、アンケート票作成等次年度に入り調査が可能となるような事前準備を行う。

（3）平成25年度実績と評価

- ・講演「長岡市の地域課題について」（長岡市市長政策室政策企画課課長補佐 上村健史氏）により、地域課題の認識を深めた（平成25年10月30日実施）。

（4）平成26年度実績と評価

- ・長岡地域人口問題研究会を設立し、調査研究の枠組みを検討した（メンバー：長岡市政策企画課、長岡商工会議所、ホクギン経済研究所＋本学7名）。
- ・研究会は、4回（11～3月まで）開催した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・以下を平成27年度の取組方向として確認できた。人口推計地区は県内市町村及び長岡市の11地域（合併前の旧市町村）を対象にする。人口減少による影響把握および地域活性化策の個別研究（地域経済への影響分析、大学・専門学校卒業後の就職意識、子育て世代の地域居住に対する意識、食料品店の店舗数を用いた地域の利便性等）を行う。

（5）平成27年度実績と評価

【実績】

- ・全国の市区町村を対象に「人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査」を平成27年7月～8月にかけて実施した。
- ・その結果を、11月に実施したシンポジウム「人口減少時代と長岡地域活性化の方向性」および平成28年3月に「人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査 報告書」（150頁）をとりまとめ、ご回答いただいた市区町村および商工会議所等関連機関に送付し、調査結果の報告とした。

【評価】

アンケートの結果、以下のことが明らかとなった。詳細については上記報告書を参照されたい。

- ・人口が増加している市区町村の増加要因を探ると、人口規模別に要因に違いがあることがわかった。具体的には、小さな自治体では農地の有効転換や子育て支援、規模が大きくなるに従って商業や工業の産業振興の正否、更に大規模都市になれば環境や文化・歴史などの重要性が増すようである。
- ・人口減少の影響はほとんどの市区町村でマイナスの影響があるという結果が得られた。現在顕在化している人口減少の影響としては、日常生活における不便さの増加が顕著な影響として現れている。今後重大な問題になると予想される問題としては、地域経済の維持管理が懸

念される影響としてあがっている。

- ・多くの自治体が様々な対策を講じているにもかかわらず成果はそれ程実感できていないようである。「子どもの医療費助成」や「移住に興味がある方や希望される方への、住まいや雇用の情報等の発信」の効果が上がっているという意見もあるが、地域の実情を踏まえた上での対策の検討が必要であろう。

(6) 平成 28 年度実績と評価

【実績】

- ・「平成 28 年度計画」にしたがって作業を進め、3月に「人口減少が新潟県内市町村に及ぼす影響分析」を発行した。

【評価】

・人口減少が新潟県内市町村の就業者数・従業者数・域内総生産・域民所得に及ぼす影響を、新潟県内市町村モデルを構築して、平成 37 年（2025 年）まで予測した。詳細な報告は「人口減少が新潟県内市町村に及ぼす影響分析」を参照されたい。

モデルによる予測の結果、以下の結論を得ることができた。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、全市町村で人口は減少することになる。それをもとに就業者数、従業者数、域内総生産、域民所得を予測するので、結果はかなり厳しいものになっている。とりわけ人口減少が著しい市町村では、就業者数や従業者数が大幅に減少することによって域内総生産が減少し、さらに就業者数が減少してしまうという負のスパイラルに陥る傾向が強い。

ただし、本調査研究の予測は、時系列データを用いた地域計量経済モデルによるものであり、いわば、現状の対策以上の対策は行われないうような仮定でのものである。過去の推移をみる限り県内市町村は生産性を伸ばしてきており、一定の成果は見られているが、このままでは生産性の上昇による地域の成長は限界にきているとも言える。高付加価値化はもちろん重要であり、それを否定するつもりはないが、そこには限界を感じざるを得ない。その点からも、人口の自然減を少しでも抑え、魅力的な雇用の場を確保し社会減のマイナスを減らす抜本的対策の検討が望まれるところである。

これを受けて、次年度は人口対策に関するシンポジウムを開催する予定である。

(7) 平成 29 年度方針・目標

【方針】

- ・新潟県内自治体の将来人口動向研究の実施・・・平成 28 年度の将来人口動向調査研究の成果を<人口減少と地方創生>をテーマにしたシンポジウムで発表し（7月）、今後の新潟・長岡地域の創生・活性化の課題・展望を議論する。

【目標】

長岡市は11の市町村で合併し現在27万5千人（平成27年国勢調査）となっているが、旧市町村人口は1千人（旧、山古志村）から19万人（旧、長岡市）とさまざまである。そのような状況下において、一律な人口減少対策では人口減少問題を克服することは難しい。

また、長岡市の将来人口は減少することが予測され、その結果、従業者数の減少により、市内総生産も今後は減少することが予測される。これまでは生産性の上昇により、従業者の減少を補う形で緩やかに成長してきたが、今後はそれも難しくなるであろう。

このような人口や生産の減少に対して、新潟・長岡地域の人口減少対策のあり方、産業振興や雇用機会拡大への方策を、シンポジウムを通して検討し地域活性化の方向性を探っていく。

（8）平成29年度計画

- ・シンポジウムの実施計画の検討（4月）
- ・人口減少対策や人口減少による社会経済への影響要因の分析（5～6月）
- ・シンポジウムの開催（7月）
- ・シンポジウムの結果の整理（8月～12月）
- ・とりまとめ（1月～2月）
- ・平成30年度以降のポストCO2の地域課題解明調査研究については、上記の10の今後の方向と同じ。

（9）平成29年度の展開

- ・人口減少対策や人口減少による社会経済への影響分析については、「人口減少時代と長岡地域活性化の方向」と題した調査研究成果を、長岡大学地域連携研究センター年報『地域連携研究』第4号《通巻27号》／2017（p.93～p.138）において発表した。
- ・2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウム・・・平成29年7月7日（金）に長岡グランドホテルで、シンポジウム「人口減少と長岡地域活性化の展望－長岡地方創生のさらなる前進へー」を開催した。上記、調査研究成果に基づいた基調報告をうけて、「人口減少時代における長岡地域の創生＝多様なイノベーション・雇用機会拡大へのさらなる前進へー」をテーマに、活発なパネルディスカッションが行われた。約120名の市民・企業人・行政担当者等の参加がえられた。 ※同シンポジウムの案内は図表5-10-1を参照されたい。

2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウムⅠ

「人口減少と長岡地域活性化の展望－長岡地方創生のさらなる前進へー」



基調報告



パネルディスカッション



パネルディスカッション

(10) まとめ—成果と課題—

- ・COC事業の補助金を活用して、2つの調査研究「人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査」および「人口減少が新潟県内市町村に及ぼす影響分析」を実施できたことは、長岡地域及び新潟県内市町村の人口減少問題を考えるうえで、貴重な基礎資料を提供できたと考えている。
 - ・また、それをもとに平成29年度はシンポジウムを実施し、人口減少社会においては以下の視点が重要との議論がなされた。
 - ① 個別企業の生産性と地域全体の豊かさを考えていく必要があること
 - ② 歴史・文化を含めたトータルな魅力づくりが中越地域の中心都市としてのポイントであること
 - ③ 情報発信ができれば、長岡は東京よりも好立地条件にあること
 - ④ 情報発信のためには経営の五大要素（戦う市場、独創性、独自資源、顧客価値、メッセージ）に取り組む必要があること
 - ⑤ 魅力的な仕事の間が若者を引き付け、定着させることにつながる。そのためには学生を中心とした若者から見た長岡の魅力の調査や、学生と企業を近づける場づくりが重要なこと
 - ⑥ 若者が起業しやすく活動しやすい、長岡の中心市街地を目指すことが必要なこと
- ※これらの詳細については、長岡大学地域連携研究センター年報『地域連携研究』第4号《通巻27号》/2017の特集2（p.17～p.36）を参照されたい。
- ・今後の課題としては、今後実施される多くの人口減少対策、地方創生への取り組みや3大学1高専の共同事業について、その成果を評価し課題を抽出して、さらに前進する仕組みを構築していくことが挙げられる。

図表5-10-1 2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウム案内



学校法人 中越学園
長岡大学

文部科学省「地(知)の拠点(COC)整備事業」(平成25～29年度) / 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成28～31年度) =長岡地域<創造人材>養成プログラム事業



文部科学省
地(知)の拠点

2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウム

人口減少と長岡地域活性化の展望

ー長岡地方創生のさらなる前進へー

長岡大学地域連携研究センター

長岡大学は、本学申請の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、文部科学省「地(知)の拠点(COC)整備事業」(平成25～29年度)に採択されましたが、平成28年度からは文部科学省の指示により、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成28～31年度)に参加しております。平成29年度はCOC事業の最終年度であり、COC+事業としては2年度目になります。

そこで、地方創生3年目の今年度はさらなる地方創生前進=イノベーションの観点から、「人口減少と長岡地域活性化の展望-長岡地方創生のさらなる前進へ-」のテーマで、来る7月に、下記のシンポジウムを開催することとしました。

本学は、平成27年11月に、「人口減少時代と長岡地域活性化の方向-長岡地方創生への視点-」をテーマに、地域連携研究センターシンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムは、前回シンポジウム時に発表した「人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査」結果に、「人口減少が新潟県内市町村に及ぼす影響分析」を新たに加えて、新潟県内自治体の人口減少とその影響分析を本学から報告し、地方創生を推進している各界の方々と、人口減少下における県内自治体の地域活性化の展望を議論することにより、新潟・長岡地域の地方創生=多様なイノベーション・雇用機会拡大へのさらなる前進を図ろうとするものです。

長岡地域の地方創生を推進されている皆様、地方創生に関心をお持ちの皆様をはじめ、多くの皆様の参加をお待ちしております。

平成29年

日時 **7/7 金**

14:30~17:00
※14:00~受付開始

会場 **長岡グランドホテル
(悠久の間)**

参加費 **無料**

- 主催 長岡大学地域連携研究センター
- 後援 長岡市、長岡商工会議所、
財団法人にいがた産業創造機構、
NPO法人長岡産業活性化協会NAZE

お申し込み方法

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信して下さい。

FAX:0258-39-9566

第1部 基調報告

「人口減少と長岡地域活性化の方向」

長岡大学副学長/教授……………**鯉江 康正**

第2部 パネルディスカッション

テーマ **「人口減少と長岡地域活性化の展望
ー長岡地方創生のさらなる前進へー」**

- 〈パネリスト〉……………
- 長岡市イノベーション推進監……………**金子 淳一 氏**
 - 株式会社システムスクエア代表取締役……………**山田 清貴 氏**
 - 長岡商工会議所専務理事……………**山村 雅隆 氏**
 - にいがた産業創造機構経営支援グループディレクター……………**目黒 正義 氏**
 - 長岡大学副学長/教授……………**鯉江 康正**
 - 〈コーディネーター〉……………
 - 長岡大学/教授……………**原田 誠司**

(お問合せ・お申込先)

長岡大学地域連携研究センター 担当 小田原・山田
〒940-0828 長岡市御山町80-8

TEL:0258-39-1600(代) FAX:0258-39-9566

E-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

| | | | |
|--------|---|-------|--|
| 氏名 | | 所属等 | |
| 住所・連絡先 | 〒 | | |
| 電話番号 | | F A X | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

1 1 地域との共同研究（地域志向教育研究）－研究③－

（1）方針（申請時）

- ・上記の4地域課題研究以外に、地域志向教育研究（毎年5～6名教員参加）を推進する。

（2）目標（目標）

- ・平成25年度の教員の地域志向教育研究は5件、参加教員5名程度とする。テーマは、自治体環境報告書分析、中小企業承継計画、公共施設の老朽対策など。
- ・平成29年度は、年間6件、参加教員10名程度の地域志向教育研究をめざす。

（3）平成25年度実績と評価

- ・「地域志向教育研究の手引」を作成し、10月から、5名（件）の申請を公募した（対象教員＝常勤教員、1件当たり50万円、予算総額は2,500千円）。
- ・平成25年10月30日に、次の5名（件）を地域志向教育研究経費として選考した。経費総額は、5件、1,760千円（予算は2,500千円）。
 - a 「長岡市区域公共施設ビンテージのGISを活用したデータ分析」内藤敏樹、104千円
 - b 「新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状を探るための予備調査」西俣先子、404千円
 - c 「地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究－北越紀州製紙のケース－」松本和明、300千円
 - d 「中越地域の企業系譜と産業系譜作り」権 五景、452千円
 - e 「『ながおかバル街』による中心市街地・店舗活性化の研究」中村大輔、500千円
- ・3月に成果報告を受けたが、時間不足で、中間とりまとめのレベルにとどまった。次年度も継続して、成果をとりまとめる必要がある。

（4）平成26年度実績と評価

- ・平成26年度は、8件・人の地域志向調査研究を、申請経費を予算枠に収めることを条件に、採択した。
- ・平成25年度の地域志向調査研究成果発表会を9月に開催した（平成25年度は研究期間が半年であったため成果発表ができなかったため）。
- ・平成26年度の地域志向調査研究成果発表会は3月に開催した。
- ・平成26年度の地域志向教育研究報告書を『長岡大学 地域志向教育研究ブックレット』（ISSN登録予定）シリーズとして、5件・人（各200部印刷）刊行し、各界に配布した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・平成26年度の取組件数が8件・人になり、前年度から増加したことは、望ましい成果であった。また、成果発表会を開催し、平成26年度の成果をブックレットとして5件・人が原稿化し、刊行できたことは、成果を地域に提供・公開する上で、大きな貢献となる。第3に、テーマについては、今後は、より地域で解決が望まれる課題について、取り組む方法を検討する必要がある。それにより、地域の産官学連携をさらに促進することに貢献できる。

(5) 平成 27 年度実績と評価

- ・平成 27 年度は、7 件・人の地域志向調査研究を、申請経費を予算枠に収めることを条件に、を採択した。結果は、25 万円／件であった。
- ・平成 27 年度の地域志向調査研究中間報告会を 12 月 9 日（水）、成果発表会を平成 28 年 3 月 2 日に開催した。成果発表会での外部からの参加者は 2 名にとどまった。
- ・平成 27 年度の地域志向教育研究報告書（成果発表会発表報告）を『平成 27 年度長岡大学地域志向教育研究報告書』としてまとめた。また、平成 27 年度長岡大学地域志向教育研究ブックレット vol. 1 『新潟・長岡地域の産業界・起業における人材ニーズ等の現状と課題』（原田誠司）、vol. 2 『地域企業の経営発展と成長および企業者活動の研究—桜井督三と北越製紙の経営再建—』（松本和明）の 2 冊を刊行し（ISSN 登録、各 200 部印刷）、各界に配布した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・平成 27 年度の取組件数が 7 件・人になり、前年度から 1 件減であった。また、中間報告会、成果発表会を開催することができた。

しかし、ブックレットとして刊行できたのは、2 件・人であり、他の 5 件は次年度に継続となった。次年度は、申請研究はすべて、ブックレットとして刊行し、公開できるようにする必要があろう。

第 3 に、平成 28 年度から本学も COC+ に参加するが、COC+ には地域志向教育研究経費は計上されていない。本学は地域志向教育研究を継続できるので、より地域で解決が望まれる課題に取組み、COC 事業の残り 2 年間に成果をあげることを目指す必要がある。

(6) 平成 28 年度実績と評価

- ・平成 28 年度は、6 件・人の地域志向調査研究を、申請経費を予算枠に収めることを条件に採択した。
- ・平成 28 年度の地域志向教育研究中間報告会を 12 月 14 日（水）、成果発表会を平成 29 年 2 月 22 日（水）に開催した。成果発表会での外部からの参加者は 4 名であった。
- また、成果報告書として、平成 28 年度長岡大学地域志向教育研究ブックレット vol. 1 『長岡市域製造業における原価計算・管理会計に関する調査』（中村大輔）、vol. 2 『新潟における戦争の記憶 — 記憶を記録へ 記録を理念へ —』（児嶋俊郎）の 2 冊を刊行し（ISSN 登録、vol. 1 300 部、vol. 2 50 部印刷）、各界に配布した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・平成 28 年度の取組件数が 6 件・人になり、前年度から 1 件減であった。また、中間報告会、成果発表会を開催した。
- ・ブックレットとして刊行できたのは、2 件・人であり、他の 4 名は、平成 28 年度に成果を公開できなかった研究テーマについて平成 29 年度、以下の通り成果報告書をまとめた。

米山宗久「家庭機能の低下による子育て意識の考察 — 鉄道玩具」プラレール」遊びの利用者アンケートより—」

山川智子「新潟県地域の温泉の特色及び地域資源の活用方法 — 観光と健康の面から：平成 27～28 年度地域志向研究活動報告—」『長岡大学研究論叢』第 15 号

栗井英大「新潟県内企業の事業継承の実態に関するアンケート調査報告書」、長岡大学地域連携研究センターシンポジウムⅡ「事業承継と地域活性化の展望」

（7）平成 29 年度方針・目標

【方針】

- ・地域志向教育研究の実施・・・実施要領にもとづき本学常勤教員への公募を早期に実施し（5月）、5件程度を採択する。中間発表（10月）を経て、2月に成果発表を行う。成果論文等は、地域連携研究センター研究年報等に掲載する。

【目標】

- ・平成 28 年度の調査研究を継続して成果をとりまとめるとともに、前年度以上の調査研究件数・内容をめざす。
- ・成果発表の方法（報告会・成果発表会、ブックレットの刊行）も前年度と同様に行う。

（8）平成 29 年度計画

- ・4月18日（火）（第1回COC推進本部会議）に「平成 29 年度長岡大学「地域志向教育研究」の推進について（改訂版）」（平成 29 年 4 月 18 日、学長）に則り、公募を開始した（締切：5月9日）。

＊公募件数は、5～10件、研究経費上限は50万円/件

- ・平成 29 年度地域志向教育研究経費の申請が応募件数を上回る場合は選考を行い、採択決定を行う。
- ・11～12月に、同上調査研究の中間報告会を開催し、中間点検を行う。
- ・2～3月に、成果発表会を開催する。
- ・3月に、研究報告をとりまとめる。
- ・平成 30 年度以降のポストCOCの地域志向教育研究については、＜推進指針＞の改訂を図り、継続する方向で検討する。

（9）平成 29 年度の展開

- ・平成 29 年度地域志向教育研究課題は図表 5－11－1 に示す 4 人・件に決定した。

図表 5－11－1 平成 29 年度地域志向教育研究一覧

| 教員名 | 調査研究課題 | 予算額（円） |
|-------|--|-----------|
| 原田 誠司 | 長岡地域経済・産業の現状と活性化方策等に関する基礎調査 | 325,000 |
| 栗井 英大 | 県内外における中小企業の事業承継の支援体制と課題 | 323,550 |
| 松本 和明 | 福島甲子三の企業者活動と地域・社会貢献活動の研究 －長岡地域の「地方創生」に向けてのインプリケーションの析出－ | 300,000 |
| 児嶋 俊郎 | 戦時体験の記録と集積－新潟県内を中心に | 267,052 |
| 合 計 | | 1,215,602 |

- ・ <地域志向教育研究>中間報告会・・・中間報告会を、平成29年12月13日（水）14：40～、226教室で開催した。4名の教員が順次、中間発表を行った。
- ・平成29年度<地域志向教育研究>成果発表会・・・平成29年度成果発表会を次の通り開催した。外部からの参加者は5名であった。

日 時：平成30年2月7日（水）13：30～15：30

会 場：長岡大学226教室

発表者：原田誠司、栗井英大、松本和明、兒嶋俊郎

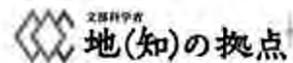
発表方法：発表14分+質疑10分+交代1分（計25分）の時間配分で行った。

(10) まとめ—成果と課題—

- ・平成29年度の地域志向教育研究の採択件数は4人・件で、前年度から2名・件減となったが、個々のテーマ・取組みは意欲的で教員の地域志向教育研究の意欲が衰えたわけではない。地域経済の現状調査、事業承継の支援、長岡創生への提言など新潟・長岡地域の課題解明を目指し、今後も継続が期待される。
- ・平成29年度の成果については、3名（原田、栗井、松本）が研究の成果を「地域志向教育研究ブックレット」として刊行し、1名（兒嶋）については成果報告書を作成した。今後、他の発表方法（論叢、地域連携研究センター年報）も活用して研究成果の公開を進める。
- ・今年度でCOCは終了するが、今後も継続し地域志向教育研究を続けて行く。



図表 5 - 1 1 - 2 平成 29 年度<地域志向教育研究>成果発表会



長岡大学COC+事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム

平成 29 年度<地域志向教育研究>成果発表会

日 時： 平成 30 年 2 月 7 日(水) 13:30~15:30

会 場： 長岡大学 226 教室

<<< 次 第 >>>

総合司会

地域連携研究センター運営委員 鈴木 章浩

☆はじめにー地域志向教育研究についてー……………村山 光博 13:30~13:40

① 「長岡地域経済・産業の現状と活性化の
方策等に関する基礎調査」……………原田 誠司 13:40~14:05

② 「県内外における中小企業の事業承継の支援体制と課題」……………栗井 英大 14:05~14:30

③ 「福島甲子三の企業者活動と地域・社会貢献活動の研究
ー長岡地域の「地方創生」に向けての
インプリケーションの析出ー……………松本 和明 14:30~14:55

④ 「戦時体験の記録と集積ー新潟県内を中心にー」……………児嶋 俊郎 14:55~15:20

(参考) 発表時間について

1 課題につき、発表 14 分+質疑 10 分+交代 1 分 (計 25 分)

| | | |
|-----|-------------|---------|
| 1 鈴 | 発表終了 2 分前 | 12 分経過時 |
| 2 鈴 | 発表終了 (質疑開始) | 14 分経過時 |
| 3 鈴 | 質疑終了 | 24 分経過時 |

VI <社会貢献>における事業展開

1 2 高齢化・人口減社会における地域活性化の推進―社会貢献①―

(1) 方針（申請時）

- ・高齢化・人口減少社会における地域・コミュニティの衰退状況の防止、再生のため、①まず本学所在の悠久山地区の活性化、②市内他地域（越路、山古志、栃尾等）の活性化にむけた活動に取り組む。
- ・方法―上記研究成果の具体化の上に立ち、市活性化組織や他地域との連携・ネットワーク形成を追求する。

(2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→地域活性化の取組を「地域活性化研究会」を立ち上げて検討し、取組方針（本学の教育、大学の役割）を策定する。
- ・平成 29 年度→悠久山地区、東山地区での活性化の取組成果を確認できるレベルまで進める。また、中山間地（山古志、栃尾地区等）も含めて市内地区の活性化ネットワークづくりのめどをつける。

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・実績―地域元気フォーラム（2月、100名参加）、悠久山・東山フォーラム（3月、70名参加）を開催し、次年度以降の地域活性化に向けた重要な一歩となった。長岡地域の地域活性化やボランティア活動の諸計画の取りまとめもできた。
- ・評価―悠久山・東山フォーラムなどで地域住民（団体）との連携が可能になり、次年度の地域活性化の方向が見えてきた。

(4) 平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度の地域活性化活動は「栖吉・東山地区の調査とそれに基づく地域マップづくり」をめざして、多様な活動を展開した。まず、悠久山地域の暮らし現状調査実施（栖吉コミュニティセンター主催のお茶の間に参加して高齢者のくらしの実態把握、栖吉地区高齢者を対象に買い物動向アンケート実施・高齢者と一緒に買い物実施、地域マップ作成のための地域ヒアリング等）、地域住民・学生共同の栖吉・東山地区魅力再発見のバスツアー、住民・学生共同の東山・悠久山地区マップづくりなど一連の活動を行った。
- ・その上で、東山・悠久山マップの完成報告を兼ねて、第2回悠久山・東山フォーラム（3月、60名参加）を開催し、マップの活用と地域の魅力アップの方向を議論した。
 - *なお、マップは、「栖吉おもひでMAP」(5,000部作成)、「悠久山おもひでMAP」(10,000部作成)、「東山自然体験マップ」(長岡造形大生がデザイン、10,000部作成)の3種類作成し、地域の全世帯に配布した。
- ・活動評価（まとめ・課題）・・・まず、当初の目標である栖吉・東山地区の調査とそれに基づく地域マップづくりを完遂することができた。地図作りに積極的に参加していただいた住民の方々には、「住んでいても気づかなかった」という言葉が何度も聞かれ、発見があったと推測する。こうして制作されたマップが地域だけでなく全市的に配布され、当該地域の認知度

が高まり、来場者が増加すればさらに喜ばしい。

第2に、地域住民と大学生とが協働して事業を行うことで、長岡大学を身近に感じてもらうきっかけになった。また昨年度から2回にわたるフォーラムは、長岡大学に足を踏み入れる機会にもなり、実際にまちの駅として利用する住民も出てきた。地域に根差した大学のイメージを作り上げる一歩が踏み出された。

第3に、こうした活動を通じて、活動を担う学生ボランティア組織づくりにつながってほしい。

(5) 平成 27 年度実績と評価

- 【実績】**
- ・ 栖吉地区の空き家調査を行って「高齢者の買い物支援の地域交流拠点」として活用の可能性を導き出した。また交流会（お茶の間：コミュニティセンター主催）への参加などを通して信頼関係を築いた。
 - ・ 栖吉地区子ども支援として栖吉児童館を中心とした子育て支援の必要性を学修し、次年度への課題を発見できた。
 - ・ 栖吉地区の住民と学生の交流会（七夕交流会、クリスマス交流会、健康麻雀交流会）や山通地区内の福祉施設利用者（ボランティア交流会、福祉施設利用者交流会）と学生の交流を開催した。
 - ・ 平成 26 年度に作成したマップを活用した栖吉地区内の散策を開催した。空き家調査においてもマップを活用した。
 - ・ 平成 27 年 10 月 24 日の長岡大学・悠久祭のイベントとして、「長岡市東部地域の活性化に向けて」をテーマにした東部地域活性化シンポジウムを開催した。当日は、約 50 名の方の参加をえて、活発な討論がかわされた。
 - ・ 第3回悠久山・東山地区フォーラムを前年度に引き続き、3月5日（土）地域交流ホールにて、開催した。当日は地域住民の方々を中心に、約 50 名の方の参加を得て、活性化の方向について、活発な議論がたたかわされた。
- 【評価】**
- ・ 地域交流会などを通じて、長岡大学と地域（主に地元である栖吉地区）が協働してできるものを探った。大学側が提供できる「情報」を伝えるだけのものについては参加率も高い実績が残ったが、自ら参加するものについては、参加数が限られている。
 - ・ 年間通して、地域－大学（教育）の交流・連携のあり方を探ってきた。個々の催物はそれなりに成果をあげたといえる。その先の交流・連携のテーマ、方法をよく検討して、地域－大学（教育）が Win-Win の関係になるように、方向性を具体化する必要がある。次年度のボランティア活動や地域志向教育研究などの中身を検討して、有効な方策を見つけ出す必要がある。

(6) 平成 28 年度実績と評価

【実績】

- ・山通地区の高齢者実態調査について、5月20日、米山准教授より山通福祉会会長及び山通地区コミュニティセンター主事に、高齢者実態調査の趣旨説明を行った。民生委員や地域の福祉委員が中心となって高齢者実態を把握しており、新たな調査は必要ないとのことであった。実態把握から一人暮らし高齢者への買い物支援サービスを新たに創設した。
- ・栖吉・山通地区子ども支援については、8月～9月の間にボランティア体験を行った学生20名（米山准教授の呼びかけに応えた）が、10月以降も児童館の行事（クリスマス会、雪合戦大会など）に自主的に参加して、子ども達の成長に貢献できた。
- ・健康マージャンは本学麻雀部学生（14名）が中心になり、7月2日は栖吉コミュニティセンター、10月29、30日は本学悠久祭で健康マージャンを実施した。多くの地域住民が来場し、交流を行った。
- ・健康と生きがいについては、長寿健康教室「だんだん」（まちだ園：山通地区）が9回実施され、サポート役としてほぼ毎回学生が数名参加した。参加学生は合計約20名だった。
- ・本学写真部学生（6名）が栖吉コミュニティセンターや山通コミュニティセンターの行事に参加して、奉納相撲大会、町内秋祭り、自転車ロードレースなどの地域の活動写真の撮影を行った。写真は、悠久祭や悠久山・東山フォーラムで展示した。
- ・マップ活用イベントについては、5月21日に米山准教授が山通地区ウォーキングに参加し、本学作成の栖吉・悠久山マップの活用などを紹介した。参加者は地域住民30名だった。6月4日の栖吉地区ウォーキングでも、本学作成のマップを活用していただいた。
- ・悠久祭の一環として、ボランティア・フォーラムを開催した。ここでは、ボランティア体験学生（43名）の代表者発表を受けて、ボランティア受入先の方、会場の参加者から意見をいただき、活発な議論が展開された。最後に長岡市社会福祉協議会、市民協働ネットワークの方から講評をいただいた。（講評者敬称略）参加者は約20名であった。
- ・悠久祭の一環として、子育てシンポジウムを開催し、子育て中の父親・母親、子育てコンシェルジュによるパネルディスカッションを行った。当日は子育てをされている方や地域の方30名の参加があった。途中子供が騒ぐなどのハプニングはあったが、滞りなく終了することができた。同日開催の「プラレールで遊ぼう」（米山ゼミ主催）は大変好評で来場者数は約250名、アンケートは80名に対し実施。子供たちと学生が協力し楽しく遊んでいる姿が印象に残った。
- ・地域との連携によるシンポジウムは、もみじ園に於いて、越路神谷地区、越路観光協会をはじめとする、越路地域との連携による「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム」を開催した。これは、本学高橋治道ゼミナールが取り組んでいる「地域の文化と伝統をつなぐ」の活動がきっかけで、地域と本学との連携で開催することになったものである。当日は約50名の参加を得て活発な討論が繰り広げられ、参加者からも熱心な意見や要望などが出された。
- ・第4回悠久山・東山フォーラムは、「お雛さまとお茶会」をテーマに、2月25日（土）13:00～16:00本学で開催した。元長岡藩牧野家17代当主牧野忠昌様ご一家をお迎えし、本学教授 小川幸代による講演「内裏様はどっち？」に引き続き、雛茶会を開催した。本学

写真部による地域の写真展示、和室の雛飾りなども楽しんでいただいた。参加者は約 60 名で、同日開催した「プラレール」には約 100 名の親子が参加した。

【評価】

- ・山通地区の高齢者実態調査は、地域の民生委員や福祉委員が個別に高齢者把握（個人情報）を行い、福祉サービスに結び付け、さらに自主的にボランティア活動につながっていった。
- ・栖吉・山通地区子ども支援は、各児童館のボランティア体験から継続して子ども支援を行っている学生が約 20 名いる。
- ・地域交流は、本学麻雀部 14 名による健康マージャンを通じて栖吉地区の高齢者とも交流を行った。栖吉コミュニティセンターで 1 回、大学で 2 回実施した。参加者からは継続した開催要望があった。新たに本学写真部 6 名が、地域の交流活動の写真撮影に参加した。
- ・マップ活用イベントは、コミュニティセンターとコラボした方法で開催した。ウォーキングの開催日の把握をする必要があった。
- ・悠久祭でのボランティア・フォーラムは、ボランティア受入先の方から久しぶりの再開を喜ぶ声が聞こえた。また、ボランティア活動中の学生の思いを知ることが出来る場として大変有意義であった。改善しつつ、このような機会を継続して続けていきたい。
- ・子育てシンポジウムは、参加人数が少なく集客も問題があった。同時開催した「プラレールで遊ぼう」での集客は予想を上回っていたが、シンポジウムへの誘導ができなかった。
- ・「高橋九郎翁生誕 165 周年記念シンポジウム」は地元地域の支援もあり、満員の会場は熱気に包まれた。今後も地域と連携した取り組みを継続したいと考えている。
- ・第 4 回悠久山・東山地区フォーラムは、日本の伝統文化を受け継ぐ、「お雛さまとお茶会」を開催した。同時開催した「プラレールで遊ぼう」ともども、大盛況であった。長岡開府 400 年に向け、長岡市等と連携したフォーラムなども考えたい。
- ・平成 28 年度の活動から、実態調査等も重要ではあるが、より地域の住民の方々のニーズと関心が高い催し＝健康マージャン、子育て・プラレール、雛茶会などに重点を置きつつ、地学連携型の地域活性化の新しい方向を探ることが今後のポイントとなる、と思われる。調査やシンポジウムはその中で位置づける必要がある。

（7）平成 29 年度方針・目標

【方針】

①悠久山・東山地区における活動の継続と展開

平成 25 年度から行っている栖吉・山通り地区における活動を継続するとともに、乙吉・麻生田・浦瀬・加津保地区への活動展開を新たに図る。また、学生による地域活性化プログラムを通じて交流があると栃尾地区は悠久山・東山地区と同様の諸課題を抱えた地域であることから、連携の糸口を探る。

②越路地域における活動の継続と展開

昨年度に引き続き、もみじ園と神谷地区を核にしながら越路地域における活動を継続しておこなう。また、越路地域のみならず、川西地区で地域活動が盛んな地区（例：三島地区、宮本地区）との交流・連携の糸口を探る。

③長岡開府 400 年に向けた取り組み

長岡開府 400 年を記念する取り組みに参加すること目指した取り組みを図る。

【目標】

①悠久山・東山地区における活動の継続と展開

- ・昨年度に引き続き、悠久山・東山フォーラムを開催する中で、新たに乙吉・麻生田・浦瀬・加津保地区の人たちも参加するように働きかけ、活動の広がりを図る。
- ・活動の輪を広げることを目指して、悠久祭などのイベントで健康マージャン大会やプラレール大会を開催する。
- ・東山地区の活動を広めるために、以前作成した東山マップをリニューアルして発行する。

②越路地域における活動の継続と展開

- ・11 月もみじ園に於いて、越路地区の発展に貢献した人物をテーマとした講演会を開催する。
- ・越路観光協会と越路もみじの会が中心となってすすめている「高橋九郎翁関係資料」の常設展示施設の開設に協力する。

③長岡開府 400 年に向けた取り組み

- ・権ゼミの「十分杯」の取り組みを中心にして、長岡開府 400 年に向けた行事に取り組む。

(8) 平成 29 年度計画

- a 第 5 回東山フォーラムを 2 月に本学において開催する。新たに、乙吉・麻生田・浦瀬・加津保地区の人たちへも参加を働きかける。
- b 好評を得ていることから健康マージャン及びプラレール大会を開催する。健康マージャン大会の開催日や開催数の設定は、麻雀部と相談しながら進める。プラレール大会の開催日は、米山ゼミと相談しながら進める。
- c 悠久山・東山地区まっぷのリニューアルは、写真部と共同して進め、第 5 回東山フォーラムの席上で発表できるように作業を進める。また、この取り組みの中で写真部が撮り貯めた写真の展示もフォーラムの中で併せて行う。
- d 昨年度好評だった「高橋九郎翁生誕 165 周年記念シンポジウム」の第 2 弾として、11 月にもみじ園で「越路地区の発展に貢献した人々（仮称）」という講演会を開催する。この際、茶道部によるお茶のお披露目も併せて行う。
- e 地域や行政からの依頼による地方創生の取り組みを進める。
- f 平成 30 年度以降のポスト C O C の地域活性化対応については、長岡大学の社会貢献の基本的考え方、地域活動の取り組み方等、この間の活動を総括して基本的考え方をとりまとめる。

(9) 平成 29 年度展開

- a 第 5 回悠久山・東山フォーラム・・・図表 6—1 2—1 のとおり、2 月 24 日（土）本学で開催した。本学写真部が作成した「悠久山いいとこ撮りマップ」のお披露目も兼ねたフォーラムとし、今年度のテーマは「悠久山の見どころ撮りどころ—“お山” あんなどこ、こんなとこ—」で、旧長岡藩主牧野家第 17 代当主牧野忠昌氏による講演、平成令終会雪国植物園園長 大原久治氏と本学教授 松本和明による対談を行った。写真部が撮影した悠久山の写真も展示し、参加

者は130名であった。

また、当日のアンケートの結果は、図表6-12-2の通りである。



参加者の様子



まっぷのお披露目



牧野忠昌氏



大原久治氏



会場の様子



写真部による写真展

- b 健康マージャン・・・本学学生が10月28日・29日の悠久祭で開催し、多くの地域住民が参加して賑やかで和やかな交流になった。

プラレール大会・・・学内においては、10月28日・29日の悠久祭で行い（図表6-12-3）、参加者は250名だった。米山ゼミ生だけでは対応しきれず、長岡商業高等学校ボランティア部の10名の支援を受けた。リピーターも多く、開始時刻前から待ち受けている方も数名見られた。



学外活動としては、5月5日に子育ての駅「ちびっこ広場」参加者約100名、7月1日に特別養護老人ホーム「まちだ園」参加者約150名、9月9日に「市民活動フェスタ」参加者約150名、11月11日に栃尾「おりなす」参加者は約280名、2月17日・18日に「雪しかまつり」参加者約1,000名、2月25日に子育ての駅「ちびっこ広場」参加者約200名だった。

この他に様々な依頼があったが、対応しきれず、お断りした企画もあった。

- c 悠久山マップ制作・・・写真部の特性を活かし、「悠久山いいところ撮りまっぷ」として、高橋教授を担当教員とし、写真部、事務局＝地域連携研究センターで、6月の打ち合わせを手始めとして活動を開始した。

6月14日・6月28日には地元の方のガイドで、現地調査を実施した。写真部は頻繁に悠久山

の折々の写真を撮り、地元のアドバイザーに確認をしながらマップを制作していった。

10月28日・29日の悠久祭（図表6-12-3）では、マップの他に写真も展示し、みなさんからご意見等をいただいた。



地域の方と現地調査



悠久祭でご意見をいただく



地域の方と写真を選択

マップは景観編と石碑編の2種類を制作し、ここに載せきれない写真や情報を、写真集として残したいと考えている。（図表6-12-4）

完成したマップは、2月24日（土）第5回悠久山・東山フォーラムで、みなさんにお披露目をした。

d もみじ園フォーラム・・・越路観光協会の共催依頼もあり、11月に「越路歴史文化遺産もみじ園フォーラム」を開催した。11月5日に本学教授松本和明による講演会「越路を創った先人たち」を開催した。この日は絶好の紅葉狩り日和で、もみじ園には多くの観光客が訪れていた。講演会の参加者は約40名であった。11月11日は高橋ゼミ生による資料展と、本学茶道部による「もみじ茶会」を催した。当日はあられも降る大荒れの天候だったが、約80名の方からお茶会を楽しんでいただいた。（図表6-12-5）

・地元からは、次年度はもみじ茶会だけではなく、桜茶会もという話が出ている。

昨年度のもみじ園フォーラムで行った「高橋九郎翁の資料展」が非常に好評であったことから、越路もみじの会や高橋九郎翁の地元神谷地区から展示資料の貸し出し要請があり、もみじの会へは春の観桜会、神谷地区には秋のもみじ祭りの際に資料を貸し出した。地元からは、今後も協力をお願いしたいとの協力要請があった。



講演会



資料展



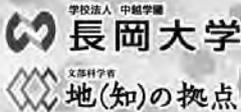
越路もみじ園



もみじ茶会



図表6-12-1 第5回悠久山・東山フォーラム案内



学校法人 中興学園
長岡大学
文部科学省
地(知)の拠点

文部科学省採択
平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

長岡開府400年
ROOTS
400

長岡大学では、平成25年度より悠久山・東山フォーラムを開催しております。今年度は、長岡大学写真部の学生が地元の方々のご協力で作成した「悠久山いいところ撮りマップ」のお披露目、牧野家17代当主牧野忠昌氏のご講演、公益社団法人平成令終会雪国植物園園長 大原久治氏と本学教授 松本和明による対談を企画いたしました。

ぜひ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、このフォーラムは、長岡大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」として行うものです。

平成30年2/24日
13:30～16:00
会場：長岡大学地域交流ホール
定員：60名(先着順)
申込締切 2月22日(木)

参加
無料




当日参加も歓迎です。

【悠久山いいところ撮りマップ】お披露目……13:30～14:15
長岡大学写真部、マップ制作委員会
聞き手 長岡大学教授 米山 宗久

【講演】「牧野家と悠久山」……………14:15～15:00
牧野家17代当主 牧野 忠昌氏

【対談】「令終会と悠久山」……………15:15～16:00
公益社団法人平成令終会 雪国植物園園長 大原 久治氏
長岡大学教授 松本 和明

◆当日は、長岡大学写真部による写真展示も行います。

■主催 長岡大学地域連携研究センター
■共催 長岡市、長岡商工会議所、公益社団法人平成令終会

お申込方法・お問合せ先

お電話、FAX、メールでお申込みください。FAXの場合はこのチラシの下欄に記入し、下記FAX番号に送信してください。
(お問合せ・お申込先)
長岡大学地域連携研究センター 担当 山田、小田原
〒940-0828 長岡市御山町80-8 TEL:0258-39-1600(代) e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp
FAX:0258-39-9566

| | | | |
|--------|---|-------|--|
| 氏名 | | | |
| 住所・連絡先 | 〒 | | |
| 電話番号 | | F A X | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

「悠久山の見どころを撮りまくる」
お山あんなマップ、まんあんなマップ

第5回 悠久山・東山フォーラム

第5回悠久山・東山フォーラムアンケート（2018/02/24）集計結果

2018/02/28 長岡大学地域連携研究センター

1 回答数・回答率について

＜別紙＞のアンケートを、第5回悠久山・東山フォーラム「悠久山の見どころ、撮りどころー“お山” あんなとこ、こんなとこー」2月24日（土）13:30～16:00、（於・長岡大学）の参加者に行った。回答率は、回答数82人／参加者122人＝67.2%であった。

2 ■講演「牧野家と悠久山」は楽しかったでしょうか。

牧野忠昌氏の講演は楽しかったか。図表1の通り、「非常に楽しかった」が63.4%、「まあまあ楽しかった」が35.4%で、「楽しかった」と評価する回答が98.8%と圧倒的割合を占めた。ほとんどの参加者が高く評価した。

図表1 講演は楽しかったか

| | | |
|------------|-------|----|
| 非常に楽しかった | 63.4% | 52 |
| まあまあ楽しかった | 35.4% | 29 |
| あまり楽しくなかった | 0 | 0 |
| 楽しくなかった | 0 | 0 |
| その他 | 1.2% | 1 |
| 無回答 | 0 | 0 |
| 有効回収数 | 100% | 82 |

- ・素晴らしいお人柄が現れていました。長岡を愛されている様子も十分窺え。
- ・楽しかった。勉強になった。
- ・牧野家と悠久山の関係が良く分かった。
- ・悠久山の今まで知らなかった話を聞き、尊い場所を毎年微力ながら清掃に参加させていただいていることに感謝する。
- ・牧野様のお話を身近に感じ、親近感も持ち、歴代藩主の城下町づくりに感銘を深めた。

3 ■対談「令終会と悠久山」は楽しかったでしょうか。

大原久治氏と松本教授の対談は楽しかったか。図表2の通り、「非常に楽しかった」が70.7%、「まあまあ楽しかった」が20.7%で、「楽しかった」と評価する回答が91.5%と圧倒的割合を占めた。ほとんどの参加者が高く評価した。

図表2 対談は楽しかったか

| | | |
|------------|-------|----|
| 非常に楽しかった | 70.7% | 58 |
| まあまあ楽しかった | 20.7% | 17 |
| あまり楽しくなかった | 0 | 0 |
| 楽しくなかった | 0 | 0 |
| その他 | 1.2% | 1 |
| 無回答 | 0.1 | 6 |
| 有効回収数 | 100% | 82 |

- ・未来を夢見ての素晴らしいまちづくりへの情熱が伝わってきて、大変良かった。
- ・植物園の事業コンセプトと苦闘の戦いの話に感動。
- ・令終会の思想、長岡人のプライドですね。とても勉強になった。
- ・大原さんのお話がよかった。とても。また聞きたい。
- ・雪国植物園に山桜、大賛成。
- ・悠久山の在来の植物の話が聞きたい。
- ・学校等で子供たちに伝えて欲しい。

4 「悠久山いいとこ撮りまっぷ」の評価はいかがですか。

図表3の通り、「非常に評価できる」が93.9%、で、「ほとんどの参加者が高く評価した。

図表3 悠久山いいとこ撮りまっぷの評価は

| | | |
|-----------|-------|----|
| 非常に評価できる | 93.9% | 77 |
| あまり評価できない | 3.7% | 3 |
| 評価できない | 0 | 0 |
| その他 | 1.2% | 1 |
| 無回答 | 1.2% | 1 |
| 有効回収数 | 100% | 82 |

- ・ふだんの散歩コースでなんとなく見ている。写真は良くとれてきれい。
- ・学生の労作は素晴らしかった。一層悠久山の良さがわかった。
- ・がんばれ
- ・悠久山にもっと行きたいと思った。
- ・小動物も撮られたらいいと思った。
- ・石碑編が特に良い。
- ・悠久山がこんなきれいな写真のまっぷになって驚いた。
- ・まっぷに土俵を入れて欲しかった。歴史マップとして、歴史を学ぶ情報を多く欲しい。
- ・上空から見た写真（ドローン撮影）も加えてみたらいかがか。

5 このフォーラムの開催について、どの情報からお申込みいただきましたか。

どういった情報を目にして申し込みされたかは、図表4の通り、ダイレクトメールが17.1%、図書館・コミュニティセンターなどのポスター・チラシが23.2%、市政だよりが14.6%、新潟日報の記事が20.7%、その他は22.0%でした。

その他の中には、町内の回覧板、本学職員から、大学のホームページから、知人から、というものが含まれています。

今回、2/1(木)新潟日報の記事を読んで申し込まれた方が多く、それ以降の申し込みが一気に多くなりました。いろいろな形で広報をしておりますが、新聞の影響力が大きいことに改めて驚かされました。今後の広報の課題として認識しておく必要があろう。

図表4 このフォーラムの開催はどこで？

| | | |
|---------------------------|-------|----|
| ダイレクトメール | 17.1% | 14 |
| 図書館、コミュニティセンターなどのポスター・チラシ | 23.2% | 19 |
| 市政だより | 14.6% | 12 |
| 新潟日報の新聞記事 | 20.7% | 17 |
| その他 | 22.0% | 18 |
| 無回答 | 2.4% | 2 |
| 有効回収数 | 100% | 82 |

6 今後のフォーラムについてテーマや感想など。

- ・歴史家、作家による講演会
- ・長岡市の産業分野の偉人たちを考えるもの。
- ・小沢錦十郎の経歴について知りたい。
- ・長岡大学と地域と連携した活動について聞きたい。
- ・今回のテーマをもっと掘り下げたフォーラムをお願いします。
- ・栖吉地区の歴史。大原氏の話。
- ・蒼紫神社の歴史、・悠久山公園の活性化、令終会の歴史と今後の長岡。
- ・植物の詳しい話。東山地域の良さを語ってもらいたい。花や木や鳥の探鳥会など。
- ・長岡の建造物、長生橋、長岡城、食、酒について。
- ・学生の活動の紹介。

<感想>

- ・近年悠久山が置き去りにされているように思え、市に対し、もっとアピールし守っていくべきと考えていました。悠久山の中に位置する長岡大学だからこそ、長岡の大切な遺産でありシンボルでもある悠久山を守る取組、発信を期待します。
- ・知の探求にセンスを感じます。脳に刺激を与える新鮮さに感動です。
- ・地域の環境の掘り起こしに活躍してください。
- ・長岡開府四百年記念に相応しい素晴らしい企画です。
- ・地域の課題、活性化について常に取組されていることに敬意、感謝しております。
- ・近くに住んでいるのに知らないことが多く楽しかった。
- ・こういうフォーラムがあることを知らなかった。次回も参加したい。
- ・講義室的なところで、テーブルがあると聞きやすくメモも取りやすい。

(文責：高橋治道)

<資料>

第5回 悠久山・東山フォーラムアンケート 2018.2.24 (土)

長岡大学 地域連携研究センター

* 本日は、第5回悠久山・東山フォーラムにご参加いただきありがとうございます。
今後のフォーラム開催の参考にさせていただきたく、アンケートにご協力をお願いいたします。

| | | | | |
|----|------------|----|----------|-----------|
| 性別 | 1 男 2 女 | 年齢 | 1. 22歳未満 | 2. 22～30歳 |
| | | | 3. 30歳代 | 4. 40歳代 |
| | | | 5. 50歳代 | 6. 60歳代以上 |

1 講演「牧野家と悠久山」は楽しかったでしょうか。1つ○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1 非常に楽しかった | 2 まあまあ楽しかった | 3 あまり楽しくなかった |
| 4 楽しくなかった | 5 その他 () | |

2 対談「令終会と悠久山」は楽しかったですか。1つ○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1 非常に楽しかった | 2 まあまあ楽しかった | 3 あまり楽しくなかった |
| 4 楽しくなかった | 5 その他 () | |

3 「悠久山いいとこ撮りまっぷ」の評価はいかがですか。1つ○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1 非常に評価できる | 2 あまり評価できない | 3 評価できない |
| 4 その他 () | | |

4 このフォーラムの開催については、どの情報からお申し込みいただきましたか。

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 1 ダイレクトメール | 2 図書館、コミュニティセンターなどのポスター・チラシ |
| 3 市政だより | 4 新潟日報等新聞の記事 |
| 5 その他 () | |

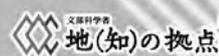
5 今後のフォーラムについて、こんなテーマで、こんなことが聞きたい、こういう人の話が聞きたいなど、具体的にご記入ください。今後の活動の参考にさせていただきます。

| |
|--|
| |
|--|

*ありがとうございました。会場出口で係員にお渡ししてください。



文部科学省採択
平成25~29年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28~31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 **長岡大学悠久祭** 10/28(土)・10/29(日)
10:00-17:00 10:00-16:00
COC+事業イベント

写真部

悠久山いいところ撮りまっぷ 中間発表

●10/28(土)・29(日) 10:00~16:00 学生ホール(1号館3階)

写真部の学生が、地域の方のご協力で、歩いて撮って悠久山のマップを作っています。
みなさんのアドバイスをお待ちしております。
悠久祭ですから、他にも楽しんでいただけるものがあります。
ぜひ、お出かけください。



プラレールで遊ぼう!

米山ゼミ

●10/28(土)・29(日) 10:00~16:00

10/28(土) 多目的室(1号館3階)

10/29(日) 多目的室(1号館3階)・第5会議室(1号館4階)



米山ゼミナールのイベントです。たくさんのプラレールで、
子育て中のお父さん、お母さんも一緒に楽しみましょう。



お問合せ先

〒940-0828 長岡市御山町80-8

長岡大学地域連携研究センター 担当:小田原、山田

TEL:0258-39-1600(代)

図表6-12-5 もみじ園フォーラム案内

学校法人 中越学園
長岡大学

長岡科学館
地(知)の拠点

平成29年度
長岡大学地(知)の拠点大学フォーラム

越路歴史文化遺産

もみじ園 フォーラム



会場 登録有形文化財 **もみじ園**
(長岡市朝日600番地)

**越路地域の発展に尽した
先人たちに寄せて**

越路地域の発展に尽した先人たちの業績に触れ、
遺産でもあるもみじ園で地域の歴史・文化を見直し、
地域の活性化を考えるフォーラムです。
なお、この事業は、長岡大学
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
として、地域の方々のご協力で開催するものです。

◇主催：長岡大学地域連携研究センター
(企画／運営：長岡大学高橋ゼミナール)
◇共催：長岡市、越路観光協会
◇後援：越路神谷区、歴史・文化の会、越路もみじの会、越路町商工会

11/5(日) 講演会

13:00～15:00 先着50名/入場無料

「越路を創った先人たち」

<講師> 長岡大学教授 松本 和明

**11/11(土) 資料展
もみじ茶会**

10:00～16:00 入場無料

資料展「越路を創った先人たち」

<コーディネーター> 長岡大学教授 高橋 治道

10:30～15:00 先着150名/茶席券300円

もみじ茶会 長岡大学茶道部

<講話> 長岡大学茶道部指導 今井 憲子
<コーディネーター> 長岡大学教授 小川 幸代
※茶席券(300円)は、売店で販売いたします。

《 講演会は、電話・FAX・e-mailでお申込下さい 》

申込先

〒940-0828 長岡市御山町80-8 長岡大学地域連携研究センター 担当：山田、小田原
TEL：0258-39-1600(代) FAX：0258-39-9566 e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

e 地方創生の取り組み

- ・地域からの依頼で、学生が参加した活動は次の通り。

4月【第1回寺泊いやしの郷さくらリレーマラソン】4/29 長岡市寺泊町

学生はスタッフとして、スタート地点、ゴール地点、誘導などを行った。残念ながら、選手として参加する学生はいなかった。



寺泊いやしの郷さくらリレーマラソン



8月【とうきび観音まつり】8/10 長岡市栃尾地区

今から200年ほど前の江戸末期に栃尾で厳しい食糧難が起こり、観音寺の住職がトウモロコシを配り作付けを教え広めた。そこで、聖観音の命日にあたる毎年8月10日に無病息災と家内安全の祈祷を行い、参拝者にトウモロコシを配るのがこの祭りの由来である。鯉江ゼミナールでは、栃尾のまちの駅の依頼で、毎年ボランティアでスタッフとして参加している。



とうきび観音まつり

10月【今町まちなかマルシェ 2017】10/1 見附市今町

見附市のまちの駅の依頼で、毎年ボランティアでスタッフとして参加している。



今町まちなかマルシェ

10月【ハロウィンみつけ・見附マルシェ】10/21 見附市

見附市のまちの駅の依頼で、ボランティアとして参加している。昨年度は企画から参加したが、今年度は当日のみのスタッフ参加だった。



ハロウィンみつけ

10月【越路・まちの駅 いこ～てえ～マップ制作】10/22、11/5、11/11 長岡市越路町

ながおか市民協働センターの事務局を通じて、長岡市越路まちの駅からマップづくりを依頼された。11月の紅葉シーズンに行われるもみじ園のイベントでこのMAPを配布することを目標とし、制作を進めた。まちの駅をヒアリングし、何回も打ち合わせ重ねて修正を繰り返し、やっと出来上がった。このマップは、文字もイラストも全部学生の手書きである。(図表6-12-6)

このマップは、越路の観光を紹介するマップであると同時に、まちの駅を紹介するマップでもある。まちの駅を知らない人にもまちの駅を知ってもらうために、まちの駅の4つの機能やマーク、のぼりの説明も入れた。

10/22 越路町「蛸庵」で、越路のまちの駅の方たち、居合わせたお客様にマップをお披露目した。また、長岡大学のもみじ園フォーラムに合わせて、11/5、11/11 に越路町のもみじ園で観光客にマップを配布した。



マップの作成



マップ作成打ち合わせ



マップの配布：蛸庵



マップの配布：もみじ園



マップの配布：蛸庵

2月【イノベーション講演会—京都大学・山口栄一教授を迎えて—】2/21・2/22 長岡市

平成29年度地域志向教育研究である「長岡地域経済・産業の現状と活性化方策等に関する基礎調査」（研究者：原田誠司教授）におけるヒアリング等の一環として、「イノベーション講演会—京都大学・山口栄一教授を迎えて—」を長岡市（産業政策課、イノベーション推進室）と3大学1高専（長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡大学、長岡工業高等専門学校）の連携のもとに、「技術（ハイテク）ベンチャーをいかに輩出するか」をテーマに、開催した。（図表6-12-7）

★経緯について

長岡大学教員（原田教授など）や企業家有志（松原 亨パルメソ社長など）は、かねてから、アメリカのS B I R制度を詳細に研究し日本での技術ベンチャー育成を熱心に説く『イノベーションはなぜ途絶えたか—科学立国日本の危機—』（ちくま新書、2016年12月刊）の著者である山口栄一氏（京都大学大学院総合生存学館教授）に長岡に来ていただき、技術（ハイテク）ベンチャー輩出・育成に関する懇談をしたいと考え、山口教授にその旨お願いした。今回、偶然にも、2018年2月21日に長岡工業高等専門学校に所業があり長岡に来られるとの連絡をいただき、2月21日～22日に時間を取っていただけることになった。長岡における技術（ハイテク）ベンチャー輩出を目指し、次のような、講演、懇親、懇談の会合を開催した。

＊山口教授のS B I R制度（無名科学者の起業家転身＜スター誕生＞システム）の調査分析やパラダイム破壊的イノベーション理論等についての概要紹介は巻末掲載の＜参考資料＞を参照されたい。

★講演会等の開催趣旨について

- ・長岡における技術（ハイテク）ベンチャーの輩出をめざして、その課題、仕組み等方向性を議論し、追求する。
- ・山口教授が指摘する＜技術（ハイテク）ベンチャー→サイエンス型産業＞の考え方を主として3大学1高専の学生・院生にお話しいただき、長岡地域のイノベーション＝ベンチャー輩出にむけた人材育成に資することとしたい。
- ・テクノポリス世代ベンチャー（マコー、システムスクエア、クリーン・テクノロジー、ナノテム等）に次ぐ、若手世代の技術（ハイテク）ベンチャー群の拡大・成長を促進したい。
- ・できれば、この講演会等を契機に、そのための＜長岡イノベーション研究会＞等の活動がスタートできたら、と考える。
- ・こうした方向を、長岡市のイノベーション戦略の1つの柱として位置づけ、長岡におけるイノベーションを促進したい。

★2/21講演会

- ・講演会名称：イノベーション講演会「技術（ハイテク）ベンチャーをいかに輩出するか」
—京都大学・山口栄一教授を迎えて—
- ・講演テーマ：イノベーションはなぜ途絶えたか—科学立国日本の危機—
- ・講演者：京都大学大学院総合生存学館教授 山口 栄一氏
- ・開催日時：平成30年2月21日（水）18:00～20:00
- ・会場：まちなかキャンパス301号（受付順100名） ＊参加費：無料
- ・主催：長岡大学 共催：長岡市、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校
後援：長岡商工会議所、長岡産業活性化協会NAZE、にいがた産業創造機構NICO

★2 / 2 1 懇親会

- ・名 称：山口教授を囲む懇親会
- ・開催日時：平成 30 年 2 月 21 日（水）20:00～21:00
- ・会 場：まちなかキャンパス創作交流室（4F）
- ・参加費：2,000 円
- ・参加者：3 大学 1 高専教員、長岡の技術ベンチャー・起業家など 20 名弱
- ・世話人：長岡大学地域連携研究センター（責任者・原田誠司）

★2 / 2 2 懇談会

- ・名 称：京都大学・山口教授を囲む懇談会
- ・講 師：京都大学大学院総合生存学館教授 山口 栄一 氏
- ・開催日時：平成 30 年 2 月 22 日（木）9:30～11:30
- ・会場：アオーレ長岡・交流ホールD（3F）
- ・進め方：進行役：原田誠司（長岡大学）、松原 亨（パルメソ社長） *参加費：無料
- ・参加者：3 大学 1 高専教員、長岡の技術ベンチャー・起業家など 30 名弱程度
- ・主催：長岡大学 共催：長岡市、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校

★講演会・懇談会のまとめ

講演会は 104 名、懇親会は 36 名、懇談会は 25 名の参加者を得て、盛況のうちに終了できた。22 日の朝には、磯田長岡市長を本学の村山学長とともに訪問し、市長との懇談になかで、長岡市のイノベーション事業への協力も表明された。

なお、後援や懇談の内容は、3 月刊行予定の長岡大学ブックレット「イノベーション講演会ー京都大学・山口栄一教授を迎えてー」（仮称）を参照されたい。

★講演会参加者アンケート結果

講演会参加者のアンケート結果は、図表 6-1 2-8 に示す通りである。参加者の 100% 近い人々から、「参考になった」、「評価できる」との回答をいただいた。大成功であった。長岡におけるイノベーションの促進に少しは貢献できたと言えそうだ。

なお、当講演会結果も踏まえた地域志向教育研究の報告書は、平成 29 年度長岡大学地域志向教育研究ブックレット Vol.1 「イノベーション都市・長岡をめざしてー長岡地域経済・産業の現状と活性化方策等に関する基礎調査ー」として刊行される予定である。ご関心のある方は参照されたい。



講演会



山口教授



懇談会

図表6-12-7 イノベーション講演会案内



学校法人 中野学園
長岡大学



文部科学省
地(知)の拠点

文部科学省採択
平成26～29年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

長岡版
**イノベーションモデル
創出事業**

イノベーション講演会 — 京都大学・山口栄一教授を迎えて —

「技術(ハイテク)ベンチャーを いかに輩出するか」

参加費
無料

講演
テーマ

イノベーションはなぜ途絶えたか — 科学立国日本の危機 —

日時

平成30年 **2月21日** 水

18:00-20:00

会場

まちなかキャンパス長岡 301



京都大学 大学院総合生存学館教授
山口 栄一 氏

講師略歴
1955年福岡市生まれ。1977年東京大学理学部物理学科卒。理学博士(東京大学)。NTT基礎研究所、フランス IMRA Europe、経団連21世紀研究所の研究員、同志社大学大学院教授を経て、2014年～京都大学大学院総合生存学館(思修館)教授。

専門
半導体物理学、技術経営、イノベーション理論。

主な著書等
『イノベーションはなぜ途絶えたか—科学立国日本の危機—』、編著『イノベーション政策の科学』(東京大学出版会、2015年)、編著『FUKUSHIMA レポート』(日経BPコンサルティング、2012年)、『JR福知山線事故の本質』(NTT出版、2007年)。<ベンチャー起業>アークゾーン、パウテック、ALGAN、CONNEX SYSTEMSの4社創業。

日本は、「知の創造」=研究(大学等の)から、いかにして「知の具体化」=開発=技術ベンチャー起業を生み出し、世界のイノベーション競争に伍して戦うのか? 京都大学の山口栄一教授は、「イノベーションはなぜ途絶えたか—科学立国日本の危機—」(ちくま新書、2016年12月刊)で、こう訴え、大きな反響を呼び起こしました。

長岡のイノベーションを志向する長岡大学教員等有志は、山口教授をお招きして、ぜひ、長岡におけるイノベーション—技術(ハイテク)ベンチャー群の輩出の方向を議論したいと考え、山口教授にご連絡しました。この度、2月21日に長岡工業高等専門学校に所用で来られる機会に時間をご都合していただき、この講演会を開催できることになりました。

この間、「長岡市+3大学1高専」で、長岡のイノベーションを促進しようとの取組みがなされておりますが、この講演会もその方向を議論するよい機会になると思います。ぜひ、多くの起業・企業家、研究者の皆さん、とくに、今後の日本、新潟、長岡のイノベーションの担い手となる3大学1高専の学生諸君にご参加いただきたい、と思います。

【主催】 長岡大学
【共催】 長岡市、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校
【後援】 長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、公益財団法人にいがた産業創造機構

お申し込み方法

電話、E-mail、FAXでお申し込みください。

お申し込み先

長岡大学地域連携研究センター 担当:小田原、山田
〒940-0828 長岡市御山町80-8 TEL: **0258-39-1600**(代)
E-mail: chiken@nagaokauniv.ac.jp

FAX:0258-39-9566

氏名

住所・連絡先

電話番号

〒

所属・会社等

FAX

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

2018 イノベーション講演会・アンケート (2018/02/21)

集 計 結 果

2018/02/26 長岡大学地域連携研究センター

1 回答数・率について

＜別紙＞のアンケートを、＜イノベーション講演会－京都大学・山口教授を迎えて－「技術（ハイテク）ベンチャーをいかに輩出するか」における山口教授の講演会（テーマ「イノベーションはなぜ途絶えたか－科学力行日本の危機－）」（2018年2月21日（水）18:00～20:00、於・まちなかキャンパス長岡301）の参加者に行った。回答率は、回答数63人／参加者103人＝61.2%であった。

2 「山口教授の講演」は参考になったか（問1）

山口栄一教授の「イノベーションはなぜ途絶えたか」の講演が「参考になったか」を聞いた（1つ○をつける）。図表1の通り、「非常に参考になった」が76.2%、「まあまあ参考になった」が20.6%で、「参考になった」と評価する回答が96.8%と圧倒的割合を占めた。ほとんどの参加者が高く評価した。

図表1 講演が参考になった割合

| | | |
|--------------|--------|----|
| 非常に参考になった | 76.2% | 48 |
| まあまあ参考になった | 20.6% | 13 |
| あまり参考にならなかった | 0.0% | 0 |
| 参考にならなかった | 0.0% | 0 |
| その他 | 1.6% | 1 |
| 無回答 | 1.6% | 1 |
| 有効回収数 | 100.0% | 63 |

3-1 山口教授の講演で「参考になった点」（問2の（1））

山口教授の講演で「参考になった点」を具体的に記入していただいた。整理すると、次の通りである。山口教授の提起が非常に前向きに、受けとめられたことがわかる。

図表2 山口教授の講演で「参考になった点」一覧

- ・基本概念等→科学、技術、研究、創発、開発の概念・関係が理解できた。
- ・イノベーションの定義等→イノベーションの考え方・理論、3軸モデル、体系、重要性がよく解った。
- ・イノベーションダイアグラム→イノベーションの型、仕組み、フレームワークが解った。
- ・SBIR制度→アメリカのSBIRの仕組み、日本のSBIR制度の問題が解った。
- ・分野知図→非常によかった。
- ・科学者のトライアングル→リスク・テイカー意義、イノベーションソムリエ・デザイナーの重要性、回遊の重要性などが非常に重要なことが認識できた。
- ・その他→新鮮な情報で感謝。書籍は読んでいたが、直接話が聞けてよかった。

3-2 山口教授の講演で「もう少し詳しく話してほしい点」(問2の(2))

次に、山口教授の講演で「もう少し詳しく話してほしい点」を記入していただいた。山口教授も課題にあげていた事項に多くが属しており、今後の議論・対応の課題として認識しておく必要がある。

図表3 山口教授の講演で「もう少し詳しく話してほしい点」一覧

- ・基本概念等→創発の発想法、回遊の仕方、感性イノベーション等について
- ・日本のイノベーション等→なぜ途絶えたか、中央研究所をやめた具体的理由等について
- ・イノベーションダイアグラム→イノベーションの型、仕組み、フレームワークが解った。
- ・SBIR制度→日本のSBIR制度がなぜ中小企業開発支援になってしまったのか。
- ・日本のトライアングルづくり→イノベーターをどうしたら輩出できるか、目利き(ソムリエ・デザイナー)はどうしたらできるかまで。
- ・日本の地方での対応→教育をどうしたらよいか、イノベーターやリスク・テイカーをどうしたら育成できるか。
- ・その他→IT企業は少ないように思えるがどうか、イノベーション事例をもっと。

4 今回の講演会を全体として、どう「評価するか」(問3)

今回の講演会は全体として、どう「評価できるか」を聞いた(1つ○をつける)。図表4の通り、「非常に評価できる」が79.4%、「まあまあ評価できる」が19.0%で、「評価できる」とする回答が98.4%と、図表1同様、圧倒的割合を占めた。講演会としては参加者の方々に高く評価された、と言えそうだ。

図表4 今回の講演会の全体としての「評価」

| | | |
|-----------|--------|----|
| 非常に評価できる | 79.4% | 50 |
| まあまあ評価できる | 19.0% | 12 |
| あまり評価できない | 0.0% | 0 |
| 評価できない | 0.0% | 0 |
| その他 | 0.0% | 0 |
| 無回答 | 1.6% | 1 |
| 有効回収数 | 100.0% | 63 |

5 今後、「改善すべき点」(問4)

さらに、今後、「改善すべき点」を記入していただいた。改善すべき点は今後、十分考えて開講する必要がある。

図表5 今後、「改善すべき点」一覧

- ・講演環境→携帯電話切るようなアナウンスすべき、加湿器の設置、会場が狭い
- ・講演時間→有償でもよいからもっと長く時間をとって聞きたい
- ・今後→シリーズで開講してほしい、学生等もっと多い若者向けに開講すべき

6 今後の講演会でとりあげたらよいと思うテーマ等（問5）

最後に、今後の講演会でとりあげたらよいと思うテーマ等についてご記入いただいた。図表6の通りである。今後、テーマ等参考にさせていただきたい。

図表6 「今後の講演会でとりあげたらよいと思うテーマ」一覧

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 山口教授の講演→継続的にシリーズの講演会・ 3大学1高専の研究者→3大学1高専の研究者のイノベーション事例講演等・ その他のテーマ→商社とベンチャー、デザイン思考、他（3大学1高専以外）のイノベーション事例、地域発展 |
|--|

（文責：原田誠司）

<別紙>

2018 イノベーション講演会・アンケート (2018/02/21)

長岡大学地域連携研究センター

☆本日は、2018 イノベーション講演会にご参加いただきありがとうございました。皆様の感想をお寄せください。今後の講演会等開催の参考にさせていただきたいと思えます。

| | | | | |
|-----|------------|-----|-----------|------------|
| 性 別 | 1 男 2 女 | 年 齢 | 1. 22 歳未満 | 2. 22～30 歳 |
| | | | 3. 30 歳代 | 4. 40 歳代 |
| | | | 5. 50 歳代 | 6. 60 歳代以上 |

1 「山口教授の講演」は参考になりましたか。1つ○をつけてください。

- | | | |
|-------------|--------------|----------------|
| 1 非常に参考になった | 2 まあまあ参考になった | 3 あまり参考にならなかった |
| 4 参考にならなかった | 5 その他 () | |

2 「山口教授の講演」の内容について、参考になった点、あるいは、もう少し詳しく話してほしかった点等がありましたら、下欄にご記入ください。

(1) 参考になった点

| |
|--|
| |
|--|

(2) もう少し詳しく話してほしかった点

| |
|--|
| |
|--|

3 今回の講演会は全体として、評価できますか。1つ○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1 非常に評価できる | 2 まあまあ評価できる | 3 あまり評価できない |
| 4 評価できない | 5 その他 () | |

4 今後、改善すべき点がありましたら、遠慮なく具体的にご記入ください。次回の参考にさせていただきます。

| |
|--|
| |
|--|

5 今後の講演会でとりあげたらよいと思うテーマ等ご希望がありましたらご自由にご記入ください。参考にさせていただきます。

| |
|--|
| |
|--|

*ありがとうございました。会場出口で係員にお渡ししてください。

(10) まとめ—成果と課題—

- a 第5回悠久山・東山フォーラムは、本学写真部が作成した「悠久山いいとこ撮りマップ」のお披露目も兼ね、テーマは「悠久山の見どころ撮りどころ—“お山” あんなとこ、こんなとこ—」とした。旧長岡藩主牧野家第17代当主牧野忠昌氏による講演、平成令終会雪国植物園園長 大原久治氏と本学教授 松本和明による対談を行ない、参加者は初めて100名を超え130名であった。
- b 健康マージャンを悠久祭で開催した。多くの地域住民が参加して賑やかで和やかな交流になった。地域のコミュニティセンターの広報が有効であった。

また、プラレール大会を悠久祭で行い、参加者は250名だった。米山ゼミ生だけでは対応しきれず、長岡商業高等学校ボランティア部の10名の支援を受けた。リピーターも多く、開始時刻前から待ち受けている方も数名見られた。学外活動としては、子育ての駅「ちびっこ広場」で参加者約100名、特別養護老人ホーム「まちだ園」で参加者約150名、「市民活動フェスタ」で参加者約150名、栃尾「おりなす」参加者は約280名、「雪しかまつり」では参加者約1,000名、子育ての駅「ちびっこ広場」で参加者約200名だった。ニーズは多いが、今後は企画を絞って対応したい。
- c 本学写真部学生が「悠久山いいとこ撮りマップ」景観編と石碑編の2種類を作成した。長岡市役所窓口、市内のコミュニティセンター、コンベンション協会などから依頼があり、また市外から取りに来られた方もいる。
- d もみじ園フォーラムを開催し、講演会・資料展、「もみじ茶会」を開催した。地元地域の方たちの協力で、大勢の方に参加していただいた。昨年度のもみじ園フォーラムで行った「高橋九郎翁の資料展」が非常に好評であったことから、越路もみじの会や高橋九郎翁の地元神谷地区から展示資料の貸し出し依頼があり、今後も協力をお願いしたいとの協力要請があった。

平成29年度の活動から、地域の住民の方々のニーズや興味の高いテーマでフォーラムや気軽な催しを行い、地域と大学が連携できる方向を探ることが今後の重要課題になるであろう。それが、地域の拠点大学としての本学の役割になると思われる。

13 市民向け公開講座・セミナーの開催－社会貢献②－

(1) 方針（申請時）

- ・従来の市民向け公開講座（情報、語学、文化等）を刷新して開講する。市民ニーズと本学教員のマッチングをはかり、地域づくり、ボランティア関係講座も含めて充実させる。

(2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→市民ニーズと本学教員のテーマのマッチングを図り、開講方針を策定し、開講する（5テーマ、5教員程度）。
- ・平成 29 年度→テーマは 20 テーマに倍増し、毎年定番講座（5テーマ程度）と年度毎の特別講座（5テーマ）を組み合わせて、開講する。
- ・会場は、市民が集まる「まちなかキャンパス長岡」を主とし、担当教員数は 20 名程度。

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・本学独自の市民公開講座は、「初級簿記実践講座」（講師・中村大輔）の 1 講座開講にとどまった。目標の 5 講座は時期的に後期のみであったこともあり開講できなかった。次年度は年間を通して開講可能なので、5 講座をめざす。
- ・まちなかキャンパス長岡の講座等は、計画通り開講することができた。次年度も継続する。

(4) 平成 26 年度実績と評価

- ・まちなかキャンパス長岡の講座等は、計画通りに 7 名の本学教員が講師として参加し、開講することができた。
- ・本学独自の市民公開講座は、「初級簿記実践講座」（日商簿記 3 級対応）・「No.1 の国、アメリカが教えてくれるもの」・「映画で見る中国現代史」・「地域交通と中越地方の 100 年のあゆみ・越後交通を中心に」・「メンタルヘルスマネジメント」（メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種対応）の 5 講座を当初の計画通りに開講することができた。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・まず、まちなかキャンパスの市民講座はいずれも高い評価を受けることができた。市民の学習ニーズに応えるとともに、長岡市中心市街地の活性化にも寄与していると評価できる。

第 2 に、本学独自の市民公開講座は、当初の目標通り 5 講座を開講することができ、総受講者数も 87 名にのぼり、高く評価できる。

第 3 に、受講者の講座に対する評価も非常に高く（大部分が＜満足＞）、募集定員（10 名）を上回った講座も 3 講座にのぼり、市民ニーズに合った講座が重要であることを示した。

第 4 に、講座の広報期間を長くとれた講座は相対的に応募者が多かったことから、広報の充実が重要であることがわかった。次年度の教訓としたい。

(5) 平成 27 年度実績と評価

- ・まちなかキャンパス長岡の講座等は、本学の松本和明、山川智子、西俣先子の 3 名の教員が講師として参加し、開講することができた。（開講予定であったが、公募者数定員未満で休止になった講座あり。）

- ・本学独自の市民公開講座は、「高齢者のためのスマホ・タブレット入門」・「記紀神話を読む【前編】」・「初級簿記講座」（日商簿記3級対応）・「記紀神話を読む【後編】」・「渋沢栄一と長岡地域」・「メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種ラインケアコース対策講座」・「セカンドライフプランニング講座」の7講座を当初の計画通りに開講することができた。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・第1に、まちなかキャンパスの講座について、本学教員の講座は集客力が非常に優れており、特に松本は延べ580人（うち講演会が250人）、山川は延べ90人の受講者を集めた。いずれも、市民の関心の高い（ニーズがあると思われる）テーマが高く評価されたものと思われる。今後の大きな教訓である。

第2に、本学独自の市民公開講座は7講座開講し、各講座とも定員をほぼ上回る受講者を確保でき、総受講者数も144名にのぼり、高く評価できる。上記まちなかキャンパスの講座と同様に、市民の関心の高いテーマを設定できたためと思われる。

第3に、本学独自の市民講座において受講者数を増やした要因は、市政だよりや独自の募集チラシ、ホームページ等を活用した広報を積極的に行った成果であるといえる。今後は、市政だよりや独自の募集チラシ、ホームページに加えて、年間講座計画リーフレットの発行など広報のさらなる充実を図る必要性が感じられた。

（6）平成28年度実績と評価

a まちなかキャンパス長岡における公開講座

- ・当初の目標通り、本学の松本和明（テーマ：「長岡の老舗本屋です！」卒業生の覚張良太氏と共に、日時：2016年10月11日19:00～20:30、於・まちなかキャンパス長岡、参加者：17名）、山川智子（テーマ：「天気が変われば景気も変わる」気象予報士の高野哲夫氏と共に、日時：2017年03月09日19:00～20:30、於・まちなかキャンパス長岡、参加者予定：17名）の2名の教員がまちなかカフェ及び支所での出張カフェという形で積極的に参加し、大いに貢献をした。特にこの年度の講座内容は、単独ではなく他のゲストの持ち味を引き出しつつ展開するファシリテーターとしての力量を要求される難易度の高いものばかりだった。
- ・出張カフェとしては、当初の予定に盛り込まれていなかったが、松本（テーマ：「長岡鉄道について」、日時：2016年06月28日、於・希望ヶ丘分校、参加者約50名）、同（テーマ：「コンビニおにぎりの秘密」、日時：2017年02月19日、於・栃尾分校、参加者約50名）、山川（テーマ：「連続ドラマの楽しみかた」、日時：2017年02月19日、於・山古志スキー場、参加者約10名）と3件を、まちなかキャンパス長岡や各分校の要請を受けて実施した。受講人数は流動的だが、アンケートからはおおむね好評を得ているようだ。
- ・市民プロデュース講座として、本学の権五景ゼミナールの「十分杯で長岡を盛り上げよう！」が3回（2016年05月11日・18日・25日、各回19:00～20:30、於・まちなかキャンパス長岡、参加者のべ人数：56名）に渡って、講座を開催した。

b 長岡大学独自の市民公開講座

当初の予定に従って以下の通りに開講した。

- ・「高齢者のためのスマホ・タブレット入門」
講師：高橋治道教授（奇数回を主に担当）/ 吉川宏之准教授（偶数回を主に担当）

開講日程：平成 28 年 6 月 6 日～平成 28 年 7 月 4 日（月曜日計 5 回、18：30～20：00）

会場：1 回目・まちなかキャンパス長岡 503 会議室、2 回目以降・同 502 会議室

受講料：5,000 円、受講者：18 名 *第 3 回目以降学生アシスタント 3 名を配置

・「記紀神話を読む 前編」

講師：小川幸代教授

開講日程：平成 28 年 6 月 23、30 日、7 月 14、21 日（木曜日計 4 回、19：00～20：30）

会場：長岡大学、受講料：4,000 円、受講者：29 名 *テキスト代は別途徴収

・「メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅲ種・Ⅱ種総合ストレスチェック」

講師：山川智子教授

開催日程：平成 28 年 9 月 9 日～10 月 7 日（金曜日計 5 回、19：00～20：30）

会場：長岡大学、受講料：5,000 円、受講者：18 名

・「初級簿記講座（日商簿記 3 級程度）」

講師：中村大輔准教授

開講日程：平成 28 年 9 月 20 日～11 月 17 日（各火・木曜日計 15 回、19：00～21：00）

会場：長岡大学、受講料：15,000 円、受講者：14 名 *テキスト代別途徴収

・「近代東アジアの日本ー批判的検討」

講師：兒嶋俊郎教授

開催日程：平成 28 年 10 月 19 日～11 月 23 日（水曜日計 6 回、19：00～20：30）

会場：長岡大学、受講料：6,000 円、受講者：16 名

・「記紀神話を読む・後編」

講師：小川幸代教授

開講日程：平成 28 年 11 月 10 日～11 月 24 日（木曜日計 3 回、19：00～20：30）

会場：長岡大学、受講料：3,000 円、受講者：21 名 *テキストは前編と同じ

・「外山脩造の足跡と活動」

講師：松本和明教授

開催日程：平成 28 年 11 月 1 日～11 月 29 日（火曜日計 5 回、19：00～20：30）

会場：栃尾文化センター、受講料：5,000 円、受講者：17 名

・まちなかキャンパス長岡の講座等は、2 名の本学教職員が講師として参画して開講することができた。今年度は市民プロデュース講座として、「十分杯で長岡を盛り上げよう！」講座は企画運営の段階から提案した新しい試みであった。権准教授の地域活性化ゼミ活動が発展を遂げて、市民からの学習ニーズに十分応え得る内容になった点は注目される。今後ともこうした地域における知の拠点としての発信が追及されるべきであろう。

・今年度はまちなかキャンパス長岡の講座でも本学独自の市民公開講座においても、定員超過の受講者の参加を得ることができた。これは市民の関心が高いテーマを設定できた結果と見ることができる。また、広報の方法や開講時期の設定も功を奏したと考えられる。

・広報の方法は、大きな進展があった。平成 28 年度に実施する講座概要と日程を紹介する年間計画リーフレットを 6 月上旬に発行し、長岡市内の各所に配布した。従来通り、講座ごとの募集案内も作成したが、リーフレットを見て講座の申し込みをした受講者も多く、早

めに年間スケジュールや講座案内の刊行が大きな効果をあげたと言える。広報期間を長く取れた講座は相対的に応募者が多く、広報の充実が講座を成功させる重要な要因となった。本学からのお知らせやホームページ、情報便や新聞など、その他の方法も関連させて、一層の充実を図る必要がある。

- ・本学独自の市民公開講座の総受講者数は前年より若干減ではあるが、前年同様 100 名を超えた。今後も、講座内容の充実等を図り、市民の学習意欲をかき立てる講座を実施したい。

(7) 平成 29 年度方針・目標

【方針】

- ・市民公開講座の開講・・・平成 28 年度に引き続き、計画的に年間講座を開講し（年間講座計画公表）、本学教員の地域への知的還元を積極的に行う。情報、会計、日本文化、企業史、地域史、心理学等の講座を開講する。次年度計画も作成する。

【目標】

- ・まちなかキャンパスの講座については、これまでと同様に本学教員も企画立案・講師・ファシリテーターとして積極的に参加することで、地域のさらなる文化的な発展に貢献する。
- ・本学独自の市民公開講座については、情報・会計（簿記）・日本文化・企業史・地域史、心理学等の予定している 11 講座すべての開講と受講者数の増加、受講者層の拡大を目指す。
- ・地域志向研究の成果の知的還元や長岡地域の偉人の発掘など、従来なかった新規の講座内容の充実を図る。
- ・過去の実績を踏まえ、次年度の本学独自の市民公開講座の年間計画を作成する。

(8) 平成 29 年度計画

- a. まちなかキャンパスにおける当大学関連の公開講座は、以下の内容が予定されている。
- ・まちなか大学「企業のトップがやってきた！2017」2017 年 06 月 30 日（金）開始。07 月 07 日（金）、07 月 14 日（金）、07 月 21 日（金）、07 月 25 日（火）、全 5 回予定。
担当：松本 和明（ファシリテーター） 会場：まちなかキャンパス長岡 301 会議室
 - ・まちなかカフェ（こどもカフェ）「まちの駅ってどんなところ？」2017 年 07 月 09 日（日）。
担当：鯉江ゼミナール 会場：長岡大学及び花火の駅長岡花火ワールド悠（共催）
 - ・まちなかカフェ「ラクラク落語ーマクラからサゲまでー」2017 年 12 月 12 日（火）。
担当：松本 和明 会場：まちなかキャンパス長岡 4F 交流広場
- b. 本学独自の長岡大学市民公開講座は、次のスケジュールで進める。
- * 4 月 平成 29 年度公開講座日程の決定とリーフレットの作成
 - * 4 月～11 月 公開講座の広報（ホームページ、市政だより、チラシ、リーフレット）
 - * 5 月～11 月 公開講座の実施
 - * 7 月～3 月 平成 30 年度公開講座年間計画立案・決定、案内チラシ作成準備

図表6-13-1 平成29年度市民公開講座 一覧

| 講師 | タイトル | 場所 | 日程 | 回数・曜日・受講料 |
|---------------|--|-----------------|------------------|---|
| 松本和明/ 高橋治道 | 長岡偉人伝 | 長岡大学 | 2017/05/23～06/20 | 【全5回】火曜日 5,000円 |
| 吉川宏之 | Excel 入門 | 長岡大学 | 2017/06/05～06/21 | 【全6回】月・水曜日 6,000円 テキスト代972円 |
| 小川幸代 | 記紀を読む 前編 | 長岡大学 | 2017/06/15～07/20 | 【全5回】木曜日 5,000円 別途テキスト・コピー代 |
| 児嶋俊郎 | 新潟における戦争の記憶 (地域志向研究) | 長岡大学 | 2017/06/21～06/28 | 【全2回】水曜日 2,000円 |
| 権 五景 | 経済発展の始まりはニ ーズと地域資源の活用 にある！ (地域志向研究) | 長岡大学 | 2017/07/05～07/12 | 【全2回】水曜日 2,000円 |
| 山川智子 | 温泉の魅力について語 ろう！(地域志向研究) | 長岡大学 | 2017/07/19～07/26 | 【全2回】水曜日 2,000円 |
| 山川智子 | おとなの学びなおし心 理学 | 長岡大学 | 2017/09/15～10/06 | 【全4回】金曜日 4,000円 |
| 中村大輔 | 簿記入門講座(日商簿 記初級から3級程度) | 長岡大学 | 2017/09/28～11/16 | 【全15回】火・木曜日 15,000円 テキスト問題集2,052円 |
| 栗井英大 | 「聞き手を動かすプレ ゼンスキル」を身に付 ける！ | 長岡大学 | 2017/10/04～10/25 | 【全4回】水曜日 4,000円 |
| 小川幸代 | 記紀を読む 後編 | 長岡大学 | 2017/10/12～11/30 | 【全5回】木曜日 5,000円 別途テキスト・コピー代 |
| 松本和明 | 北越紀州製紙 110 年の あゆみと長岡地域 | まちなかキャン パス長岡 | 2017/11/01～11/29 | 【全5回】水曜日 5,000円 |

c. 平成30年度以降のポストCOCの市民公開講座については、講座開講の取組み方法がほぼ確立しているため、取組み方のマニュアルを整理し、担当者が交替しても、継続開催できるように仕組みを確立する。

(9) 平成29年度展開

a まちなかキャンパス長岡における公開講座

- ・当初の目標通り、本学の松本和明がファシリテーターとして、まちなか大学「企業のトップがやってきた！2017」が、まちなかキャンパス長岡301会議室にて、2017年06月30日(金)、07月07日(金)、07月14日(金)、07月21日(金)、07月25日(火)、の全5回に渡り開

催された。これは 2015 年度に実施した講座が大好評で、ゲストを新たに迎えてリニューアルしたもので、当時は通常のまちなか大学の定員 30 名を倍増して対応したという経緯がある。ゲストの顔ぶれも多彩で、食文化プロデューサーSUZU GROUP、FM ながおか、越銘醸、創業 110 周年の北越紀州製紙、大光銀行と、長岡地域に密着した企業の取り組みや魅力を存分に伝えた。2015 年度よりも受講者数は漸減したが、アンケートの満足度はとても高かった。

- ・今までありそうでなかった講座が、鯉江ゼミナールの学生たちによるまちなかカフェ（こどもカフェ）「まちの駅ってどんなところ？」であった。予定通り、2017 年 07 月 09 日（日）に当大学と花火の駅長岡花火ワールド悠との共催で実施した。親子連れの参加者が 14 名と定員には及ばなかったが、内容的には地域活性化ゼミ活動の紹介、モンゴル人留学生による国際交流とこれまでの成果をもとに、すべて学生が中心となって講座を進めていった点は特筆に値する。
- ・次年度のまちなか大学では、落語の連続講座を予定している。その講師の 1 人でもある当大学松本和明のまちなかカフェ「ラクラク落語ーマクラからサゲまでー」は予定通り、2017 年 12 月 12 日（火）に行われた。参加者は 17 名だった。通常の会場であるサイエンスコーナーではなく、3 階スタジオを寄席に見立てて開催したのはユニークであった。内容も興味深かった。
- ・市民プロデュース講座として、本学の権五景ゼミナールの学生たちが地元の陶芸家と協同した「十分杯陶芸教室」が、2017 年 10 月 18 日（水）・11 月 14 日（火）・12 月 15 日（金）と全 3 回で実施した。地域活性化発表会でもその時の様子が紹介されている。

図表 6-13-2 平成 29 年度長岡大学まちキャン講座 一覧

| 講 師 | タイトル | 日 程 | 回数・受講料 |
|--------|-----------------------|------------------|----------------------------|
| 松本和明 | 企業のトップがやってきた！ 2017 | 2017/06/30～07/25 | 【全 5 回】 3,000 円 |
| 鯉江ゼミナル | まちの駅ってどんなところ？ | 2017/07/09（日） | 【全 1 回】 500 円 |
| 松本和明 | ラクラク落語 ーマクラからサゲまでー | 2017/12/12（火） | 【全 1 回】 500 円 |
| 権ゼミナル | 十分杯陶芸教室 | 2017/10/18～12/15 | 【全 3 回】 3,600 円 (材料費含む) |

b 長岡大学独自の市民公開講座

当初の予定に従って以下の通りに開講した。

特段の記述がないものは当大学が会場で、1 コマ 19:00～20:30 の 90 分で実施している。

- ・「長岡偉人伝」 講師：松本和明教授／高橋治道教授（5/30）
開催日程：平成 29 年 05 月 23 日～06 月 20 日（火曜日計 5 回）
受講料：5,000 円、受講者 6 名（第 3 回講座のみ 20 名）
- ・「Excel 入門」 講師：吉川宏之准教授
開講日程：平成 29 年 06 月 05 日～06 月 21 日（月曜日・水曜日計 6 回） 受講料：6,000 円
受講者 8 名 *テキスト代別途 972 円、学生委員の学生アシスタント 3 名を配置
- ・「記紀を読む 前編」 講師：小川幸代教授
開講日程：平成 29 年 06 月 15 日、22 日、29 日、07 月 13 日、20 日（木曜日計 5 回）

受講料：5,000 円、受講者 26 名 ＊テキスト代別途 1,253 円

- ・「新潟における戦争の記憶（地域志向研究）」 講師：児嶋俊郎教授
開講日程：平成 29 年 06 月 21 日・28 日（水曜日計 2 回） 受講料：2,000 円、受講者 8 名
- ・「経済発展の始まりはニーズと地域資源の活用にある！（地域志向研究）」講師：権五景教授
開講日程：平成 29 年 07 月 05 日・12 日（水曜日計 2 回） 受講料：2,000 円、受講者 5 名
- ・「温泉の魅力について語ろう！（地域志向研究）」講師：山川智子教授
開講日程：平成 29 年 07 月 19 日・26 日（水曜日計 2 回） 受講料：2,000 円、受講者 9 名
- ・「おとなの学びなおし心理学」 講師：山川智子教授
開講日程：平成 29 年 09 月 15 日～10 月 06 日（金曜日計 4 回）
受講料：4,000 円、受講者 15 名
- ・「簿記入門講座（日商簿記初級から 3 級程度）」 講師：中村大輔准教授
開講日程：平成 29 年 9 月 28 日～11 月 16 日（各火・木曜日計 15 回）
受講料：15,000 円、受講者 21 名 ＊テキスト（1,026 円）問題集（1,026 円）代別途徴収
- ・『聞き手を動かすプレゼンスキル』を身に付ける！」 講師：栗井英大准教授
開講日程：平成 29 年 10 月 04 日～25 日（水曜日計 4 回） 受講料：4,000 円、受講者 4 名
- ・「記紀を読む 後編」 講師：小川幸代教授
開講日程：平成 29 年 10 月 12 日、19 日、26 日、11 月 16 日、30 日（木曜日計 5 回）
受講料：5,000 円、受講者 24 名 ＊テキストは前編同様
- ・「北越紀州製紙 110 年のあゆみと長岡地域」 講師：松本和明教授
開講日程：平成 29 年 11 月 01 日～29 日（水曜日計 5 回） 受講料：5,000 円、受講者 11 名
会場：まちなかキャンパス長岡

平成 29 年度 長岡大学市民公開講座



Excel 入門



記紀を読む 前編・後編



地域経済の始まりはニーズと
地域資源の活用にある！



おとなの学びなおし心理学



簿記入門講座
（日商簿記初級から 3 級程度）



北越紀州製紙 110 年
のあゆみと長岡地域

(10) まとめ—成果と課題—

- ・今年度はまちなかキャンパス長岡の講座でも本学独自の市民公開講座でも、比較的安定した受講者数の参加を得ることができた。これは継続して市民の関心が高いテーマを設定できた結果と見ることができる。また、広報の方法や開講時期の設定も功を奏したと考えられる。
- ・昨年度の地域志向研究でもあった講座を前後2回に分けて実施したのは新規の試みだった。しかし、地域志向研究に採択された以外に特に共通項がないテーマを敢えて連続講座のようにしなくても良かったのかも知れない。講座回数とテーマ、時期的な配置など、今後も検討を重ねてゆきたい。
- ・広報では大きな進展があった。平成29年度に実施する講座概要と日程を紹介する年間計画リーフレットを昨年度の6月上旬よりも前倒しで発行して、長岡市内の各所に配布した。2年目ということもあり、リーフレットの取りまとめや発行に至るプロセスが迅速化して、効果的な広報ができたのではないかと考える。
従来通り、広報期間を比較的長く取れた講座は相対的に応募者が多く、広報の充実が講座を成功させる重要な要因となることが実証された。本学からのお知らせやホームページ、情報便や新聞など、その他の方法も関連させて、一層の充実を図る必要がある。
- ・本学独自の市民公開講座の総受講者数はここ数年平均して100名を超えた状態が続いている。今後も、講座内容の充実等を図り、市民の学習意欲をかき立てる講座を実施したい。

図表6-13-3 平成29年度市民公開講座全講座案内

講座担当教員の紹介

| | | | |
|--|----------|--|----------|
| | 講師 高橋 浩道 | | 講師 山田 宏之 |
| | 講師 小川 幸代 | | 講師 山崎 智子 |
| | 講師 中村 大剛 | | 講師 藤本 和明 |
| | 講師 藤本 和明 | | 講師 藤本 和明 |
| | 講師 藤本 和明 | | 講師 藤本 和明 |

お申込み・お問合せ

申込書に必要事項をご記入の上、電話またはEメール、FAX、E-mail、ホームページにて下記までお申し込みください。

申込書は印刷して先着順となりますので早目にお申し込みください。

宛先：長岡大学 地域連携研究センター
TEL: 0258-39-1600 ext FAX: 0258-39-9566
E-mail: chiken@nagaokuniv.ac.jp
長岡大学 URL: http://www.nagaokuniv.ac.jp
〒940-0828 新潟県長岡市山崎山町60-8
担当：小田原、山田

地域志向研究とは

地域を題材とした教育や研究または社会貢献活動を行うことを通じて地域に貢献することを目的としています。

新潟における戦争の記憶

戦後日本における戦争の記憶がどのように形成されたか、人々の歴史意識に与えた影響について考えます。

時間：19:00-20:30 会場：長岡大学
定員：2,000名 定員：20名

日程：6月21日(水) 6月28日(水)

平成29年度 長岡大学 市民公開講座

テーマ：o-school

o-schoolは、長岡大学市民公開講座の名称です。

長岡大学の建学の精神
新しい職業人として、人づくりと教育実践教育の発展
地域社会に貢献し、健全な人材の育成

平成29年4月 長岡大学

長岡偉人伝

講師：高橋 浩道 (講義2回のみ)、講師：藤本 和明

長岡市内各地で「私心なくして近代化に尽くす」との思いを胸に、精神をもち、地域の未来を切り拓いていった先人の足跡と業績を振り返ります。

時間：19:00-20:30 会場：長岡大学
定員：5,000名 定員：20名

| 開催日(予定) | テーマ |
|----------|------------------|
| 5月23日(水) | 高橋 浩道の企業家活動 |
| 5月30日(水) | 高橋 浩道の企業家活動 |
| 6月 6日(水) | 平石 俊太郎(銀行家)と長岡銀行 |
| 6月13日(水) | 久保 幸三郎(銀行家)と長岡銀行 |
| 6月20日(水) | 山田 文七(政治家)と長岡市議選 |

日記を読む(前編)

講師：小川 幸代

『奇事記』と『日本書紀』は、日本の歴史文化を理解するための重要な文献です。本講座では、「奇事記」から「日本書紀」までの日記の書き方と読み方について学びます。

時間：19:00-20:30 会場：長岡大学
定員：5,000名 定員：30名

| 開催日(予定) | テーマ |
|----------|-------------------------|
| 6月15日(水) | 神代日記(前編) |
| 6月22日(水) | 神代日記(後編) |
| 6月29日(水) | 文政時代(安永 徳政 享和 享和 享和 享和) |
| 7月13日(水) | 神代日記 |
| 7月20日(水) | 長岡日記 |

おとなの学びなおし心理学

講師：山崎 智子

社会人の成長と学びの重要性について学びます。心理学の知識を駆使して、学びの効果を高め、自己成長を促します。

時間：19:00-20:30 会場：長岡大学
定員：5,000名 定員：20名

| 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|------------------|
| 9月15日(水) | 心理学の基礎とは何か? |
| 9月22日(水) | 社会人の成長と学びの重要性 |
| 9月29日(水) | 心理学への学びが人生に与える影響 |
| 10月 6日(水) | 心理学の基礎とは何か? |

「両手を動かすブレインスキル」を身に付けよう!

講師：藤本 和明

脳と手をつなぐ「ブレインスキル」の重要性について学びます。両手を動かすことで、脳の活性化を促し、学習効果を高め、自己成長を促します。

時間：19:00-20:30 会場：長岡大学
定員：4,000名 定員：15名

| 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|---------------------|
| 10月 4日(水) | 両手を動かす「ブレインスキル」の重要性 |
| 10月11日(水) | 両手を動かす「ブレインスキル」の重要性 |
| 10月18日(水) | 両手を動かす「ブレインスキル」の重要性 |
| 10月25日(水) | 両手を動かす「ブレインスキル」の重要性 |

Excel入門

講師：山田 宏之

Excelの基礎から学びます。表の作成、計算、集計などの基本的な操作を中心に学びます。Microsoft Excel 2013を使用します。

時間：19:00-20:30 会場：長岡大学
定員：5,000名 定員：20名

| 開催日(予定) | テーマ |
|----------|----------|
| 6月 5日(水) | Excelの基礎 |
| 6月 7日(水) | 表の作成 |
| 6月12日(水) | 関数の活用 |
| 6月14日(水) | 表の印刷 |
| 6月19日(水) | 表の印刷 |
| 6月21日(水) | 表の印刷 |

日記を読む(後編)

講師：小川 幸代

『奇事記』と『日本書紀』は、日本の歴史文化を理解するための重要な文献です。本講座では、「奇事記」から「日本書紀」までの日記の書き方と読み方について学びます。

時間：19:00-20:30 会場：長岡大学
定員：5,000名 定員：30名

| 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|------|
| 10月12日(水) | 長岡日記 |
| 10月19日(水) | 長岡日記 |
| 10月26日(水) | 長岡日記 |
| 11月16日(水) | 長岡日記 |
| 11月23日(水) | 長岡日記 |

簿記入門講座(日商簿記初級から3級程度)

講師：中村 大剛

個人事業主や中小企業の経営者向けに、日商簿記初級から3級程度までを学びます。簿記の基礎から応用までを学び、経営者としてのスキルを身につけます。

時間：19:00-21:00 会場：長岡大学
定員：15,000名 定員：1,024名 定員：30名

| 開催日(予定) | テーマ | 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 9月28日(水) | 簿記の基礎 | 10月26日(水) | 簿記の基礎 |
| 10月 3日(水) | 簿記の基礎 | 10月31日(水) | 簿記の基礎 |
| 10月10日(水) | 簿記の基礎 | 11月 7日(水) | 簿記の基礎 |
| 10月17日(水) | 簿記の基礎 | 11月14日(水) | 簿記の基礎 |
| 10月24日(水) | 簿記の基礎 | 11月21日(水) | 簿記の基礎 |

北越製紙創業110年のあゆみと長岡地域

講師：藤本 和明

北越製紙創業110周年を記念して、創業の歴史と長岡地域の発展について学びます。創業の歴史と長岡地域の発展について学びます。

時間：19:00-20:30 会場：長岡大学
定員：5,000名 定員：20名

| 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|-----------------|
| 11月 1日(水) | 北越製紙の創業と長岡地域の発展 |
| 11月 8日(水) | 北越製紙の創業と長岡地域の発展 |
| 11月15日(水) | 北越製紙の創業と長岡地域の発展 |
| 11月22日(水) | 北越製紙の創業と長岡地域の発展 |
| 11月29日(水) | 北越製紙の創業と長岡地域の発展 |

図表6-13-4 長岡偉人伝



(文部科学省採択)
 平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度長岡大学市民公開講座 『長岡偉人伝』

長岡大学地域連携研究センター

.....
 長岡には、「私心を捨てて次世代に尽くす」という誇り高い精神性を持ち、各界各層との連携を密にしつつ、何ごとにも前向きにチャレンジして地域の未来を切り拓いていった先人の足跡と活動を取り上げていく。彼らの生涯から、地域の最重要課題である「地方創生」のヒントを探るとともに、来年の「長岡開府400年」に向けて、次の100年への指針を見いだすことができよう。

★募集人員：20名(先着順)

※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

★講師：松本 和明(長岡大学 教授)
 高橋 治道(長岡大学 教授) 第2回のみ



★時間：19:00～20:30

★会場：長岡大学 第4会議室

★受講料：5,000円(全5回)※初回にお持ちください。

★シラバス

| | 開 講 日 | テ ー マ |
|-----|----------|---------------------------|
| 第1回 | 5月23日(火) | 高橋九郎の企業者活動 |
| 第2回 | 5月30日(火) | 越路・神谷地域における高橋九郎 |
| 第3回 | 6月6日(火) | 平石金次郎・楨計作(越路地域)と岩塚製菓 |
| 第4回 | 6月13日(火) | 久須美秀三郎・東馬(和島地域)と越後鉄道 |
| 第5回 | 6月20日(火) | 山田又七(和島地域)・福島甲子三と宝田石油・令終会 |

締め切り：平成29年5月16日(火)

<申込み・お問合せ>

【申込方法】 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

【申込先】 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原
 TEL：0258-39-1600(代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp
 FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

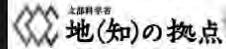
| | | | |
|--------|---|-----|--|
| 氏名 | | 職業 | |
| 住所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表6-13-5 Excel入門



(文部科学省採択)
 平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 長岡大学 市民公開講座
 『Excel入門』

Excelの基礎から学んでいく講座です。表の作成、計算、集計などの基本的な機能を中心に講座を進めていきます。Microsoft Excel2013を使用し、以下の内容を予定しています。

- ・合計、平均、最大、最小、データのカウンント ・計算式の複写と相対参照・絶対参照
- ・表示形式とセルのスタイル・罫線 ・条件の判定(IF関数)

【ワープロ(Microsoft Wordなど)の基本的な操作と日本語入力の出来る方。】

- ★募集人員：20名(先着順)※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。
- ★講師：吉川 宏之(長岡大学 准教授)
- ★時間：19:00～20:30
- ★会場：長岡大学 コンピュータ室
- ★受講料：6,000円(全6回)※初回にお持ちください。
- ★使用テキスト：30時間でマスター Excel2013
 実教出版編修部 972円(税込)



★シラバス

| | 開 講 日 | テ ー マ |
|-----|----------|-----------|
| 第1回 | 6月 5日(月) | 簡単な表の作成 |
| 第2回 | 6月 7日(水) | 表とグラフ |
| 第3回 | 6月12日(月) | ワークシートの活用 |
| 第4回 | 6月14日(水) | 書式と罫線 |
| 第5回 | 6月19日(月) | 関数の利用 |
| 第6回 | 6月21日(水) | 関数の利用とまとめ |

<申込み・お問合せ>

締め切り：平成29年5月29日(月)

- 【申込方法】 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。
- 【申込先】 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原、山田
 TEL：0258-39-1600(代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp
 FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

| | | | |
|--------|---|-----|--|
| 氏名 | | 職業 | |
| 住所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 6-13-6 記紀を読む (前編)

(文部科学省採択)
 平成 25~29 年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成 28~31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)」

長岡大学
地(知)の拠点

平成 29 年度長岡大学市民公開講座 『記紀を読む(前編)』

長岡大学地域連携研究センター

奈良時代に編纂された『古事記』(全 3 巻)と『日本書紀』(全 30 巻)は、日本の歴史や文化を理解するための基本的な文献です。本講座では、「神武天皇」から「垂仁天皇」まで(古事記中巻、日本書紀巻第 3~第 9)を、記紀の両書を比較しながら読んでいきます。昨年度までの講座「記紀神話を読む」の続編になりますが、今期からでも充分理解できるように講義いたします。

- ★募集人員：30名(先着順)
- ★講師：小川 幸代(長岡大学 教授)
- ★時間：19:00~20:30
- ★会場：長岡大学 4階 第4会議室



- ★受講料：5,000円(全5回)※初回にお持ちください。
- ★資料コピー代：500円(下記テキストとは別に資料をコピーしたものを配布いたします)
- ★使用テキスト：中村啓信訳注『新版 古事記 現代語訳付き』角川文庫 1,253円(税込)
- ※テキストを注文される方は、代金を初回にお持ちください。テキストは後編にも使用します。
- なお、テキスト代はつり銭のないようお願いいたします。

★シラバス

| | 開 講 日 | テ ー マ |
|-----|----------|---------------------------------|
| 第1回 | 6月15日(木) | 神武天皇即位前 |
| 第2回 | 6月22日(木) | 神武天皇即位前 神武天皇 |
| 第3回 | 6月29日(木) | 欠史8代(綏靖・安寧・懿徳・孝昭・孝安・孝霊・孝元・開化天皇) |
| 第4回 | 7月13日(木) | 崇神天皇 |
| 第5回 | 7月20日(木) | 垂仁天皇 |

※後編開講予定日：10/12、10/19、10/26、11/16、11/30(木曜日)

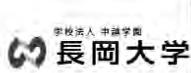
＜申込み・お問合せ＞ 締め切り：平成29年6月12日(月)

- 〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。
- 〔申込先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原、山田
TEL：0258-39-1600(代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp
FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

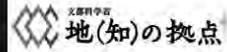
| | | | |
|--------|---|--------|----------|
| 氏名 | | 職業 | |
| 住所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | テキスト注文 | する ・ しない |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表6-13-7 新潟における戦争の記憶



(文部科学省採択)
平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 長岡大学 市民公開講座 新潟における戦争の記憶

戦争の記憶はどのように継承されているのか。それは平和な社会を建設するためにきちんと蓄積され、整理されているのだろうか。この問題を考えるため、1回目では戦後日本で戦争の記憶がどのように記録化され、人々の歴史意識に影響してきたかを考える。2回目では、長岡戦災資料館等の活動や、そこに集積された証言記録の持つ意味を考えたい。

- ★募集人員：20名（先着順）
- ★講師：児嶋 俊郎（長岡大学 教授）
- ★時間：19:00～20:30
- ★会場：長岡大学
- ★受講料：2,000円（全2回）※初回にお持ちください。
- ★シラバス



| | 開 講 日 | テ ー マ |
|-----|----------|------------------|
| 第1回 | 6月21日（水） | 記憶と記録、そして戦後の歴史意識 |
| 第2回 | 6月28日（水） | 長岡における戦争の証言 |

<申込み・お問合せ>

締め切り：平成29年6月14日（水）

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原、山田
TEL：0258-39-1600（代） E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp
FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

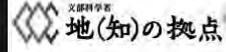
| | | | |
|--------|---|-----|--|
| 氏名 | | 職業 | |
| 住所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 6-13-8 経済発展の始まりはニーズと地域資源の活用にある！



(文部科学省採択)
 平成 25～29 年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成 28～31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 長岡大学 市民公開講座 経済発展の始まりはニーズと地域資源の活用にある！

今回の講座では、経済発展の主体を国ではなく、「地域」とする。つまり、「豊かな国とそうでない国との違いはなんだろうか」ではなく、「豊かな地域とそうでない地域との違いはなんだろうか」である。具体的には、石油資源という共通点がありながらも、工業の現状に差が開いてしまった長岡市と秋田市の事例と、うまく行った欧米諸国とそうでなかったアジア諸国の事例を紹介することで、一緒に将来について考えていきたい。

- ★募集人員：20名(先着順)
- ★講師：権 五景(長岡大学 教授)
- ★時間：19:00～20:30
- ★会場：長岡大学
- ★受講料：2,000円(全2回)※初回にお持ちください。
- ★シラバス



| | 開 講 日 | テ ー マ |
|-----|----------|-------------------------|
| 第1回 | 7月 5日(水) | 石油のまち、新潟県中越と秋田市の共通点と相違点 |
| 第2回 | 7月12日(水) | 世界の地域資源の活用の事例 |

<申込み・お問合せ>

締め切り：平成29年6月28日(水)

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。

FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原、山田

TEL：0258-39-1600(代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp

FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

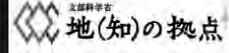
| | | | |
|--------|---|-----|--|
| 氏 名 | | 職 業 | |
| 住 所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 6-13-9 地域志向研究講座『温泉の魅力について語ろう!』



(文部科学省採択)
 平成 25~29 年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成 28~31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 長岡大学 市民公開講座
地域志向研究講座『温泉の魅力について語ろう!』

「最近、温泉に行きましたか?」「お気に入りの温泉はどこですか?」
 この講座では長岡や近くの温泉について思う存分にその魅力や特徴を語り合しましょう!
 長岡市周辺地域だけでなく、新潟県内には約 150 か所もの温泉施設・入浴施設が存在しています。
 温泉や入浴施設は単に温浴するだけでなく、観光スポットとして人々を惹きつけたり、地域の交流の
 要となったり、健康を増進するための場でもあったりと、「地域の宝」とも言えるものです。
 長岡や新潟県内各地の温泉にまつわる魅力や地域的な特徴を中心に、温泉入浴と身体の関係なども
 踏まえて、聞いたらすぐに温泉に飛んで行きたくなるような内容としたいと思っています。
 この講座は長岡大学における地域志向研究として取り組んできた研究活動を、市民向けの公開講座
 として披露するものでもあります。

- ★募集人員：20 名（先着順）
- ★講 師：山川 智子（長岡大学 教授）
- ★時 間：19:00~20:30
- ★会 場：長岡大学
- ★受 講 料：2,000 円（全 2 回）※初回にお持ちください。
- ★シラバス



| | 開 講 日 | テ ー マ |
|-------|-------------|--------------------------|
| 第 1 回 | 7 月 19 日（水） | 温泉風土記：なぜ長岡の温泉は「しょっぱい」のか？ |
| 第 2 回 | 7 月 26 日（水） | 新潟湯めぐり日記：元気になれる温泉とは何か？ |

＜申込み・お問合せ＞ 締め切り：平成 29 年 7 月 12 日（水）

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。是非お問い合わせ下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原、山田
 TEL：0258-39-1600 (代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp
 FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

| | | | |
|--------|---|-----|--|
| 氏 名 | | 職 業 | |
| 住 所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表6-13-10 おとなの学びなおし心理学



(文部科学省採択)
 平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 長岡大学 市民公開講座 『おとなの学びなおし心理学』

「もったきちんと勉強しておけば良かった！」後悔先に立たずと言いますが、学校での勉強の重要性を認識するのは社会に出てからです。社会人の勉強と学校の勉強は似ているようで、かなり違います。社会人はフルタイムで勉強できるわけでもない、さまざまな制約がある中でアウトプットを求められる、今後のことを考えると資格の一つも取っておきたい…と目的や立ち位置もそれぞれ異なるものです。

学習心理学は、心理学の中でも記憶や学習効果に焦点を当てたものです。学習心理学を軸として、おとなになって学びなおすことの楽しみや意義と一緒に考えてゆきましょう。

- ★募集人員：20名（先着順）
- ★講師：山川 智子（長岡大学 教授）
- ★時間：19:00～20:30
- ★会場：長岡大学
- ★受講料：4,000円（全4回）※初回にお持ちください。
- ★シラバス



| | 開 講 日 | テ ー マ |
|-----|----------|-------------------------|
| 第1回 | 9月15日（金） | 起：「頭がよい」とは一体どういうことか？ |
| 第2回 | 9月22日（金） | 承：社会人の勉強と学生の勉強の大きな違い |
| 第3回 | 9月29日（金） | 転：習慣化への手がかり、明確化すべき「次の手」 |
| 第4回 | 10月6日（金） | 結：自己効力感～やり抜く力こそが学びを活かす |

<申込み・お問合せ>

締め切り：平成29年9月11日（月）

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。是非お問い合わせ下さい。

FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

*締め切りを過ぎていても定員に余裕がある場合、受け付ける場合があります。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原、山田

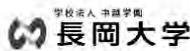
TEL：0258-39-1600 (代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp

FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

| | | | |
|--------|---|-----|--|
| 氏 名 | | 職 業 | |
| 住 所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 6-13-12 「聞き手を動かすプレゼンスキル」を身に付ける！



(文部科学省採択)
平成 25～29 年度「地(知)の拠点整備事業」
平成 28～31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度 長岡大学 市民公開講座 『「聞き手を動かすプレゼンスキル」を身に付ける!』

本講座では、パワーポイント(以下、パワポ)を使ったプレゼンテーション(以下、プレゼン)の実践的な方法を学び、身に付けることを目指します。

社内・社外向けにプレゼンを行う機会が増える一方、その効果的な方法を体系的に学んだ経験がある人は少ないようです。そこで、パワポを使ったプレゼンの方法を学んだ後、参加者によるプレゼン実施とその修正過程を通じて、現場で使える実践的なプレゼン技術を習得して頂きます。

- ★募集人員：15名(先着順)
- ★講師：栗井 英大(長岡大学 准教授)
- ★時間：19:00～20:30
- ★会場：長岡大学
- ★受講料：4,000円(全4回)※初回にお持ちください。
- ★シラバス



| | 開 講 日 | テ ー マ |
|-----|-----------|---------------------------------|
| 第1回 | 10月4日(水) | 「聞き手を動かすプレゼン」とは?+自己紹介(講義+実践) |
| 第2回 | 10月11日(水) | ロジカルシンキング+パワポ資料作成+プレゼン(講義+実践) |
| 第3回 | 10月18日(水) | 説明・プレゼンの手法+パワポ資料の修正+プレゼン(講義+実践) |
| 第4回 | 10月25日(水) | パワポ資料の最終調整+最終プレゼン(実践) |

<申込み・お問合せ>

締め切り：平成29年9月27日(水)

- 【申込方法】 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。是非お問い合わせ下さい。
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。
*締め切りを過ぎていても定員に余裕がある場合、受け付ける場合があります。

- 【申 込 先】 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原、山田
TEL：0258-39-1600(代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp
FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

| | | | |
|--------|---|-----|--|
| 氏 名 | | 職 業 | |
| 住 所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表6-13-13 北越紀州製紙110年のあゆみと長岡地域



(文部科学省採択)
 平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成29年度長岡大学市民公開講座 『北越紀州製紙110年のあゆみと長岡地域』

長岡大学地域連携研究センター

北越紀州製紙株式会社は、1907(明治40)年4月27日に北越製紙として長岡市で設立されて、本年で110周年を迎える。創設以来、長岡地域はもとより新潟県の産業・ビジネスの発展において主導的な役割を果たしている。創業者の田村文四郎や覚張治平をはじめ、田村文吉や桜井督三および布施津三などのリーダーたちの足跡を中心に、長岡工場の事業展開や地域との関わり、様々な社会貢献活動などについてふりかえっていききたい。

- ★募集人員：20名(先着順)
- ★講師：松本 和明(長岡大学 教授)
- ★時間：19:00～20:30
- ★会場：まちなかキャンパス長岡 5階 交流ルーム
- ★受講料：5,000円(全5回)※初回にお持ちください。
- ★その他：駐車料金等は受講者様のご負担となります。
- ★シラバス



| | 開 講 日 | テ ー マ |
|-----|-----------|--------------------|
| 第1回 | 11月 1日(水) | 北越製紙の設立と田村文四郎・覚張治平 |
| 第2回 | 11月 8日(水) | 北越製紙の企業成長と田村文吉 |
| 第3回 | 11月15日(水) | 多種多様な地域・社会貢献活動 |
| 第4回 | 11月22日(水) | 北越製紙の経営再建と桜井督三 |
| 第5回 | 11月29日(水) | 北越製紙の経営発展と布施津三 |

<申込み・お問合せ>

締め切り：平成29年10月25日(水)

- [申込方法] 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。
- [申込先] 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原
 TEL：0258-39-1600(代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp
 FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

| | | | |
|--------|---|-----|--|
| 氏名 | | 職業 | |
| 住所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

14 企業人向けセミナーの開催－社会貢献③－

(1) 方針（申請時）

- ・従来の企業人向けイノベーション人材養成講座を刷新して、地域中小企業・行政等の専門・基幹人材の育成を目的にした「新・イノベーション人材養成講座」として企業人講座を開講する。

(2) 目標（申請時）

- ・平成25年度→全体計画策定の上、4講座を開講する。本学教員2名、外部講師2名。
- ・また、同講座の1つ「ものづくりマネジメント講座」を「長岡市ものづくりインストラクター養成スクール」の連携講座として開講する。
- ・平成29年度→テーマは12テーマに3倍増し、毎年の定番講座（4テーマ程度）と年度毎の特別講座（4テーマ程度）を組み合わせて、開講する。担当教員数は、本学教員6名程度、外部講師6名程度。

(3) 平成25年度実績と評価

- ・前期(9月～11月)に「管理会計講座」、後期(12月～2月)に「ものづくりマネジメント(生産向上)講座」と「商品企画講座」の計3講座を開講。前期に予定していた「経営革新計画講座」は応募者が3名に満たず、開講できなかった。また、受講者は管理会計が3名、ものづくりが5名、商品企画が6名で、いずれも募集定員(20名)を大きく下回った。
- ・いずれの講座も採算がとれていないので(講師謝金カバーできず)、次年度は受講者拡大の工夫を行う必要がある。

(4) 平成26年度実績と評価

- ・前期(10月～11月)に「商品企画講座」、「人材活用講座」後期(12月～2月)に「ものづくりマネジメント(生産向上)講座」、「管理会計講座」の計4講座を開講。ものづくりマネジメント講座では第1回に鈴木信貴氏(長岡技大准教授)を迎え、「ものづくりとイノベーションマネジメント」と題する公開講座とした。
- ・受講者は商品企画講座が4名、人材活用講座2名(事前申込み3名)、ものづくりマネジメント(生産向上)講座4名、管理会計講座5名で、いずれも募集定員(20名)を大きく下回り、昨年度同様、受講者数確保が今後の大きな課題となった。

(5) 平成27年度実績と評価

【実績】

- ・全4講座を開講した。

★インターネット活用講座・・・

期間：10月1日～11月19日（全8回）

講師：今井進太郎（グローバルマーケティング株式会社代表取締役／中小企業診断士）

受講者：3名

★商品企画講座・・・

期間：10月7日～11月25日（全8回）

講師：小松俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）

受講者：3名

★管理会計講座・・・

期間：12月1日～2月9日（全8回）

講師：中村大輔（全8回）

受講者：6名

★経営承継(後継者)講座・・・

期間：12月8日～2月9日（全8回）

講師：小松俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）

受講者：3名

★ものづくりマネジメント講座・・・

- ・受講申込みが1名のため不開講としたが、第1回の公開講座＝東大の新宅教授の講演会は開催した。約70名が参加した。

*ものづくりマネジメント公開講座「ものづくりとビジネスモデルの再構築」

日時：平成27年12月7日（月）15：00～17：00

講師：東京大学大学院経済学研究科教授 新宅純二郎

会場：ホテルニューオータニ長岡「桜の間」

【評価】

- ・上記の通り、5講座計画したが、1講座が不開講となった。その他の講座も数名の受講者にとどまった。
- ・受講者の講座の評価は高く、講義、演習とインプット、アウトプットを組み合わせた運営により、当該スキルの向上につながったものと思われる。
- ・受講生の確保が引き続き課題である。講座テーマ、実施時期、実施回数、実施時間について内容を見直す必要がある。

(6) 平成28年度実績と評価

- ・計画した全4講座のうち、1項座は不開講となった。

★実践！商品企画講座→期間：9月13日～10月11日（全8回）

講師：小松俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）

受講者：2名

★実践！事業承継講座→期間：11月9日～11月24日（全3回）

講師：栗井英大（長岡大学准教授／中小企業診断士・事業承継アドバイザー）

受講者：5組10名

★管理会計講座→期間：12月1日～2月2日（全8回）

講師：中村大輔（長岡大学准教授）

受講者：10名

★実践！中小企業の＜1日新規事業プランづくり＞講座→＜12月11日（土）の1日に3

回講座、講師：今井進太郎（グローバルマーケティング代表取締役／中小企業診断士）
で募集したが、申込1名のため、メンター制度を使い、今井講師による相談・指導に変更した。新事業開発への関心を高めることはできなかった。

- ・講座の広報については、「長岡市市政だより」、「ながおか情報便（長岡商工会議所）」を利用し、一定の効果はあった。
- ・また、今年度より、事業承継講座はNPO法人長岡産業活性化協会NAZEと共催し募集をNAZEにお願いし、受講者を確保できた。今後こうした方策を検討する必要がある。

（7）平成 29 年度方針・目標

【方針】

- ・企業人セミナーの開講・・・企業人の能力向上をめざすイノベーション人材養成講座（事業承継、管理会計、商品企画、新事業開発等）を、継続展開できる規模（1講座5～10名の受講者）を確保する方策を工夫し、制度化をめざして開講する。

【目標】

- ・地域企業および行政等との連携を更に強化し、各コースとも最低10名の受講者を確保する。「地域に欠かせない基幹人材育成講座」としての評価の定着に努める。

（8）平成 29 年度計画

- a 管理会計と原価企画（8回）・・・中小企業に必要な管理会計、原価企画の考え方について、実務家の講義、ワークショップを組み合わせ、展開する。後期
- b 地域資源活用型商品開発とマーケティング（8回）・・・地域産業の競争力を高めるために必要なオンリーワンの商品づくり、事業の組み立て手法について、実務家の講義、ワークショップを組み合わせ、展開する。後期
- c 事業承継 自社株式の円滑な引き継ぎ方（8回）・・・株式、人的資産、商権、金融機関など、事業を引き継ぐ際の留意点について実務家の講義、ワークショップを組み合わせ、展開する。後期
- d 平成 30 年度以降のポストCOOの企業人講座については、これまでの実績と企業人材養成ニーズの観点から、市・経済団体等との連携も踏まえて、特徴があり受講者確保が可能な開講講座を取りまとめる。

（9）平成 29 年度の展開

- ・計画した全3講座のうち、2講座は不開講となった。

★実践！マーケティングの基礎を学ぼう！～地域資源を活かしたビジネスプラン作り～
期間：9月19日～10月3日（全5回）、講師：栗井英大（長岡大学准教授／中小企業診断士・事業承継アドバイザー）で募集したが、申込者がなく不開講となった。

★中小企業の後継者育成講座（事業承継）→期間9月27日～10月27日（全3回）、講師：栗井英大（長岡大学准教授／中小企業診断士・事業承継アドバイザー）、受講者8名。

★管理会計講座→期間：11月28日～1月30日（全8回）、講師：中村大輔（長岡大学准教

授)で応募したが、申込1名のため不開講となった。

- ・講座の広報については、「長岡市市政だより」、「ながおか情報便(長岡商工会議所)」を利用したが効果が出なかった。
- ・今年度より事業承継講座を見附商工会と共催で行った。募集を見附商工会へ依頼し、受講者の確保が出来た。

中小企業の後継者育成講座(事業承継)

～全3回～



(10) まとめー成果と課題ー

- ・平成29年度のイノベーション人材養成講座は上記の通り3講座を計画したが、2講座が不開講となった。
- ・中小企業の後継者育成講座では見附商工会と共催したことにより受講者確保が可能となった。地域の経済団体である商工会議所、商工会との連携を強めて行く必要がある。そのため、今年度小千谷商工会議所、見附商工会と事業連携協定を締結した。この連携を活かし、人材養成講座の活性化を目指す。
- ・広報を昨年度と同様に行ったが、効果が出なかった。次年度は今までの参加者を後押ししてくれた企業へヒアリング等を行い、確実に開講できるような広報に努めたい。

図表6-14-1 実践！マーケティングの基礎を学ぼう
 ～地域資源を活かしたビジネスプラン作り～ 講座・募集要項



長岡大学

(文部科学省採択)
 平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



地(知)の拠点

平成29年度I期(9月～11月)長岡大学イノベーション人材養成講座

実践！マーケティングの基礎を学ぼう！

～地域資源を活かしたビジネスプラン作り～ 講座・募集要項

長岡大学地域連携研究センター

★講座趣旨：日本のマーケットは、少子高齢化や価値観の多様化などにより、成熟化・細分化が進んでいます。このような時代、企業が生き残るには、消費者が求める商品をいかに提供することができるかが重要なポイントとなります。そのためには、長期的に売れる仕組み作り、すなわち「マーケティング」の考え方を企業戦略に取り入れ、他社との差別化を図ることが必要不可欠です。本講座では、顧客から支持を得られる商品・サービスを提供するためのマーケティング技法を、講義・演習を組み合わせ会得していきます。自社ブランドで市場開拓を目指す企業のみならず、営業担当者、マーケティングの基礎を学びたい方など、ぜひご参加ください。

★受講対象者：経営幹部、商品企画担当者、営業担当者など

★募集人員：20名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

★講師：栗井 英大(長岡大学准教授/中小企業診断士)

★時間：19:00～21:00(9/23は13:00～17:00)

★会場：長岡大学教室

★受講料：20,000円(初回にご持参ください)

*裏面の<長岡市米百俵財団研修助成制度のご案内>をご覧ください

★シラバス

| | 開講日 | テーマ | 講師 |
|-----|----------|-----------------------------|-------|
| 第1回 | 9月19日(火) | マーケティングの概要と強み・地域資源の発掘 | 栗井 英大 |
| 第2回 | 9月23日(土) | マーケティングのSTP <データ収集の演習> | 栗井 英大 |
| 第3回 | 9月23日(土) | マーケティングの「4つのP」 | 栗井 英大 |
| 第4回 | 9月26日(火) | マーケティングの「4つのC」<店頭実査、レポート作成> | 栗井 英大 |
| 第5回 | 10月3日(火) | キャッチコピー・ネーミング方法+成果発表 | 栗井 英大 |

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
 右記のFAX番号に送信してください。

<申込先>

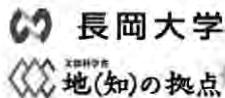
FAX：0258-39-9566
 TEL：0258-39-1600(代)
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/chiken/>
 e-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp
 長岡大学地域連携研究センター
 担当：小田原、山田
 〒940-0828 長岡市御山町80-8

締め切り 平成29年9月12日(火)

| | | | |
|--------|---|--------|--|
| 氏名 | | 所属・会社等 | |
| 住所・連絡先 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表6-14-2 中小企業の後継者育成講座（事業承継）募集要項



(文部科学省採択)
平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

中小企業の後継者育成講座（事業承継）～全3回～ 募集要項

共催：見附商工会
長岡大学地域連携研究センター

★講座趣旨：人口減少、事業所減少傾向のなかで、「経営者が築き上げてきた企業を次世代に引き継ぐ」事業承継は、非常に重要な経営課題です。しかし、事業承継のノウハウは必ずしも知られていません。

本講座は、3回の講座を通して中小企業の後継者を育成する実践的な講座で、後継者あるいは後継者候補が確定している企業の経営者・後継者向けの講座です。座学だけではなく、ワークショップ等による事業承継プランの作成も行い、短期間で事業承継のポイントを身に付けることができる講座です。新潟県内の事業承継事例約100社を見た、事業承継の現場を知り尽くした講師が、実際の好事例・失敗事例を交えながら、本講座を進めます。なお、本講座は、見附商工会と長岡大学地域連携研究センターが共催して開講します。

★受講対象者：後継者あるいは後継者候補が確定している事業者の後継予定者（第3回10/27は先代も出席）

★募集人員：15組（20名）（先着順）

★講師：栗井 英大（長岡大学准教授／中小企業診断士・事業承継アドバイザー）



【プロフィール】平成9年早稲田大学政治経済学部卒業後、19年間金融機関に勤務（含む銀行系シンクタンクへの出向期間）し、平成28年より現職。長岡大学では「実践」「現場」を意識した分かりやすい講義を展開。また、中小企業診断士として創業支援・経営改善等に携わるほか、事業承継・地方創生・経済動向等をテーマにした社会人向け講演実績多数。なお、BSNラジオ「ゆうなびラジオ」毎週木曜日のコメンテーターとして出演中。

★時間：19:00～21:00 ※10/27（金）は17:00～19:00（講義終了後、懇親会を行います。料金別途）

★会場：見附商工会館2F

★受講料：全3回 3,000円（初回にお持ちください）、
第3回10/27のみ参加 1,000円（懇親会費別途）

★内容：

| | 開催日 | 開催時間 | 講座テーマ | 講座内容概要 |
|-----|--------------|-----------------|-----------------------------|------------------------------------|
| 第1回 | 9/27 (水) | 19:00～ 21:00 | 決算書の見方・読み方 (自社の経営状況の把握) | B/S・P/L・C/Fの基礎 経営分析の基礎 |
| 第2回 | 10/10 (火) | 19:00～ 21:00 | 次世代に求められる リーダーシップ・マネジメント | 経営者に必要なリーダーシップ 従業員の力を引き出すマネジメント |
| 第3回 | 10/27 (金) | 17:00～ 19:00 | 事業承継プランの作成 | 経営の引き継ぎ 事業用・個人資産の引き継ぎ |

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mailでお申込み下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
右記のFAX番号に送信してください。

<お申し込み先>

見附商工会：担当 滝澤
FAX 0258-63-1656
TEL 0258-62-1365 (代)
e-mail msyoukou@niiigata-inet.or.jp

締め切り 平成29年9月20日（水）

| | | | |
|--------|---|--------|--|
| 氏名 | | 所属・会社等 | |
| 住所・連絡先 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、見附商工会及び長岡大学の規定に従って厳正に管理します。

15 起業人材養成セミナーの開催－社会貢献④－

(1) 方針（申請時）

- ・従来間欠的に開講されたビジネスプラン講座をこえて、市・会議所と連携し、常設の「新・起業家塾」（女性、シニア、ソーシャルビジネス含む）を開講する。
- ・また、これを通して、起業家を輩出する＜長岡起業家塾＞制度を形成する。

(2) 目標（申請時）

- ・常設のビジネスプラン講座、起業シンポ開催、起業メンターによる日常的起業支援も行き、創業・起業家を輩出する。
- ・平成 25 年度→全体計画策定の上、初級コース（8 週間）を開講。次年度から、初級・上級コース（各 8 週間）を開講する。本学担当教員は 4 名、外部講師 4 名。
- ・平成 29 年度→毎年、5 名程度の創業・起業（女性、シニア含む）をめざす。それを可能にする、長岡市、新潟県、長岡商工会議所、企業、大学・高専、ベンチャーキャピタル等が連携した、起業家を輩出する＜長岡起業家塾＞制度を確立する。
- ・また、小中学・高校生の起業家教育にも取り組む。

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・1 月～3 月にかけて社会人対象の創業セミナー(全 8 回)を開講した。参加者は 22 名で、各回の平均出席率も 9 割を下回らず好評を得た。また、セミナーと並行するかたちで創業相談(創業支援メンター制度)を実施。3 月末までに 18 件の利用があった。それらの結果、その後に法人設立など、具体的な事業の立ち上げにつながる事例が 2 件あった。
- ・＜長岡起業家塾＞については、2 月に第 1 回運営委員会を開催。事業の趣旨および計画等について説明、次年度に向けて具体的な構想を協議することを申し合わせた。

(4) 平成 26 年度実績と評価

- ・7 月に「女性のための起業セミナー」（全 5 回、受講者 7 名）、12 月～2 月にかけて「創業セミナー(一般・シニア向け)」（全 8 回、受講者 9 名）を開講。併せて実施した創業支援(メンター制度)を 5 名が活用、のべ 6 回の相談を行った。
- ・上記のセミナーおよび創業支援を経て、2 名の女性が起業し(両者とも個人経営)、その他 5 名が具体的な事業をもって起業を目指している。

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・創業・起業の 2 つのセミナーを開講した。その概要は次の通りである。

★女性のための起業セミナー・・・

期間：7 月 14 日～8 月 7 日(全 5 回)

講師：小松俊樹、山田康博、今井進太郎、高橋真由美、平田希望美

受講者：8 名（長岡市・見附市内から）

★創業セミナー(一般・シニア向けコース)・・・

期間：12月9日～2月17日(全8回)

講師：小松俊樹、今井進太郎、日本政策金融公庫

受講者：3名

- ・創業相談・・・平成27年度の創業支援メンターを活用した創業相談は、前期が2名2回、後期は1名2回の実施にとどまった。

【評価】

- ・夏季の「女性のための起業セミナー」は受講生も多く、出席率も高水準を維持した。今年から開催された長岡市「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」へ受講者が応募するものも散見された。
- ・冬季の「一般・シニア向けコース」は受講者数が少なく、数を追う性質のものではないが、内容、広報、実施時期の見直しなど、一定の規模の確保は必要である。

(6) 平成28年度実績と評価

- ・創業、起業セミナーの概要は次の通りである。
 - ★女性のための起業セミナー→期間：7月14日～8月10日(全5回)、講師：小松俊樹、新谷梨恵子、今井進太郎、山田康博、高橋真由美。受講者：2名(長岡市内から)。
 - ★創業セミナー(一般・シニア・女性向けコース)→期間：1月21日～2月18日(全5回)、講師：小松俊樹、今井進太郎、山田康博、日本政策金融公庫。受講者：7名。
- ・広報については、「長岡市市政だより」への案内掲載を行った。創業セミナーについては、創業希望者に情報が届くように、生活に密着した情報誌の「まるごと生活情報」と「Nアッシュ」に有料で、広告を掲載した。その結果、創業セミナーには7名の参加者を確保できた。
- ・創業メンター制度を活用した創業相談は今年度なかった。

(7) 平成29年度方針・目標

【方針】

- ・地域起業人材セミナーの開講・・・創業セミナー(初級、上級、学生・若者)の開催、創業支援メンター制度の年間展開、地域連携による創業・起業講演会・シンポジウムの開催を行い、起業風土づくりと起業家の輩出(2件)をめざす。
- ・長岡市の起業支援センターながおかの連携を図り、相互補完の役割を發揮する。

【目標】

受講対象の属性を明確にして、各属性を考慮したセミナー内容を企画する。また、昨年度に引き続き、創業支援メンター制度の年間展開を図り、確実な起業家輩出を目指す。

(8) 平成 29 年度計画

- a 創業セミナー 初級コース（3回）・・・漠然と創業を考えている、いずれは会社を辞めて自分でやりたい、などの希望をもつ創業予備軍を対象に、創業に向けた心構え、必要な準備アイデア発想法、事業の仕組みなどについて基本的な知識を伝授する。 前期
- b 創業セミナー 上級コース（5回）・・・事業アイデアが明確であり、資金の蓄えも一定程度に達した創業予定者を対象に、ビジネスプランの作成法、競合との差別化、創業販促、投資、資金調達、損益、資金繰りなど数値計画の組み立て方、創業手続きなどについて実践的な知識を伝授する。終了後、希望者にはビジネスプランの添削指導を行う。 後期
- c 創業セミナーⅢ（学生向け 5回）・・・長岡市三大学一高専の学生及び若者を対象に、ビジネスプランづくりセミナーを開催し、長岡市をはじめとする各地のビジネスプラン・コンテストへの積極的な応募を支援する。 後期
- e 以上のセミナーとともに、引き続き創業支援メンター制度を活用した、創業・起業の促進を図る。
- f 平成 30 年度以降のポストCOCの起業人材セミナーについては、同様のセミナー等の乱立状況を前提に、他起業支援機関等との連携も探り、創業セミナーとしての定着をめざす。地方創生が終了しても、継続できる地域における創業セミナー・支援拠点をめざす方策ととりまとめる。

(9) 平成 29 年度の展開

- ・創業、起業セミナーの概要は次の通りである。
 - ★創業セミナー（初級コース）→期間：8月5日～8月26日（全3回）、講師：小松俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）、受講者：1名（長岡市内）
 - ★創業セミナー（学生向け）→セミナー形式ではなく、長岡市、十日町市、新潟市、南魚沼市、東京で行われた学生対象のビジネスプランコンテスト応募者について個別指導を行った（8月～11月）。長岡市の長岡アイコンでは北越銀行賞1、優秀賞4、東京のビジネスコンテストKINGでは参加学生のチームが優勝と観覧者投票No.1の特別賞を同時受賞した。
 - ★創業セミナー（実践コース）→期間：12月2日～2月3日（全6回）、講師：小松俊樹、高橋真由美、山田康博、日本政策金融公庫。受講者：7名。
- ・「長岡市市政だより」、昨年度効果のあった「まるごと生活情報」を活用し広報を行った。実践コースの参加者は昨年同様であったが、上記広報により参加を決めた方は少なく、手法について検討する必要がある。
- ・昨年度に続き創業メンター制度を活用した創業相談はなかった。



創業セミナー（初級コース）



創業セミナー（実践コース）

(10) まとめー成果と課題ー

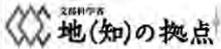
- ・平成 29 年度の創業セミナーは上記の通り 2 講座（8 名参加）を計画し、予定通り開講した。
- ・初級コースは 1 名のみの参加であったが、受講者の強い希望により開講した。既に起業している方であったが、起業後でも十分意義のあるセミナーであることがアンケートから汲み取ることが出来た。
- ・広告媒体については有料広告を利用したが、あまり効果がなかった。今後、起業支援機関と協力し、口コミや斡旋等により受講者増を目指したい。
- ・創業相談のメンター制度は 2 年連続で活用がなかった。セミナー参加者を増やしメンター制度へつなげて行く流れをつくってゆく必要がある。

図表6-15-1 創業セミナー（初級コース）・募集要項



学校法人 中越学園
長岡大学

(文部科学省採択)
平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



文部科学省
地(知)の拠点

平成29年度 創業セミナー

- 初級コース -

長岡大学では「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」事業の1つとして、長岡市の地方創生事業との連携のもとで起業人材養成セミナーを開講しています。併せて創業・起業支援メンターによる日常的支援も行い、確実な創業・起業家輩出の一翼を担いたいと考えています。今年を受講生の起業意識に応じて、初級と上級の2つに分け、下記のとおり開講します。創業支援メンター制度については裏面をご覧ください。

★募集対象：いずれは創業したい、こんなアイデアをもっている、経験を活かして独立したい、など創業予備軍の方

★募集人員：10名（先着順）

★時間：13：30～16：30

★会場：長岡大学

★受講料：無料（ただし、資料代として2,000円）

★講師：小松 俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）

★講座シラバス

| | 開講日 | テーマ(予定) |
|-----|-----------|---------------------------------|
| 第1回 | 8月 5日(土) | オリエンテーション、自己紹介、事業計画の作り方、創業体験談 |
| 第2回 | 8月 19日(土) | 事業アイデア発想法、アイデアをカタチにする、アイデアを検証する |
| 第3回 | 8月 26日(土) | 事例から学ぶ(ケーススタディ)、成果発表 |

【ビジネスプラン相談会】：具体的なビジネスプランの相談に応じます。 **参加費無料**

*セミナー終了後、9月に3回(予定)開催。日時は参加希望者と相談の上、決定します。

主催：長岡大学地域連携研究センター

後援：長岡市、長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、公益財団法人にいがた産業創造機構

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このまま送信してください。

〔申込先・問合せ先〕長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原

TEL：0258-39-1600(代)

E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学 URL：<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>

FAX：0258-39-9566

締め切り：平成29年7月31日(月)

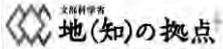
| | | | |
|--------|---|-----|--|
| 氏名 | | 職業 | |
| 住所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 6-15-2 創業セミナー（実践コース）募集要項



(文部科学省採択)
 平成 25~29 年度「地(知)の拠点整備事業」(COC)
 平成 28~31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



創業セミナーのご案内

【実践コース】

長岡大学では「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」事業の1つとして、長岡市の地方創生事業との連携のもとで起業人材養成セミナーを開講しています。併せて創業・起業支援メンターによる日常的支援も行い、確実な創業・起業家輩出の一翼を担いたいと考えています。今年は実践コースとして下記のとおり開講します。創業支援メンター制度については裏面をご覧ください。

- ★募集対象：創業・起業に関心のある方。性別および年齢は問いません。
- ★募集人員：20名（先着順） ★時間：13:30~16:30 ★会場：長岡大学 ★受講料：無料
- ★講師陣：小松 俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）
 高橋 真由美（㈱サマンサハート代表取締役）
 山田 康博（税理士法人ながおか会計／税理士）
 今井 進太郎（グローバルマーケティング㈱代表取締役／中小企業診断士）ほか＜順不同＞

★講座シラバス

| | 開講日 | テーマ(予定) | 講師 |
|-----|-----------|-------------------------------|----------|
| 第1回 | 12月2日(土) | 自己紹介／創業・起業 成功のポイント、創業計画シートの説明 | 小松 俊樹 |
| 第2回 | 12月9日(土) | 実践！売れる仕組みの作り方1 | 小松 俊樹 |
| | | 受講生の創業体験談 | 高橋 真由美 |
| 第3回 | 12月16日(土) | 実践！売れる仕組みの作り方2 | 小松 俊樹 |
| 第4回 | 1月6日(土) | 遠攻！創業財務 | 山田 康博 |
| | | 上手なお金の借り方 | 日本政策金融公庫 |
| 第5回 | 1月20日(土) | 創業に良く効く IT 活用 | 今井 進太郎 |
| 第6回 | 1月27日(土) | 商圏、立地の理解、開業プロモーションの手法／成果発表 | 小松 俊樹 |

【ビジネスプラン相談会】：具体的なビジネスプランの相談に応じます。参加費無料
 ＊セミナー終了後、3回程度(予定)開催。日時は参加希望者と相談の上、決定します。
 主催：長岡大学地域連携研究センター
 後援：長岡市、長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、公益財団法人にいがた産業創造機構

【申込方法】 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このまま送信してください。

【申込先・問合せ先】
 長岡大学 地域連携研究センター（長岡市御山町80-8） 担当：小田原
 TEL：0258-39-1600(代) FAX：0258-39-9566
 E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp 長岡大学URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

締め切り：平成 29 年 11 月 24 日(金)

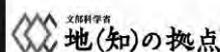
| | | | |
|--------|---|----|-----|
| 氏名 | | 職業 | |
| 住所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | | FAX |
| E-mail | | | |

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 6-15-3 創業支援メンター活用のご案内



(文部科学省採択)
 平成 25~29 年度「地(知)の拠点整備事業」(COC)
 平成 28~31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



創業支援メンター活用のご案内

長岡大学地域連携研究センター

★趣旨—長岡地域起業家塾>をめざして—

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成 25 年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業に採択されました。このプログラムは課題解決や価値創造を担う専門人材=創造人材の育成により地域再生・活性化をめざすものです。

このプログラムの事業として、長岡地域で創業・起業を盛んにする<長岡地域起業家塾>の形成を計画しています。この起業家塾では、創業セミナーの開催とともに、創業、起業前・後の経営等相談ができる<創業支援メンター>制度(*)を設けます。大いに活用してください。

*メンターとは、様々な経営等の課題解決に助言・支援する専門家のこと。

★制度・仕組み

| | |
|---------|---|
| 1. 流れ | ①電話またはメールで申し込む ②メンターと日程調整 ③相談者に連絡 ④相談実施 |
| 2. 相談料 | 初回は無料。その後は応相談。 |
| 3. 相談申込 | 下記「ご連絡先」あて。 |
| 4. 申込時間 | 毎週月～金曜日の午前 10 時から午後 4 時(電話の場合)。 |
| 5. 申込事項 | ①相談事項 ②希望相談日時 ③相談者の連絡先(住所、電話番号など) ※申し込まれた方に「相談シート」をメールでお送りします。 |

- ・メンター：小松 俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)
- 山田 康博(税理士法人ながおか会計/税理士)
- 今井 進太郎(グローバルマーケティング/㈱代表/中小企業診断士)

★連絡先 〒940-0828 長岡市御山町 80-8
 長岡大学地域連携研究センター 担当：小田原
 TEL 0258-39-1600(代)
 e-mail chicken@nagaokauniv.ac.jp



Ⅶ <全体>における事業展開

16 推進体制の整備－全体①－

(1) 平成25年度実績と評価

- ・設備等推進体制づくりは計画通り、薦めることができた。
- ・FD活動・・・平成25年度は以下の通り合計5回のFD活動（うち、2回は集中FD研究会）を行った。

<平成25年>

4月1日 教授会報告「長岡大学FD基本ポリシー」

8月21日 集中FD・SD研究会

1. 学生の就職力向上への日常的指導
2. 中途退学者を減らすための仕組みの点検と改善について

9月18日 COC事業推進のためのFD・SD会議

10月30日 COC事業推進のためのFD・SD会議

「長岡市の地域課題について」（講演および質疑応答）

講師：長岡市市長政策室政策企画課課長補佐 上村建史 氏

<平成26年>

3月12日 集中FD・SD研究会

1. 『効果的なホームページの作り方』（講演および質疑応答）

講師：グローバルマーケティング代表取締役 今井進太郎 氏

2. 学生FDサミット2014春 参加報告（報告および質疑応答）

3. 平成26年度COC方針、予算、調書について

ほか

(2) 平成26年度実績と評価

- ・設備等推進体制づくりは計画通り、進めることができた。
- ・FD活動・・・平成26年度は以下の通り、合計5回のFD研究会（うち、2回は集中FD研究会）を行った。

<平成26年>

6月25日 FD研究会

「長岡大学経済経営学部経済経営学科設置届出書」（説明および質疑応答）

講師：鯉江康正教授

8月27日 集中FD/SD研究会

「理想の大学教育をデザインするワークショップ」（講演および質疑応答）

講師：上智大学経済学部教授 川西諭 氏

11月5日 FD/SD研究会

「産学連携によるインターンシップ等教育改善について

－新潟大学農学部を取り組みを中心に－」（講演および質疑応答）

講師：新潟大学農学部教授/キャリアジム運営副センター長 箕口秀夫 氏

：新潟大学農学部キャリアジム運営センターコーディネーター 古俣清勝 氏

11月26日 FD研究会

「公的研究費に関するコンプライアンスについて」(説明および質疑応答)

講師：三浦康弘総務課長

<平成27年>

3月11日 集中FD研究会

「PROGテストおよびテスト結果の解説について」(説明および質疑応答)

講師：株式会社リアセック 谷川雅之氏

- ・視察、研修(FD・SD)・・・大学視察とセミナー、フォーラム等へ参加することで当面する課題への対応と先進事例の学習に取り組んだ。

<平成26年>

5月23日 第10回大学トップセミナー(SD) 職員1名参加

7月31日 金沢工業大学視察(FD・SD) 教員1名、職員2名参加

9月13日 岡山大学学生FDイベント「i*See2014」(FD) 教員1名、学生2名参加

10月18日 京都産業大学視察(SD) 職員2名参加

10月19日 京都SDフォーラム(SD) 職員2名参加

<平成27年>

2月28日 京都コンソーシアム主催FDフォーラム(FD) 教員3名参加

3月17日 松本大学視察(FD・SD) 教員1名、職員4名参加

- ・SD全体会・・・全職員対象に大学における諸問題について研修等を3回行った。

<平成26年>

7月30日 「大学の方針・理念について」

11月28日 「学生指導、大学運営について(グループワーク)」

<平成27年>

2月27日 「留学生の就職について」

講師：南行政書士事務所所長/行政書士 南直人氏(講演および質疑応答)

- ・スタッフ会議・・・若手職員を選出して事務局内および大学内全体を視野に入れて解決すべきと思われる問題を話し合った。
- ・地(知)の拠点整備事業シンポジウム

<平成27年>

2月27日 「地(知)の拠点整備事業シンポジウム～COC全国ネットワーク化事業～

“地(知)の拠点整備から地域創生へ”」 教員3名参加

(3) 平成27年度実績と評価

- ・COC事業の推進体制・・・COC運営事務局会議(週1回)、同会議通信の全教職員への配信(週1回)、COC推進本部会議(月1回)の開催を継続するとともに、地域連携研究センターの3部会(市民講座、調査研究、地域連携。月1回開催)も定期的に行われ、事業の円滑な推進を行った。
- ・FD/S D活動・・・平成27年度は、次の通り、4回のFD/S D全体会を開催した。

- 6月24日 第1回全体FD/SD会議（16:30～17:00）
 テーマ「ハラスメント防止対策について」・・・西俣FD部会長、内藤学長、品川事務局長よりハラスメント規程の修正報告検討。
- 7月29日 第2回全体FD/SD会議（16:30～17:45）
 テーマ1「研究倫理教育」・・・村山学部長、文科省の研究不正防止の考え方を説明。
 テーマ2「PROG運用方法の学生に対する説明報告と改善点等について」・・・原田副学長、平成26年度PROGまとめ報告、具体的活用方策を検討へ。
- 8月26日 第3回集中FD/SD会議（13:30～15:40）
 テーマ「中退者の原因分析と対策について」・・・講師・NPO法人NEWVERY代表 山本 繁氏。中退者防止の方策を検討。
- 10月28日 第4回全体FD/SD会議（16:30～18:30）
 テーマ1「授業外学修時間を増やす対策について」・・・西俣FD部会長報告。
 テーマ2「アカデミック・アドバイザー制度について」・・・牧野FD部会員報告。
 テーマ3「アクティブ・ラーニングALについて」・・・西俣FD部会長報告。
 テーマ4「ラーニング・コモンズについて」・・・関FD部会員報告
 テーマ5「昨年度満足度調査報告書について」・・・西俣FD部会長報告
 テーマ6「PROGの活用方法について」・・・西俣FD部会長報告
 以上のテーマごとに、討論し、方策を検討した
- ・SD活動・・・平成27年度は、次の通り、2回のSD会議を開催した。
 <平成27年>
- 9月11日 第1回SD会議（職員全体会）（15:00～15:40）
 テーマ「大学運営について」・・・品川事務局長から、中期計画、大学の目標等、PDCA、5Sなどについて説明、討論、認識を深めた。
- 11月27日 第2回SD会議（SD研修報告会）（16:00～16:40）
 テーマ1「第13回SDフォーラム（大学コンソーシアム京都）研修報告（10/18）について」・・・研修テーマ「多様な繋がりを育む大学職員」につき、参加者の事務職員・長谷川、山田健報告。質疑応答行う。
 テーマ2「第9回大学人サミット信州・まつもとカレッジ2015研修報告（11/7）について」・・・テーマ「地域の地域による、地域のための、大学人サミット」の内容について、参加者の事務職員・長谷川、石綿、山田健より報告。質疑応答行う。
- ・研修・視察等・・・
 <平成27年>
- 9月9日 社会人基礎力育成研修会 in 関東（経済産業省主催、於・青山学院大学）・・・事務職員2名（井比、長谷川）参加
- 10月18日 第13回SDフォーラム「多様な繋がりを育む大学職員」（大学コンソーシアム京都主催、於・キャンパスプラザ京都）・・・事務職員2名（長谷川、山田）参加
- 11月7～8日 第9回大学人サミット信州・まつもとカレッジ2015（松本大学主催、於・同

大)・・・事務職員3名(長谷川、石綿、山田)参加

11月21日 大学・短大トップセミナー「学生の多面的評価を考える」(PROGテスト実施機関・リアセック/河合塾主催、於・東京国際フォーラム)・・・教員1名(村山学部長)参加。文科省の教育改革、高大接続、企業人材ニーズの3つの講演と質疑あり。

<平成28年>

1月29日 第1回COC+事業コミュニティ・ビジネスセミナー(新潟青陵大学主催、於・新潟日報メディアシップ)・・・事務職員2名(長谷川、石綿)参加。コミュニティビジネスについての講演と質疑あり。

2月5日 2015年度名古屋学院大学COC学生成果報告会・COC事業中間総括フォーラム(名古屋学院大学主催、於・名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎)・・・教員3名(原田、米山、中村)、職員1名(品川)参加。学生の地学連携の地域活性化事業の成果報告等発表あり。

2月19日 第2回COC+事業コミュニティ・ビジネスセミナー(新潟青陵大学主催、於・新潟日報メディアシップ)・・・事務職員2名(長谷川、石綿)参加。龍谷大学の「地域公共政策士」の講演と質疑あり。

3月5～6日 第21回FDフォーラム「大学教育を再考する」(大学コンソーシアム京都主催、於・京都外国語大学)・・・教員1名(牧野)、事務職員1名(本田)参加。大学教育再考の視点、地域貢献、高大接続等の報告あり。

- ・活動の評価(まとめ・課題)・・・COC事業の推進体制は円滑に機能することができた。FD活動については、その結果として、学生の能力・資質評価手法であるPROGテストを1～3年生に実施するとともに、学生指導・支援のアカデミック・アドバイザー制度における目標設定に活用する方針を明確にすることができた。今後の活用状況をチェックし、さらなる改善をはかる必要がある。また、学生の能力・資質向上手法として、ALやラーニング・コモンズについて検討し、具体化する方向を明らかにすることができた。これも、今後の活用とチェック、改善に心がける必要がある。

今後の課題として、FD、SDの基本方針づくりについては、十分な検討ができなかった。次年度には具体化をめざす必要がある。また、松本大学や名古屋学院大学の事例や社会人基礎力の養成・評価など、多様な地(知)の拠点のあり方が見え始めており、今後は、本学のFD、SDの内容をこの地(知)の拠点形成へと結びつける方向でより明確に意識して組み立てる必要がある。

(4) 平成28年度実績と評価

- ・COC+事業の推進・・・COC+運営事務局会議は、毎週火曜日の午前に、年間46回開催した。同会議のまとめは、事務局会議通信として、全教職員にメール配信した(週1回)。また、COC+推進本部会議は、毎月1回(第2/3火曜日16:20～17:00)し、年間11回開催した。事業の進捗管理を行い、円滑な推進を図った。地域連携研究センターの運営委員会・3部会(市民講座、調査研究、地域連携)は、月1回開催し、市民公開講座、企業人講座・創業セミナー、調査研究、地域志向教育研究、地域連携活動の推進、さらには地域連携

研究センター年報の刊行などを推進した。

- ・FD／SD活動の推進・・・FD／SD会議（6回）を次の通り開催した。

<平成 28 年>

- 7月27日 第1回全体FD／SD会議（16:30～18:30）：テーマ「学習の動機付けと資格取得について」、講師：札幌学院大学准教授/長岡大学非常勤講師 橋長 真紀子 氏
- 8月31日 第2回集中FD／SD会議（10:15～15:20）：テーマ1「長岡大学中期計画について」、講師：村山光博学長
テーマ2「ハラスメント防止対策について」：講師：パートナーズプロジェクト社会保険労務士法人代表社員/社会保険労務士高野 洋子 氏
テーマ3「コンプライアンス教育」：講師：三浦康弘総務課長
- 10月26日 第3回全体FD／SD会議（16:15～18:00）：テーマ「職員力とは何かー戦略的の大学職員の養成ー」、講師：新島学園短期大学長/大学経営コンサルタント 岩田 雅明 氏
- 11月30日 第4回全体FD／SD会議（16:30～18:10）：テーマ「災害にいかに向き合うか」、講師：中越防災安全推進機構地域防災力センター長 諸橋 和行 氏

<平成 29 年>

- 2月15日 第5回全体FD／SD会議（14:30～16:35）：テーマ1「アカデミック・アドバイザー制度の点検と改善について」、講師：牧野智一FD部会員
テーマ2「授業アンケートの改善について」、講師：米山宗久FD部会員、村山光博学長、中村大輔FD部会員
テーマ3「ラーニング・コモンズの展開について状況確認と意見交換（授業外学修時間対策としての視点から検討）」、講師：中村大輔FD部会員、関義夫FD部会員
テーマ4「公益財団法人内田エネルギー科学振興財団からの事業費助成及び長岡市市民活動補助金について」、講師：権五景准教授
テーマ5「PROGの分析結果報告とその活用方法についての確認と意見交換」、講師：中村大輔FD部会員、長谷川雅英FD部会員
テーマ6「長岡大学“三つの方針”（案）について」、講師：村山光博学長
- 3月8日 第6回集中FD／SD会議（15:00～17:00）：テーマ1「SD義務化について」、講師：品川十英大学事務局長、村山光博学長
テーマ2「長岡大学“三つの方針”（案）について」、講師：村山光博学長
テーマ3「満足度調査等の結果共有と意見交換」、講師：牧野智一FD部会員
テーマ4「COC+の進捗状況報告と意見交換」、講師：原田誠司地域連携研究センター総括マネジャー
- ・教職員対象説明会・・・次の通り、2回開催した。

<平成 28 年>

- 4月1日 長岡大学平成28年度方針説明会（16:00～17:00）：テーマ1「平成28年度長岡大学運営方針」、講師：村山光博学長。テーマ2「平成28年度の基本方針」、

講師：土田和弘理事長

9月28日 長岡大学教職員対象説明会（14:40～16:20）：テーマ1「学校法人中越学園長岡大学中期計画（案）平成29（2017）年度～平成33（2021）年度」について、講師：村山光博学長、付帯説明「長岡大学中期計画について」・三浦康弘総務課長、テーマ2「平成27年度決算について」、講師：土田和弘理事長、テーマ3「決算書（計算書類）の読み方、経営・財務状況の把握・分析について」、講師：土田和弘理事長

・学生情報管理システム導入・・・次の通り検討した。

<平成28年>

10月5日 学生情報管理のための情報システム導入についての意見交換（16:20～17:00）

説明：株式会社理経 システムソリューション営業部長 角 総一郎 氏
システムソリューション営業部 笠井 克敏 氏

バリエントソフト株式会社 代表取締役 森田 良一 氏

内容：システム業者からの説明（デモ）後、出席者に意見を求めた。参集対象は、学長、副学長、教務委員、FD部会員とした。

11月15日 FD部会にて、学生情報管理システム導入検討案を教務委員会に提出。

11月16日 教務委員会にて、学生情報管理システム導入検討案を大学運営会議に提出。

12月7日 第9回大学運営会議にて、学生情報管理システム導入については検討していくが、業務の洗い出し、費用対効果を調査する必要があることと学生カード（仮称）の活用をしたらどうかとの回答があった。

・研修・視察等・・・次の通り実施した。

<平成28年>

8月29日～30日 第6回大学コンソーシアム八王子FD・SDフォーラム「多様な学びを支える高等教育へ～高大接続改革を考える～」(大学コンソーシアム八王子主催、於・八王子市学園都市センター)。事務職員2名（石綿沙織、小田原弘貴）参加。

<平成29年>

3月4日～5日 第22回FDフォーラム「大学の教育力を発信する」(大学コンソーシアム京都主催、於・京都府立大学下鴨キャンパス内「稲盛記念会館」)。教員2名（栗井英大、鈴木章浩）、事務職員1名（小田原弘貴）参加。

3月6日～7日 平成28年度COC/COC+全国シンポジウム「地方創生と大学」(高知大学主催、於・ザ クラウンパレス新阪急高知、高知商工会館) 教員2名（高橋治道、小松俊樹）、事務職員2名（品川十英、井比亭）参加。

・まとめ（成果と課題）・・・COC+運営事務局会議、同推進本部会議および地域連携研究センター運営委員会・3部会は定期的開催され、COC+事業を計画的に推進することができた。また、今年度はFD・SDを全体FD/SD会議という形で6回開催することができた(内、第2回と6回は集中FD/SD会議とした)。それぞれのテーマごとに一定の結論(方策)をまとめることができた。ただし、内容はSDに関する内容が多く、FDについて、十

分な議論が出来たとはいえなかった。教職員対象説明会では、年度初めの方針説明会があり、9月には平成29年度から5ヶ年の中期計画、大学の決算内容と今後の大学の在り方についての説明があった。SD及びFD研修会等への参加により、教職員の能力開発に資することができた。平成29年度から義務化されるSDを確実に実行し、大学の質向上に取り組む。FDを確実に実行し、大学教育の質向上に取り組む。平成29年度のSD及びFDを確実に実行し、中期計画完成に向けた初年度とする。

(5) 平成29年度方針・目標

【方針】

a COC+事業の推進

- ・地（知）の拠点整備事業推進本部等推進体制の充実・・・COC+運営事務局会議（週1回）、同会議通信の全教職員への配布（週1回）、COC+推進本部会議（月1回）の開催による推進体制を継続し、事業の円滑な推進を行う。地域連携研究センターの3部会（市民講座、調査研究、地域連携。月1回開催）活動も充実させる。

b FD/SD活動の推進

- ・教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けることその他必要な取り組みを行う。

【目標】

a COC+事業の推進

- ・方針に基づき、地（知）の拠点整備事業推進本部等推進体制を継続し、充実を図る。

b FD/SD活動の推進

- ・FDはSDの中の一つと捉え、その実施に当たっては「長岡大学中期計画」で掲げた「大学の目指すビジョン」を実現するために、教職員が身に付け、能力・資質を向上させるための研修であることを原則とする。

〈大学の目指すビジョン〉（抜粋）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 「地域社会の発展に貢献する大学」となる2 不断の発展を続ける大学となる3 全構成員が「充実感・達成感・満足感」を実感する大学となる4 日々の活動が「見える」大学となる |
|--|

(6) 平成29年度計画

a COC+事業の推進

- ・COC+運営事務局会議は、毎週火曜日の午前に開催する。同会議のまとめは、事務局会議通信として、全教職員にメール配信する（週1回）。
- ・COC+推進本部会議は、毎月1回開催（第2／3火曜日16：20～17：00）し、事業の進捗管理を行い、円滑な推進を図る。
- ・地域連携研究センターの3部会（市民講座、調査研究、地域連携）を月1回開催し、調査研究、地域連携活動の推進を図る。

b FD/SD活動の推進

★FD会議では以下の内容を実施する

- ・教授法のレベル向上のための研修
- ・満足度調査等の結果共有と意見交換
- ・ラーニング・commonsの展開について状況確認と意見交換（授業外学習時間対策としての視点から検討）
- ・FDフォーラム等の研修への出席者による報告と意見交換

★SD会議では以下の内容を実施する

- ・理事長、学長による平成29年度方針説明
- ・障がいを持つ学生への対応について
- ・ワークライフバランスについて
- ・平成28年度決算説明
- ・防災訓練の実施
- ・科研費倫理研修会及び科研費申請支援講演会の実施
- ・中期計画中間発表
- ・5S活動について

★FD/SD会議日程

- ・ 4月 3日（月）：平成29年度方針説明会（理事長、学長）（SD）
- ・ 5月 31日（水）：障がいを持つ学生への対応について（SD）
：昨年度のFDフォーラム等の研修への出席者による（FD）
報告と意見交換
- ・ 6月 28日（水）：ワークライフバランス（SD）
- ・ 7月 26日（水）：平成28年度決算説明会（SD）
- ・ 8月 2日（水）：防災訓練（SD）
- ・ 8月：教授法のレベル向上のための研修（FD）
- ・ 8月 31日（木）：科研費倫理研修会、科研費申請支援講演会（SD）
- ・ 9月 27日（水）：中期計画中間発表（SD）
- ・ 10月：5S活動について（SD）
- ・ 2月：ラーニング・commonsの展開について状況確認（FD）
と意見交換
- ・ 3月：満足度調査等の結果共有と意見交換（FD）

※ 日付未記入は今後日付を決定する。

★研修・・・教職員の個人能力を高めるために、積極的に研修会、講習会、他大学の視察等を実施する。

c 平成30年度以降のポストCOCの推進体制については、各事業の担当を明確にし、PDCAの回し方を明確にする。また、FD/SDについては、基本方針を再度取りまとめて、年次計画をたてる。

(7) 平成 29 年度の展開

a COC+事業の推進

- ・地（知）の拠点事業の推進・・・COC+運営事務局会議は、毎週火曜日の午前に、年間 46 回開催した。同会議のまとめは、事務局会議通信として、全教職員にメール配信した（週 1 回）。また、COC+推進本部会議は、毎月 1 回（第 2 / 3 火曜日 16 : 20 ~ 17 : 00）行い、年間 11 回開催した。事業の進捗管理を行い、円滑な推進を図った。地域連携研究センターの運営委員会・3 部会（市民講座、調査研究、地域連携）は、月 1 回開催し、市民公開講座、企業人講座・創業セミナー、調査研究、地域志向教育研究、地域連携活動の推進、さらには地域連携研究センター年報の刊行などを推進した。

b FD / SD 活動の推進・・・FD / SD 会議を年間計画に則り開催した。

<平成 29 年>

5 月 31 日 第 1 回 FD / SD 会議（16 : 45 ~ 18 : 30）

- ・SD 会議 16 : 45 ~ 17 : 20 テーマ「障害を持つ学生への対応」
講師：村山光博学長、品川十英大学事務局長
- ・FD 会議 17 : 20 ~ 18 : 30 テーマ「昨年度の FD フォーラム等の研修への出席者による報告と意見交換」
 - (1) 第 6 回大学コンソーシアム八王子 FD・SD フォーラム
報告：石綿沙織主任、小田原弘貴専門員
 - (2) 2016 年度 第 22 回 FD フォーラム
報告：栗井英大准教授、鈴木章浩専任講師、小田原弘貴専門員
 - (3) 全国ネットワーク化事業 平成 28 年度 COC / COC+ 全国シンポジウム
報告：高橋治道教授、品川十英大学事務局長、井比亨教務学生課長

6 月 28 日 第 2 回 SD 会議（16 : 30 ~ 18 : 00）

- ・テーマ「ワーク・ライフ・バランス」
講師：若月一浩氏 株式会社エム・エスオフィス常務取締役

7 月 26 日 第 3 回 SD 会議（16 : 30 ~ 18 : 10）

- ・テーマ「平成 28 年度決算について」
講師：土田和弘理事長

8 月 30 日 第 4 回 SD 会議（13 : 30 ~ 14 : 45）

- ・テーマ「ハラスメント防止」
講師：若月一浩氏 株式会社エム・エスオフィス常務取締役

8 月 30 日 第 2 回 FD 会議（15 : 10 ~ 17 : 00）

- ・テーマ「教授法のレベル向上のための研修」
 - (1) 参考になる授業実践例の紹介
講師：高橋治道教授、小松俊樹教授
 - (2) 授業環境の現状の共有と意見交換
講師：牧野智一 FD 部会長（准教授）

8 月 31 日 第 3 回 FD 会議（13 : 00 ~ 14 : 45）

- ・「コンプライアンスと研究倫理」

- 講師：矢野覚士氏 ロバスト・ジャパン株式会社
- 8月31日 第4回FD会議（15：00～17：00）
- ・「『魅力的な申請書』ポイント解説 ～読み手の興味を魅きつける～」
- 講師：矢野覚士氏 ロバスト・ジャパン株式会社
- 9月27日 第5回SD会議（16：30～18：00）
- ・テーマ1「5S見学・講習会報告」
- 講師：品川十英大学事務局長
- ・テーマ2「3大学1高専キャンパス構想について」
- 講師：鯉江康正副学長
- ・テーマ3「学長シリコンバレー視察報告」
- 講師：村山光博学長
- 10月25日 第6回SD会議（17：00～17：55）
- ・テーマ「入学者の追跡調査等による選抜方法の妥当性の検証」
- 講師：鯉江康正大学評価室長（副学長）
- 11月29日 第7回SD会議（16：00～16：55）
- ・テーマ「中期計画達成に向けた行動計画の中間報告」
- 報告：各委員長

<平成30年>

- 2月28日 第5回FD会議（13：00～13：40）
- ・テーマ「ライズドリル説明会」
- 講師：綱取真那氏 ライズ株式会社
- 3月7日 第8回SD会議（13：00～13：20）
- ・テーマ「中期計画に向けた目標管理シート」
- 説明：品川十英大学事務局長
- 3月7日 第6回FD会議（13：20～14：30）
- ・テーマ1「ラーニング・コモンズ利用状況の確認」
- 説明：牧野智一FD部会長（准教授）
- ・テーマ2「満足度調査結果の共有」
- 説明：牧野智一FD部会長（准教授）

・教職員対象説明会・・・次の通り、1回開催した

<平成29年>

- 4月3日 長岡大学平成29年度方針説明会（16：00～16：45）
- ・テーマ1「平成29年度の基本課題」
- 土田和弘理事長
- ・テーマ2「平成29年度 年度方針説明」
- 村山光博学長

・研修・視察等・・・次の通り実施した

<平成29年>

- 8月31日 新潟トヨー株式会社訪問

- ・テーマ「5S活動について」

講師：和田 紘氏 新潟トヨヨー株式会社 代表取締役社長

星 俊秋氏 新潟トヨヨー株式会社 総務部長 品質保証室室長

教員 2 名、職員 12 名参加

<平成 30 年>

3 月 2 日～ 3 日 全国ネットワーク化事業 平成 29 年度 COC/COC+全国シンポジウム

- ・テーマ「地方が描く日本の未来」

(高知大学主催、於・高知県立文化ホール・グリーン、ザ クラウンパレス新阪急
高知、高知商工会館)

教員 2 名 (小松俊樹、栗井英大)、職員 1 名 (小田原弘貴)

- ・参加分科会

①「地域における雇用の創出について」 (小松参加)

②「組織的地域連携について」 (栗井参加)

③「学生の地元定着について」 (小田原参加)

3 月 3 日～ 4 日 第 23 回FDフォーラム

- ・テーマ「FDのこれまでと、これから ～多様な角度からFDについて考える～」

(大学コンソーシアム京都主催、於・京都産業大学内 神山ホール、並薬館、サギ
タリス館、12 号館)

- ・参加分科会「『第 6 分科会』 体験・実践型学習におけるフィールドワークを通じた効果と運営上の課題」

(8) まとめー成果と課題ー・・・COC+運営事務局会議、同推進本部会議および地域連携研究センター運営委員会・3 部会は定期的で開催され、COC+事業を計画的に推進することができた。

今年度はSDの義務化を受け、SD会議を計画通り 8 回開催した。又、FD会議は 4 回計画していたが、6 回開催することが出来た。両会議とも過去に比べ多くの教職員の出席を得ることができたのは、教職員の意識向上の現れと思われる。尚、FD/SD会議に外部からの講師を招き、教職員に現在の日本の教育界における問題を、共通認識として捉えてもらい、その解決方法を今後教職員で考え実行するための講習会としたものを数回開催した。

次年度以降は、大学の目指す姿に対しより明確な目標 (各個人の能力向上等を目指したもの等) を設定して、SD/FD会議を開催する。

17 推進協議会・地域課題調整部会の開催－全体②－

(1) 平成 25 年度実績と評価

- ・平成 25 年 10 月 23 日に、平成 25 年度地（知）の拠点整備事業推進協議会を開催した。
- ・また、地域課題調整部会（長岡市政策企画課、工業振興課、長岡商工会議所および長岡大学 2 名の計 5 名）は、10 月以降、月 1 回、開催し、日程等の調整を行った。

(2) 平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度の長岡大学地（知）の拠点推進協議会は、平成 25 年度アンケート等 C O C 事業に関する諸書類手続き終了後の平成 26 年 6 月 18 日に開催した。
- ・C O C 事業の進み具合をお知らせする「長岡大学 C O C 通信」（A 4 版 1 枚）を作成し、6 月から、毎月、協議会委員・組織の方々に送付した。
- ・平成 26 年度の地域課題調整部会は、平成 26 年度の毎月月末の月曜日に開催してきた（8 月是不開催なので年間 11 回開催）。学内の推進本部会議での議論をベースに、議論した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・推進協議会、地域課題調整部会ともに、計画通り、開催することができた。しかし、長岡市以外の協議会構成組織との連携が拡大・充実したとは言えない状況にあるといわざるを得ない。次年度は、この点の地域連携の拡大・充実をめざす必要がある。

(3) 平成 27 年度実績と評価

- ・平成 27 年度の長岡大学地（知）の拠点推進協議会は、平成 27 年 6 月 25 日（木）（16：00～17：00、於・長岡大学第 4 会議室）に開催した。平成 26 年度地（知）の拠点整備事業報告（「平成 26 年度報告書」、「平成 26 年度実績報告書」、「平成 26 年度フォローアップ（進捗状況）」、「統一指標 C O C アンケート調査結果」、「C O C 大学独自アンケート・全体とりまとめ」）および平成 27 年度事業計画（「平成 26 年度調書」、「平成 27 年度事業計画」等）などを報告し、意見交換を行った。
- ・C O C 事業を広くお知らせする「長岡大学 C O C 通信」（A 4 版 1 枚で長岡大学通信と表裏印刷）は、4、5、6、7、9、10、11、1、2、3 月の 10 回、各月中旬に刊行し、協議会委員、学生・保護者、諸関係者、市民に広く送付、情報提供を行った。
- ・平成 27 年度の地域課題調整部会は、平成 27 年度の毎月月末の月曜日（16：00～17：00、於・長岡商工会議所）に開催した。毎月の学内の推進機関である推進本部での報告等をベースに、議論を行った。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・推進協議会、地域課題調整部会は、計画通り開催することができた。順調であったと言えよう。今年度は国・自治体による地方創生事業が始まり、地域連携の内容が拡大した。平成 28 年度から長岡大学も新潟大学の C O C + 事業に参加することになり、より地方創生事業としての C O C 事業として展開することが求められる。この推進体制も変更が必要になる可能性もある。

(4) 平成 28 年度実績と評価

- ・平成 28 年度の長岡大学地（知）の拠点推進協議会は、平成 28 年 6 月 22 日（水）（16：00～17：00、於・長岡大学第 4 会議室）に開催した。平成 27 年度地（知）の拠点整備事業報告（「平成 27 年度報告書」、「平成 27 年度実績報告書」、「平成 27 年度フォローアップ（進捗状況）」、「統一指標 C O C アンケート調査結果」、「C O C 大学独自アンケート・全体とりまとめ」）および平成 28 年度事業計画（「平成 28 年度調書」、「平成 28 年度事業計画」等）などを報告し、意見交換を行った。
- ・地域課題調整部会は、ほぼ毎月最終週の月曜日 16:00～17:00、於・長岡商工会議所で、年間 10 回開催された。報告・協議事項は、毎月の推進本部会議におけるテーマが中心であった。
- ・まとめ（成果と課題）・・・推進協議会は、C O C + 事業の全体を報告し、協議を行う場であり、事業の進捗を全体的に把握していただき、地域連携を推進する場として、機能している。また、地域課題調整部会は、月々の事業の報告・協議を行い、円滑な地域連携を展開する場として機能していると評価できる。

(5) 平成 29 年度方針・目標

【方針】

- ・地（知）の拠点大学による地方創生推進事業推進協議会及び地域課題調整部会の開催・・・推進協議会は年 1 回開催（6 月）する。地域調整部会で本学・連携機関間の日常的な事業内容・スケジュール等の調整を行う（月 1 回）。

【目標】

- ・推進協議会は前期に 1 回、地域課題調整部会は毎月 1 回、それぞれ開催し、事業の円滑な推進を図る。

(6) 平成 29 年度計画

- ・協議会は、6 月中旬に開催し、連携機関等に事業報告を行うとともに、事業進捗についての協議を行う。
- ・地域課題調整部会は、毎月月末の火曜日に開催し、事業の進捗を報告し、協議を行う。

(7) 平成 29 年度展開

a 平成 29 年度推進協議会

ア 次第・・・次の次第にそって、進められた。

・・

平成 29 年度長岡大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（C O C +）」協議会

とき：平成 29 年 6 月 21 日（水）16：00～17：00

ところ：長岡大学・第 4 会議室

主催：長岡大学地（知）の拠点整備事業推進本部

次 第

進行：品川十英事務局長

1 開会に当たって

- *当協議会規程について・・・資料1 長岡大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）協議会規程」
- *当事業推進体制について・・・資料2 「平成29年度長岡大学地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）推進体制について」
- *協議会委員ご紹介・・・資料3 「長岡大学地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）推進協議会委員名簿」

2 学長ごあいさつ

長岡大学長／推進本部長 村山 光博

3 平成28年度地（知）の拠点整備事業報告

報告：推進副本部長 原田 誠司

- (1) 経過報告等について・・・「平成28年度報告書」第Ⅲ章8頁～参照
- (2) 平成28年度実績報告書について・・・資料4「実績報告書」参照
- (3) フォローアップ等について・・・資料5「平成28年度フォローアップ（進捗状況）」、資料6「統一指標COCアンケート調査結果」、資料7「COC大学独自アンケート・全体とりまとめ」参照

4 平成29年度地（知）の拠点整備事業計画

報告：推進副本部長 原田 誠司

- (1) 平成29年度調書について・・・資料8「平成29年度調書」参照
- (2) 平成29年度事業計画について・・・資料9「平成29年度事業計画」参照
- (3) 当面のスケジュールについて・・・資料10「当面のスケジュールについて」参照

5 質疑・討論

.....

イ 協議会での意見等について・・・とりまとめ概要は次の通りである。

.....

平成29年度COC+推進協議会での意見等について（メモ）

2017/06/21 推進本部（原田）

*以下は、6/21COC+推進協議会での意見と対応の概要は次の通りである。

A 連携機関出席者の意見・指摘等について

- 1 インターンシップについて（政策企画課・茂田井氏）
 - ・長岡市もインターンシップ推進に力を入れるとのこと→本学は従来の取組みベースに対応
- 2 ワンポイント事業について（工業振興課・名塚氏）
 - ・3大学1高専との連携ワンポイント事業での連携推進→本学は平成29年度は2件取組む予定
- 3 資格取得・インターンシップについて（商工会議所・矢部氏）
 - ・資格取得は頑張ってもらいたい。学生が企業を知る機会を増やすインターンシップを推進したい
 - 長岡市への対応と同じ
- 4 ソーシャルビジネス支援について（公庫長岡支店・瀬戸氏）
 - ・創業の多様化しておりソーシャルビジネス／コミュニティビジネスの支援が必要→本学も同感。協力して進めたい。
- 5 新しい課題の授業について（北銀・樺澤氏）
 - ・新しい課題を学生が学ぶ機会・授業を増やすべき→外部講師招聘で行っているが、今後検討したい。

- 6 地域活性化プログラムの推進について（NAZE・山田氏）
 - ・地域活性化プログラムでの連携を進めている→今後も進めたい。
- 7 コミュニティビジネス等について（市民協働・渡辺氏）
 - ・学生のボランティア参加は感謝している／ボランティア活動からコミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの方向に進むケースが出てきている→今後、支援・連携を検討したい。
- 8 地域への参加・貢献等について（中越防災・諸橋氏）
 - ・「地域で役に立つ大学」をめざすのは非常に評価できる。
 - ・学生が地域活動のどう参加するか（例えば、除雪ボランティアなど）検討すべき
 - ・事業の目標と成果を分けて明確にすべきではないか→今年度、検討したい（目標数値と地域連携成果等含めて）
- 9 COC終了後の方向等について（山の暮らし・中村氏）
 - ・COCは今年度で終了とのことだが、その後どうするかに注目している（経済経営系大学は名護か大学だけ）→COCの成果を明確にし、平成30年度以降も継続・発展をめざしたい。

B 本学の対応について

- ・連携機関へのアンケートの実施→各連携機関のアンケート回答（4・5月実施）と今回協議会での発言（上記）を踏まえて、アンケートを機関ごとに作成し、本学事業の改善点および平成30年度以降の取組みへの提案等をいただく。7月中に実施する。
- ・そのうえで、各機関へのヒアリングを行う。7～8月中に実施する。
- ・とりまとめを行い、9月の会議（推進本部等）に報告する。これにより、平成30年度以降の事業の中に、取り入れる。

b 地域課題調整部会

- ・平成29年度の地域課題調整部会は、毎月の事業実績と今後のCOC事業計画等につき検討する場として、機能した。
- ・メンバーは、長岡市政策企画課係長（林智和）、工業振興課係長（名塚正和）、長岡商工会議所工業振興係長（田中絢子）、長岡大学COC副本部長（原田誠司）、長岡大学地域連携研究センター運営委員長（小松俊樹教授）、地域連携室（小田原弘貴）の6名で構成された。
- ・会議は、毎月月末週の火曜日に、長岡商工会議所・会議室で開催した。但し、4月は月末週の月曜日に開催された。8月と3月は休会とし、年に10回開催した。

（8）まとめー成果と課題ー

- ・推進協議会、地域課題調整部会ともに、計画通り、開催できた。
- ・大学と連携機関との連携・協力は円滑に行われた。ポストCOCの平成30年度も、連携・情報交換を有効にできる場を設定する必要がある。

18 本事業の広報の充実—全体③—

(1) 平成 25 年度実績と評価

- ・ 広報については、経費計画にそって、実施することができた。
- ・ しかし、広報体制が未整備のため、十分な広報効果を上げられたとは言えない。次年度はきちんとした広報体制の形成が必要である。

(2) 平成 26 年度実績と評価

- ・ 平成 26 年度の広報事業としては、次のような事業を行った。
本学ホームページの更新、本事業広報リーフレット等の作成（事業概要リーフレット、「長岡大学COC通信」、文科省のリーフレット）、本事業案内パネルの作成（地域交流ホール、まちなかキャンパスでの展示等）、広報ブックレット等の刊行（教育ブックレット「資格取得のすすめ」、地域活性化プログラム・10 取組報告書、地域志向教育研究ブックレット・5 テーマ）、新潟県日刊新聞COC事業1面全面広告、地域連携研究センター研究年報の刊行、本COC事業報告書・平成26年度版の刊行などを行った。
- ・ 活動の評価（まとめ・課題）

まず第1に、COC2年目を経て、広報の方法がほぼ固まってきたと言えること。諸事業や諸情報の送付等でのCOCリーフレットでの発信（a）、COC事業予定の本学ホームページへの掲載と長岡大学COC通信の発行（b）、事業案内パネルの展示（c）、各事業内容ブックレットの発行（d）、センター年報と本事業報告書の刊行（e）、新聞等マスコミ広告（f）に分けてみると、次のように言える。

（a）で、学生、保護者、連携企業・機関、市民・住民などすべての大学関係者にCOC事業の概要を知っていただく。（b）で、月々、随時の事業を学生、保護者、連携企業・機関の大学関係者に知っていただく。（c）は、学内やまちなかキャンパスなどへの学内外の訪問者に主な事業内容を知っていただく。（d）は各事業の、（e）は事業全体の、それぞれ詳細を知っていただく。最後の（f）は、一般市民に事業を知っていただく。媒体や時期により、こういう広報の組立てができた、と言える。

第2に、（b）のホームページと（c）のパネル展示は、今後一層の充実が必要である。ホームページは情報の受発信の要であり、迅速なアップが必要。

第3に、（f）に対する考え方を明確にする必要がある。マスコミ、特に新聞掲載については、記事として掲載されるように事業をブラッシュアップすることを第1に心がける。その上で、社会人向け講座などに限定して、広告を検討する必要がある。

第4に、「Eボート試乗会」や「十分杯プロジェクト」などの地域活性化に資する事業が地域社会で高く評価された。こうした方向を今後も追及する必要がある。

(3) 平成 27 年度実績と評価

- ・ 平成 27 年度の広報事業としては、次のような事業を行った。
本学ホームページの更新、本事業広報リーフレット等の作成（事業概要リーフレットの更新、学生の活動リーフレット3種、「長岡大学COC通信」）、本事業案内パネルの作成（地域交流ホール、まちなかキャンパスでの展示等）、広報ブックレット等の刊行（地域活性化プロ

グラム・8取組報告書、地域志向教育研究ブックレット・2テーマ)、地域連携研究センター研究年報の刊行、本COC事業報告書・平成27年度版の刊行などを行った。

- ・活動の評価(まとめ・課題)・・・まず第1に、諸事業や諸情報の送付等でのCOCリーフレットでの発信(a)、COC事業予定の本学ホームページへの掲載と長岡大学COC通信の発行(b)、事業案内パネルの展示(c)、各事業内容ブックレットの発行(d)、センター年報と本事業報告書の刊行(e)、新聞等マスコミ広告(f)に分けてみると、次のように言える。

(a)で、学生、保護者、連携企業・機関、市民・住民などすべての大学関係者にCOC事業の概要を知っていただく。(b)で、月々、随時の事業を学生、保護者、連携企業・機関の大学関係者に知っていただく。(c)は、学内やまちなかキャンパスなどへの学内外の訪問者に主な事業内容を知っていただく。(d)は各事業の、(e)は事業全体の、それぞれ詳細を知っていただく。最後の(f)は、一般市民に事業を知っていただく。媒体や時期により、こういう広報の組立てができた、と言える。

第2に、(b)のホームページと(c)のパネル展示は、今後一層の充実が必要である。ホームページは情報の受発信の要であり、迅速なアップが必要。

第3に、(f)に対する考え方を明確にする必要がある。マスコミ、特に新聞掲載については、記事として掲載されるように事業をブラッシュアップすることを第1に心がける。その上で、社会人向け講座などに限定して、広告を検討する必要がある。

第4に、「十分杯プロジェクト」(長岡市)など地域活性化に資する事業が地域社会で高く評価された。こうした方向を今後も追及する必要がある。

- ・平成28年度4月の行った「平成27年度長岡大学「地(知)の拠点整備事業」=COC事業に関する調査(長岡大学独自)」によると連携機関からは、学生の生の声が聞けるような刊行物および動画等の発信をもっとすべき、長岡市の大型ビジョンを使い興味を持ってもらうための映像を流した方がよいなどの意見があった。こうした方向を今後はより進めていく。

(4) 平成28年度実績と評価

- ・平成28年度の広報事業としては、次の事業を行った。

本学ホームページの更新(30頁分)、事業・教育広報リーフレットの作成(COC+事業概要、インターンシップ、起業家塾、ボランティア、就職支援、サークル紹介、悠久祭、ヒーローマンパワーアップの8件)、長岡大学・COC通信の発行、本事業案内パネル(22枚)作成・展示、エントランス横断幕の作成・掲示、平成28年度本COC事業全体案内・ポスターの作成、広報ブックレット等の作成(地域活性化プログラム報告書・各プロジェクトブックレット9取組、地域志向教育研究ブックレット2取組)の刊行、地域連携研究センター研究年報第3号の刊行、本COC+事業報告書の作成など。

- ・評価(成果と課題)・・・まず第1に、COC4年目を経て、本COC事業に関する広報の方法がさらに充実してきたと言えること。「イノベ講座等広報計画について(メモ)」に明らかかなように、既存の広報媒体を有効に活用することにより、集客力を高める工夫がなされている。当然、この広報時期に合わせて、案内チラシ等を作成する必要がある。今後、さらにつめる必要があろう。

第2に、広報の分野・性格が次の7つにかたまってきており、その評価が必要なこと。

- (a) 諸事業や諸情報の送付等でのCOCリーフレットでの発信・・・学生、保護者、連携企業・機関、市民・住民などすべての大学関係者にCOC事業の概要を知っていただく。
- (b) COC事業予定の本学ホームページへの掲載と長岡大学COC通信の発行・・・月々、随時の事業を学生、保護者、連携企業・機関の大学関係者に知っていただく。
- (c) 事業案内パネルの展示・・・学内やまちなかキャンパスなどへの学内外の訪問者に主な事業内容を知っていただく。
- (d) 各事業内容ブックレットの発行・・・各事業の詳細を知っていただく。
- (e) センター年報と本事業報告書の刊行・・・事業全体の詳細を知っていただく。
- (f) 新聞等マスコミ広告・・・一般市民に事業を知っていただく。

今年度の上記の活動をみると、(c)、(d)、(f)は必ずしも十分とは言えない結果であったと言わざるを得ない。

第3に、(f)についてはより考え方を明確にする必要がある。マスコミ、特に新聞掲載については、記事として掲載されるように事業をブラッシュアップすることを第一に心がける。その意味では、「十分杯プロジェクト」(長岡市)、「高橋九郎翁生誕 165 周年 記念シンポジウム」(長岡市神谷)、「ハロウィンみつけ」(見附市)などの実施や参画による地域活性化に資する事業が地域社会で高く評価され、地域の活性化に役立っていることの要因をきちんと把握しなくてはならない。多くのCOC事業をこれにならって、メディアに紹介していただくように充実させることに注力する必要がある。地方創生事業が始まっているので、次年度以降は、より一層こうした地域活性化に資する事業展開をめざす必要がある。

(5) 平成 29 年度方針・目標・予算

【方針】

- ・本事業の広報の充実・・・本事業の学生・地域社会等への広報を、諸印刷物等(ホームページ、パネル、リーフレット、ポスター、報告書、研究年報等)、メディアなど多様な方法で充実させ、本事業を広く、認識していただく。

【目標】

- ・経費計画にそって、効果的な広報を行う(学生、保護者、地域関係者、企業、市民等にいかにも本事業を知っていただき、参加していただくか)。

(6) 平成 29 年度計画

a 広報事業の考え方・進め方

平成 29 年度は、「顧客(情報発信対象者)向け広報」と「強み(情報発信内容)の広報」の大きく 2 つの観点から、広報事業を進める。

具体的には、「顧客(情報発信対象者)向け広報」としては、地域社会等への情報発信の充実(ホームページの更新、地域マスメディアへのきめ細かい対応等、中心市街地での広報)、地域貢献事業情報の充実(市民公開講座、企業人向け講座、シンポジウム等)、大学関係者等への情報発信の充実(大学通信・COC通信、玄関・学内への諸パネル等、リーフレット等)の 3 つ、「強み(情報発信内容)の広報」としては、本学の強みの発信の充実(教育・研究・社会貢献、教員を売り込む)に注力する。

b 平成 29 年度事業

平成 29 年度に取り組む事業は次の通りである。

- ・ホームページ更新（スマホ対応等）
- ・プレスリリース・新聞記事掲載等の展開
- ・広告（社会貢献）の実施
- ・まちキャンポスター展示等（中心市街地活性化等）
- ・市民公開講座案内作成・配布（リーフレット等）
- ・イノベーション人材養成講座案内作成・配布
- ・創業・起業セミナー案内作成・配布
- ・講演会・シンポジウム開催案内作成・配布
- ・大学通信・COC通信（年9回、3月卒業生特集、4月新入生特集）
- ・エントランス・垂れ幕掲示
- ・玄関・学内諸パネル掲示（特に地域交流ホール）
- ・学内教員紹介パネル更新・展示
- ・教育等諸活動の印刷物（教育リーフレット、論叢、センター年報、ブックレット、報告書等）
- ・本学の「強み」の印刷物等刊行・配布（本学教員の一押し授業等、教員の論文・提言等、社会貢献ブックレット等）

c 推進体制

- ・「本学の強み」については、アンケート等適切な方法で意見を収集し、まとめる。
- ・広報関係者との交流を行い、有効な情報発信の方法を探る。
- ・広報専門家（PRプランナー資格取得等）の養成を検討する。

(7) 平成 29 年度展開

平成 29 年度の広報関係事業は次の通りであった。

- a 本学ホームページの更新**・・・大学トップページをスマートフォン対応に修正し、対象者別ページを設け、各案内をわかりやすくした。次の 35 頁についても更新した。
- ・教育の取組 8 件－資格取得支援センター長岡大学COC、検定スケジュール、平成 29 年度学生による地域活性化プログラム取組概要および成果発表会の案内・報告、学生による地域活性化プログラム活動報告書、外部講師授業一覧、起業家塾
 - ・研究の取組 7 件－長岡大学地域連携研究センターシンポジウム案内と報告（7 月と 11 月）、長岡大学地域連携研究センター年報「地域連携研究」第 4 号、地域志向教育研究ブックレット 2 冊
 - ・社会貢献の取組 20 件－【高齢化・人口減社会における地域活性化の推進】第 2 回ボランティア・フォーラム、もみじ園フォーラム、第 5 回悠久山・東山フォーラム（各案内と報告）
【市民公開講座】長岡偉人伝、Excel 入門、記紀を読む（前編）、新潟における戦争の記憶、経済発展の始まりはニーズと地域資源の活用にある！、地域志向研究講座『温泉の魅力について語ろう！』、おとなの学びなおし心理学、簿記入門講座、「聞き手を動かすプレゼンスキル」を身に付ける！、記紀を読む（後編）、北越紀州製紙 110 年のあゆみと長岡地域

- 【企業人向けセミナー】イノベーション人材養成講座（管理会計講座）
 - 【起業人材養成セミナー】創業セミナー、創業支援メンター制度
 - ・出版物掲載「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム平成 28 年度報告書」
- b 本事業広報リーフレットの作成・・・次の 1 2 点を刊行。
- ・各 C O C 事業の 5 年間総括・成果リーフレットを作成し、積極的に長岡大学 C O C の成果を発信した。図表 7 - 1 8 - 3 に 6 点（教育，研究，社会貢献の 3 分野から 2 点ずつ）を紹介する。（189 頁～200 頁）
 - ・【教育リーフレット】資格教育、地域志向・現場体験教育、ボランティア教育、学生による地域活性化プログラム、インターンシップ、起業家塾、満足度調査・ P R O G
 - ・【研究リーフレット】地域課題調査研究・シンポジウム、地域志向教育研究
 - ・【社会貢献リーフレット】市民公開講座、イノベーション人材養成講座／企業セミナー、社会貢献・地域活性化事業、悠久山・東山フォーラム
- c 長岡大学 C O C 通信の発行
- ・長岡大学 C O C 通信を、平成 29 年 5 月からほぼ毎月 1 回、計 7 回発行し、学生、保護者、教職員だけでなく、連携自治体、地域諸団体、住民に広く、配布、広報した。図表 7 - 1 8 - 4（201 頁～207 頁）を参照されたい。
- d 本事業案内パネルの作成・展示
- ・平成 28 年 5 ～ 6 月に、「まちなかキャンパス」において、本学 C O C 事業の次のようなパネル展示を行った。A 1 パネル 1 5 枚（平成 29 年度地域活性化プログラム活動概要 5 枚、市民公開講座案内、大学通信パネル等）、その他展示物（平成 28 年度 C O C 報告書、地域活性化プログラム活動報告書等印刷物）、また、平成 29 年 10 月の長岡大学祭「悠久祭」において C O C 事業の活動パネル展を行った。図表 7 - 1 8 - 5（208 頁）を参照されたい。
- e 広報ブックレット等の作成
- ・学生による地域活性化プログラム報告書および各プロジェクトごとの活動報告ブックレット 8 取組、地域志向教育研究ブックレット 3 取組を発行した。
- f 地域連携研究センター研究年報の刊行
- ・ C O C 事業の調査研究成果を掲載する地域連携研究センター研究年報『地域連携研究』第 4 号（1,000 部）を刊行し、11 月 17 日の地域連携研究センター・シンポジウムで配布した。年報表紙、目次イメージは、図表 7 - 1 8 - 6（208 頁）を参照されたい。
- g 本事業報告書の作成
- ・『長岡大学 C O C 事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム 平成 29 年度報告書』を平成 30 年 3 月末に刊行した（1,000 部）。

h 広報の方法・媒体について

- ・本学主催の講座等の広報について、次のような媒体の計画的活用、市内諸施設への案内チラシ等の配布及び市内各所でのポスター掲示の3つを基本に広報することとし、実施した。市民公開講座については年間計画をまとめたリーフレットを作成して配布した。

i 強み（情報発信）の広報について

- ・平成29年7月に「長岡大学の特徴と情報発信の基礎調査」を全教職員に実施、10月には「長岡大学教員の〈強み〉と活用に関する2次アンケート」を教員に実施した。これを元に、「教員の〈社会貢献ガイド〉」の素案を作成した。平成30年度に向けて活用方法を検討し、実施していく。

(8) まとめ—成果と課題—

広報の各分野について評価する。

- (a) 諸事業や諸情報の送付等でのCOCリーフレットでの発信・・・学生、保護者、連携企業・機関、市民・住民などすべての大学関係者にCOC事業の概要を知っていただく。
 - ・各COC事業の5年間総括・成果リーフレットを作成し、情報発信できた。
- (b) COC事業予定の本学ホームページへの掲載と長岡大学COC通信の発行・・・月々、随時の事業を学生、保護者、連携企業・機関の大学関係者に知っていただく。
 - ・随時、事業情報をステークホルダーに向けて発信した。
- (c) 事業案内パネルの展示・・・学内やまちなかキャンパスなどへの学内外の訪問者に主な事業内容を知っていただく。
 - ・5月、6月の2か月間、まちなかキャンパス長岡で長岡大学の事業パネル等を展示した。
- (d) 各事業内容ブックレットの発行・・・各事業の詳細を知っていただく。
 - ・地域志向教育研究ブックレットを3種発行し、配布した。
- (e) 地域連携研究センター年報と本事業報告書の刊行・・・事業全体の詳細を知っていただく。
 - ・地域連携研究センターシンポジウムでの配付と各関係機関への送付を行った。
- (f) 新聞等マスコミ広告・・・マスコミや一般市民に事業を知っていただく。教員の社会貢献ガイドの作成。
 - ・マスコミ、特に新聞掲載については、記事として掲載されるように事業をブラッシュアップすることを第一に心がける。

長岡市の平成30年度重点施策にある「新しい米百俵」～人材育成と未来への投資～の第1項目「長岡版イノベーションの推進」に沿って、教育および地域の基幹人材の育成を充実させ、COC終了後も地域活性化に資する事業展開をめざしたい。

図表 7-18-1 小千谷商工会議所、見附商工会と本学との事業連携協定締結について

日 時：平成 30 年 1 月 26 日（金） 会場：長岡大学第 4 会議室

参 加：新潟日報社、日本経済新聞社、長岡新聞社、見附新聞社

資 料： 1. 事業連携に関する覚書締結の経緯について
 2. 長岡大学における地域連携活動について

小千谷商工会議所と本学、見附商工会と本学の事業連携に関する覚書調印式と記者会見を行った。本学は、既に、長岡商工会議所、長岡市、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校とそれぞれ連携協定を結んで、事業を展開してきた。こうした活動を長岡市に隣接する小千谷市、見附市にも広げ、さらなる地域貢献の拡大を図りたいと考え、今回の連携協定を締結した。

今後の具体的な取り組みについては、小千谷商工会議所、見附商工会それぞれの事業方針、事業計画に照らして内容を決定することになるが、中小企業の経営上の諸課題に関するセミナーの実施やコンサルティング、地域産業の活性化に資する提案、地域経済に関する調査などを想定している。



図表 7-18-2 平成 29 年度 C O C 事業関連のメディアへの掲載 (2018 年 2 月 15 日時点)

| 掲載日 | メディア | 内容 |
|----------|------------|---|
| 18.2.15 | 新潟日報 夕刊 | 県内のまちの駅の取り組みについての特集で、長岡大学鯉江ゼミナールが長岡市越路地域の観光名所などを紹介する「越路・まちの駅 いこ～てえ～マップ」を制作したことが取り上げられ、4 年生の江口枝里子さんのコメントも掲載されました。また、まちの駅の意義について鯉江康正副学長のコメントが掲載されました。 |
| 18.2.6 | 長岡新聞 | 2 月 24 日に本学で開催される「第 5 回悠久山・東山フォーラム」のご案内が掲載されました。フォーラムの中で写真部の学生と地元の方たちが協力して作成した「悠久山いいとこ撮りマップ」が初披露されます。 |
| 18.2.6 | 長岡新聞 | 本学が地域活性化に向けた連携活動を拡大するため、小千谷商工会議所や見附商工会と事業連携に関する覚書に調印したことについて掲載されました。 |
| 18.2.8 | 新潟日報 | 糸魚川沖のメタンハイドレード産出について、メタンハイドレードを地域活性化にどう生かすべきか松本和明教授のコメントが掲載されました。 |
| 18.2.1 | 新潟日報 | 長岡市の悠久山や東山丘陵の魅力を語り合う「悠久山・東山フォーラム」(2 月 24 日午後 1 時半～、長岡大地域交流ホール)開催のご案内が掲載されました。 |
| 18.1.30 | 新潟日報 | 本学が小千谷商工会議所や見附商工会と地域経済活性化を目的とした事業連携の覚書を締結したことについて掲載されました。 |
| 18.1.27 | 長岡新聞 | 鯉江康正副学長による特別寄稿「人口減少時代における長岡の方向性を考える その 3」が掲載されました。 |
| 18.1.27 | 日本経済 新聞 | 本学が小千谷商工会議所、見附商工会と人材育成など事業連携することについて掲載されました。 |
| 18.1.20 | 長岡新聞 | 鯉江康正副学長による特別寄稿「人口減少時代における長岡の方向性を考える その 2」が掲載されました。 |
| 18.1.16 | 新潟日報 | 牧野家物語のシリーズ 2 回目で、3 代目の牧野忠辰の人柄をしのぶ象徴として「十分盃」が取り上げられ、この十分杯を地域おこしに活用しようと取り組んでいる本学権ゼミナールについて紹介されました。3 年生の水落悠哉さん、権五景教授、松本和明教授のコメントも掲載されました。 |
| 18.1.13 | 長岡新聞 | 鯉江康正副学長による特別寄稿「人口減少時代における長岡の方向性を考える その 1」が掲載されました。 |
| 18.1.11 | 長岡新聞 | 1 月 13 日から連載される鯉江康正副学長による長岡市の人口問題の研究についてのご案内が掲載されました。 |
| 17.12.14 | 長岡新聞 | 市内 3 大学 1 高専がそれぞれの学園祭で出店した模擬店を活用する取り組み「ながおか大学祭・学園祭 模擬店ビジネスコンテスト」の表彰式が長岡市のプリン長岡で開かれ、本学松本ゼミナールの十日町 B 級グルメ「そばいなの販売」が最優秀賞を獲得したことについて掲載されました。 |
| 17.12.14 | 長岡新聞 | 12 月 2 日にホテルニューオータニ長岡で開催された「学生による地域活性化プログラム成果発表会」で 8 つの取り組みが発表され、栗井ゼミの 3 年生殖栗卓さんのコメントも掲載されました。 |
| 17.12.08 | 新潟日報 | 「ながおか・若者・しごと機構」と長岡市、長岡大学共催の「ながおか大学祭・学園祭 模擬店ビジネスコンテスト」の表彰式が長岡市のプリン長岡で開かれ、本学松本ゼミナールの「十日町 B 級グルメそばいなの販売」が最優秀賞を獲得し、代表の 4 年生、阿達慶弘さんのコメントが掲載されました。 |
| 17.12.05 | 新潟日報 | 本学学生による地域活性化プログラム成果発表会が 12 月 2 日にホテルニューオータニ長岡で開催され、8 グループが発表したことについて掲載されました。 |

| | | |
|----------|--------|---|
| 17.11.23 | 新潟日報 | まちなかキャンパス長岡で11月26日に行われる、松本和明教授による東山油田(史跡・産業遺産)保存会講演会「東蒲原郡にのぞむ三つの鉱山の保存と活用の提案」のご案内が掲載されました。 |
| 17.11.22 | 新潟日報 | 地域連携研究センター主催の中小企業の後継者問題など「事業承継」をテーマとするシンポジウムが長岡市のホテルで開かれ、栗井英大准教授のコメントも掲載されました。 |
| 17.11.15 | 新潟日報 | 11月17日に開催する長岡大学地域連携研究センター主催の地域活性化をテーマにしたシンポジウム(基調報告「事業継承と新潟・長岡地域活性化の方向」長岡大学准教授 栗井英大)のご案内が掲載されました。 |
| 17.10.28 | 毎日新聞 | 「ながおか・若者・しごと機構」のコンテストで最優秀に選ばれた4年生の横田百合江さん発案の「縄文カフェ」が長岡市馬高縄文館の一面に期間限定でオープンしたことについて掲載されました。 |
| 17.10.28 | 新潟日報 | 4年生の横田百合江さん発案の「縄文カフェ」が10月27～29日まで長岡市の馬高縄文館に期間限定でオープンしたことについて掲載されました。 |
| 17.10.21 | 新潟日報 | 県商工会連合会がハイブ長岡で、本学小松俊樹教授が解説するビジネスプラン作成やマーケティング戦略を学ぶ無料セミナーを開催することについて掲載されました。 |
| 17.10.05 | 長岡新聞 | 長岡開府400年記念事業の平成29年度市民企画事業採択10件に、本学権五景ゼミナールの「十分杯で長岡を盛り上げよう！」が採択されたことについて掲載されました。 |
| 17.09.13 | 新潟日報 | 若者の活動を官民で支援する「ながおか・若者・しごと機構」が長岡市と本学との共催で起業に関心を持ってもらうために企画した、この秋に開かれる長岡市内の大学祭、学園祭に出店する模擬店を対象に利益率などを競う「ながおか大学祭・学園祭模擬店ビジネスコンテスト」が開催されることについて掲載されました。 |
| 17.09.05 | 新潟日報 | 昨年「ながおか・若者・しごと機構」が開催したコンテストで本学4年の横田百合江さん発案の「縄文カフェ」が最優秀賞を受賞し、今年10月に馬高縄文館で期間限定でカフェをオープンする。オープンに先立ち、8月23日に「プリン長岡」で1日限定の店舗が開かれたことについて掲載されました。 |
| 17.08.31 | 長岡新聞 | 昨年度「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト」で本学4年の横田百合江さんが最優秀賞を受賞した「縄文カフェ」が馬高縄文館へ出店する準備として、プリン長岡で1日限定でオープンしたことについて掲載されました。 |
| 17.08.26 | 新潟日報 | 若者の活動を官民で支援する「ながおか・若者・しごと機構」が主催、本学が共催する「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト」のご案内が掲載されました。 |
| 17.07.27 | 長岡新聞 | 権五景ゼミの学生らが栃尾の酒造メーカー・越銘醸に酒粕の活用を提案し、新商品「薫酒クリームチーズ」が商品化されたことと、ゼミ長の大滝皓史さんのコメントが掲載されました。 |
| 17.07.21 | 長岡新聞 | 本学地域連携研究センターが長岡グランドホテルで人口減や地域活性化をテーマにシンポジウムを開催し、鯉江康正副学長が基調講演をしたことや、原田誠司教授をコーディネーターにパネルディスカッションを行ったことについて掲載されました。 |
| 17.07.20 | 日本経済新聞 | ながおか・若者・しごと機構が昨年開催した「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト」の「いいね！アイデア部門」の最優秀賞に本学4年横田百合江さんの「縄文カフェ」が選ばれ、今年10月に馬高縄文館に1ヵ月限定で開設されることについて掲載されました。 |
| 17.07.13 | 新潟日報 | 本学主催の人口減や地域活性化をテーマにしたシンポジウムが7月7日に長岡グランドホテルで開催され、鯉江康正副学長が基調講演をしたことについて掲載されました。 |
| 17.07.11 | 日本経済新聞 | 7月7日に開催された地域連携研究センターシンポジウム「人口減少と長岡地域活性化の展望」で鯉江康正副学長は、長岡市が新産業の創出を目指す理由として、人口減少による経済力の低下への強い危機感を持っていることを挙げ、指数化した分析結果を発表したことについて掲載されました。 |
| 17.06.29 | 新潟日報 | 長岡市内で働く若者が地域活性化について考える「ながおかニュージェネプロジェクト」の2017年度初会合がまちなかキャンパス長岡で開催され、本学小松俊樹教授がマーケティングの歴史や戦略の立て方などを解説したことについて掲載されました。 |

| | | |
|----------|------|---|
| 17.06.15 | 新潟日報 | 本学教授による6・7月の市民公開講座「新潟における戦争の記憶」(児嶋俊郎教授)「経済発展の始まりはニーズと地域資源の活用にある！」(権五景教授)「温泉の魅力について語ろう！」(山川智子教授)のご案内が掲載されました。 |
| 17.05.18 | 新潟日報 | 権五景ゼミの学生と酒蔵「越銘醸」が連携して開発した酒かすクリームチーズが完成し、5月18～23日まで新宿高島屋で開かれる『大学は美味しい！』フェアで販売することについて掲載されました。4年生大滝皓史さんのコメントも掲載されました。 |
| 17.04.28 | 新潟日報 | 権五景ゼミの学生と酒蔵「越銘醸」が連携し、酒かす入りのチーズの開発を進めていることについて掲載されました。ゼミ長の4年生大滝皓史さんのコメントも掲載。 |

図表7-18-3 各COC事業の5年間総括・成果リーフレット

●過去4年間の取組ゼミとテーマ(H25～28年度)

| 年度 | 参加学生数 | ゼミ名 | 学生参加率 |
|--------------|--|-------|-------|
| 平成25年度 | 65名 | 村山ゼミ | 32.2% |
| 村山ゼミ | 企業の情報発信とホームページの役割 | | |
| 米山ゼミ | 高齢者の買い物支援 地域のつながり再構築 | | |
| 広田ゼミ | クラスルーム・グループ・バー・セッション 車の限、地域からの地球一体化推進 | | |
| 藤江ゼミ | 新潟県内のまちの駅の情報発信と地域への影響調査 | | |
| 藤江ゼミ | 十分林で疑問を知らせよう! | | |
| 高橋ゼミ | 地域の魅力発信による絆結び 神谷の魅力を伝え、ひらく | | |
| 高橋ゼミ | 長岡市東山地域の自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ | | |
| 小千谷活性化プロジェクト | 小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言 | | |
| チーム | | | |
| 平成26年度 | 67名 | 学生参加率 | 45.3% |
| 米山ゼミ | 高齢者の買い物支援 積古地区における高齢者買い物同行や調査より | | |
| 今瀬ゼミ | とちお祭への東方参画と調査・情報発信 | | |
| 橋長ゼミ | Future Agricultural Innovation 未来の農業革新 | | |
| 藤江ゼミ | 十分林で疑問を盛り上げよう! | | |
| 中村ゼミ | ながおかバルトによる中心市街地・店舗の活性化 | | |
| 高橋ゼミ | 地域の魅力発信による絆結び | | |
| 小千谷活性化プロジェクト | 小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言 | | |
| チーム | | | |
| 平成27年度 | 61名 | 学生参加率 | 45.6% |
| 村山ゼミ | 企業の情報発信とホームページの役割 | | |
| 広田ゼミ | クラスルーム・グループ・バー・セッション 車の限、地域からの地球一体化推進 | | |
| 藤江ゼミ | 新潟県内のまちの駅の情報発信とまちの駅間交流の実施 | | |
| 藤江ゼミ | まちの駅の情報発信とおもてなし事例調査 | | |
| 藤江ゼミ | 十分林で疑問を盛り上げよう! | | |
| 高橋ゼミ | 地域の魅力発信による絆結び 高橋力部の活躍を後世に伝える | | |
| 中村ゼミ | 地域イベントにおける広報活動の重要性 | | |
| 橋長ゼミ | 未来の農業革新Ⅱ 長岡の夜の魅力を伝える観光客への貢献 | | |
| 広田ゼミ | クラスルーム・グループ・バー・セッション 車の限、地域からの地球一体化推進 | | |
| 村山ゼミ | 企業の情報発信とホームページの役割 | | |
| 山川ゼミ | 長岡周辺の温泉資源の現状分析と情報発信 | | |
| 米山ゼミ | 「空き家を使った移動販売型買い物支援」の実現に向けて | | |
| 平成28年度 | 61名 | 学生参加率 | 40.7% |
| 藤江ゼミ | 十分林で疑問を盛り上げよう! | | |
| 村山ゼミ | 企業ホームページの役割による地域の課題 | | |
| 橋長ゼミ | 未来の農業革新Ⅲ 地産地消を通じた循環型社会への貢献 | | |
| 高橋ゼミ | 地域の文化と伝統を紡ぐ 高橋力部生誕165周年を記念する活動 | | |
| 山川ゼミ | 長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信 | | |
| 広田ゼミ | クラスルーム・グループ・バー・セッション 車の限、地域からの地球一体化推進 | | |
| 藤江ゼミ | 酒粕で長岡を盛り上げよう! | | |
| 藤江ゼミ | 「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献 | | |

●社会人基礎力の上昇度(5年間)

地域活性化プログラム活動により、社会人基礎力(アクション力・シンキング力・チームワーク力)が伸びたかどうかについては、「社会人基礎力診断シート(学生活用・教員用)」を用いて、アンケート方式で実施した。5年間のアンケート結果は下記のとおりである。

| 年度 | 学生評価 | 教員評価 |
|------|-------|-------|
| 25年度 | 60.0% | 40.0% |
| 26年度 | 65.2% | 55.9% |
| 27年度 | 76.6% | 59.4% |
| 28年度 | 67.6% | 59.4% |
| 29年度 | 58.2% | 53.0% |

| 年度 | 学生評価 | 教員評価 |
|------|-------|-------|
| 25年度 | 43.8% | 48.8% |
| 26年度 | 52.2% | 48.5% |
| 27年度 | 59.7% | 57.4% |
| 28年度 | 65.6% | 51.5% |
| 29年度 | 56.7% | 47.8% |

| 年度 | 学生評価 | 教員評価 |
|------|-------|-------|
| 25年度 | 51.6% | 56.0% |
| 26年度 | 68.1% | 72.1% |
| 27年度 | 80.9% | 71.9% |
| 28年度 | 72.1% | 65.2% |
| 29年度 | 65.7% | 65.7% |

長岡大学COC事業 5年間実績リーフレット

《《知》の拠点》

文部科学省採択
平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

事業名称 長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
大学の方向 ＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学
― 地域で役に立ち、頼りになる大学 ―

平成25～29年度 長岡大学 学生による地域活性化プログラム

本プログラムの内容は、①問題解決型教育＝体験、参加型教育の実践として、②長岡地域および新潟県内、またより一般的に地域の課題(環境、福祉、市民生活、産業等)をゼミナール(3年次、4年次)のテーマとしてとりあげ、③ゼミナールの学生グループがテーマごとに設ける地域連携アドバイザー(市担当者、関係団体の職員等)との緊密な連携と専門教員の指導の下に、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献するとともに、その活動を広げ、地域社会にフィードバックすることである。

なお、本取組における学生教育の目標は、①社会人基礎力(アクション力・シンキング力・チームワーク力)の向上、②ビジネス展開能力(企画・提案力・実行力)の向上、③専門的技法に関するスキルの向上、である。

★長岡大学は、「地域で役に立つ大学」として、地方創生に貢献します。
長岡大学 第4代学長 村山 光博

平成30年3月 連絡先 長岡大学教務学生課
TEL.0258-39-1600内 FAX.0258-33-8792
URL http://www.nagaokauniv.ac.jp/
E-mail kyoumu-g@nagaokauniv.ac.jp

●平成29年度取組ゼミと活動内容 (参加学生数：64名 学生参加率：32.7%)

権 ゼミ1

「十分杯で長岡を盛り上げよう！」



●教員名：権五郎 教授
●参加学生：12名
長岡の文化遺産であると同時に、変わった形の杯である「十分杯」を活用し、長岡を代表する観光資源の一つにすることを目標としている。ところが、まだまだ市民の認知度が低いという課題がある。そこで、広報活動、十分杯巡り観光コースの開発、観光商品の開発などの関わりを整理、観光商品の開発を行う。

村山 ゼミ2

「企業ホームページの改善提案とホームページの制作」



●教員名：村山光博 教授
●参加学生：4名
企業の有効な情報発信の手段として、自社ホームページの積極的な活用が期待されている。本取組ではこれまで、NPO法人長岡産業活性化協会NAZEの「ホームページ改善事業」と連携して、企業ホームページ診断と改善案の策定を行ってきた。今年度はさらに具体的な改善提案の取組みとして、企業ホームページのデモサイト(試作品)を制作する。

鈴木 ゼミ3

「地元企業の働き方を知る」



●教員名：鈴木章浩 専任講師
●参加学生：7名
本ゼミナールでは長岡、三条、見附市、およびその周辺市町村の企業で働く人々にスポットを当て、具体的には従業員に接触し、自社の働きがい、仕事内容とその魅力等を聞き取りする。また、人事担当者、入社希望者に求めるスキルや人材マネジメントについて関心を取り、以上のヒアリング調査で入手した情報をもとに、各企業の「働きかた」を外部発信できるチラシ・動画を作成する。)を制作する。

栗井 ゼミ3

「長岡の隠れた地域資源を吾人に広めよう！」



●教員名：栗井美大 准教授
●参加学生：7名
長岡地域には、まだまだ地域内の人々への広がりや強い地域資源が存在する。そこで、長岡地域に存在する他地域に誇れる名産品(日本酒・農材・加工食品等)、地域内の人々、特に若人(30代前後)に広めることを主目的とした活動を行う。具体的には、長岡地域で生産されている日本酒とおつまみを販賣する模擬店を形創しに出店する。その際、酒造マップやおつまみレシピ等を購入者に配布するなど、長岡地域の地域資源を地域内の人々、特に若人(30代前後)に広める、再認識してもらおう。

広田 ゼミ3

「グラスルーツログローバリゼーション」 ～草の根・地域からの人類統合の推進～



●教員名：広田秀樹 教授
●参加学生：19名
私達は現在急速に進展している世界的統合化の潮流であるグローバル化を、草の根・地域レベルから、日常生活の中で実行可能なレベルから推進して行く。具体的には、世界から私達の地域に来てくれた外国の方との交流、対話、フェアトレード等の世界の人達を応援する活動等を実施する。世界の各地域での市民レベルの国際交流こそ人類統合の精神基盤としての世界市民意識を形成するものと考え、は、再認識してもらおう。

鯉江 ゼミ2

「『まちの駅』から越路地域の魅力を発信」を発信



●教員名：鯉江康正 教授
●参加学生：25名
現在、越路地域には「まちの駅」が7駅ある。この7駅と共同で、越路地域の魅力発信を行うことで、越路を長岡市および県内の方に向けてもらい交流人口の増加に寄与したい。そのために、越路地域の歴史・文化・産業などを広く学び、ランドマークとなる施設やグルメスポット、イベントの紹介などを学生自らが整理していく。さらに、成果物として越路マップを作成する。同時に、越路でのイベントにも積極的に参加する予定である。

鯉江 ゼミ1

「『まちの駅』の魅力発信と地域活性化への貢献」



●教員名：鯉江康正 教授
●参加学生：25名
「まちの駅」をフィールドとした調査・研究を平成19年度から行っている。本年度も引き続き、県内の「まちの駅」のハネル作成を行っていく。今年度中には全駅のハネルを作成する予定である。また、その成果を認知啓発公表する(平成29年4月現在新潟県のまちの駅は127駅である)。本年度は「まちの駅」の魅力を子供に知ってもらう目的で、まちなかキャンパス長岡の子供講座「まちの駅ってどんなところ?」のイベントを実施する。

権 ゼミ2

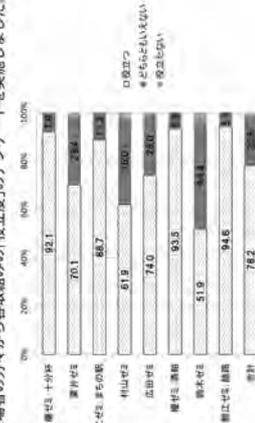
「酒粕で長岡を盛り上げよう！」



●教員名：権五郎 教授
●参加学生：12名
長岡は日本酒のまちである。そのため、酒粕の生産量は全国規模である。酒粕は多くの清蔵がある長岡ならではの地域資源である。しかし、活用方法においてはまだまだ十分とは言えない。私たちが目指しているのは酒粕の商品化である。その過程で、地域企業と連携しながら酒粕の商品化という目標に向けて進めていきたい。

●平成29年度地域活性化の役立ち度評価

12月2日(土)に開催された「学生による地域活性化プログラム成果発表会」において来場者の方々から各取組みの「役立ち度」のアンケートを実施しました。



《《地(知)の拠点》》

文部科学省採択
平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

事業名称 長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
大学の方向 ＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学
―― 地域で役に立ち、頼りになる大学――

平成25年度～29年度 ボランティア・スキルアップ

基本方針

「産業の活性化による地域経済の発展」「市民協働による社会課題の解決」「地域・コミュニティの活性化」の課題に対応したボランティア関係の授業科目等の充実・仕組み構築を図り、卒業後もボランティア活動を推進できる人材を養成する。

目標

ボランティア体験・ボランティア論を単位取得者の割合を増加させ、ボランティア・スキルや学生リーダーを養成する。そのためにボランティア・アドバイザーを配置する。

最終目標

ボランティア体験及びボランティア論のどちらか履修学生割合を卒業生の80%とする。
また、学生ボランティアサークルの設立やボランティアを継続する学生の増員を図る。

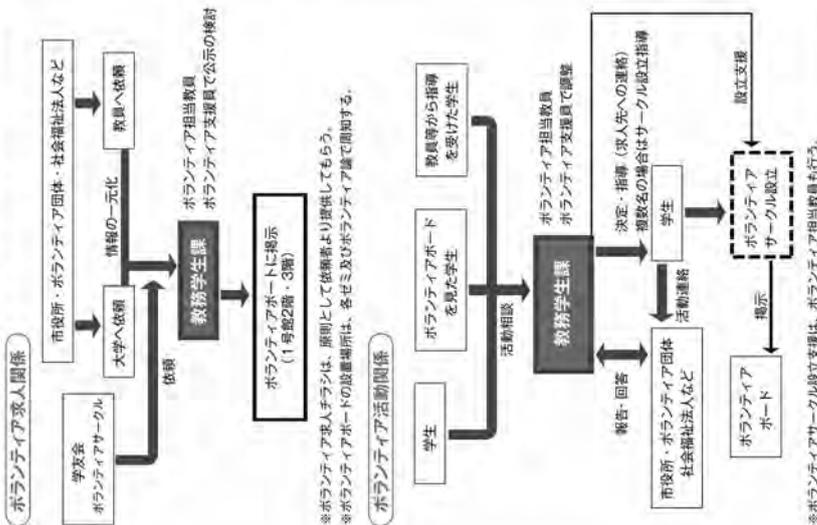


高校生との協働した子育て支援

★長岡大学は、「地域で役に立つ大学」として、地方創生に貢献します。
長岡大学 第4代学長 村山 光博

平成30年3月
長岡大学
連絡先 長岡大学地域連携研究センター
TEL.0258-39-1600 内 FAX.0258-33-8792
URL <http://www.nagaokauniv.ac.jp/>
E-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp

ボランティア支援フローチャート



※ボランティアサークル設立支援は、ボランティア担当教員も行う。

※平成29年度現在におけるボランティア論・ボランティア体験の単位取得者数(高附割合)

| 在籍者 ① | 取得者 ② | 割合 (②/①) | 取得者 ③ | 割合 (③/①) | どちらかを単位取得 取得者 ④ | 割合 (④/①) |
|----------|----------|-------------|----------|-------------|-----------------------|-------------|
| 1年生 121 | 85 | 70.2% | 6 | 5.0% | 87 | 71.9% |
| 2年生 93 | 38 | 40.9% | 21 | 22.6% | 42 | 45.2% |
| 3年生 108 | 64 | 59.3% | 16 | 14.8% | 67 | 62.0% |
| 4年生 86 | 46 | 53.5% | 25 | 29.1% | 52 | 60.5% |

※どちらかを単位取得は、ボランティア論とボランティア体験の単位取得者合計から重複者を除いた人数。

ボランティア論授業風景

実際にボランティアをしている個人・団体を招聘して学修を行った。



災害ボランティア実習

ボランティア体験風景

ボランティア活動計画に基づき、40時間のボランティアを行った。



児童館ボランティア体験

ボランティアフォーラム風景

学生がボランティアを体験して、「自信を持ったこと」、「思ったこと」、「発見したこと」などを共有するためのフォーラムを開催した。



ボランティアフォーラム

平成25年度

ボランティア体験・ボランティア論単位取得者割合は目標の30%を上回った。リーダー研修をサークル等の責任者を対象に2回実施し、延べ約40名が参加した。ボランティアコーディネーターを設置して、地域のボランティア情報やネットワークを形成した。



カヤリ

どうきく服替まつり

平成26年度

ボランティア体験・ボランティア論単位取得者割合は目標の40%を上回った。ボランティアスクの開設によりボランティア情報の展示・メール配信・口コミを活用した結果、「ボランティアに参加しよう」という雰囲気広がった。地域へのボランティア活動への参加学生はイベント参加が約70名、継続参加が約20名であった。



全国体展覧

秋田遊歩道整備

平成27年度

ボランティア体験・ボランティア論単位取得者割合は目標の40%を下回った。学生ボランティアサークル「ほぶら」が設立した。学生の交流活動や災害学生ボランティアフォーラムなどに参加するとともに、ネパール地震被害者募金活動を展開した。サークル「麻省部」がコミュニティセンターや福祉施設と協働して「健康マーじゃん」を実施し、地域への貢献を実現した。



田郷まがボランティア

令和マルシェ

平成28年度

ボランティア情報の提供は、ボランティア支援フロアチャートの作成やボランティアボードを設置したことにより、情報提供は円滑に行うことができた。

ボランティア体験・ボランティア論単位取得者割合は目標大きく上回り、82.6%となった。災害ボランティア活動は損害保険ジャパン日本興和株式会社と協働して、体験学習を行った。さらに実習体験として長岡市総合防災訓練にも3名が参加した。

ボランティアリーダー研修は、特別養護老人ホームまちなちと協働して、延べ20名が研修した。

熊本で発生した地震による被害地支援のため、学内に募金箱を設置して広く募った。



子育て交遊（ブララール）

熊本地震募金活動

平成29年度

ボランティア情報は、継続してボランティアボードを活用して、情報提供は円滑に行うことができた。

ボランティア体験・ボランティア論単位取得者割合は目標上回り、77.1%となった。災害ボランティア活動は長岡市消防団を講師として招請して、活動内容の学修を行った。

学生消防団の加入促進に重点を行い、1名が入団をした。

ボランティアリーダー研修は、「さくらマラソン」と協働して行い、15名が研修した。

高等学校のボランティアサークルとのネットワークは、長岡商業高校の10名が「ブララールで遊ぼう」開催時に支援していただき、交流を深めることができた。

サークル(写真部)の地域支援活動にもつながった。



南郷ボランティア

悠久山マラソン現地調査

ボランティア先の一覧表

ボランティア体験で協力していただいた団体や施設

●環境関係……………地域循環ネットワーク、国営越後丘陵公園

●生活支援関係……………フードバンクにいがた

●募金関係……………24時間テレビ

●高齢者関係……………特別養護老人ホームまちなち園

●障がい児者関係……………ロングラン

●コミュニティ関係……………栢吉コミュニティセンター

●地域福祉……………見附市社会福祉協議会、

すこやかもしもひまつり

●子ども関係……………こどもやき食堂、栢吉児童館、

山通児童館、大島児童館、寺子屋つばさ

100⁺、徒舟の旅、子育ての駅てくてく

新町放課後子ども教室 など

「地(知)の拠点」

文部科学省採択

平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

事業名称 長岡地域(創造人材)養成プログラム
本学の方角 (創造人材)養成地域に貢献する大学
— 地域で役に立ち、頼りになる大学 —

平成25年度～29年度
地域課題研究と成果の還元・政策提言

長岡大学はCOC事業において、経済経営系大学の人的資源(教員)を活用して、3つの地域課題の調査研究とその成果の社会還元・政策提言を5年間にわたり、実施してきた。

★3つの地域課題
「産業の活性化による地域経済の発展」「産業競争力強化と新産業育成」
「少子高齢化や環境問題に伴う市民社会課題の改善・解決」
(地域社会活性化の諸事業)、「地域・コミュニティの活性化」(地域資源発掘、地域交流)の3つ。

★5年間の調査研究
3課題に对应して次の調査研究を行い、その成果を提言、報告書、シンポジウム等の形で、公表し、地域に還元した。

※「長岡地域産業競争力」に関する調査研究(平成25年度)、「長岡地域<創造人材>の調査研究(平成26年度)」、「少子高齢化・人口減少の影響」に関する調査研究(平成27年度)、「ポランティア活動に関する調査研究(平成28年度)」、「新潟県内自治体の将来人口動向(平成29年度)」、「新潟・長岡地域事業承継(平成29年度)の6本。



平成29年度
「人口減少と長岡地域活性化の展望」
平成29年度
「事業承継と地域活性化の展望」

★長岡大学は、「地域で役に立つ大学」として、地方創生に貢献します。
長岡大学 第4代学長 村山 光博

平成30年3月
連絡先 地域連携研究センター
TEL.0258-39-1600内 FAX.0258-39-9566
URL http://www.nagaokauniv.ac.jp/

平成29年度調査研究 「新潟県内自治体の将来人口動向」

★調査研究の概要

- 調査研究担当者：藤江康正(長岡大学教授)
- 調査研究手法：国勢調査データ分析、平成27年度の全国市区町村アンケート結果の新潟県内自治体分析、および人口減少の将来影響推計を、平成28～29年年度に行った。

★調査結果と提言

- 人口減少とともにない、就業数と従業員数、域内総生産と域内所得は2020年代には減少傾向が顕著になる。人口1人当たりの生産性は向上する。
- しかし、生産性の向上は限界にきている。
- 長岡市は中心都市として、その中心性を維持、発展させる必要がある。

★シンポジウムで報告

調査研究成果は、平成29年7月7日(※、長岡グランドホテル)開催の「2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウム1」の基調報告(人口減少時代と長岡地域活性化の方向)として、藤江康正教授から報告された。約100名の参加をえて盛況であった。

当日のハネリスト専メンバーは、金子淳一(長岡市イノベーション推進監)、山田清真(株式会社システムエンジニア代表取締役)、山村雅隆(長岡商工会議所専務理事)、目黒正義(にいがた産業創造機構経営支援グループディレクター)、藤江康正(長岡大学教授)、原田廣司(コーディネーター)であった。

平成29年度調査研究 「新潟・長岡地域事業承継」

★調査研究の概要

- 調査研究担当者：栗井英大(長岡大学准教授)
- 調査研究手法：アンケート調査(「地域企業継承」における事業承継・M&A支援の実態に関するアンケート調査)を新潟県内企業対象に、平成29年8～9月に実施。414社(回収率21.9%)から回答を得た。同時期に企業ヒアリングも実施。

★調査結果と提言

- 経営者の年齢は60歳以上が過半数。
- 早期の後継者決定、後継者の計画的育成、法人・個人の資産分離、株式移転等事業承継計画の作成が必要などの提言を行った。

★シンポジウムで報告

調査研究成果は、平成29年11月17日(※、ホテルニューオータニ新潟)開催の「2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウム1」の基調報告「事業承継と新潟・長岡地域活性化の方向」として、栗井英大准教授から報告された。約100名の参加をえて盛況であった。基調報告とハネリスト討論結果は長岡大学地域連携研究センター年報「地域連携研究」第5号に掲載されて予定である。

当日のハネリスト専メンバーは、戸川巨弘(関東経済産業局産業部中小企業金融課課長)、島山 清(にいがた産業創造機構新潟県事業引継ぎ支援センター一般括務責任者)、小西誠道(株式会社小西建設技術顧問)、松野剛一(まつや株式会社代表取締役)、松浦哲也(テロイトマトマーケティング社長)法人上信越北陸地区就労パートナー(公認会計士)、栗井英大(コーディネーター)であった。

平成28年度調査研究 「ボランティア活動に関する調査研究」

★調査研究の概要

- 調査研究担当者：米山宗久(長岡大学准教授)
- 調査研究手法：「ボランティアグループ・NPOの組織・活動に関するアンケート」と「ボランティアセンター活動に関するアンケート」の2つのアンケート調査を、平成28年7～8月に実施し、前者は66団体(回収率52.8%)、後者は21か所(回収率70.0%)から回答を得た。その結果を分析し、とりまとめた。

★調査結果と提言

- 長岡市民のボランティア活動は、保健・医療・福祉活動が中心になっている(調査対象が社会福祉協議会登録団体へのアンケートであったことにも影響しているが)。
- ボランティア活動の今後課題としては、情報公開や情報共有、若者の参加、行政からの財政面の支援の3点が必要である、との結果が得られた。
- また、ボランティアの推進主体としては、ボランティアグループとNPOの連携の強化が望まれる。

★シンポジウムで報告

調査研究成果は、平成28年11月18日(※、長岡市社会福祉センター・モリエール)開催の「2016長岡大学地域連携研究センターシンポジウム」の基調報告「ボランティア・NPO活動の現状と課題」として、米山宗久准教授から報告された。約60名の参加をえて盛況であった。基調報告とハネリスト討論結果は長岡大学地域連携研究センター年報「地域連携研究」第4号に掲載されている。

当日のハネリスト専メンバーは、平佐美信久(長岡市社会福祉協議会ボランティアセンター班長)、高橋芳一(NPO法人市民協働ネットワーク長岡)、田所典子(長岡健康ボランティアサークル会長)、山崎一雄(フードバンクにいがた長岡センター)、米山宗久(長岡大学准教授)、原田廣司(コーディネーター)であった。



平成28年度「ボランティア活動で人の輪(知)をつくらう」

平成25年度調査研究 「長岡地域産業競争力に関する調査研究」

☆調査研究の概要

- 調査研究担当者：原田誠司(長岡大学教授)
- 調査研究手法：文献調査、県内製造業企業820社に、アンケート＝「新潟・長岡地域における製造業の産業競争力に関する基礎調査」を、平成25年8～9月に実施し、67社(回収率8.0%)から回答を得た。その結果にもとづき企業ヒアリングを行った。

☆調査結果のまとめと提言

- アンケート調査では、開発型企業(自社ブランド企業)は30%程度にとどまり、バリューチェーンを価値創造の起点である「開発」から充実し、競争力＝ビジネスモデルを強化することが課題であることが明確になった。
- グローバル経済下で生き残るビジネスモデルの再構築＝＜イノベーションの仕組み＞、とこれを支える国、地域による＜継続的イノベーション＞事業環境の形成・強化が求められる。特に、地域のイノベーション事業環境＝＜地域産学ネットワーク＞(大学オープン化、知的財産活用、コーディネーター機能の形成、起業など)の形成が重要である。

☆シンポジウムで報告

- 調査研究成果は、平成25年11月22日(於・本学228教室)開催の「2013長岡地域連携推進センター設立記念シンポジウム」の基調報告「新潟・長岡地域における産業競争力の現状と強化の方向」として、原田誠司教授から報告された。約100名の参加をえて盛況であった。基調報告とパネル討論結果は長岡地域連携推進センター年報「地域連携研究」第1号に掲載されている。

- 当日のバネリスト等メンバーは、小西敬雄(株式会社小西鐵金代表取締役社長)、島津克吉(株式会社大蔵計器製作所代表取締役社長)、小川智史(小川コンベヤ株式会社取締役社長)、山田清真(株式会社システムスクエア代表取締役社長)、野中 敏(新潟県工業技術総合研究所長)、目黒正義(いながた産業創造機構総括マネージャー)、小松俊樹(長岡大学特任教授)、原田誠司(コーディネーター)であった。



平成25年度「グローバル競争に勝つ産業競争力の形成へ」

平成26年度調査研究 「長岡地域＜創造人材＞の調査研究」

☆調査研究の概要

- 調査研究担当者：原田誠司(長岡大学教授)
- 調査研究手法：文献調査(R、フロリダクリエイティブ・クラスの世界)等)創造人材集積状況比較、県内全業種2007社(20人以上)に、アンケート調査＝「新潟・長岡地域における創造人材に関する基礎調査」を、平成26年7～8月に実施し、154社(回収率7.7%)から回答を得た。その結果にもとづき企業ヒアリングを行った。

☆調査結果と提言

- 新潟県内の創造人材集積度は、長岡市が最も高い。
- 創造人材＝創造的に仕事ができる人の能力・資質は、リーダーの場合は「経営哲学・信念」と「決断力」、企画部門の場合は「企画・計画力」と「先を読む力」、開発部門の場合は「創造力」と「情報収集・分析力」などが上位にあげられた。創造人材は不足しているが、育成方法が形成されている企業は少数。
- 新事業開発を担うイノベーション人材は確立している企業は少ない。

☆シンポジウムで報告

- 調査研究成果は、平成26年11月21日(於・ホテルニューオータニ長岡)開催の「2014長岡地域連携推進センターシンポジウム」の基調報告「新潟・長岡地域における創造人材の現状と育成の方向」として、原田誠司教授から報告された。約100名の参加をえて盛況であった。基調報告とパネル討論結果は長岡地域連携推進センター年報「地域連携研究」第2号に掲載されている。

- 当日のバネリスト等メンバーは、松原 亨(株式会社バルメソ代表取締役社長)、中林功一(株式会社山田山田代表取締役社長)、榎 希夫(岩塚製菓株式会社代表取締役社長)、岸 保行(新潟大学准教授)、小松俊樹(長岡大学教授)、原田誠司(コーディネーター)であった。



平成26年度「企業競争力を支える(創造人材)の育成へ」

平成27年度調査研究 「少子高齢化・人口減少の影響に関する調査研究」

☆調査研究の概要

- 調査研究担当者：原田誠司(長岡大学教授)
- 調査研究手法：国勢調査データ分析、アンケート調査＝「人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査」を、平成27年7～8月に実施し、548市区町村(回収率31.5%)から回答を得た。その結果を分析し、とりまとめた。

☆調査結果と提言

- 人口増の市区町村は少ない(89)が、自然増・社会増が60%にのぼる。人口減の市区町村は圧倒的に多く(425)、自然減・社会減が70%超である。
- 人口減のマイナスの影響のうち、空き家問題が顕在化、雇用の場の減少、小売店等がなくなり交通路者が生活しにくくなる、社会保障費が増加し負担が増加する、などが上位に上がっている。
- 長岡市活性化の視点としては、産業振興による雇用創出の創出、子育て支援環境の整備、教育施設の充実など、30万人都市としての中心性の維持・発展が重要である。

☆シンポジウムで報告

- 調査研究成果は、平成27年11月20日(於・長岡グランドホテル)開催の「2015長岡地域連携推進センターシンポジウム」の基調報告「人口減少時代と長岡地域活性化の方向」として、原田誠司教授から報告された。約100名の参加をえて盛況であった。基調報告とパネル討論結果は長岡地域連携推進センター年報「地域連携研究」第3号に掲載されている。

- 当日のバネリスト等メンバーは、大森政尚(大森木工株式会社代表取締役後)、栗原里奈(NPO法人思いのほかに代表理事)、小柳敬(株式会社北越銀行コンサルティング営業副部長)、長谷川和明(長岡商工会議所事務局長)、中村英樹(長岡市長政策推進政策企画課課長)、原田誠司(長岡大学教授)、原田誠司(コーディネーター)であった。



平成27年度「人口減少時代と長岡地域活性化の方向」

《《地(知)の拠点》》
 文部科学省採択
 平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

事業名称 長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
 本学の方向 ＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学
 ー 地域で役に立ち、頼りになる大学 ー

平成25年度～29年度 地域志向教育研究

地域志向教育研究とは
 地域を題材とした教育や研究または社会貢献活動を行うことを通して、地域に貢献することを目的とした研究を指します。

地域志向教育研究の意義
 「地域志向教育研究」は、大学教員の地域志向の教育研究の促進を目的としたものです。
 ・本学における地域志向の教育研究は、一部の教員の取組にとどまっておらず、全教員の共通認識や取組に至っていないため、その促進は本学の教育研究にとって、非常に有意義であると考えます。

平成29年度は以下3冊のブックレットを刊行いたしました。

★長岡大学は、「地域で役に立つ大学」として、地方創生に貢献します。
 長岡大学 第4代学長 村山 光博

平成30年3月
 連絡先 長岡大学地域連携研究センター
 TEL.0258-39-1600内 FAX.0258-39-8792
 URL <http://www.nagaokauniv.ac.jp/>
 E-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp



＜地域志向教育研究ブックレット一覧＞

平成28年度ブックレット

平成27年度ブックレット

平成26年度ブックレット

3月中旬に報告書を提出し、ブックレットとして印刷を行います。
 COC 5年間で発行したブックレットは全12冊。大学HPからも閲覧可能ですので、教員たちの研究成果をご覧ください。

＜平成29年度地域志向教育研究テーマ＞

| | | | |
|--|---|---|--|
| <p>教員名 原田 誠司</p> <p>調査研究課題 長岡地域経済・産業の現状と活性化方策等に関する基礎調査</p> <p>調査内容 長岡地域における研究開発・イノベーション状況に関する基礎調査アンケート、アンケート結果から十数社を選びヒアリング。京都大学山口栄一教授を迎え講演会を実施しました。</p> | <p>教員名 栗井 英大</p> <p>調査研究課題 県内外における中小企業の事業承継の支援体制と課題</p> <p>調査内容 地域金融機関における事業承継・M&A支援の実態に関するアンケート調査、県内金融機関数社への実態ヒアリング調査。 また、地域連携研究センターシンポジウムで調査結果を公表しました。</p> | <p>教員名 松本 和明</p> <p>調査研究課題 福島甲子三の企業者活動と地域・社会貢献活動</p> <p>調査内容 国立国会図書館のみに所蔵の伝記から福島県内の活動を探査。 市内、県内の図書館をめぐり、資料収集。 長岡附府400年記念事業「地域をつなぐリレー講演会」長岡Jで講演を行いました。</p> | <p>教員名 兒嶋 俊郎</p> <p>調査研究課題 戦時体験の記録と集積—新潟県内を中心に</p> <p>調査内容 長岡戦災資料館の活動(設立の経緯、展示品)を調査。立命館大学国際平和ミュージアムなどに参加し、研究結果をまとめました。</p> |
|--|---|---|--|

地域志向教育研究対象等（受給資格）について

- ・地域志向教育研究の推進者は、教育・研究・社会貢献を地域志向に改革しようとする本学専任教員とする。
- ・地から類似の経費助成を受けていない教員とする。
- ・地域志向教育研究の取組分野については、当面、長岡地域、新潟県内を対象とした取組（県外他地域・都市等との比較含む）とする。
- ・地域志向という用語からは、国内産地帯あるいは海外諸地域を対象にすることも考えられるが、当面、除外する。

地域志向教育研究の受給等推進手続きについて

①地域志向教育研究計画年度書の提出
申請書を毎年度5月末までに提出。（平成25年度は10/16締切）

②申請書の審査
地域志向教育研究の経費の採択に当たっては、「地域」を志向することを中心とする専任教員を対象にすることを明確にした上で、学内に広く公募を行い、その成果を把握すること。なお、採択に当たっては、特定の教員やプロジェクトを支援するものとならないよう、事業申請者が積極的に関わること。

③審査方針・・・地域志向教育研究の促進の観点から、申請された取組計画を具
体化し、実施する方向で審査を行なう。

④審査項目・・・取組内容の有効性（地域課題との関連）

⑤取組期間（年度末までに成果をあげられるか）の3点で
推進採択と経費（体制、費用面で円滑に推進できるか）の3点で
審査を行なう（申請者へのヒアリングを含む）。審査の結果、経
費の増額・減額等もありうる。

⑥審査委員・・・学長、副学長、教員Aの3名で審査する。教員Aは、申請分野
を見た上で、適切な専門分野の非申請教員の1名を学長が委
任する。

⑦選定・・・上記審査を経て、学長が決定する。



①取組実施

②取組成果報告

⑧中間発表会
12月に研究成果をまとめ、中間発表を行ないます。
最終の成果発表会へ向け、研究結果のまとめに近い形で発表を行います。
【発表時間】10分【質疑】4分【交代】1分で実施しました。

⑨成果発表会
2月に1年間の成果を公表する。成果発表会を行ないます。
外部からの聴講者も増え、発表後の質疑では様々な意見が飛び交います。最
後の報告書（ブックレット）に向け、研究者たちは成果をどのようにまとめるか、
一頁の面画があります。

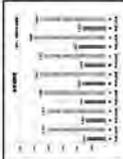
【発表時間】14分【質疑】10分【交代】1分で実施しました。

<平成25年度地域志向教育研究テーマ一覧>

| 教員名 | 調査研究課題 |
|-------|---|
| 内藤 敏樹 | 長岡市区域公共施設ピンチのGISを活用したデータの分析 |
| 西保 先子 | 新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点、県内企業の環境金融活用現状を踏まえた予備調査。 |
| 松本 和明 | 地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究 —北越紀州製紙のケース— |
| 権 五郎 | 中越地域企業の企業系譜と産学系譜作り |
| 中村 大輔 | 「ながおかバル街」による中心市街地・店舗活性化の研究 |

<平成26年度地域志向教育研究テーマ一覧>

| 教員名 | 調査研究課題 |
|--------|--|
| 西保 先子 | 新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点を踏まえたための調査。(継続) |
| 内藤 敏樹 | 長岡市区域公共施設ピンチのGISを活用したデータの分析 (継続) |
| 松本 和明 | 地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究 (継続) |
| 中村 大輔 | 「ながおかバル街」による中心市街地・店舗活性化の研究 (継続) |
| 権 五郎 | 中越地域製造業の企業系譜と技術系譜作り (継続) |
| 米山 宗久 | 「買い物支援」を中心とした住民ネットワーク構築の必要性 |
| 梅長 真紀子 | 産官学連携の消費者市民教育の実施による大学生の社会参画意識の変容の検証 |
| 兒嶋 俊郎 | 新潟における競争の記憶 |



<平成27年度地域志向教育研究テーマ一覧>

| 教員名 | 調査研究課題 |
|-------|--|
| 西保 先子 | 新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点、県内企業の環境金融活用現状を踏まえたための調査 (継続) |
| 松本 和明 | 地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究—北越紀州製紙のケース— (継続) |
| 中村 大輔 | 長岡市域の製造業における管理会計システムの普及に関する研究 |
| 権 五郎 | 中越地域製造業の企業系譜と技術系譜作りから眺めてくるもの (継続) |
| 兒嶋 俊郎 | 新潟における競争の記憶 (継続) |
| 原田 誠司 | 地域産業界が求める若者人材ニーズ等に関する基礎調査 |
| 山川 智子 | 地域の「温泉」の特色と魅力、および地域資源としての活用方法 |



<平成28年度地域志向教育研究テーマ一覧>

| 教員名 | 調査研究課題 |
|-------|---|
| 米山 宗久 | 発達段階による「子育て」に関する意識変化 |
| 栗井 英大 | 新潟県内中小企業における事業承継の現状と課題 |
| 西保 先子 | 新潟県の中小・地域金融機関による環境金融の現状と県内企業の環境金融活用現状を踏まえたための調査 |
| 中村 大輔 | 長岡市域の製造業における管理会計システムの普及に関する研究 (継続) |
| 兒嶋 俊郎 | 新潟における競争の記憶 |
| 山川 智子 | 長岡市近郊及び新潟県内の温泉における地域資源としての活用の傾向分析 |





文部科学省採択
 平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

事業名称 長岡地域(創造人材)養成プログラム
本学の方角 (創造人材)養成で地域に貢献する大学
 一地域で役に立ち、頼りになる大学

平成25年度～29年度 悠久山・東山フォーラム

平成25年度、長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」＝大学COC事業に採択されました。平成27年度からはこの事業を引き継ぐ文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」が開始し、新潟大学が採択され、本学も参加することになりました。長岡大学は、地域で役に立ち、頼りになる大学を目指し、平成25年度より、悠久山・東山フォーラムを開催しております。



★長岡大学は、「地域で役に立つ大学」として、地方創生に貢献します。
 長岡大学 第4代学長 村山 光博

平成30年3月
長岡大学
 連絡先 長岡大学地域連携研究センター
 TEL.0258-39-1600内 FAX.0258-39-9566
 URL <http://www.nagaokauniv.ac.jp/>
 E-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp

平成26年度 第2回悠久山・東山フォーラム

「悠久山・東山マップの完成報告」

- 開催日 平成27年3月7日(土)
- 場所 長岡大学地域交流ホール
- 参加者 60名
- ☆基調講演 「金越会と地域資源の活かしか方」
 公益社団法人金越会動物園園長 大原 久治 氏
- ☆話題提供 「東山地域の花々」
 長岡大学東山MAP制作委員会 水沢 美徳 氏
- ☆活動報告 「栢吉地域の高齢者の買い物動向」
 長岡大学米山ゼミ生
- ☆ハネルディスプレイカクシオン
 長岡市市長政策室政策企画課長 中村 英樹 氏
- 雪国植物園園長 大原 久治 氏
- マップ制作委員会 水沢 美徳 氏、古屋 信司 氏、桑原 幸子 氏
- なごか生活情報交流ねっと 桑原 真二 氏、長岡大学生 酒井 直也



マップ展示



ハネルディスプレイカクシオン

平成25年度 第1回悠久山・東山フォーラム

「みんなで悠久山・東山地区の魅力を語ろう」

- 開催日 平成26年3月15日(土)
- 場所 長岡大学地域交流ホール
- 参加者 70名
- ☆現状報告 長岡市市長政策室政策企画課長 渡辺 則道 氏
- ☆基調講演 「歴史にみる悠久山と東山」
 長岡大学教授 松本 和明 氏
- ☆栢吉地区の魅力 「牧野忠辰公と十分盃」
 元栢吉公民館館長 中村 祥一 氏
- ☆活動報告 長岡大学教授 吉盛 一郎、吉盛ゼミ生
- ☆意見交換会 参加者全員



栢吉の魅力



意見交換会

平成28年度 第4回悠久山・東山フォーラム

「お雛さまとお茶会」

- 開催日 平成29年2月25日(土)
- 場所 長岡大学217教室、3階学生ホール
- 参加者 60名
- ☆講演 「内裏様はどこ?」
 長岡大学教授 小川 幸代 氏
- ☆お茶会 長岡大学茶道部
- 同時に、お雛さま展示、長岡大学写真部による東山写真展、「フラレール」を開催しました。



「内裏様はどこ?」



お茶会



フラレール



和室に「お雛さま」

平成27年度 第3回悠久山・東山フォーラム

「ひとりひとりができること」

- 開催日 平成28年3月5日(土)
- 場所 長岡大学地域交流ホール
- 参加者 50名
- ☆事例発表
 栢吉地区 「悠久山の歴史を活かすこと」 古屋 信司 氏
 山通地区 「子どもに伝える山通の魅力」 川上 洋一 氏
 四郎丸地区 「赤城コマランドがなぜできたか」 山川 成雄 氏
- ☆ハネルディスプレイカクシオン
 古屋 信司 氏、川上 洋一 氏、山川 成雄 氏



「ひとりひとりができること」



事例発表

平成29年度 第5回悠久山・東山フォーラム

「悠久山の見どころ、撮りどころ」

— “お山” あんなどこ、こんなどこ —

- 開催日 平成30年2月24日(土)
- 場所 長岡大学地域交流ホール
- 参加者 130名

☆「悠久山いいとご撮りまっぶ」お披露目

☆講演 「牧野家と悠久山」

☆対談 「令終会と悠久山」

☆公益社団法人平成令終会

雪国植物園園長 大原 久治氏

長岡大学教授 松本 和明



まっぶお披露目



「牧野家と悠久山」



「令終会と悠久山」

「悠久山いいとご撮りまっぶ」

平成29年度、地域の方々のご協力により、本学写真部学生が、6月より制作活動を開始しました。

現地調査、確認のための打ち合わせ、そして、折々の写真を撮影してきました。その間、「今、山百合が見頃だよ。」とか、「あの辺りが紅葉し始めたよ。」など、様々な情報をいただきました。

10月28日(土)・29日(日)の悠久祭では、まっぶの展示と撮り溜めた写真を展示し、みなさまからご意見をいただきました。



現地調査



悠久祭



資料整理、写真選び



悠久山いいとご撮りまっぶ

景観編

見どころ

悠久山のイロハコ

石碑編

見どころ

悠久山のイロハコ



文部科学省採択
 平成25～29年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

事業名称 長岡地域<創造人材>養成プログラム
 大学の方向 <創造人材>養成で地域に貢献する大学
 一地域で役に立ち、頼りになる大学

平成25年度～29年度 市民公開講座(o-school) まちなかキャンパス長岡

長岡大学市民公開講座(o-school)とは？
 従来の市民向け公開講座を刷新・発展しました。市民ニーズと本学教員のマッチングを図り、地域に関わられた大学(o-schoolのoはopenのo)としての立ち位置を明確にした内容です。

「まちなかキャンパス長岡」での講座
 長岡市と三大学一高専がタッグを組んだ長岡市の学びの拠点が「まちなかキャンパス長岡」(通称：まちなかキャン)です。長岡大学からも毎年数名の教員等が独自の講座を行い好評を博しています。



★長岡大学は、「地域で役に立つ大学」として、地方創生に貢献します。
 長岡大学 第4代学長 村山 光博

平成30年3月
 連絡先 長岡大学地域連携研究センター
 TEL.0258-39-1600内 FAX.0258-39-9566
 URL http://www.nagaokauniv.ac.jp/
 E-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp

平成29年度市民公開講座の概要 ※は地域志向研究講座

| 講座タイトル | 講師 | 日程 |
|----------------------------------|---------------|--|
| 長岡偉人伝 | 松本和明/ 高橋治道 | 2017/05/23～06/20 [全5回] |
| Excel入門 | 吉川宏之 | 2017/06/05～06/21 [全6回] |
| 記記を読む 前編 | 小川幸代 | 2017/06/15～07/20 [全5回] |
| 新潟における戦争の 記憶 | 兄崎俊敏 | 2017/06/21～08/28 [全2回]※ |
| 経済発展の始まりは ニーズと地域資源の 活用にある！ | 権 五景 | 2017/07/05～07/12 [全2回]※ |
| 温泉の魅力について 語ろう！ | 山川智子 | 2017/07/19～07/26 [全2回]※ |
| おとなの学びなおし 心理学 | 山川智子 | 2017/09/15～10/06 [全4回] |
| 簿記入門講座 (日商簿記初級から3級程度) | 中村大輔 | 2017/09/28～11/16 [全15回] |
| 「聞き手を動かす プレゼンスキル」を 身に付ける！ | 栗井英大 | 2017/10/04～10/25 [全4回] |
| 記記を読む 後編 | 小川幸代 | 2017/10/12～11/30 [全5回] |
| 北越紀州製紙 110年のあゆみと 長岡地域 | 松本和明 | 2017/11/01～11/29 [全5回] まちなかキャンパス長岡 |

平成29年度は5年間で最も講座数が多い年となった。
 地域志向研究の成果が講座に結びつくなど、これまでにない新たな試みもいくつかなされた。

<まちなかキャンパス長岡での長岡大学の講座：2017年>
 まちなかキャンパス長岡では、まちなか大学で「企業トップがやってきた！2017」、まちなかカフェではこどもカフェでゼミ生が主体となった「まちなか眠ってどんどこ？」、「ラクラク英語マクラからサゲまで」などがあつた。市民プロデュース講座では、陶芸家とのコラボ企画「十分杯陶芸教室」も開催された。



市民公開講座リーフレット



平成25年度市民公開講座の概要

| 講座タイトル | 講師 | 日程 |
|------------------------|------|--------------------------|
| 初級簿記実践講座 (日商簿記3級対応) | 中村大輔 | 2013/12/5~2/20 【全15回】 |

<まちなかキャンパス長岡での長岡大学の講座：2013年>
まちなかカフェは「長岡に「新鉄」があった頃」、「人生の店じまい〜終活を考えると〜」、「スカイツリー見参！江戸っ子が語る触感の浅草・上野」、「レコードで語り合おう、80年代ヒット曲」、「気象と健康との関わり〜天気を知って元気になる」と多岐にわたる内容の講座が開催されました。まちなか大学では、「身近な経済学」として本学教員のみの連続講座が行われた。

平成26年度市民公開講座の概要

| 講座タイトル | 講師 | 日程 |
|---------------------------------------|------|---------------------------|
| 初級簿記実践講座 (日商簿記3級対応) | 中村大輔 | 2014/9/25~11/13 【全15回】 |
| No.1の国、アメリカ が教えてくれるもの | 権 五景 | 2014/10/9~10/30 【全4回】 |
| 映画で見る 中国現代史 | 兒嶋俊郎 | 2014/11/6~11/20 【全3回】 |
| 地域交通と中部地方 100年のあゆみ - 越後交通を中心に - | 松本和明 | 2014/11/11~12/2 【全4回】 |
| メンタルヘルス マネジメント | 山川智子 | 2015/2/4~3/11 【全5回】 |



<まちなかキャンパス長岡での長岡大学の講座：2014年>
まちなかカフェは「フルートレインの最後〜鉄道ノスタルジア」、「レコードで語り合おう、ジャズの名盤」、「勉強の仕方なんて忘れちゃった〜社会人からの学び方〜」、こどもカフェで「頭と手を使って、目指せ賢王！」と、幅広い内容の講座が目白押しだった。

平成27年度市民公開講座の概要

| 講座タイトル | 講師 | 日程 |
|--|---------------|---------------------------------------|
| 高齢者のための スマホ・タブレット入門 | 高橋治道 /吉川宏之 | 2015/8/1~6/29 【全5回】 まちなかキャンパス長岡 |
| 記紀神話を読む 前編 | 小川幸代 | 2015/7/2~7/30 【全4回】 |
| 初級簿記講座 (日商簿記3級程度) | 中村大輔 | 2015/9/17~11/12 【全15回】 |
| 記紀神話を読む 後編 | 小川幸代 | 2015/10/1~11/12 【全5回】 |
| 渋沢栄一と長岡地域 | 松本和明 | 2015/11/10~12/1 【全4回】 |
| メンタルヘルスマネジメント 検定Ⅱ種ライオンケアコース 対策講座 | 山川智子 | 2016/1/29~3/11 【全5回】 |
| セカンドライフ プランニング講座 | 楠長真紀子 | 2016/2/4~2/25 【全3回】 まちなかキャンパス長岡 |



<まちなかキャンパス長岡での長岡大学の講座：2015年>
まちなか大学では「企業のトップがやってきた！」が大盛況となった。まちなかカフェは「レコードで語り合おう、洋楽80s」、「いい感じで知っておきたい漢字のあれこれ」、出張カフェでは「天気を知って元気になる」が開催された。

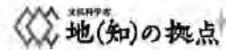
平成28年度市民公開講座の概要

| 講座タイトル | 講師 | 日程 |
|--------------------------------------|---------------|--------------------------------------|
| 高齢者のための スマホ・タブレット入門 | 高橋治道 /吉川宏之 | 2016/6/6~7/4 【全5回】 まちなかキャンパス長岡 |
| 記紀神話を読む 前編 | 小川幸代 | 2016/6/2~7/21 【全4回】 |
| メンタルヘルス マネジメント検定Ⅲ種・ Ⅱ種総合ストレテック | 山川智子 | 2016/9/9~10/7 【全5回】 |
| 初級簿記講座 (日商簿記3級程度) | 中村大輔 | 2016/9/20~11/17 【全15回】 |
| 近代東アジアの 日本 | 兒嶋俊郎 | 2016/10/19~11/23 【全6回】 |
| 外山脩造の足跡と 活動 | 松本和明 | 2016/11/1~11/29 【全5回】 栃尾文化センター |
| 記紀神話を読む 後編 | 小川幸代 | 2016/11/10~11/24 【全3回】 |



<まちなかキャンパス長岡での長岡大学の講座：2016年>
まちなかカフェでは「長岡の老舗本屋です!」、「天気が変われば暑気も変わる」の2つの講座が開催された。出張カフェでは、「長岡鉄道について」、「コンビニおにぎりの秘密」、「連続ドラマの楽しみかた」などがあつた。十分杯の市民プロデュース講座「十分杯で長岡を盛り上げよう!」が開催され好評を博した。

長岡大学COC通信 5^{2017年}月号



長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業＝COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウム

人口減少と長岡地域活性化の展望

ー長岡地方創生のさらなる前進へー

新潟県内自治体の人口減少とその影響分析を本学から報告し、地方創生を推進している各界の方々と、地域活性化の展望を議論します。長岡地域の地方創生を推進されている皆様、地方創生に関心をお持ちの皆様をはじめ、多くの皆様の参加をお待ちしております。

参加費
無料

7/7^金

14:30～17:00

長岡グランドホテル



主催 長岡大学地域連携研究センター

第1部 基調報告

人口減少と長岡地域活性化の方向

長岡大学副学長／教授

鯉江 康正



第2部 パネルディスカッション

人口減少と長岡地域活性化の展望 ー長岡地方創生のさらなる前進へー

〈パネリスト〉 長岡市イノベーション推進監
株式会社システムスクエア代表取締役
長岡商工会議所専務理事
にいがた産業創造機構経営支援グループディレクター
長岡大学副学長／教授

金子 淳一氏
山田 清貴氏
山村 雅隆氏
目黒 正義氏
鯉江 康正
原田 誠司

〈コーディネーター〉 長岡大学教授

※お問合せ・お申込みは下記までご連絡ください。

平成29年度 長岡大学「市民公開講座」のご案内

記紀を読む（前編）

「古事記」と「日本書紀」は、日本の歴史や文化を理解するための基本的な文献です。本講座では、「神武天皇」から「垂仁天皇」までを、記紀の両書を比較しながら読んでいきます。

- ◆時間 19:00～20:30
- ◆定員 30名
- ◆会場 長岡大学
- ◆講師 小川幸代(教授)
- ◆受講料 5,000円



別途テキスト・資料代あり

- 1回 6月15日(休) 神武天皇即位前
- 2回 6月22日(休) 神武天皇即位前 神武天皇
- 3回 6月29日(休) 欠史 8代(綏靖・安寧・懿徳・孝昭・孝安・孝豊・孝元・開化天皇)
- 4回 7月13日(休) 崇神天皇
- 5回 7月20日(休) 垂仁天皇

新潟における戦争の記憶

戦後日本における戦争の記憶がどのように記録化され、人々の歴史意識に影響してきたかを考えます。長岡戦災資料館等の活動や、そこに集積された証言記録の持つ意味を考えましょう。

- ◆時間 19:00～20:30
- ◆定員 20名
- ◆会場 長岡大学
- ◆講師 兒嶋俊郎(教授)
- ◆受講料 2,000円



- 1回 6月21日(休) 記憶と記録、そして戦後の歴史意識
- 2回 6月28日(休) 長岡における戦争の証言

経済発展の始まりはニーズと地域資源の活用にある！

豊かな地域とそうでない地域との違いは何か？石油資源がありながらも、工業の現状に差が開いてしまった長岡市と秋田市の事例と、欧米諸国とそうでなかったアジア諸国の事例を紹介することで、一緒に将来について考えます。

- ◆時間 19:00～20:30
- ◆定員 20名
- ◆会場 長岡大学
- ◆講師 権 五景(教授)
- ◆受講料 2,000円



- 1回 7月5日(休) 石油のまち、新潟県中越と秋田市の共通点と相違点
- 2回 7月12日(休) 世界の地域資源の活用の事例

お問合せ・お申込み

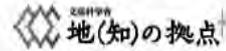
各講座初回日の1週間前までに
下記までご連絡ください。



お問合せ・申込み先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 6月号



長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業=COC+事業」に参加いたします。

平成29年度 長岡大学起業家塾事前セミナーおよび説明会

目指せ！学生起業家

社会に向けて新しいチャレンジを始めたい人にオススメ!

日時 | 7月12日(水) 14:40～16:10 **参加費無料 (申込必要)**
 会場 | 長岡大学 217教室
 対象 | 学生(高等専門学校、短期大学、大学、大学院) 高校生

起業に興味がある学生、高校生もぜひ参加してください。
 起業家塾への参加申込や詳細については、長岡大学教務学生課までご連絡ください。
 TEL 0258-39-1600 (代)



第1部 起業家塾事前セミナー 創業体験談

寺嶋 瑞仁 氏

株式会社CuboRex代表取締役社長
 長岡技術科学大学大学院修士課程2年



キューボード(電動スケボー)を開発! 小型輸送用機械や地上走行ロボットの製造・販売を手掛ける会社を起業!

第2部 起業家塾説明会 起業家塾の進め方について

小松 俊樹

長岡大学教授(起業家塾担当)



8月7日(月)～8月10日(木)に、長岡大学で開講する「起業家塾」の説明をします。

平成29年度長岡大学起業人材養成セミナー

創業セミナー【初級コース】

いずれは創業したい、アイデアを持っている、経験を活かして独立したいなどの創業予備軍の方

時間 | 13:30～16:30 **10名限定 先着順**
 講師 | 小松俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)
 会場 | 長岡大学 受講料 | 無料(ただし資料代2,000円)
 締切り | 7月31日(月) 下記までご連絡下さい。

長岡大学では長岡市の地方創生事業との連携のもとで起業人材養成セミナーを開講しています。併せて創業・起業支援メンターによる日常的支援も行い、確実な創業・起業家輩出の一翼を担いたいと考えています。

今年受講生の起業意識に応じて、初級と上級の2つに分け、開講します。創業に興味をお持ちの方の参加をお待ちしています。



ビジネスプラン相談会【参加費無料】

具体的なビジネスプランの相談に応じます。セミナー終了後、9月に3回(予定)開催。日時は参加希望者と相談の上、決定します。

| 開講日 | テーマ(予定) |
|------------|---------------------------------|
| 1 8月 5日(土) | オリエンテーション、自己紹介、事業計画の作り方、創業体験談 |
| 2 8月19日(土) | 事業アイデア発想法、アイデアをカタチにする、アイデアを検証する |
| 3 8月26日(土) | 事例から学ぶ(ケーススタディ)、成果発表 |

長岡3大学1高専の皆さん ながおか大学祭・学園祭模擬店ビジネスコンテスト

ながおか・若者・しごと機構は、長岡市の3大学1高専の学生を対象にした起業・ビジネス体験プログラム「大学祭・学園祭模擬店ビジネスコンテスト」を開催します。模擬会社を設立し、事業計画を作成し、商品企画・開発・販売を行い、決算を行うという一連のビジネスの進め方を体験することにより、企画力・創造力・経営力・コミュニケーション力等の向上を目指します。大学祭・学園祭ごとに専門家が審査を行います。

最優秀賞(1件) 10万円
 優秀賞(2件) 3万円

詳細は長岡大学ホームページをご覧ください。▶

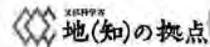


長岡大学 共催事業

お問い合わせ先 長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 7月号

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。



長岡大学の「長岡地域＜創生人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業＝COC+事業」に参加いたします。

長岡大学市民公開講座

おとなの学びなおし心理学

社会人の勉強と学校の勉強は似ているようでかなり違います。学習心理学を軸として、おとなになって学びなおすことの楽しみや意義を一緒に考えてゆきましょう。(全4回)



日程 9/15(金)、9/22(金)、9/29(金)、10/6(金)
 時間 19:00～20:30
 会場 長岡大学 定員 20名(先着順)
 講師 山川智子(長岡大学教授)
 受講料 4回で4,000円 申込締切 9月8日(金)

長岡大学市民公開講座

簿記入門講座 (日商簿記初級から3級程度)

個人商店や中小企業の経理事務に役立つ簿記(日商簿記初級から3級相当)について学びます。

日常の取引に関する仕訳から、決算書(財務諸表)の作成までを学びます。(全15回)



日程 9/28(木)～11/16(木)の火・木曜日
 時間 19:00～21:00
 会場 長岡大学 定員 20名(先着順)
 講師 中村大輔(長岡大学准教授)
 受講料 15回で15,000円 申込締切 9月21日(木)
 テキスト代 1,026円(税込)

Nagaoka i-CON

ながおかアイコン
 ながおか仕事創造アイデア・コンテスト

若者のアイデアを募集します

いいね!アイデア部門

長岡の地域資源を活用した「もの・こと」で、住んでいる人々が「あればいいな」、市外に住んでいる人々が「行ってみたいな」と思う「もの・こと」のアイデア。
 (事例)新しい観光ルートの提案など

起業アイデア部門

起業につながる新しい事業・商品に関するアイデア(既存企業から技術やノウハウなどの協力を得た起業計画も可)
 (事例)地域資源を活用した新たなビジネスの提案など。

※2部門それぞれで、下記の表彰をします。ただし、小・中学生の場合は、回書券とします。
 ながおか・若者・しごと機構賞7万円(1件) 北越銀行賞7万円(1件) 優秀賞3万円(5件程度)

募集期間 6月12日(月)～9月6日(水) [必着]

お申込み先 長岡大学地域連携研究センター「ながおかアイコン」事務局
 〒940-0828 長岡市御山町 80-8
 tel: 0258-39-1600(代) fax: 0258-39-9566 E-mail: aicon@nagaokauniv.ac.jp



【主催】ながおか・若者・しごと機構 【共催】長岡市、北越銀行、長岡大学

長岡市 地方創生

2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウム 「人口減少と長岡地域活性化の展望」が開催されました



7月7日、長岡グランドホテルで長岡大学地域連携研究センターシンポジウムが開催されました。120名を超える方々からご参加いただき、テーマに対する関心の高さがうかがえました。

第1部の基調報告では、鯉江康正教授より人口の増加・減少の要因・理由をまとめ、また2025年までの県内市町村の社会経済動向予測が紹介されました。今後これらの情報を活かして人口減少対策を講じてゆく必要があると分析結果について報告がありました。

第2部のパネルディスカッションでは、長岡地域のこれから向かうべき姿についてパネリストたちのそれぞれの思いが語られました。

参加者の地方創生への意識が高まるシンポジウムとなりました。

お問合せ・申込先 長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 9月号



長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業=COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

プラレールで遊ぼう!

米山ゼミナールのイベントです。

たくさんのプラレールで、子育て中のお父さん、お母さんも一緒に楽しみましょう。



1日目 10月28日(土) 10:00～16:00

② 多目的室(1号館3階)

2日目は2会場 10月29日(日) 10:00～16:00

② 多目的室(1号館3階)

② 第5会議室(1号館4階)

いずれのイベントもお申し込み不要、入退場自由です。お気軽にお越し下さい。

第2回ボランティアフォーラム

科目「ボランティア体験」(担当:米山)を履修した学生たちが、体験を通じて「自信を持ったこと」、「悩んだこと」、「発見したこと」などを発表します。コメンテーターより講評をいただきます。



開催日時

10月28日(土) 10:30～ ② 第4会議室(1号館4階)

まちの駅紹介パネル展示

学生による地域活性化プログラムに取り組む、鯉江ゼミナールのイベントです。

新潟県内約130のまちの駅へのヒアリングを元に、紹介パネルを作成しました。

まちの駅の紹介とともに、学生のコメントも載せています。学生ならではの目線や思いもお楽しみ下さい。



まちの駅でのヒアリング

悠久祭でのパネル展示

開催日時 両日展示 ② 216教室(2号館1階)

悠久山いいところ撮りマップ

こんにちは、長岡大学写真部です。私たち写真部は悠久山公園の見どころを、写真を添えて紹介する散策マップ「悠久山いいところ撮りマップ」を制作しています。マップは二種類作っており、公園内の魅力ある四季の写真を取めたものと、公園内に点在している石碑を巡るものがあります。制作にあたり、公園へ実地調査に行ったり、地域の方々から情報を得たりして活動を進めています。

本学の悠久祭では、活動中の写真や制作中のマップを展示いたします。地元の皆様、ぜひ、ご意見やアドバイスを聞かせてください。



開催日時 両日展示 ② 学生ホール(1号館3階)

悠久祭 COC+事業 イベント

十分杯で長岡を盛り上げよう

権ゼミナールでは長岡でブームに成りつつある十分杯の展示を行います。十分杯とは、江戸時代から長岡藩牧野家に伝わる不思議な酒杯です。

十分杯とは…なぜ人を引き付けるのか…その謎は会場で明らかに!長岡の地酒イベントも行います。



開催日時 両日展示 ② 222教室(2号館2階)

長岡大学COC+事業
「長岡地域<創造人材>養成プログラム」パネル展

開催日時 両日展示 ② 214教室(2号館1階)

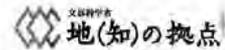
「学生による地域活性化プログラム」パネル展

開催日時 両日展示 ② 215教室(2号館1階)

お問合せ

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 10月号



長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業＝COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

平成29年度長岡大学地(知)の拠点大学フォーラム もみじ園フォーラムのご案内

越路地域の発展に尽した先人たちに寄せて

越路地域の発展に尽した先人たちの業績に触れ、遺産でもあるもみじ園で地域の歴史・文化を見直し、地域の活性化を考えるフォーラムです。地域の方々のご協力を得て開催いたします。お気軽にご参加ください。

会場 登録有形文化財 **もみじ園** (長岡市朝日600番地)

11/5 日 講演会「越路を創った先人たち」



長岡大学教授 **松本 和明**
13:00～15:00 入場無料
先着50名



11/11 土 資料展&もみじ茶会

資料展 長岡大学教授 **高橋 治道**
10:00～16:00 入場無料

※席券は売店で販売いたします。

もみじ茶会 長岡大学茶道部
先着150名 10:30～15:00 茶席券300円

2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウムⅡ 事業承継と地域活性化の展望

長岡市地方創生のさらなる前進へ② 入場無料

事業承継問題の調査研究による報告と産学官の有識者の皆様方との議論により、新潟・長岡地域における事業承継活性化の方策・方向性を明確にしたいと考えます。

11/17 金 14:30～17:00 ※14:00～受付開始

会場 **ホテルニューオータニ長岡 白鳥の間**

第1部 基調報告

事業承継と新潟・長岡地域活性化の方向
長岡大学准教授 **栗井 英大**



第2部 パネルディスカッション

事業承継と新潟・長岡地域活性化の展望

関東経済産業局 産業部中小企業金融課 課長 **戸川 哲宏** 氏
(公財)にいがた産業創造機構
新潟県事業引継ぎ支援センター統括責任者 **畠山 満** 氏
株式会社小西銀金 技術顧問 **小西 統雄** 氏
まつや株式会社 代表取締役 **松野 陽一** 氏
デロイトトーマツ税理士法人(公認会計士) **松浦 哲也** 氏

イノベーション人材養成講座 管理会計講座のご案内

生産性向上をめざすために、直接原価計算の使い方と、企業のボトルネックに目を向けた「制約条件理論(TOC)」について集中的に学びたいと考えています。

ちょっとしたゲームを取り入れるなど、簿記会計の知識の有無にかかわらず学ぶことができる内容を目指しています。生産性向上を考えている皆様、ぜひご参加下さい。

日程 | 11/28火、12/5火、12/12火、12/19火
1/ 9火、1/16火、1/23火、1/30火

時間 | 各回 18:30～21:00

講師 | 中村大輔(長岡大学准教授)



会場 | 長岡大学

定員 | 20名(先着順) ※受講者が3名に満たない場合は不開講

受講料 | 30,000円(全8回) ※初回にご持参ください。

財務会計と管理会計、レストランゲームと直接原価計算、DBRゲームと制約条件理論などを予定しています。

申込 11月21日(火)までに下記までご連絡ください。

起業人材養成セミナー 創業セミナー[実践コース]のご案内

長岡市の地方創生事業との連携のもとで起業人材養成セミナーを開講しています。併せて創業・起業支援メンターによる日常的支援も行い、確実な創業・起業家輩出の一翼を担いたいと考えています。実践コースを開講します。

日程 | 12/ 2(土)、12/ 9(土)、12/16(土)
1/ 6(土)、1/20(土)、1/27(土)

時間 | 各回 13:30～16:30

講師 | 小松 俊樹 (長岡大学教授/中小企業診断士)
高橋 真由美 (㈱サマンサハート代表取締役)
山田 康博 (税理士法人ながおか会計/税理士)
今井 進太郎 (グローバルマーケティング㈱代表取締役/中小企業診断士)ほか<順不同>

会場 | 長岡大学

定員 | 20名(先着順)

受講料 | 無 料



実践!売れる仕組みの作り方、速攻!創業財務、上手なお金の借り方、創業に良く効くIT活用、商圏、立地の理解、開業プロモーションの手法などを予定。

申込 11月24日(金)までに下記までご連絡ください。

お問い合わせ・申込先 長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 11月号

文部科学省
地(知)の拠点

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業=COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

ながおか仕事創造アイデア・コンテスト 学生のアイデアが優秀賞獲得! 5名受賞の快挙

11月11日(土)、まちなかキャンパス長岡において、ながおか・若者・しごと機構主催の「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト」の最終審査会が開催されました。魅力あるまちづくりや起業のアイデアを募るコンテストで、優秀賞に選ばれた人(グループ)のプレゼンテーションと表彰式が行われました。

長岡大学からは5名が受賞し、そのうち、いいね!アイデア部門で4年生のフレルパートル ハリウンさんが北越銀行賞をいただきました。

いいね!アイデア部門

北越銀行賞

“長岡でよかった”
外国語動画作り
フレルパートル ハリウン 4年



長岡市在住外国人留学生がみた長岡の魅力をとりとめてビデオ等を作成し、海外の様々な国の人たちに楽しく伝える

優秀賞 グループ ティカブリオ

錦鯉ブームで地域活性化
in山古志
高橋 広守 (たかはしひろもり) 3年



山古志の錦鯉を個別産業のレベルから、山古志全体にその効果を広げるため、競馬に似た<錦鯉スピード競争>を闘牛期間に開催し、馬券ならぬ<鯉券>を発行する

起業アイデア部門

優秀賞 グループ フューチャー



長岡”超”野菜の生産・販売
星野 翔惟 (ほしの るい) 2年

完全人工光型植物工場で、栄養分・機能性成分(ポリフェノール等)を強化し、付加価値を高めた長岡<超>野菜を生産・販売する

優秀賞 グループ 長岡人本舗



錦鯉カフェ
小口 統為 (おぐちむねゆき) 2年

山古志の錦鯉の魅力を発信するとともに長岡野菜等の長岡の<食>を楽しめるカフェ、<錦鯉ミュージアム>をつくる

優秀賞 グループ 元気ファーム



親子で楽しむ長岡歴史アプリ
渡邊 周三 (わたなべしゅうぞう) 3年

長岡開府400年を記念して、AR(拡張現実)とGPS機能を活用した400年間の長岡を現地再現できる情報アプリの開発・提供をする

もみじ園フォーラムを開催しました

長岡大学地(知)の拠点大学フォーラムとして、長岡市越路地域の皆様のご協力により、登録有形文化財もみじ園で「もみじ園フォーラム」を開催しました。

11月5日(日)の講演会「越路を創った先人たち」では天候に恵まれ、約40名の方からご参加いただきました。講演会での内容をもっとたくさんの地域住民に知らせて欲しい等のご意見をいただきました。

11月11日(土)には資料展示「越路を創った先人たち」および、もみじ茶会を行い、大荒れの天候にもかかわらず、約80名の方からご参加いただきました。もみじ園にふさわしい企画として今後のご要望もいただき、地域と連携した取り組みを継続していきたいと考えております。



11/5 講演「越路を創った先人たち」
長岡大学教授 松本和明



11/11 資料展示(高橋治道ゼミ)
もみじ茶会(茶道部)

今後の予定
12月 2日(出) 学生による地域活性化プログラム成果発表会
12月13日(水) 地域志向教育研究中間発表会(長岡大学)

インターンシップ成果発表会開催!

11月15日(水)、科目「インターンシップ」を履修する22名(3年生)が、4月から企業研究やビジネスマナー講習に取り組み、夏休み中の10日間の実地研修を経て、その成果を発表しました。

当日は一部の受入企業・機関様にもご参加いただき、緊張感のある中で発表会を行いました。学生たちは研修を通して得た新しい発見や、体験から身に付いた社会人基礎力、そして今後の課題について堂々と発表していました。発表後は学内審査を行い、最優秀賞1名、優秀賞2名を表彰しました。



栗原泰武さんの発表

最優秀賞 栗原 泰武
優秀賞 酒井 美咲
優秀賞 吉原 文登



お問合せ・申込先 長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 1月号

文部科学省
地(知)の拠点

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業=COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

第5回 悠久山・東山フォーラム 悠久山の見どころ、撮りどころ

日時 2月24日(土) 13:30~16:00 長岡大学
学生食堂

長岡大学写真部学生が地元の方々のご協力を得て作成した「悠久山いいとこ撮りマップ」のお披露目をいたします。

悠久山に関連したテーマでの講演、対談もお楽しみください。



- 1 「悠久山いいとこ撮りマップ」お披露目 13:30~14:15
長岡大学写真部、マップ制作委員会
聞き手 長岡大学教授 米山 宗久
- 2 講演「牧野家と悠久山」……………14:15~15:00
牧野家17代当主 牧野 忠昌氏
- 3 対談「令終会と悠久山」……………15:15~16:00
(公社)平成令終会 大原 久治氏
雪国植物園園長
長岡大学教授 松本 和明

平成29年度 本学教員による <地域志向教育研究>成果発表会

本学教員による地域課題解決を目指す<地域志向教育研究>の平成29年度成果発表会を次の要領で開催します。お気軽にご参加ください。



日時 2月7日(水) 13:30~15:30 226教室
はじめに—地域志向教育研究について— 長岡大学学長 村山光博

| 発表テーマ | 発表者 |
|---|------|
| 1 長岡地域経済・産業の現状と活性化の方策等に関する基礎調査 | 原田誠司 |
| 2 県内外における中小企業の事業承継の支援体制と課題 | 栗井英大 |
| 3 福島甲子三の企業者活動と地域・社会貢献活動の研究 —長岡地域の「地方創生」に向けてのインプリケーションの析出— | 松本和明 |
| 4 戦時体験の記録と集積—新潟県内を中心に— | 見嶋俊郎 |

イノベーション講演会 技術(ハイテク)ベンチャーを いかに輩出するか

—京都大学・山口栄一教授を迎えて—

日本は、「知の創造」=研究(大学等の)から、いかにして「知の具体化」=開発=技術ベンチャーを生み出し、世界のイノベーション競争に伍して戦うのか?

長岡におけるイノベーション—技術(ハイテク)ベンチャー群の輩出の方向について講演会を開催いたします。



テーマ **イノベーションはなぜ途絶えたか**
—科学立国日本の危機—

日時 2月21日(水) 18:00~20:00

会場 まちなかキャンパス長岡 301

講師 山口 栄一氏 京都大学 大学院総合生存学館教授

【主催】長岡大学
【共催】長岡市、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校
【後援】長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、公益財団法人にいがた産業創造機構

ながおか大学祭・学園祭模擬店 ビジネスコンテストが開催されました

12月3日、プリン長岡で、ながおか・若者・しごと機構(共催=長岡市、長岡大学)が主催する



「ながおか大学祭・学園祭模擬店ビジネスコンテスト」の表彰式が行われました。これは、長岡市の3大学1高専の学生を対象に、模擬店を起業・ビジネス体験プログラムとして捉え、成果を競い合うコンテストです。各校ごとに、定量評価(営業利益の達成率)と定性評価(商品企画および販売の工夫)について審査されました。長岡大学では松本ゼミナールの「そばいなり」が最優秀賞を獲得しました。

【長岡大学】 応募件数 5

<最優秀賞> 松本ゼミナール

■営業品目 そばいなり、アルコール

<優秀賞> ザ・カリニン☆

■営業品目 チーズリゾットのおにぎり

<優秀賞> 長岡大学 長岡藩主ゆかりの十分杯で足るを知る 知足

■営業品目 十分杯



お問合せ・申込先

●いずれも参加費は無料です。

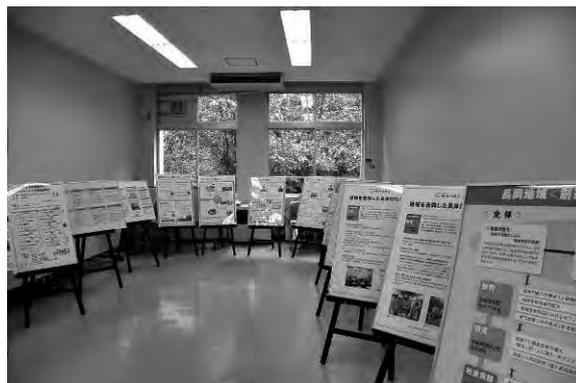
長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

図表 7-18-5 事業パネル展示

5月まちなかキャンパス長岡でのパネル展示



10月長岡大学「悠久祭」での事業パネル展示



図表 7-18-6 地域連携研究年報 第4号 表紙と目次



| 目次 | |
|-------------------|---|
| 2017 第4号 CONTENTS | |
| 地域連携研究 年報 | |
| 地域連携研究 第4号 | |
| 特集1 | 2016長岡大学地域連携研究センターシンポジウム |
| | ボランティア活動で人の輪(和)をつくろう! |
| | —主催者の関心と視野— 長岡大学 地域連携研究センター 村山 光博 2 |
| | 第1部 演題報告は演題37～91頁に掲載 |
| | 第2部 パネルディスカッション |
| | 「ボランティア活動で人の輪(和)をつくろう!」 |
| | —コーディネーター、司会者— 田所 裕子、山崎 一雄、松山 忠次 4 |
| 特集2 | 2017長岡大学地域連携研究センターシンポジウム |
| | 人口減少と長岡地域活性化の展望—長岡地方創生のさらなる前進へ— |
| | —主催者の関心と視野— 長岡大学 地域連携研究センター 村山 光博 18 |
| | 第1部 演題報告は演題93～130頁に掲載 |
| | 第2部 パネルディスカッション |
| | 「人口減少と長岡地域活性化の展望—長岡地方創生のさらなる前進へ—」 |
| | —コーディネーター、司会者— 山田 博貴、山村 啓祐、日高 正康、藤江 麻生 19 |
| 編集 | |
| | 「地域連携研究」の編集 編集責任者 |
| | ボランティア・NPO活動の現状と課題 米山 宗久 37 |
| | 「地域連携研究」の編集 編集責任者 |
| | 人口減少時代と長岡地域活性化の方向 野口 真由 93 |
| | ジョンソン噴霧の国際化戦略 |
| | —「地域連携研究」の編集 編集責任者—の対談 2017年6月号 |
| | 止田 晋樹 139 |
| | 新潟県小千谷地域における健康工業の生成と発展 |
| | —地域連携研究の編集 編集責任者— |
| | 松本 利博 147 |
| | 「不存儀の精神」の継承と「再学私塾」の再興 |
| | —地域連携研究の編集 編集責任者— |
| | 栗原 一雄 165 |
| | 金融会社設立時の必要者に関する研究 |
| | —地域連携研究の編集 編集責任者— |
| | 藤引 正高 189 |
| 史料紹介 | |
| | 「藤上自覚閣後生学級史」45、46、47号掲載 兒嶋 俊成、金原 重雄 203 |
| | 長岡大学地域連携研究センターご案内 221 |
| | センター目録 222 |
| | 長岡大学地域連携研究センター—長岡 223 |

図表 7-18-7 市民公開講座リーフレット

講座担当教員の紹介

| | |
|---|------------------|
|  | 長岡 進 長岡大学 学長 |
|  | 山田 昭子 長岡大学 学長 |
|  | 山田 昭子 長岡大学 学長 |
|  | 山田 昭子 長岡大学 学長 |
|  | 山田 昭子 長岡大学 学長 |
|  | 山田 昭子 長岡大学 学長 |
|  | 山田 昭子 長岡大学 学長 |
|  | 山田 昭子 長岡大学 学長 |
|  | 山田 昭子 長岡大学 学長 |
|  | 山田 昭子 長岡大学 学長 |

お申込み・お問合せ

申込書に必要事項をご記入の上、お届出の日付の1週間前までにTEL、FAX、E-mail、ホームページにて下記までお申し込みください。
※お申し込みは原則として先着順とさせていただきます。

長岡大学 地域連携研究センター
TEL: 0258-39-1600 / FAX: 0258-39-9566
E-mail: machiken@nagasaki-u.ac.jp
長岡大学 URL: http://www.nagasaki-u.ac.jp
〒940-0828 新潟県長岡市朝山1-8-5
担当: 小田原 山田

お申込み・受講に当たってのお願い

お申込みが5名未満の場合は、キャンセルさせていただきます。
※受講の案内を交付する都合上、お申込みは、同一人様ごとにお願いいたします。
※受講当日のお申し込みは、お断りさせていただきます。
※受講料は、お振込用紙に宛先にてお振込みいただけます。一部お支払いいただいた受講料は、返金として返金いたします。
※陸上競技場が空き次第キャンセルの受付、陸上競技場は有料となります。早業料金は各自でご負担いただきます。

長岡大学への交通アクセス



地(知)の拠点

長岡大学は、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COG+)」(平成28~31年度)としての「長岡地域創生人材育成プログラム」を展開しています。

平成29年度 長岡大学 市民公開講座

o-school

o-schoolは、長岡大学が推進している教育です。



長岡大学の建学の精神
幅広い層の人としての人づくりと実学実業教育の推進
地域社会に貢献し学べる人材の育成

平成29年4月
長岡大学

地域志向研究とは

地域を題材とし、教育や研究など社会貢献活動を行うことを通じて地域を活性化させることとされています。

新潟における戦争の記憶

戦時体制における戦争の記憶が2015年に顕在化。人々の歴史意識を喚起して、平和を求めます。長岡大学は、戦時体制をテーマとした研究を推進しています。

※ 時間 19:00~20:30 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 2,000円 ※ 定員 20名

開催日(予定) シュー
● 6月21日(火) 新潟県立長岡文化センター
● 6月28日(火) 長岡市市民会館

経済発展の地まりはニースと地域資源の活用にある!

地方創生を推進するにあたり、地域資源の活用が重要。正業の活用を推進して、地域を活性化させる。長岡大学は、地域資源を活用して、地方創生を推進しています。

※ 時間 19:00~20:30 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 2,000円 ※ 定員 20名

開催日(予定) シュー
● 7月15日(日) 長岡市市民会館
● 7月22日(日) 長岡市市民会館

地域志向研究講座「温泉の魅力について話そう!

「温泉の定」について話そう。温泉の魅力について話そう。温泉は、地域を活性化させる。長岡大学は、温泉の魅力について話そう。

※ 時間 19:00~20:30 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 2,000円 ※ 定員 20名

開催日(予定) シュー
● 7月19日(日) 長岡市市民会館
● 7月26日(日) 長岡市市民会館

長岡偉人伝

歴史・文化・経済(新28のあ)、歴史・文化・経済

長岡市内各地で「心を開いて次世代に伝へよう」という思いを込めて、長岡の偉人を紹介しています。長岡の偉人を紹介しています。

※ 時間 19:00~20:30 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 5,000円 ※ 定員 20名

| 開催日(予定) | テーマ |
|----------|------------|
| 5月23日(日) | 長岡九郎の企業家精神 |
| 5月30日(日) | 長岡一徳の経営者精神 |
| 6月 6日(日) | 長岡一徳の経営者精神 |
| 6月13日(日) | 長岡一徳の経営者精神 |
| 6月20日(日) | 長岡一徳の経営者精神 |

記紀を読む(前編)

歴史・文化・経済(新28のあ)、歴史・文化・経済

『古事記』と『日本書紀』は、日本の歴史や文化を研究するための重要な史料です。本講座では、『古事記』から『日本書紀』まで、25回にわたって話をいたします。

※ 時間 19:00~20:30 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 5,000円 ※ 定員 20名

| 開催日(予定) | テーマ |
|----------|------|
| 6月15日(日) | 神代文書 |
| 6月22日(日) | 神代文書 |
| 6月29日(日) | 神代文書 |
| 7月6日(日) | 神代文書 |
| 7月13日(日) | 神代文書 |
| 7月20日(日) | 神代文書 |

おとなの学びなおし心理学

歴史・文化・経済(新28のあ)、歴史・文化・経済

社会人の勉強や学習のモチベーションを上げるための心理学。心理学の知識を身につけて、おとなの学びなおしを成功させる。心理学の知識を身につけて、おとなの学びなおしを成功させる。

※ 時間 19:00~20:30 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 5,000円 ※ 定員 20名

| 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|--------|
| 9月15日(日) | 心理学の基礎 |
| 9月22日(日) | 心理学の基礎 |
| 9月29日(日) | 心理学の基礎 |
| 10月 6日(日) | 心理学の基礎 |

「聞き手を動かすプレゼンスキル」を身に付ける!

歴史・文化・経済(新28のあ)、歴史・文化・経済

ビジネスの世界で活躍するために必要なスキル。聞き手を動かすプレゼンスキルを身に付ける。聞き手を動かすプレゼンスキルを身に付ける。

※ 時間 19:00~20:30 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 4,000円 ※ 定員 15名

| 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|----------------|
| 10月 4日(日) | 聞き手を動かすプレゼンスキル |
| 10月11日(日) | 聞き手を動かすプレゼンスキル |
| 10月18日(日) | 聞き手を動かすプレゼンスキル |
| 10月25日(日) | 聞き手を動かすプレゼンスキル |

Excel入門

歴史・文化・経済(新28のあ)、歴史・文化・経済

Excelの基礎から学んでいきます。Excelの基礎から学んでいきます。Excelの基礎から学んでいきます。

※ 時間 19:00~20:30 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 5,000円 ※ 定員 20名

| 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|----------|
| 6月 5日(日) | Excelの基礎 |
| 6月 12日(日) | Excelの基礎 |
| 6月19日(日) | Excelの基礎 |
| 6月26日(日) | Excelの基礎 |
| 7月 3日(日) | Excelの基礎 |
| 7月10日(日) | Excelの基礎 |
| 7月17日(日) | Excelの基礎 |
| 7月24日(日) | Excelの基礎 |

記紀を読む(後編)

歴史・文化・経済(新28のあ)、歴史・文化・経済

『古事記』と『日本書紀』は、日本の歴史や文化を研究するための重要な史料です。本講座では、『古事記』から『日本書紀』まで、25回にわたって話をいたします。

※ 時間 19:00~20:30 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 5,000円 ※ 定員 20名

| 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|------|
| 10月12日(日) | 神代文書 |
| 10月19日(日) | 神代文書 |
| 10月26日(日) | 神代文書 |
| 11月 2日(日) | 神代文書 |
| 11月 9日(日) | 神代文書 |
| 11月16日(日) | 神代文書 |
| 11月23日(日) | 神代文書 |

簿記入門講座(日商簿記初級から3級程度)

歴史・文化・経済(新28のあ)、歴史・文化・経済

個人商店や中小企業の経営者として役立つ簿記。簿記の知識を身につけて、個人商店や中小企業の経営者として役立つ。簿記の知識を身につけて、個人商店や中小企業の経営者として役立つ。

※ 時間 19:00~21:00 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 15,000円 ※ 定員 10名

| 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|-------|
| 9月22日(日) | 簿記の基礎 |
| 9月29日(日) | 簿記の基礎 |
| 10月 6日(日) | 簿記の基礎 |
| 10月13日(日) | 簿記の基礎 |
| 10月20日(日) | 簿記の基礎 |
| 10月27日(日) | 簿記の基礎 |
| 11月 3日(日) | 簿記の基礎 |
| 11月10日(日) | 簿記の基礎 |
| 11月17日(日) | 簿記の基礎 |
| 11月24日(日) | 簿記の基礎 |

北越紀州製紙110年のあゆみと長岡地域

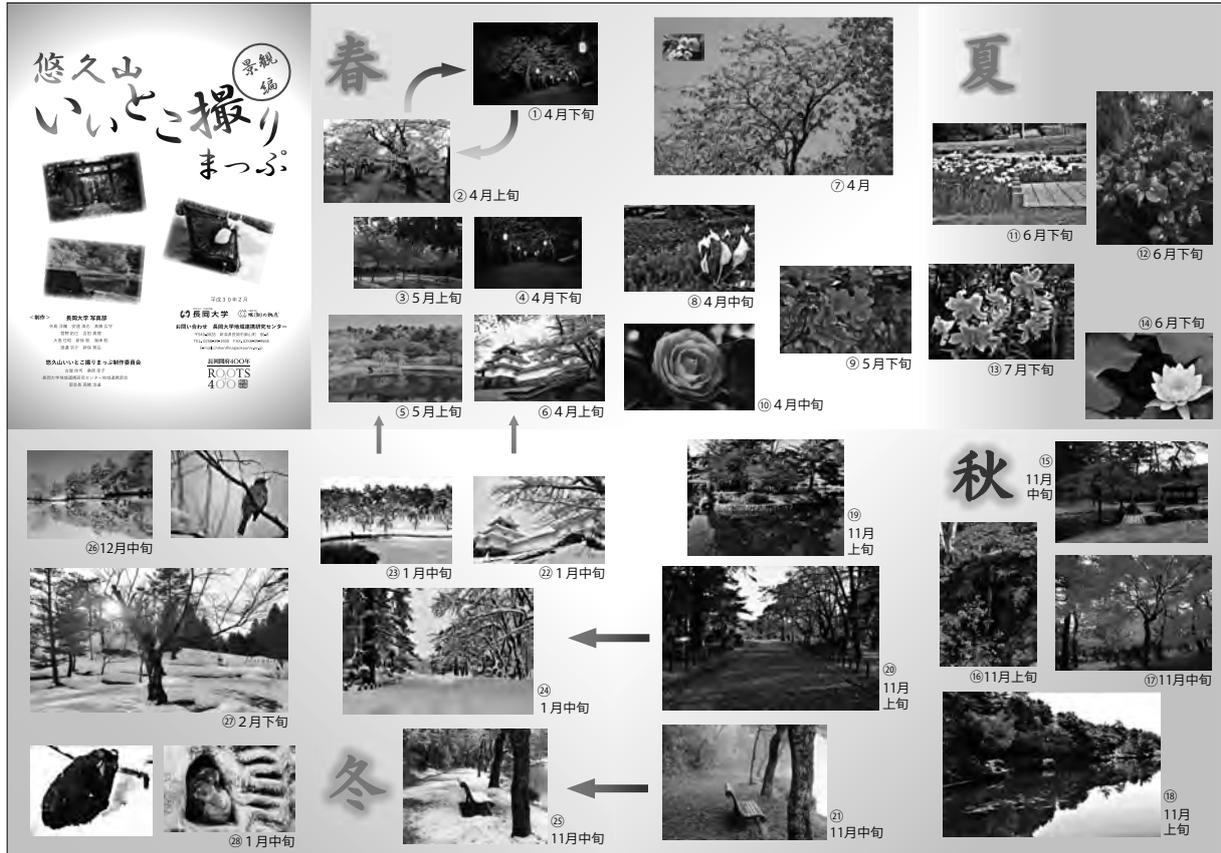
歴史・文化・経済(新28のあ)、歴史・文化・経済

北越紀州製紙株式会社の110年のあゆみ。北越紀州製紙株式会社の110年のあゆみ。北越紀州製紙株式会社の110年のあゆみ。

※ 時間 19:00~20:30 ※ 会場 長岡大学
※ 受講料 5,000円 ※ 定員 20名

| 開催日(予定) | テーマ |
|-----------|-----------|
| 11月 1日(日) | 北越紀州製紙の歴史 |
| 11月 8日(日) | 北越紀州製紙の歴史 |
| 11月15日(日) | 北越紀州製紙の歴史 |
| 11月22日(日) | 北越紀州製紙の歴史 |
| 11月29日(日) | 北越紀州製紙の歴史 |

図表 7-18-9 悠久山いいとこ撮りまっふ：景観編



Ⅷ COC終了後（平成30年度）のCOC事業に関する基本方針

19 COC終了後（平成30年度）のCOC事業に関する基本方針

長岡大学のCOC事業は平成29年度で5年目を迎え、平成30年度以降は助成が打ち切られることになっている。COC事業の採択時（平成25年度）には、本事業助成終了後も大学改革の結果として、継続発展させることが求められていた。COC終了後（平成30年度以降）のCOC事業の継承・発展に関する基本方針については、COC推進本部会議を中心に、次のように明確にした。

1 検討経過

平成30年度以降のポストCOC事業に向けての方針等の検討については、平成29年7月18日（火）開催の「平成29年度長岡大学地（知）の拠点+事業推進本部会議・第4回」に、村山学長・推進本部長より、次の方向で、検討することが提案され、具体化された。

- ・連携機関アンケート調査の実施（副本部長・原田）
- ・COC関連事業・予算の継続性の検討（8月上旬、事務局長・品川）
- ・ポストCOC方針等素案の作成（8月末、村山・品川・原田）
- ・ポスト方針案提案（9/19推進本部）
- ・各委員関係者の意見集約・とりまとめ（10/17推進本部）

2 COC終了後（平成30年度）のCOC関連事業・予算の基本方針

COC終了後（平成30年度）のCOC関連事業・予算については、次の基本方針で明確にすることとした。

- 第1：現行のCOC事業は、各事業の展開の方法等を検討しつつも、基本的に継続、発展させること。
- 第2：COC事業を支えた人材は大学本体予算に組み込むとともに、各事業の担当部門間の協働関係を密にして、事業展開を図ること。
- 第3：予算については、平成29年度予算を検討しつつ、以上を踏まえて、平成30年度予算の枠組みを明確にすること。

3 COC終了後（平成30年度）のCOC関連事業・予算（案）

上記の基本方針に沿って検討したCOC終了後（平成30年度）のCOC関連事業・予算は、資料Ⅶ-1の通りである。平成29年10月17日の第6回推進本部で承認された。人件費を除くと、事業費は対29年度比6,643千円の減となった。

4 平成30年度以降の連携機関との連携の在り方について

連携機関との連携にあり方については、平成29年7月に各連携機関にアンケートをお願いし、その集計結果と方向性を整理した。これについても、9月19日の第5回推進本部に報告・提案し、10月の第6回推進本部で了承された。資料Ⅶ-2、3、4を参照されたい。

資料Ⅷ－1

ＣＯＣ終了後（平成30年度）のＣＯＣ関連事業・予算（案）

平成29年9月19日 推進本部

*ＣＯＣ運営事務局会議（8/29、9/12）で、原田、品川で検討し、学長のチェックを経た結果である。10/17次回推進本部までに、修正等を事務局によせられたい。

- | | |
|---|---------------------|
| I 教育 | （小計：5,020千円） |
| (1) 諸専門能力の養成 | 予算：400千円 |
| ・留意点→講座開催時の謝金の考え方、奨励資格選定の再検討、対策講座参加学生数の基準、対象資格の明確化、資格取得環境づくり。 | |
| (2) 現場感覚知識の養成 | 予算：700千円 |
| ・留意点→地域志向授業の再検討、外部講師の位置づけ明確化、企業見学（通常授業、キャリア授業）の位置づけ。 | |
| (3) 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム） | 予算：1,500千円 |
| ・留意点→盛り上げる方向で検討、報告書等印刷費は再検討、移動交通費（ジャンボタクシー等）の工夫の検討。 | |
| (4) ボランティアスキルの養成 | 予算：150千円 |
| (5) 社会人基礎力の養成（インターンシップ） | 予算：120千円 |
| (6) 学生企業人材の養成 | 予算：150千円 |
| ・留意点→参加学生拡大の工夫（3大学1高専）。 | |
| (7) 学生満足度等の調査 | 予算：2,000千円 |
| ・留意点→学生満足度調査継続（成果還元）、PROGテスト活用（結果検証、活用方法を再検討）。 | |
| II 研究 | （小計：1300千円） |
| (8) 地域課題の調査研究（毎年シンポで発表） | 予算：400千円 |
| ・留意点→外部からの調査研究の獲得。 | |
| (9) 地域志向研究の充実 | 予算：900千円 |
| ・留意点→300,000円×3件の予算枠を維持。 | |
| III 社会貢献 | （小計：900千円） |
| (10) 地域活性化の推進 | 予算：300千円 |
| ・留意点→東山等フォーラムの継続開催、地域交流・活性化の拡大。 | |
| (11) 企業人セミナーの開講（イノベ講座） | 予算：200千円 |
| ・留意点→企業人向け講座（生涯学習）の充実、受講生確保手法の検討。 | |
| (12) 市民公開講座の開講 | 予算：200千円 |
| ・留意点→講座の充実・拡大、受講生確保方法の充実。 | |
| (13) 地域起業人セミナー | 予算：200千円 |
| ・留意点→社会人向け起業講座として充実、受講生確保手法の再検討。 | |

IV 全体

(小計：2,760千円)

- (14) 消耗品費 予算：1,000千円
 - ・留意点→コピー代、備品、消耗品等の見直し。
- (15) 人件費（本体会計へ） 予算： 0千円
- (16) FD／SD研修費 予算：350千円
 - ・留意点→FD／SD活動の充実。
- (17) 地（知）拠点整備事業推進協議会及び地域課題調整部会の開催 予算： 60千円
 - ・留意点→本学の教育等全般の連携に関する協議・情報交流へ。
- (18) 本事業の広報の充実（広報等印刷費） 予算：600千円
 - ・留意点→印刷費等工夫して削減へ。
- (19) 報告書・年報等印刷費 予算：750千円
 - ・留意点→年報中心に、印刷費見直しへ。
- (20) 通常経費 予算： 0千円

以上

予算合計：9,980千円

<参考>

図表 COC最終年度とCOC終了後の予算比較（単位・千円）

| | 平成29年 度 | 平成30年 度 | 平成30- 29年度 |
|------------------------------------|------------|------------|---------------|
| 1 諸専門能力の養成 | 1,200 | 400 | -800 |
| 2 現場感覚・知識の養成 | 971 | 700 | -271 |
| 3 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム） | 1,649 | 1,500 | -149 |
| 4 ボランティアスキルの養成 | 25 | 150 | 125 |
| 5 社会人基礎力の養成（就業体験・課題解決型インターンシップ） | 48 | 120 | 72 |
| 6 学生起業人材養成（起業家塾） | 175 | 150 | -25 |
| 7 学生満足度調査等の実施 | 1,790 | 2,000 | 210 |
| 8 人口減・事業承継等調査研究 | 1,228 | 400 | -828 |
| 9 地域志向教育研究経費 | 1,500 | 900 | -600 |
| 10 地域活性化の推進 | 425 | 300 | -125 |
| 11 企業人セミナーの開講（I/ハ ^o 講座） | 648 | 200 | -448 |
| 12 市民公開講座の開講 | 260 | 200 | -60 |
| 13 地域起業人材セミナーの開講（創業セミナー等） | 550 | 200 | -350 |
| 14 消耗品費 | 1,900 | 1,000 | -900 |
| 15 人件費 | 4,652 | 0 | -4,652 |
| 16 FD／SD研修 | 496 | 350 | -146 |
| 17 地（知）の拠点整備推進協議会、地域課題調整部会の開催 | 66 | 60 | -6 |
| 18 広報等印刷製本費 | 2,080 | 600 | -1,480 |
| 19 報告書・年報等印刷費 | 1,440 | 750 | -690 |
| 20 経常経費 | 172 | 0 | -172 |
| 合計 | 21,275 | 9,980 | -11,295 |

平成 30 年度以降の連携機関との連携の在り方について（案）

平成 29 年 9 月 19 日 推進本部

「平成 30 年度以降の長岡大学「地（知）の拠点」事業等に関する調査・まとめ」（7 月実施）を踏まえて、平成 30 年度以降の連携機関との連携の在り方について、次の通り提案する。

1 連携機関との情報交換の〈場〉について（問 1）

- ・平成 30 年度以降の本学との連携・情報交換の場については、次の通りとする。
 - a <長岡大学「地（知）の拠点」事業推進協議会>（略称：COC 協議会）を年 1 回（7 月初旬）開催し、意見・情報交換を行う。メンバーは加えてもよい。
 - b 事業ごとの協議・情報交換の〈場〉は、適宜、設けて事業の推進を図る。

2 事業等の広報の方法について（問 2）

- ・長岡大学の事業・活動の広報方法として、重点を置くべき方法については、次の通りである。
 - a 最も重要な情報発信の方法は、<大学ホームページ>と<教員がマスコミに出ること>、および<パンフレット>である。
 - b 次いで、<TV 広告>、<アオーレ等の映像広告>なども検討すべきであろう。その他に、SNS や学生の活動なども十分、念頭におくべき。

3 望ましい連携事業等について（問 3）

望ましい連携事業を取りまとめると、次の通りである。

（1）教育分野

- ・「地域活性化プログラム」の継承、推進（市政策企画課）。
- ・「インターンシップ」の推進（推進協議会への参加。市産業政策課）。
- ・ボランティア活動の活性化・充実（ボランティア情報提供・相談、サークル活動等）（市民協働、中越防災）。
- ・学生の地域関連事業への参加拡大（タウン誌作成、NAZE 事業、）
- ・授業講師の派遣（政策公庫、市民協働、中越防災）
- ・ボランティア活動（長岡市「親子防災キャンプ事業」）への学生の運営参加（中越防災）。
- ・移住定住インターンシップ事業への学生参加（中越防災）。

（2）調査・研究

- ・若者（学生）が地域を選択する要因（入学時、在学時、就職時）の把握・分析（工業振興課）。
- ・人材確保・UI ターン等の地域課題・ニーズに関する調査研究（会議所）
- ・長岡地域の産業集積＝取引構造（技術含む）の現状把握・魅力の分析（工業振興課）
- ・長岡地域のものづくり企業の技術力・優れた製品の現状把握・分析・発信（NAZE）
- ・過疎高齢化地域＝中山間地域の人口・構造分析と<地域経営>の実践（山の暮らし）
- ・企業と長岡大学教職員の情報交換会の開催（新任教員と企業との交流等）（会議所）。

（3）社会貢献

- ・「東山の活性化」（マップづくり、スキー場等のボランティア等）の活動継続（政策企画課）。

- ・「開府400年事業」への学生の参加（十分杯、偉人等）（政策企画課）。
- ・米山教授のプラレールの普及による地域活性化（市民協働）。
- ・「鉢伏の除雪ボランティア」への学生参加（中越防災）。
- ・創業・起業支援／ソーシャルビジネス起業支援（政策企画課、市民協働、政策公庫）。
- ・ソーシャルビジネス支援ネットワークの構築（大学、公庫、市民協働、長岡市、商工会議所等）。

（４）平成30年度事業方針について

上記の各事業については、担当者の検討を踏まえて、平成30年度事業方針に組込めるものは組込んで推進することとする。検討を要する事業は、検討課題・方法を明示すること。

4 長岡大学へのご意見・注文等について（問4）

- ・今後も引き続き、地域志向の大学運営を望む（政策企画課）。
- ・学生と地域の一層の連携、企業の課題解決にむけて協力・提案を望む（ワンポイント事業等）（工業振興課）。
- ・地域の課題解決について、自ら課題を見つけ、調査研究し、地域に提案できるよう、一步先の活動を希望する（市民協働）。
- ・過疎高齢化地域＝中山間地域に関心のある教員との意見交換を行いたい（山の暮らし）。
- ・NAZE会員企業の見学会への参加・大学単独開催も歓迎する（NAZE）。
- ・長岡大学の創業・企業セミナー・講座への講師派遣を継続する（政策金融公庫）。
- ・ディプロマポリシーの最初に「1. 地域社会に貢献する姿勢」を掲げている点が長岡大学の「売り」であり、素晴らしいと思う。これを教職員全員でしっかり認識し、そのために何をすべきかを考え、日々の業務の中で実践していけば、あとは勝手に結果がついてくると思う（中越防災）。

*上記の教員との意見交換会開催（山の暮らし）とNAZE企業見学会（NAZE）は、具体化を検討する。

資料Ⅶ－3

平成30年度以降の長岡大学「地（知）の拠点」事業等に関する調査・まとめ

平成29年9月19日 推進本部

問1 平成30年度以降の本学との連携・情報交流の場について

- ・意見交換の場→すべて「設けたほうがよい」
 - 年に3～4回くらいか。政策企画課、工業振興課、中越防災・・・議会終了後の4、7、10、1月あたりが望ましい
 - テーマ・事業ごとに随時、意見交換の場開催・・・市民協働、山の暮らし、NAZE、公庫、商工会議所、中越防災

問2 本学の事業・活動の広報の方法について

(1) 重要だと思う情報発信の方法（3つに○）について

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 大学ホームページ→5 | 2 事業案内・チラシ→1 |
| 3 大学通信→2 | 4 ポスター |
| 5 パンフレット→4 | 6 雑誌・書籍出版 |
| 7 新聞広告→2 | 8 TV広告→3 |
| 9 アオーレ等の映像広告→3 | 10 バス・電車内広告→1 |
| 11 教員がマスコミに出ること→5 | |
| 12 その他（イベント協力→1、SNS→1） | |

(2) 他のご推奨の方法について

- ・政策企画課→対象に適した手法：若者－SNS等、経営者－新聞
- ・市民協働→行政審議会等で活躍し今以上に頼れる存在になること
- ・山の暮らし→SNS等
- ・中越防災→学生の情報発信が効果高い、手法も学生が考えること

問3 長岡地域の活性化・地方創生を進める上での貴機関・本学の連携事業等について

(1) 長岡市政策企画課（林 智和氏）

- 「東山の活性化」－マップ好評なのでリニューアル進めて、スキー場等のボランティア等
- 「起業、創業支援」－商業振興課（起業支援センター）と連携して
- 「地域活性化プログラム」－継承して進める
- 「開府400年事業」－十分杯、偉人など学生参加の事業で参加されたい
- 「インターンシップ推進」－産業政策課が担当。近く、推進協議会を設立する。

(2) 長岡市工業振興課（名塚正和氏）

- 若者（学生）が地域を選択する要因（入学時、在学時、就職時）を把握・分析して、効果的な施策を打ち出す・・・来年度調査申請も可
- 長岡地域の産業集積＝取引構造（技術含む）の現状を把握し、優位性・魅力を明確にする・・・来年度調査申請も可

(3) 市民協働ネットワーク長岡（渡辺美子氏）

- まちづくり、コミュニティ・ビジネス起業等の相談への協力

- ボランティア活動情報提供・相談（「ボランティア体験」授業の計画的実施）
 - 上記以外のボランティア活動情報提供・学生のボランティア参加（掲示＋本学サークル育成）
 - ボランティア活動の紹介・普及（本学のボランティア授業での講演等）
 - 米山教授のプラレールの普及（市民・地域活性化の活動として拡大の可能性も検討）
- (4) 北越銀行（浅妻 充氏）
- 地域企業と連携して、事業化につながるプロジェクトに積極的に取り組むこと
 - 小千谷のタウン誌作成への学生の積極的な関与を期待する
- (5) 山の暮らし再生機構（中村英樹氏）
- 経済経営系大学として、過疎高齢化地域＝中山間地域の持続をめざした＜地域経営＞の実践
 - そのため、地域の人口・構造分析、対応策の調査研究が必要
 - そして、＜地域経営・新学科＞の設置ができれば、全国から学生が集まり、拠点になる
- (6) 長岡産業活性化協会 N A Z E（山田哲也氏）
- 長岡地域のものづくり企業の技術力・優れた製品の発信を考える
 - 学生に、N A Z E等に事業（もにづくりフェア等）に参加してほしい（パンフ等の配布）
- (7) 日本政策金融公庫長岡支店（瀬戸康雄氏）
- ソーシャルビジネス事業者への支援（公庫・大学が連携して）
 - 長岡大学開講講座での講師派遣
 - ソーシャルビジネス支援ネットワークの構築（長岡大学、公庫＋市民協働、長岡市、商工会議所等）と総合的支援
- (8) 長岡商工会議所（長谷川和明氏）
- 長岡市と進めているインターンシップ協議会への参加
 - 企業と長岡大学教職員の情報交換会の開催（相互に知り合う、新任教員と企業との交流等）
- (9) 中越防災安全推進機構（諸橋和行氏）
- 長岡市「親子防災キャンプ事業」への学生の運営参加（小学生対象、木沢、夏休み1泊2日）
 - 中越防災・移住定住インターンシップ事業「にいがたイナカレッジ」への学生参加（8～10月、住み込み）
 - チーム中越の事業（災害ボランティアネットワーク）として、「鉢伏の除雪ボランティア」への学生参加できないか。 *＜雪かき道 越後流指南書＞（越後雪かき道場）あり

問4 本学のCOC事業、本学の教育・研究・社会貢献等へのご意見・注文等（自由記入）について

- (1) 長岡市政策企画課（林 智和氏）
- 「地域に役立つ大学」の決意が伝わる。今後も引き続き、地域志向の大学運営を望む。
- (2) 長岡市工業振興課（名塚正和氏）
- 学生と地域の一層の連携、企業の課題解決にむけて協力・提案を望む（ワンポイント事業やシンポでの提起）。

- (3) 市民協働ネットワーク長岡（渡辺美子氏）
 - 地域の課題解決活動はCOC事業で進められ認められた。今後は、自ら課題を見つけ、調査研究し、地域に提案できるよう、一歩先の活動を希望する。
- (4) 山の暮らし再生機構（中村英樹氏）
 - 過疎高齢化地域＝中山間地域に関心のある教員との意見交換を行いたい。
- (5) 長岡産業活性化協会NAZE（山田哲也氏）
 - NAZE会員企業の見学会への参加・企業を知ってもらう（大学単独の企画の歓迎）
 - ワンポイント事業等NAZE会員企業の課題解決事業への学生の積極的参加
- (6) 日本政策金融公庫長岡支店（瀬戸康雄氏）
 - 長岡大学の創業・企業セミナー・講座への講師派遣
- (7) 長岡商工会議所（長谷川和明氏）
 - 人材確保・UIターン等の地域課題・ニーズに関する調査研究
- (8) 中越防災安全機構（諸橋和行氏）
 - ディプロマポリシーの最初に「1. 地域社会に貢献する姿勢」を掲げている点が長岡大学の「売り」であり、素晴らしいと思う。これを教職員全員でしっかり認識し、そのために何をすべきかを考え、日々の業務の中で実践していけば、あとは勝手に結果がついてくると思う。

資料Ⅶ－４

平成 30 年度以降の長岡大学「地（知）の拠点」事業等に関する調査

平成 29 年 7 月 長岡大学 C O C + 事業推進本部

☆長岡大学の「地（知）の拠点整備事業」＝大学 C O C 事業（平成 25～29 年度）は、平成 29 年度で終了します。平成 30 年度以降も、同事業を継承し、「地域に役立つ大学」をめざして進む決意です。このアンケートは、その際、求められる事業等につき、連携機関の皆様のご意見、ご要望をお伺いすることを目的に実施させていただきます。

お伺いする項目は、大きくくりにしてありますので、ご自由に、ご記入ください。詳しくは、お伺いした折、お話しいただければ結構です。

☆貴機関の概要をご記入ください。

| | | | |
|------|---------|------|--|
| 貴機関名 | | | |
| 所在地 | | | |
| ご記入者 | 所属先： | 氏名： | |
| ご連絡先 | TEL： | FAX： | |
| | E-mail： | | |

☆下記の質問につき、当てはまる項目に○印をつけ、記入欄にはお考えのことを記入してください。なお、お答えできる問のみお答えください。

問 1 平成 30 年度以降の本学との連携・情報交流の場についてお伺いします。

(1) 現在の「地（知）の拠点整備事業推進協議会」（連携機関と長岡大学の協議機関）は年に 1 回開催しています。平成 30 年度以降も、同様の意見交換の場を設けることについて、どうお考えでしょうか。1 つ○をつけてください。

(1 設けた方がよい 2 なんとも言えない 3 必要ない
4 その他 ())

(2) 連携機関の皆様と長岡大学の情報交換・連携等について、上記以外に、望ましい協議・意見交換等の方法がありましたら、ご記入ください。

問 2 次に、長岡大学の事業・活動を市民の皆様により広く知っていただく方法について、重要だと思う方法についてお伺いします。あてはまる番号に○印をつけ、記入欄にはご記入ください。

(1) 次のうち、重要だと思う情報発信の方法 3 つに○をつけてください。

1 大学ホームページ 2 事業案内・チラシ 3 大学通信 4 ポスター
5 パンフレット 6 雑誌・書籍出版 7 新聞広告 8 TV 広告
9 アオーレ等の映像広告 10 バス・電車内広告 11 教員がマスコミに出ること
12 その他 ()

(2) 他に、ご推奨の方法がありましたら下欄にご記入ください。

問3 さらに、今後も長岡地域の活性化・地方創生を進めるとの観点で、貴機関と本学で連携し
てできそうな事業等がありましたら、ご記入ください。お伺いして、ご相談させていただきたい
と思います。なお、ご提案の事業等は教育、研究、社会貢献などどの分野でも結構です。ぜ
ひ、ご記入ください。

問4 最後に、本学のCOC事業、本学の教育・研究・社会貢献等につき、ご意見・注文等が
ありましたら、自由にご記入ください。

*ご回答ありがとうございました。

*FAX02558-39-9566にて、送信ください。

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業（平成25～29年度）
文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（平成28～31年度）

平成29年度報告書

【発行日】平成30年3月28日

【発行】長岡大学地（知）の拠点整備事業推進本部
長岡大学地域連携研究センター

〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

TEL 0258-39-1600（代）

FAX 0258-39-9566

<http://www.nagaokauniv.ac.jp>

